遊戯王～時代を渡る者～

武藤　黎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
遊戯王～時代を渡る者～

【Ｎコード】
Ｎ７４０４Ｐ

【作者名】
武藤　黎

【あらすじ】
気が付いたら目の前には見た事がある石板が…
いつの間にか遊戯王の世界にトリップしていた主人公。
なんだかんだいって生活することに。

微妙に原作ブレイク

現在王の記憶編

オープニング（前書き）

初めての小説です。
誤字・脱字が多いかと思いますが、なにとぞよろしくお願いします。

オープニング

ｓｃｅｎｅ??

「…ここ、何処?」

目が覚めると知らない天井。
思わずでてしまったこの台詞を責められる者がいようか、いやいない。

……まずは状況確認。
回りは風化している石の壁。そして正面には一枚の石板。
その石板の中心には逆三角錐に目がついてる何か。
逆三角錐の周りには三枚の石板。

自分の知識から推測するとおそらく中心にあるのは千年パズル。
回りの石板はそれぞれ《ラーの翼神竜》、《オシリスの天空竜》、《オベリスクの巨神兵》であろう。
そして自分がいるのは部屋の中央。
とりあえず変な所はないはず。
…うん?

石板?ラーにオシリスにオベリスク?

…まさか違うよね?

誰かに違うって言って欲しい。誰も居ないけど。

…よし落ち着こう。

これはたしか遊戯王で王様の過去編ででてきたはず。
その前のバトルシティ編で古代エジプト展だっけ？なんかその前にもあった気もするけど。
とりあえずひとつわかったこと。

ここ確実に遊戯王の世界だよね。流石にこんな凝った石板作るような人なんていないだろうし。
ということは自分は遊戯王の世界にトリップしたってわけか。なんか納得…できない！

確かに一回くらい遊戯王とか東方とかとあるの世界にトリップしてみたいって思ったことはあった。
それでも…ね？
どうせ遊戯王だったらＧＸの世界の方がよかったというのが本音。
ＧＸだったらヒーロー使い君のチートドローを見たりできると思っていたからね。

…話しが逸れたから戻ろう。

しかしこういうトリップ物ってけっこう自分の名前忘れるパターンが多い気がする。名前を思い出せないとなるといろいろ困るから覚えていて欲しい。

……

幸いにも名前は覚えていた。夜霧茜。１７歳で普通に女子高生として生活していた。

愛想がよくないとかどんな時でも冷静沈着とか冷め気味な性格ではあるが。

そんな性格だったからなのかそこそこ親しい友達はいたけど親友と呼べる人はいなかった。

どうしても客観的に物事を見るから他人と一線を引いてしまう。

しかし不便と思った事はないから問題ない。

勉強は小さい頃から暇潰しに本を読んでいたから困った事なんて無かった。

運動神経もいい方だったと思う。

その為小学校の頃から同級生がどうしても子供っぽく感じてしまい、一緒に遊ぼうとは思わなかった。

その代わりにカードゲームや戦略シュミレーションゲームにハマっていた。

遊戯王もその時にやっていたカードゲームのひとつだった。

中学の頃にシンクロが登場して一応シンクロも使っていたが、基本

的にコントロール系を好んで使っていた。

そこでふとこの世界ではビートが主体で他は余り好まれない傾向にあったのを思い出す。
これがＧＸの時代であったなら多少無理をしてでもビートにする必要があったかもしれない。
しかしここはおそらくＤＭ、しかも石板がエジプト展に展示されていないから原作前である。

それならコントロールデッキで活躍して、コントロールの開祖と呼ばれるのも悪くないかなと少し柄でもないことを考えていた。
とりあえずここから出ない事には何も始まらないと思い出口を探す。
その時体に変な違和感があることに気付く。

「…地面が近い。」

そう、体が小さくなっていた。

どこぞの名探偵さんと同じかなと思いつつ手鏡を取り出して覗き込む。

「…3歳くらいの時の顔？」

自分でも写真越しでしか見たことのない顔が映っていた。
しかし暗くて解り難いがよく見ると本来黒色である髪と目が少しだが紫がかってるのに気付く。

「…まぁいいか。」

特に自分の髪と目の色が変わったことは気にせず、さりげなく置かれていた鞄を引きながら石板の反対側にあった出口に向かっていく。

外は眩しいだろうなと思っているとそれまで音が無かったはずなのにカツ、カツと足音がしてきた。
咄嗟に隠れようとしたが、何処にも隠れる事ができる場所がなく、足音の主が見えるのを待った。

ｓｃｅｎｅ??

「そろそろ着く頃デース。この先どんなな物があるのデショウカ」

私はこのピラミッドに珍しい物があるという噂を聞き、調査にやってきました。
今まででそういう噂が当たった事が余りなかったので半信半疑ではありますが。

…今回は珍しく当たりのようですね。

何故なら千年眼が何かを訴えるかのように反応しているからです。
私はどんなものがあるのか好奇心がくすぐられて気がつかないうちに早足になっていました。
しかし、ピラミッドの中心部に近づくにつれて小さな違和感を感じます。

おそらく人の気配でしょうか。私の他にも噂を聞いたものはいくらでもいるのですから。
しかし、それにしてはおかしな感じがします。
…これは子供の気配ですね。
流石に子供がいるのはおかしいです。
とても気になりますが、まずは噂の物を確かめてからにしましょう。
その後からでも遅くはないでしょう。

そう思い歩を進め、遂にとある部屋の前に着きました。
この中から違和感と何か懐かしい感じがします。
私は部屋に入り中を見渡しました。
そこには、何かが描かれている石板と鞄を引いている幼い少女がいました。
何故か石板を見る前に少女に話しかけるべきだと思い、固まってる少女に声をかけた。

「ハロー、プリティガール。どうしてこんな所にいるのですか？」

ｓｃｅｎｅ茜

誰が来るのかと思いつつ、万が一に備えて逃げる準備をしておく。
そして暫くしてから足音の主が現れた。
その人は見覚えのある顔だった。

（…ペガサスか。
ということはこの石板はペガサスが三幻神を作る切欠になったやつよね。）

などとたわいもない事を考えていたら、不意に

「ハロー、プリティガール。どうしてこんな所にいるのですか？」

と声をかけられた。

（とりあえず異世界から来ましたとはいえないよね。
無難に捨てられた事にしときますか。
あんまり大人びた言葉遣いは変に思われるから少し子供っぽくした方がいいわね。）

「…親にここにいる用にいわれたの。
きっと誰か迎えにきてくれるよっていってたの。
ところでおじさん誰なの？」

ここまで話しといて、そういやペガサスは千年眼を使って人の心を読めるんだっけと気付き、これからどうなるのかなと思っていると、

「Ｏｈ、それは可哀想デース。
ミーはペガサス・Ｊ・クロスフォードという者デース。
ここにある石板を見に来ましータ。
ユーの名前を教えて下サーイ。」

普通な反応だった事を少し意外に思いながら、

「…夜霧茜っていうの、ペガサスさん。
どうして石板なんか見に来たの？」

「ちょっとした噂を確認したかったのデース。

この石板からは神々しいものを感じマース。」

といいながら座りこんでいつの間にかスケッチを始めていた。

神々しいもの？

まぁ三幻神だから間違ってはないと思うけど。

そういや神のテキストは古代神官文字で書かれてたよね。

テレビで見てた時にどんな文字なのか興味があったし、ペガサスの隣に並んで石板を覗き込んでみた。

「…精霊は歌う。大いなる力、すべての万物を司らん。その生命、その魂、そしてその骸でさえも。

…天空に雷鳴轟く混沌の時、連なる鎖の中に古の魔導書を束ね、その力無限の限りを誇らん。

…その者、降臨せしむれば、灼熱の疾風大地に吹き荒れ、生きとし生ける者すべて屍とならん。

」

読めないはずなのに気がついたらそう口にしていた。

隣ではペガサスが驚いた表情をしていたが、自分の方が驚いているのではないかと思った。

どうして読めたのか考えようとしたらペガサスが話しかけてきた。

「茜ガールは何故あれが読めたのデスカ？」

自分でも正直読めるとは思っていなかった。

ラーについてはまだ書かれていたが、読む必要はないし放置してもいいだろう。

それよりも何故読めたのか。
考えられるのはトリップしたからか、それとももとから読めてたのか。
元々読めるという線はない。
知らない文字を読むのは誰も出来ないし。
ということは残りのトリップしたからかな。

自分が何故古代神官文字が読めるか大雑把に予測をしているとペガサスが再び話しかけてきた。

ｓｃｅｎｅペガサス

私は驚いていた。
話しかけた少女が親に捨てられていた事にも驚いていたが、何故か千年眼を使っても彼女の心が見えない。
彼女も千年アイテムを持っているのかと思ったが、反応はない。
なのに千年眼が通じない。

彼女についてもっと知りたいと思ったが、石板を見た瞬間その事は頭の中から消え去った。

神々しいまでの力を石板から感じる。
その力の源は三角型に配置された三枚の石板からだ。
そこに書かれている文字は皆目検討もつかなかったが、とりあえずこの力をカードにしようを思いスケッチを始めた。
スケッチに夢中になって暫くするとさっきの少女が私の隣にきた。

そして彼女は石板を見つめながらポツリと

「…精霊は歌う。大いなる力、すべての万物を司らん。その生命、その魂、そしてその骸でさえも。
…天空に雷鳴轟く混沌の時、連なる鎖の中に古の魔導書を束ね、その力無限の限りを誇らん。
…その者、降臨せしむれば、灼熱の疾風大地に吹き荒れ、生きとし生ける者すべて屍とならん。」

と呟いた。

その時に石板の文字が反応したのを私はみた。
驚いて彼女を見ると本人も驚いているのか固まっていた。
私は思わず彼女に

「茜ガールは何故あの文字が読めるのデスカ？」

と聞いた。

「…わからない。」

おそらく本当にわからないのだろう。
先ほどまでとは少し違う調子で返ってきた答え。
私は彼女に興味が出た。
最初は同情的な感じで言おうとした言葉がまったく違う感情から出た。

「茜ガール。
貴女は親に誰かが迎えに来るといわれたと言いマシータ。
ミーで良ければついて来ませーン？」

ｓｃｅｎｅ茜

ペガサスが私の面倒をみてくれると遠回しにいってくれたのは正直有り難かった。

一応見た目が3歳の自分ではここからでても行く当てもないだろう。あの石板がエジプトに最初あったのを思い出していたから、どうやって日本に行こうか考えていた。

そんなところにペガサスからの有り難い提案。断る必要もないだろう。そう判断した私は

「…うん。」

と返事をした。

第1話（前書き）

ＤＭ時代は５話で終わらせる予定です。

第1話

ｓｃｅｎｅ茜

私がペガサスの所にやって来て2年が経った。
その間に案外いろいろな事があった。

ペガサスの家にいって空いてる部屋を貰って一息つき、そういや鞄に何が入っているのかなと思ったのは極普通の反応だった。
しかしそれがまずかった。

鞄を開けるとそこには無数のカード。
しかも底が見えないという恐ろしい特典付きで。
最初はこの世界の常識を学ぼうかと思ったがこのカード達を整理しないといけないと思う。

とりあえずペガサスに海馬がもっていたようなケースを大量に貰い整理を始めた。

自分の世界にあったカードはすべてこの山にあるのではないかと思う。
更にアニメオリジナルやゲームオリジナルのカードまであり、整理するのに1年かかった。

モンスターは種族ごとに分けてレベル順に。一つの種族でだいたいケース3〜4個分あった。
一種類１０枚ずつ。
シンクロモンスターもあったが、すべて融合モンスターになっていて、召喚条件が変わっていた。

まずチューナーの部分が融合モンスターと同じ種族ｏｒ属性のモンスターになっていた。
元の条件に縛りがあった場合はそのまま残されている。

例えば《ライトエンド・ドラゴン》は、

【融合・効果モンスター　星８／光属性／ドラゴン族／攻２６００／守２１００
光属性モンスター＋モンスター１体以上】

召喚条件のない《ブラック・ローズ・ドラゴン》は

【融合・効果モンスター　星７／炎属性／ドラゴン族／攻２４００／守１８００
炎属性モンスターｏｒドラゴン族モンスター＋モンスター１体以上】

他には共通して

【このモンスターの融合召喚に《融合》は必要ない】

というコンタクト融合などにみられる文があった。
蘇生制限も基本的に無いため、ほとんどシンクロと変わらない。
他には【シンクロ召喚〜】と書かれている効果は【融合召喚〜】となっていた。
これは強化されたと見て間違いないだろう。

シンクロが無いから当然、チューナーというカテゴリは無くなっていた。
【チューナー〜】と書かれている効果は個別に変わっていた。

流石に全てのモンスターが対象になることは無かった。
種族に関しては修正がなにもなく、サイキック族も普通にあった。
あまり使った事がないから関係無いといえば無いけど。

そして気になったのが、三幻神や三幻魔、オレイカルコスシリーズ、トゥーンシリーズ、Ｄ－ＨＥＲＯ、Ｅ－ＨＥＲＯ、宝玉獣、に《青眼の白龍》が無かった事だ。
《青眼の白龍》以外がない理由は判る。
原作で使うから自分がもっていてはまずいからだ。
ちなみに三邪神や地縛神は出ないからかあった。
《青眼の白龍》は世界に４枚しか無いという設定だから無いのだろうか。
比較的好きだったので残念だ。
魔法、罠は普通に種類別に分けるだけですんだ。

ちなみにアニメとＯＣＧで効果が違うカード、例えば《天よりの宝札》は両方のカードをもっていた。
おそらく同名カードとして合わせて3枚しか入れられないだろう。

一通り整理に片がついたので、この世界の常識を調べた。

どうやらペガサスがデュエルモンスターズを製作して間もないようであった。
しかしそれにもかかわらず凄まじい人気であった。
ルールは原作の王国編と同じだったので私はやらなかったが。

他は余り元の世界と変わっていなかった。

カードの整理が終わってからは異常なくらい暇だったので昔習った

学問を思い出しながらちょくちょくペガサスにアドバイスをしたりもした。
彼は私が頭が良いという程度の認識だったらしいが、私の助言がことごとく当たるのが判ると自分から聞いたりもした。

そんなこんなで5歳の誕生日を迎えた。
ペガサスに大事な話があると言われ、どんな内容かなと思いながら夕食の席についた。
彼は私が座って少ししてからやってきた。
そして手には私へのプレゼントらしい箱をもっていた。
中身はなんだろうと気楽に考えていたら、

「茜、誕生日おめでとうデース。これは私からのプレゼントデース。」

といってプレゼントを渡してくれた。
中身が気になったので開けていいかと尋ねたら寧ろ今開けて欲しいと言われたので開けることにした。

…結論から言おうと思う。

いろいろな意味で以外過ぎた。

中身は三幻神と《青眼の白龍》が４枚だった。
４枚あったので海馬の嫁が変わるのかと思っていたが、元々８枚あったそうだ。
私が前から欲しいといっていたのを覚えてくれていたようだ。
三幻神も２組作ったそうでとりあえず原作大ブレイクにはならなさそうで安心した。

しかし、《青眼の白龍》はともかく何故三幻神も貰ったのかはさっぱりわからなかった。
答えが出ないので彼に聞くと、

「最初にミーと茜が出会った時に、茜が石板に書かれていた文字を読んだ時デース。
石板の文字が反応していたのデース。
ミーは石板をカードにシマシータ。
茜ならもしかして使いこなせるかもしれないと思ったのデース。」

という答えが返ってきた。更に

「茜にはおそらく神の加護があると思うのデース。
ミーの千年眼が効かないのもその為でショウ。」

神の加護ね。
実感はないけどトリップしてきたのもそのせいかな。

「で、ここからが本題デース。
茜にＩ２社の副社長をやって貰いたいのデース。」

…はい？
副社長？一応5歳なんだけどなぁ…
ペガサスがいうのもわかるけど…

助言が原因かな。
ちょっと教え過ぎたかな。
でも暇なのはとても耐えられない。

どうせ三幻神もってる時点で原作介入は確定だし、まぁ受けてもいいかな。

「…受けてもいい。」

ｓｃｅｎｅペガサス

茜を引き取ってから2年が過ぎました。
彼女が私の所に来てケースを大量に持っていったのも随分懐かしく思えます。

彼女はとても聡明です。私が会社から持ち帰った書類を見て、何処をどうした方がいいのかを指摘してくれます。
とても5歳とは思えないほどです。
私は彼女を開いた副社長の席に置こうかと思います。
彼女も暇で何か出来ることはないかと尋ねてくるので大丈夫だとは思いますが、嫌だといえば無理強いはしたくありません。

来週の彼女の誕生日にでも聞いてみることにしましょう。
プレゼントには彼女が前から欲しがっていた《青眼の白龍》と、最初に彼女にあった時から製作していて、ようやく完成した三幻神です。

きっと彼女も喜んでくれるでしょう。

誕生日当日、私は夕食の場で彼女にプレゼントを渡しました。
案の定彼女は喜んでくれました。
でも、何故三幻神があるのかはわからなかったようです。

私が一通り説明すると、彼女は考え込み始めました。

少ししてから、副社長の件について頼んだら、

「…受けてもいい。」

と承諾してくれました。
それから彼女に簡単に職務内容を説明しました。
彼女は副社長にしては量が少ないと言っていましたが、流石に副社長とはいえまだ5歳なので無理はさせたくありません。
彼女に何人か部下を付けると言いましたが、彼女は自分で選びたいと言っています。

そこは彼女に任せましょう。

ｓｃｅｎｅ茜

ペガサスが自分に部下をつけてくれると言ってくれたが、私は自分で選びたいと言った。
副社長とはいうものの、配慮なのは仕事はそれほど多く無かった。
有り難いが、それでは肝心な暇が潰せない。
そこで私は、新人を部下にして育てようと決めた。
何故新人にしようかと思ったのかと言われれば理由は２つある。
一つは新人を育てた方が会社の利益に繋がりやすいからだ。
もう一つは若い方が物事を吸収するのが早いからだ。
私はおそらく今までにない方法を執ると思う。
その時に柔軟な対応ができないと困るからだ。

まぁＩ２社にいくのは来月からだから暫くは計画でも建てておこう。

今日は凄い収穫があった日だ。
自分がもっていなかった《青眼の白龍》や三幻神を手に入れられたし、Ｉ２社の副社長にもなったし。

そういやＧＸや５Ｄ－ｓでは精霊が居たなぁと思いながら眠りについた。

朝、目が覚めると見知らぬ人？が４人いた。
男と女の比率は１：３だった。
男は身長１９０くらいで青色の服を着ていた。
女はそれぞれ身長１７０、１６０、１５０で服の色は黄色、赤色、白色だった。

…どうみても昨日貰った《青眼の白龍》と三幻神っぽい。
人の姿をとってるから擬人化してると思うけど。
とりあえず、

「…精霊？」

と確認をとる。
ラーと思われる黄色の服を着た女が代表して頷く。

「…で、どうしてここにいるの？」

当たり前の疑問を口にする。
今度はオベリスクと思う男が

『我等は貴女の精霊だからだ。
精霊が主人の近くにいるのは自然な事であろう。』

と尤もな事を答える。

「…でも三幻神の主人は古代エジプトのファラオじゃないの？」

オシリスで間違いない赤い服を着た女が

『ファラオとは契約を交わしてはいたけど、あたい達の主人って訳じゃないのさ。
あたい達の主人は貴女さ、夜霧茜。』

成る程。
てっきり王様が主人だと思ってたけど違ったんだ。
ちょっと意外。
というか私は何で三幻神が私の精霊なのかを聞きたかったんだけど。

「…で、青眼の白龍はどうして？」

青眼の白龍といえば海馬の嫁って印象が強いけど。

『ボク？よくわからないけど気がついたらここにいたんだよ。
まぁよろしくね、御主人。』

際ですか…
ボクっ娘にツッコみたいけど我慢。

「…まぁ、わかってると思うけど、夜霧茜。此れからよろしく。」

第2話（前書き）

初決闘です。
なかなか決闘シーンがうまく書けませんね。

第2話

ｓｃｅｎｅ茜

あの衝撃の誕生日前後から1年。
今日から原作でいう王国編が始まる。
今回は参加する気はさらさら無いから、遊戯達と顔を合わせるだけでいいだろう。

原作に介入するとはいったものの、余り原作キャラと深く関わろうとは思わない。
ペガサスは例外として。
トリップしてから3年、原作は未だに覚えているが、流石に細部までは思い出せない。
それでもキャラのだいたいの性格は覚えている。

私が深く関わりたくないと思うキャラ上位ランカーは闇遊戯、城之内、十代、丸藤翔である。
熱血は性格的に相性最悪だし、丸藤にいたっては原作を見ていた時から気にいらないキャラである。
ＧＸの始まりに覗きをするわ、強い兄にコンプレックスを抱いて自滅するわで、いい印象がまったくない。

『御主人も容赦ないね。』

白龍の呟きが聞こえるがスルー。
三幻神は精霊界の神でもあるためかなり多忙である。
なので普段一緒にいるのは白龍だけである。

話しが逸れたが、私は今海馬と遊戯がデュエルしているのを城の上から眺めている。
この時代だから展開が遅いのはどうしようもないが、シンクロ時代を経験している私からしたらどちらも弱すぎる。
一応バトルシティ用に低速デッキを作ったが、それでもこの世界では速い方である。
禁止・制限が緩すぎるのもその一因である。

「…見ていてもつまらないし、戻る？」

『そうだね。
後、御主人今日の夕食は正装でいかないといけないんじゃなかったっけ？』

「…忘れてた。ありがとう。」

危ない、危ない。
早く戻って着替えよう。

ｓｃｅｎｅ遊戯

僕達は今ペガサスと夕食を食べている。
スープの中に千年眼のレプリカが入っていた時は思わず驚いたけど、ペガサスには負けられない！

「今日は遊戯ボーイ達以外にも人を招待してイマース。」

その言葉に僕達は困惑した。
決闘者以外がこの島に来る訳がないし、決闘者もここにいる人以外は皆島を出てるはずなのに。

その時だった。
ドアが開いて一人の女の子が入ってきた。
まだ5～6歳にしか見えない。
まさか彼女がペガサスが招待した人？

「皆さんに紹介シマース。
茜ガールデース。」

「…夜霧茜です。
皆さんの決闘が見たかったのでペガサス社長に無理をいって見学させて貰ってます。」

礼儀のしっかりしてる子だね。
でも、あれ？ペガサス社長？

「茜ちゃん、だっけ？
ひとつ聞きたいんだけど、社長ってどういう事？」

「…私はI2社の副社長を努めさせて頂いておりますので。」

えっ？副社長！？
城之内君や杏子ちゃんも驚いてるよ。

「えっと、茜ちゃんって何歳なの？」

杏子ちゃんナイス！

「…６歳ですが？」

６歳！？

モクバ君も確か１０歳くらいで副社長やってたと思うけど、偶然かな？

それとも副社長は小学生がやる風習なのかな？

後茜ちゃんは質問された後、答える前に一瞬黙りこむね。癖なのかな？

「そういや夜霧は俺達の決闘を見たいっつたが、決闘できるのか？」

いや、城之内君。決闘できない人が見たいなんて言う訳がないじゃん！

「…少しばかり。といっても皆さんの足元にも及びませんが。」

「そうか。なら俺達の決闘を見て参考にするといいぜ！」

…城之内君、僕としては君の決闘を参考にしてほしくないんだけどなぁ。

だってギャンブルデッキだし。

「…ありがとうございます。

楽しみにしてますね。」

その後は普通に食事を済ませてそれぞれの部屋に戻った。

明日に備えて調整しないと！

ｓｃｅｎｅ茜

やっと終わった。
自分が言い出した事だけどやっぱり精神的にきつい。
思ってもいないことを言う時はバレないか不安に思ってしまう。

『御主人の演技力は恐ろしいって。
ボクもあらかじめ聞かされてなければそのまま信じちゃいそうだったし。』

（…白龍、これは生きていくのになくてはならない技術なのよ。）

これがないと商談の時とかホントに困る。
おそらく今後の人生に於いても必須技術間違いないだろう。

『ボクは御主人以外にはいらない技術だと思うけどね。
それにしても何でわざわざ面倒な事をしてまで彼等に会おうと思ったの？』

（…その方が後々らくなのよ。）

バトルシティには参加しようと思っているから、ベスト８に入る内の３人が集まっているこの食事会を見逃す手は無い。
知り合いになっておけば後々役に立ちそうだし。

時間が余っていたので白龍と決闘して暇を潰す事にしよう。
彼女らが精霊になってからちょくちょく決闘をしたりしている。
勿論マスタールールで。
新エキスパートルールだとすぐにライフが無くなってつまらないし。

ちなみに彼女らは自分をメインに置いたデッキを使っている。
ラーはライフ回復と戦闘に特化したキュアビート。
オベリスクは自身の効果によるビート。
白龍は当然ドラゴンデッキ。
オシリスは自身が《王虎ワンフー》の上位効果を持っているのでそれを使ったコントロールデッキ。

実力的にはラーが一番上だけど私個人の意見としてはオシリスが一番厄介だ。
三幻神はＯＣＧの召喚を無効にされない効果に原作効果なのでモンスター、罠の効果を受けないし魔法も１ターンしか効かない。
なので《オシリスの天空竜》がなかなか倒せないのだ。
まぁ光属性主体のデッキなら《オネスト》が使えるのでそこまで怖くはないが。

とりあえず始めよう。

ｓｃｅｎｅ白龍

今日は御主人と久しぶりの決闘。
なんだかんだいって御主人も忙しかったのでなかなかする暇がなかった。
御主人のデッキは毎回バラバラだから対策出来ないんだよね。
といってもボクのデッキはそんな器用ではないけど。

今までの戦積は２８戦２８敗。
最強といわれる三幻神相手でも４～５割位は勝てるのに、御主人には未だに勝ち星がない。
三幻神でも勝てないらしく、前に一回だけオシリスが勝った時は凄い喜んでいた。
ラーはというとオシリスが勝てたのに自分は何故勝てないと軽く落ち込んでいた。
オベリスクはもう勝てないと諦めているのか自分のスタンスで闘っている。

ボクも半分諦めているけど、やっぱり勝ちたいとは思う。
先攻後攻は前回の敗者が決めるのでボクは先攻を貰った。
後攻だとたまにパーミッションと当たって何もできなくなるし。

『ボクのターン、ドロー！
ボクは手札から永続魔法、未来融合を発動！Ｆ・Ｇ・Ｄを選択してデッキから伝説の白石３枚とマテリアルドラゴンとドラグニティアームズ－レヴァテインを墓地に送るよ。
そして伝説の白石の効果を発動！この効果で青眼の白龍を３枚手札に加えるよ。
手札から魔法カード、融合を発動！手札の青眼の白龍を３体融合するよ。青眼の究極竜を融合召喚！
そして青眼の究極竜をゲームから除外してレッドアイズ・ダークネスメタルドラゴンを特殊召喚！

手札から装備魔法、Ｄ・Ｄ・Ｒを発動！手札を一枚捨てて、除外されている青眼の究極竜を特殊召喚！
更に魔法カード、強欲な壷を発動！２枚ドローするね。
レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴンの効果で墓地のドラグニティアームズ－レヴァテインを蘇生し、ドラグニティアームズ－レヴァテインの効果でマテリアルドラゴンを装備するね。
カードを１枚伏せてターンエンドだよ。』

ボクの手札は１枚になってしまったけど、３体とも攻撃力２５００越えに攻撃力４５００の青眼の究極竜もいる。
普通の相手なら既に詰んでるはず、だけど残念ながら御主人は普通ではない。

（…相変わらず展開力が異常ね。）

御主人はこういうが、ボクからすれば顔色ひとつ変えない御主人の方が凄いと思う。
普段から変わらないけど。

（…ドロー。
モンスターをセット、カードを３枚伏せてターンエンド。）

御主人は余り自分から攻撃してこない。
その分厄介な効果をもつカードを多用する。
早めに対処しないと此方が詰んでしまう。

『ボクのターン、ドロー！
（…ドローした時に永続罠、マクロコスモスと超古代生物の墓場を発動。）』

不味いよこれは。
ボクのデッキは特殊召喚ばっかりだから超古代生物の墓場のせいで効果を使えず攻撃も出来ないし、マクロコスモスは墓地を利用するデッキの天敵だよ！
ボクのデッキに魔法、罠を除去するカードはそんなに入ってないし、早く大嵐かハリケーンを引かないと。

『カードを一枚伏せてターンエンドだよ。』

（…ドロー。
不幸を呼ぶ黒猫を反転召喚。効果でスキルドレインをデッキトップに置く。
カードを一枚伏せて、リバースカード、手札抹殺を発動。互いの手札を全て捨て、その後捨てた枚数分ドローする。マクロコスモスの効果で捨てたカードは除外される。）

危なかったよ。
手札が少なくて助かった。
ボクの手札は一枚しかなかったからそれを除外して一枚引いた。
引いたカードは大嵐だった。
これでマクロコスモスと超古代生物の墓場とおそらく伏せられるスキルドレインを破壊できる。
未来融合の効果でＦ・Ｇ・Ｄも破壊されるのは痛いけど、あれらを除去できるのなら安いものだよ。

（…カードを一枚伏せてターンエンド。そしてエンドフェイズに除外した異次元の偵察機を２体特殊召喚。）

異次元の偵察機なんていつの間に除外したんだろう？
手札抹殺の時かな。

異次元の偵察機は除外されたターンのエンドフェイズに戻ってくるから厄介だけど攻撃表示だから戦闘ダメージは普通に通るんだよね。
うまくいけばこのターンで勝てるんだけどなぁ。
御主人が何の対策もしてないわけないし。
とりあえず超古代生物の墓場だけでも破壊しないとね。

『ボクのターン、ドロー！
未来融合の効果によりF・G・Dを融合召喚！
手札から魔法カード、大嵐を発動！これでマクロコスモスと超古代生物の墓場はなくなるよ！』

（…永続罠、スピリットバリアと宮廷のしきたりを発動。
宮廷のしきたりの効果でこのカード以外の永続罠は破壊されない。）
やっぱり防がれちゃったか。ボクの魔法、罠が破壊されるだけの結果になった。
未来融合が破壊されたからF・G・Dも破壊されてしまった。

でもまだボクには手がある！

『それでも宮廷のしきたりは破壊されるよ。
そして手札から速攻魔法、サイクロンを発動！超古代生物の墓場を破壊するよ。これでボクのモンスターは効果が使用できるようになったよ。
レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴンの効果発動！この効果で墓地の伝説の白石を特殊召喚。
そして伝説の白石とレッドアイズ・ダークネスメタルドラゴンを融合、
屑鉄のあぎとが開く時、破壊の衝撃が放たれる。

融合召喚！目覚めろ、不屈の龍！スクラップ・ドラゴン！
スクラップドラゴンの効果発動！自分の場の装備カードになっているマテリアルドラゴンと御主人の場のマクロコスモスを破壊するよ。
ボクの場の青眼の究極竜とドラグニティアームズ－レヴァテインとスクラップドラゴンで御主人の場のモンスターに攻撃！
スピリットバリアの効果でダメージは通らないけど、異次元の偵察機は戻ってこないよ。
ターンエンド。』

だいぶモンスターが除外されてしまったけど、御主人の場にはスピリットバリアのみ。
手札も1枚しかないし、もしかして勝てるかも！

（…ドロー。魔法カード、運命の宝札を発動。
サイコロを振って出た目だけドローし、その後同じ枚数分デッキトップから除外する。）

早速手札補充！？嫌な予感しかしないんだけど。

サイコロの目は…4

ある意味一番いい数字かもしれないね。
5や6だとたくさんドローできるけど大量に除外されてしまうからデッキがすぐ無くなっちゃうんだよね。

（…4枚ドロー。そして4枚デッキトップから除外する。
手札から魔法カード、死者蘇生を発動。この効果で異次元の偵察機を特殊召喚。）

うん？なんでわざわざ異次元の偵察機なんて蘇生したんだろう。

ボクの墓地のマテリアルドラゴンを蘇生するかと思ったんだけど。

（…速攻魔法、地獄の暴走召喚を発動。私は墓地とデッキから異次元の偵察機を特殊召喚。）

生け贄を揃える為だったんだ。
ボクの場の青眼の究極竜とスクラップドラゴンは召喚制限があるし、ドラグニティアームズ－レヴァテインは1枚しかいれていないから召喚できない。

（…私は3体の異次元の偵察機を生け贄に捧げ、神獣王バルバロスを召喚。）

バルバロスの3体生け贄！？まずいよ。
ボクの場は全滅するし、手札はないもん。
次のドローに全てがかかっている。

（…神獣王バルバロスで直接攻撃。
カードを伏せてターンエンド。）

『ボクのターン、ドロー！』

やった、命削りの宝札だ！これならいけるかも。

（…カウンター罠、強烈なはたきおとし発動。相手が加えたカード1枚をそのまま捨てる。）

なんだろう。
一気に絶望させられちゃったよ。
まだ今引いたカードがこの状況を打開できなかったらしょうがない

と思えたよ。
けどね…最強のドローカードを無効にさせられるのは精神的に辛すぎるよ。
そういやラーがよく精神的にダメージを喰らってたけどこういう事があったからかな。
ボクはあの時ラーは精神的に脆いなんて思ってたけど、ごめんね。
君の精神力は強いよ。

なんか涙が出てきたよ。
一応まだ決闘は続いてるし、御主人がなんか可哀想な子を見る目でボクを見てるよ。

（…大丈夫？）

大丈夫じゃないよ！ボクのライフはもう０なんだよ！５０００残ってるけど。

『…ターンエンド。グスン。』

（…ドロー。邪神機－獄炎を召喚。）

終わった。
攻撃力３０００に２４００。
ボクのライフ５０００では耐えきれない。

（…直接攻撃。）

ボクの戦積が２９戦２９敗になった。

ｓｃｅｎｅ茜

私が強烈なはたきおとしを使ったら何故かいきなり白龍が泣き出した。
何を引いたのかなと思ったら命削りの宝札だった。
きっと逆転の一手を引いて喜んでいた所に私がそれを封じたのがショックだったようだ。
ラーはそんな事されても泣かなかったのに。
そこはプライドの差かな。

でもこれで泣かれても困る。
もっと完璧にロックするデッキがいくらでもあるんだけどなぁ。

ちなみに精霊が使うデッキは精霊界のカードを使うらしいので、三幻神と闘う時に此方が使えないということはない。
また、彼方は時間軸が此方とは違うらしく最新のカードまで揃っているらしい。

暇も潰せたし、今日は寝よう。
明日はペガサスが遊戯に負ける日だ。
その後獏良に千年眼を奪われるんだっけな？
一応医者を用意しとこう。
明日が終われば副社長として忙しくなりそうだ。
バトルシティに出るために部下に指示もださないといけないし。

第3話（前書き）

これからは1～3日に1回更新していけたらなと思ってます。
早速のお気に入り登録ありがとうございます。

第3話

ｓｃｅｎｅ茜

王国編が終わって3ヶ月。
今日からバトルシティ編が始まる。
この間は副社長の仕事が多すぎた。
わかってはいたけど、ちょっと愚痴りたくなったりもした。
ペガサスが意識不明と聞いてＩ２社を買収しようとする企業が多くて、それを防ぐのに四苦八苦した。
あらかじめ予防策を用意していたのでなんとかＩ２社は潰れずにすんだ。
そしてようやくペガサスも復帰したのでもう大丈夫だろう。

そして私は今右腕に決闘盤をはめて童実野町にある時計塔広場にいる。
本当は自分用の決闘盤をもっているのだが、予選では目立たないようにしたいので我慢。
海馬による大会の説明があった。
どうやら本選に出場できるのは9人で、最初に本選に進んだ者は決勝までシードらしい。
たぶん私がそこに入って後は原作通りなんだろう。
ならさっさと終わらせましょうか。

説明が終わって各自おもいおもいの場所に移動している中、一人の男が近づいてきた。
おそらく私をカモと思ったのだろう、

「おい、そこのガキ。

俺と決闘しろ。
これはテメェみたいなガキが参加するようなもんじゃねぇんだよ。
大人しく家で本でも読んでな。」
と明らかな死亡フラグを建てつつ話しかけてきた。
「…構いませんが。
私のアンティカードは冥王竜ヴァンダルギオンです。
そちらのアンティカードを教えて下さい。」
「ガキにしては珍しいカードをもってるじゃねーか。
どうせ俺が勝つからテメェが知る必要はねぇが、ルールだしな。
スパイラルドラゴンだ。」
…スパイラルドラゴンって。
攻守２９００は高い方だけど海竜族でサポートカードが少ない。
アンティカードはエースがほとんどって事は通常モンスター主体のデッキかな。
どんなデッキでも負ける気はしないけど。
「…パズルカードは１枚がけでいいですか？」
「いいぜ。」
大会は９時開始である。
今の時刻は８時５７分。
まだ誰も決闘を始めていない。
私達の周りには野次馬が最初の決闘を見ようと集まってる。
『主人、周りの奴等が煩いならあたいが焼いとこうか？』

『オシリス、貴様は主人に言われた事を忘れたのか！
予選はなるべく目立たないように行動すると言われてたではないか！』

『うっさいよ、オベリスク。
あたいは今機嫌が悪いんだ。
それに実際にやる訳じゃないんだし。
考えるくらいいいじゃん。』

『それがいかんと言ってるではないか！
貴様はいつもいつも…』

『ラー、大変だね。』

『…もう慣れた。
暫く放置すれば勝手に戻ってくる。』

とりあえず、うん。ご苦労様です、ラー。
ただでさえ忙しいのに二人の喧嘩まで。

ラーに習ってカオスな世界に入ってる二人をおいといて決闘盤を構える。

時計塔の時計が9時を指した。

「決闘！」

「…決闘。」

「俺のターン、ドロー！
メカ・ハンターを攻撃表示で召喚！
更に装備魔法、デーモンの斧を発動！
これでメカ・ハンターの攻撃力は２８５０！
俺の勝ちは決まりだな。
永続魔法、凡骨の意地を発動、カードを伏せてターンエンド！
テメェのターンだ。」

周りの野次馬はあの少女終わったなとか大人げないとかいろんな批評が飛び交っているが、全て無視。

『ボク初めてだよ、こんなに呆れたの。
よくこんなんで大会に出れたね。』

『…ここだと攻撃力が高ければ強いという考えが根強いからしょうがない。
それにカードの種類も私達より少ないから。』

なんかラーが微妙にメタ発言してる気がする。
それに、言外にここの決闘のレベルが低いっていってるよね。
事実だけど。

「…ドロー。
手札の天空の使者ゼラディアスの効果発動。
このカードを墓地に捨てる。そして天空の聖域を手札に加える。
そして天空の聖域を発動。
天空聖者メルティウスを攻撃表示で召喚。

カードを3枚伏せて魔法カード、天よりの宝札を発動。互いのプレーヤーは手札が6枚になるようにドローする。
更にカードを2枚伏せてターンエンド。」
天よりの宝札を使った時には周りからどよめきが聞こえたが、大量の伏せカードを見て手札事故か？と笑うものが多かった。

「オイオイ。
そんなレアカードもってたって使えなきゃ宝の持ち腐れだぜぇ。
それに、それを使って手札事故ってどんだけヘボいデッキ使ってんだか。」

『主人、あたいにあの男を焼かせてほしい。
主人を侮辱するやつはあたいが許さないよ。』

『我も同感だ、主人。
あやつに地獄を味わらせてやる。』

いつの間にか喧嘩から復帰していたオシリスとオベリスクが物騒な事を企んでる。
こういう時だけ気が合うんだから。

『…二人とも落ち着いて。
マスターが気にしてないんだし、相手にするだけ無駄。』

『そうだよ。
そんないちいち反応してたら切りがないよ。』

精霊4人組になるとオシリスとオベリスクが暴走してラーと白龍がストッパーか。

白龍はだいたい一緒にいるから暴走されると困るから助かるけど。
「さっさとサレンダーしたらどうだ？
俺のターン、ドロー！
「…カウンター罠、強烈なはたきおとしを発動。手札に加えたカードを墓地に捨てる。」
くそっ！
「…そして天空聖者メルティウスの効果発動。カウンター罠が発動する度にライフを１０００ポイント回復する。
さらに天空の聖域が自分フィールド上にある場合、相手フィールド上のカードを一枚破壊する。私は伏せカードを破壊する。」
なんだと！？
調子に乗りやがって。このガキが！
手札から魔法カード、古のルールを発動！この効果でスパイラルドラゴンを特殊召喚！
更にシーザリオンを召喚！
バトルだ！スパイラルドラゴンでガキのモンスターを攻撃！
「…手札からオネストを発動。
このカードを墓地に送る事で自分の光属性モンスター一体の攻撃力はエンドフェイズまで戦闘を行うモンスターの攻撃力分上がる。」
なに！？
「…メルティウスで反撃。」
くそっ。ターンエンドだ。」

「…ドロー。
豊穣のアルテミスを攻撃表示で召喚。
カードを一枚伏せてターンエンド。」

「俺のターン、ドロー！
凡骨の意地の効果発動！引いたカードは火炎木人１８！よって更に

ドロー！ガガギゴ！ドロー！ランプの魔精・ラ・ジーン！ドロー！ギル・ガース！ドロー！グレート・アンガス！ドロー！レッド・サイクロプス！ドロー！ネオバグ！ドロー！ジェリービーンズマン！ドロー！これくらいでいいか。
手札から魔法カード、大嵐を発動！フィールド上の魔法、罠をすべてｈ「…カウンター罠、神罰。天空の聖域がある時のみ発動可能。効果モンスター、魔法、罠の発動を無効にして破壊する。大嵐を無効。」ちぃ。
「…そして天空聖者メルティウスの効果でライフを回復し、メカ・ハンターを破壊。
そして豊穣のアルテミスの効果発動。」
またか！
「…カウンター罠が発動する度にデッキから一枚ドローする。」
俺はガガギゴを攻撃表示で召喚！
「…カウンター罠、キックバック発動。モンスターの召喚を無効にし、持ち主の手札に戻す。
天空聖者メルティウスの効果発動。
ライフを１０００回復し、相手フィールド上のカード１枚を破壊する。シーザリオンを破壊。
豊穣のアルテミスの効果で１枚ドロー。」
何もできねぇ…ターンエンド。」

『相手詰んだねぇ。
ライフが２４００と７０００ってのもあるけど相手の場ががら空きだもんね。
ゴースやかかし、バトルフェーダーもなさそうだし。』

『…容赦ない。』

（…これでも結構手加減してるつもりなんだけど。

お触れかショッカー入れてない方が悪い。）

『…この時代にそんなカードいれてる人滅多にいない。』

（…気にしない。
目的が果たせれば問題ない。）

『どこかの悪役みたいな台詞だね。
勝てば官軍って考えボクも否定しないけど。』

「…ドロー。
モンスター2体で直接攻撃。」

「くそっ！
いいカモだと思ってたんだが。
オラ、アンティとパズルカードだ。
まぁ頑張ってくれや。」

『おや？あっさり引き下がったね。
あたいはてっきり逆恨みでもするかと思ってたんだけどなぁ。』

『きっと手も足も出なかったからじゃない？
なんか悟ったような顔してたし。』

（…何を悟ったっていうの？）

『う～ん。
そこまでは分かんないや。』

とりあえず後パズルカードは４枚。さっさと集めよう。

ｓｃｅｎｅ羽蛾

ヒョヒョヒョ…あそこにいい獲物がいるな。
しかも一人か…
確かさっき誰かを倒してたからパズルカードを２枚もってるよな…
ヒョヒョヒョ。
あの小娘を倒せばパズルカードが５枚になる…

よし、次は小娘とやろう。
僕のインセクトデッキが負けるわけがない…ヒョヒョヒョ。

「そこの君…。僕と決闘しない？
アンティとパズルカード２枚ずつでどうだ？ヒョヒョヒョ…。」

「…構いませんが。」

ヒョヒョヒョ…、愚かな小娘。
これでお前の敗退は確実だ…ヒョヒョヒョ。

「ヒョヒョヒョ…決闘！」

「…決闘。」

「ヒョヒョヒョ…。先攻は譲ってやるよ。」

「…ドロー。

手札から魔法カード、成金ゴブリン発動。１枚ドローして相手はライフを１０００回復する。」

ヒョ？わざわざこっちのライフを回復させた？

いや、どうせドローするカードがなかったから入れたに違いない…

ヒョヒョヒョ。

「…手札から魔法カード、終焉のカウントダウン発動。

ライフを２０００払う。２０ターン後に勝利する。

カードを一枚伏せてターンエンド。時をひとつ刻む。」

ヒョ！？終焉のカウントダウン？あんな使い勝手の悪いカードを使ってるのか。

尚更負ける気がしないぜ。

「ヒョヒョヒョ、僕のターン！ドロー！

フェロモンワスプを攻撃表示で召喚！

そしてバトｒ「メインフェイズ終了時に罠カード、威嚇する咆哮発動。

相手はこのターン、攻撃宣言ができない。」

ちっ。

カードを2枚伏せてターンエンド。」

「…2つ目の時が刻まれる。ドロー。ゼロガードナーを攻撃表示で

召喚。
ターンエンド。３つ目の時を刻む。」

「ヒョヒョヒョ…。攻撃力０を攻撃表示にするのは倒してくださいといってるもんだなぁ。
僕のターン！ドロー！
永続罠カード、ＤＮＡ改造手術を発動！フィールド上のモンスターは全て昆虫族になる！ヒョヒョヒョ…。
更に永続魔法、虫除けバリアー発動！相手の昆虫族は攻撃できないのさ。ヒョヒョヒョ…。
そして魔法カード、生け贄人形発動！
僕はフェロモンワスプを生け贄に捧げて発動するぜ！手札から通常召喚可能なレベル７のモンスター１体を特殊召喚する。
いでよ、インセクト女王！ヒョヒョヒョ…。
女王様の効果発動！全フィールド上のこのカード以外の昆虫族モンスター１体につき、このカードの攻撃力は４００ポイントアップするのさ。よって女王様の攻撃力は２６００！
生け贄人形で召喚したモンスターはこのターン攻撃できない。
命拾いしたな。ヒョヒョヒョ…。ターンエンド。」

ヒョヒョヒョ…、女王様が出た決闘では負け無しなのさ。
虫除けバリアーの効果で攻撃できないし、お前に勝ち目はないさ。

「…４つ目の時が刻まれる。ドロー。ターンエンド。５つ目の時を刻む。」

ヒョ？何もしてこない？
まぁモンスターを出せば女王様の攻撃力が上がるから賢明な判断だな。

「僕のターン！ドロー！
コカローチ・ナイトを攻撃表示で召喚！これで女王様の生け贄には困らないさ！ヒョヒョヒョ…。
バトル！コカローチ・ナイトを生け贄に捧げ、女王様でお前のモンスターに攻撃！そしてコカローチ・ナイトの効果でデッキの一番上に戻る！
「…ゼロ・ガードナーの効果発動。自身を生け贄に捧げる事でこのターン相手モンスターとの戦闘によって発生する自分への戦闘ダメージは０になる。」
しぶとい奴め！
ターンエンド。」

ｓｃｅｎｅ白龍

あの昆虫っぽい人、終わったね。
コカローチ・ナイトなんてドローがロックされちゃうし。
インセクト女王の生け贄にしてももっと適任なカードがあるんだけどなぁ。

ＤＮＡ改造手術と虫除けバリアーのコンボは確かに普通の人には厄介でしょうね。
今回の御主人のデッキは終焉カウントだから意味ないけど。
それに普通に大嵐やサイクロンとかで破壊されちゃうし。

後ヒョヒョヒョって笑うの気味が悪いよ。
いかにもって感じの小悪党臭がするし。匂わないけど。

そんなこんなで御主人の決闘は１８ターンが過ぎた。
ライフはあのまま２０００と５０００で昆虫君が有利なんだけど、
互いの場と手札も変わってない。
昆虫君は毎ターンコカローチ・ナイトを召喚してインセクト女王の
生け贄にしてデッキに戻すのを繰り返している。
御主人は毎ターン手札一枚で防いでいる。
速攻のかかしや和睦の使者、ガード・ブロックを使って戦闘ダメー
ジを０にしている。
手札にはバトルフェーダーが２枚あるし、残り２ターンで終焉のカ
ウントダウンの効果が発動するから御主人の勝ちだね。

「…ドロー。
カードを伏せてターンエンド。１９の時を刻む。」

「このターンで決めないと負けるのか！？
僕のターン！ドロー！
「…罠カード、覇者の一括発動。相手はこのターン攻撃宣言できな
い。」
くそっ！
ターンエンドだ！」

「…そしてこの瞬間、終焉のカウントダウンに２０の時が刻まれた。
終焉のカウントダウンの効果により私は勝利する。」

御主人、最後まで容赦ないね…。
何も覇者の一括使わなくてもいいと思うよ。
攻撃宣言しらいさせてあげようよ…

「く、くそぉぉ！覚えてろ！」
昆虫君はパズルカードを投げつけてそのまま走り去っていっちゃったよ。
その時に彼の顔から雫が落ちてた事をボクは忘れない。
また一人、犠牲者が増えたよ。

『…彼には同情する。私も同じ様にやられた。』

ラーも喰らってたんだ。
御愁傷様です。
そうやって御主人が勝ったのにちょっと複雑な気持ちでいると、御主人は

「…確か八汰烏と混沌帝龍は禁止じゃなかったはず。
バーンカードは禁止だったけど他は制限にも入ってなかったのも多かったし。
次のデッキは八汰ロックにしよう。」

っていってた。
なんか三幻神が皆顔が青ざめてたけど、そんなに酷いのかな？少し気になる。

『あれはデッキじゃないね、ただの苛めだよ。
あたいは二度とあれとやりたくない。』

『あれを苛めなどという生ぬるい言葉で表せるか？』

『…斬首台に登る死刑囚の気持ちが味わえる。』

…うん、ありがとうございます。
絶望しかないんだね、あのデッキは。
あれと当たる人、御愁傷様です。

第４話（前書き）

今回の決闘はアニメオリジナルカードをたくさん使ったのでご了承下さい。

誤字・脱字や決闘でおかしな点がありましたらお知らせ下さい。

第４話

ｓｃｅｎｅ茜

私は今バトルシップの自室でデッキの調整をしている。
部屋にあるモニターから外で行われている決闘が見れるが、興味がないから見ていない。
ただ、遊戯がオシリスを、海馬がオベリスクを、マリクがラーを召喚したときは自然とモニターを見ていた。
３枚とも当然本物だが、自分が持っているのに比べると力が宿っていない。
三幻神に聞くと、

『…あれは私達の力の一部を封じ込めただけ。
マスターが持っている方が我々が精霊界とこの世界を行き来するのに使うから自ずとこちらに力が宿る。』

ということらしい。
まぁ原作でも三幻神の精霊はでて来なかったから問題ないだろう。
分かってると思うけど私は当然１位で通過した。
その後、部屋からでていない。
磯野という黒服の人には決勝までにアルカトラズにいけば問題ないと言われた。

ちなみに、最後の試合がどうなったかというと、私が１ターン目にリクルーターを出して相手に破壊させてクリッターを呼ぶ。
そして２ターン目に苦渋の選択で混沌帝龍のコストを落とす。
後は混沌帝龍を特殊召喚、効果発動してクリッターで八汰烏をサーチ。

通常召喚をして、直接攻撃してロック完成。
相手は為す術なく敗北。
決闘が終わった後も暫くの間呆然としていた。
仕方がないのでパズルカードだけ貰っておいた。

『あれは酷かったね。
三幻神が真っ青になったのも納得できるよ。』

まぁ、あれはネクロ・ガードナーか朱光の宣告者がないと防げない。
元の世界でも猛威を奮って禁止行きになったくらいだ。
こちらで防げる手段はおそらくないだろう。

そして今は自分の精霊をどうやったら全て入れられるか検討中である。
決勝の相手は間違いなく王様なので、ここで実力の差を見せつけておこうと思う。
とりあえずドラゴン族主体なのは確定。
青眼の白龍を召喚しやすくする。
後は龍の鏡で除外して次元融合と異次元からの帰還をいれて三幻神の生け贄を揃えればいいかな。
あまりビートは好きではないけど、たまにはいいかなと思う。

そんなかんやで悩んでいたら、いつの間にかアルカトラズに着いていた。
そしてその頂上で三幻神が揃っているのを感じた。
そろそろ頃合いかなと思い、私はアルカトラズの頂上へ向かった。

ｓｃｅｎｅ遊戯

俺はマリクとの闇の決闘に勝利した。
ブラックマジシャンとガールの連携攻撃でラーの翼神竜を倒し、人格が元に戻ったマリクがサレンダーして決着がついた。

「バトルシティ決勝進出者、武藤遊戯！！」

「おっしゃあぁぁ！！やったな、遊戯！！」

「ああ、城之内君。」

「すげぇぞ、遊戯！」

「やったね、遊戯！」

「ふん、それでこそ俺様のライバルだ。」

「本多君、杏子、海馬も…」

「そういえば、遊戯。決勝の相手って誰なんだ？」

うん？そういえば決勝の相手が誰なのか知らないな。
マリクを倒すことに必死でそこまで考えが回らなかった。

「たしか予選を1位通過したやつだよね、兄さま。」

「俺様も顔は知らんがな。
磯野！どんなやつだ！？」

「6～7歳くらいの少女でした、瀬人様。」
6～7歳だと！？一体誰なんだ？
「なんだと！？そいつは何処にいる！？」
「シップの中に居ります。もうじき来る筈ですが…」
俺達が決勝の相手が誰なのか考えていると、不意にドアが開いた。
皆がそっちを振り向くと、見覚えのある少女がやってきた。
「…お久しぶりです。
武藤さんに城之内さん。」

scene茜

「…お久しぶりです。
武藤さんに城之内さん。
それと初めまして。海馬さんにイシュタールさん。」
私がアルカトラズの頂上に出ると、皆がこちらを向いた。
皆唖然としていたが、真っ先に我に帰った海馬が歩いてきた。
「誰だ、貴様は？」
「…夜霧茜と申します。

微力ながらＩ２社の副社長を努めさせて頂いております。」
「Ｉ２社だと！？
今度は何を企んでいる！？」
「…Ｉ２社は何も関わりがありません。
ただ私が１個人としてこの大会に参加しただけです。」
「ふん、怪しいがそういう事にしといてやろう。
確認だが、貴様が予選を１位で通過したんだな？」
「…はい。」

「なら、今からバトルシティ決勝戦を行う！
遊戯と貴様は「…待って下さい。」なんだ。」

「…私は今からで構いませんが、武藤さんは２回戦から３連戦は精神的に辛いと思います。
闇の決闘をなさっていたようですし。
「何故貴様がそれを知っている！？」
…それは追々お話します。
なので決勝戦は明日に延期なさってはいかがですか？
それに、こちらは武藤さんのデッキを大まかに把握してますが、こちらのデッキを武藤さんは知りません。
なので私の予選の記録を見た方が得策だと思いますが。」
「むぅ…。
遊戯、お前はどうしたい！？」

「そうだな。
デッキの調整もしたいし、明日にするぜ。」
「お前がそういうなら仕方がない。
決勝戦は明日に延期だ。」
「…わかりました。では、私はこれで失礼します。
武藤さん、明日はいい決闘にしましょう。」
「ああ。」
予定通りに話が進んだし、余り関わりたくないので早く自室に戻るとしよう。

ｓｃｅｎｅ遊戯

まさかペガサスの所にいた茜が相手だとは思わなかった。
彼女はあの時は決闘の腕は全然といっていたが、実際は相当な腕前だろう。
彼女がどんなデッキを使うのかわからないし、海馬から記録を借りよう。
結局あの場にいた全員と復帰した舞が今モニタールームにきた。
海馬も来たのは予想外だったが。
「茜ちゃんはどんなデッキ使うのかな?」

「俺も気になるぜ！」

初戦の記録を見た俺達は驚いた。
彼女がダメージを喰らわずに勝ったのもあるが、

「まさか、パーミッションを使う人がいたなんてね。」

「リシドも罠を多様していたけど、それとは全く別物だね、あのデッキ。」

「ええ、それにパーミッションは扱いが恐ろしく難しいのですが、簡単につかいこなしてますね。」

パーミッションを使っていたことだ。
カウンター罠は確かに強力な効果を持っている。
しかし、コストが大きかったりするので、とてもカウンター罠を主体にデッキが作れるとは思わなかった。
攻撃の無力化は比較的いろんなデッキに入っているが、それ以外のカウンター罠は使われているのを見たことがない。

「ふん、あれは相手が凡骨だったから通じたまで。偶然に過ぎぬ。」

海馬はあくまでも否定するが、彼以外は彼女への認識を改めていた。

「まだ2戦目と3戦目があるが、見るか？」

「ああ、頼む。」

「おっ、相手羽蛾じゃねぇか。
夜霧は羽蛾にも勝ったのか。」

「…。」

２戦目は初戦以上の衝撃だった。
終焉のカウントダウン。
このカードを知らぬ者はいないが、使っている者はいないとまで言われているカードだ。
ライフを２０００払い、２０ターン後に無条件で勝利できる。
このカードが出た当時は使いこなそうとした決闘者が何人かいたが、２０ターン守りきれなかったり、逆に２０ターンたつ前に相手のライフを削りきってしまったので、当時は使えないという結論がでていた。

発売した側も、これはネタカードとまでいっていて、もしライフが８０００以上からのスタートなら使えたかも知れないカードとして一躍有名になったのだ。

それをライフ４０００で、しかも相手は一応とはいえ元チャンピオン。
それをネタと言われたカードで勝利したのだ。
流石の海馬も彼女の実力が本物であると認めざるを得なかった。

「それにしても、初戦と２戦目でデッキの中身がまるっきり違うね。
複数のデッキの持ち主かな。」

そういわれれば確かにそうだ。
２戦目は２０ターン続いたが、カウンター罠は１枚も入ってなかった。
「この様子だと３戦目も違うデッキを使う筈よ。」
「そうだな。しかしそれでもある程度の共通点は見つけられる筈だ。」

茜の３戦目の映像

『…ドロー。
モンスターをセット。カードを２枚伏せてターンエンド。』
「海馬、茜が何を伏せたかわかるか？」
「ちょっと待て。
…モンスターがキラートマト、伏せカードが和睦の使者に我が身を盾にだ。」
彼女は何がしたいんだ？
『私のターン、ドロー！
私はビックバンガールを攻撃表示で召喚！
バトル！ビックバンガールでモンスターを攻撃！
『…キラートマトの効果発動。デッキからクリッターを守備表示で

特殊召喚。』
では、カードを2枚伏せてターンエンド。」

「あの伏せカードは超重力の網と神の恵みだ。」

「それだと相手のデッキはキュアバーンか。
なかなか厄介だね。」

「なんだ？そのキュアバーンって？」

「貴様はもっと勉強しろ、凡骨！
あれは相手の攻撃を防ぎ、自分のライフを回復しながらビックバンガールの効果で相手のライフを削るデッキだ。」

『…ドロー。
『ここで永続罠、超重力の網と神の恵みを発動します！』
手札から魔法カード、苦渋の選択を発動。デッキからシャインエンジェル、キラートマト、ネクロガードナーを3枚選択。
『では、私はシャインエンジェルを選択します。残りは墓地へ。』』

「苦渋の選択ねぇ…。」

「なんでわざわざあんなカード入れるんだ？必ず4枚も墓地にいっちまうのによぉ。」

「城之内君、俺にもわからない。しかし彼女の事だ。何か考えがあるのだろう。」

彼女の決闘を2回見ただけでわかる。
彼女のデッキには一見すると無駄なカードが多いように見えるが、

実はそれぞれがコンボの起点になったりしている。
今回もそうだろう。

『…私は魔法カード、手札断殺を発動。更にもう1枚手札断殺を発動。
そして墓地のシャインエンジェルとキラートマトを除外して混沌帝竜を特殊召喚。
そしてライフを１０００払い効果発動。』

「混沌帝竜は確かお互いの手札とフィールドのカードを全て墓地に送り、相手にその枚数×３００のダメージを与えるリセットカード。」

「ん？そりゃ強いけどあの状況だと合わせて１１枚だろ？
それだとライフが残っちまうし、次のドローでモンスターを引かれたらやばくないか？」

「確かに。どうするんだろ？」

『…クリッターの効果発動。このカードが墓地に送られた時、デッキから攻撃力１５００以下のモンスターを手札に加える。
八汰烏を選択。そして八汰烏を通常召喚。』

「終わったわね。」

「どういうことだ、舞？まだ相手のライフは残るぜ？」

「八汰烏の効果だよ、城之内君。八
汰烏は相手に戦闘ダメージを与えた場合、次の相手のドローフェイズをスキップする効果を持っている。

この場合だと相手の場と手札に何もないから、ドローできないと何もできない。」

「なんだと！？そんな能力反則だろぅ！」

「確かに出鱈目な能力を八汰烏は持ってるわ。
でも、八汰烏のステータスは異常に低いし、スピリットモンスターだから毎ターン手札に戻ってしまうから使いにくいのよ。」

「そしてさっきまでの2戦もそうだけど、彼女はどうやら強力だけど使いにくいカードを使うのに長けてるね。
遊戯、明日は気を抜いたらすぐにやられるよ。
僕達が考えもしないような戦略を彼女はつかってくると思う。」

「ああ、分かってる。
海馬、記録を見せてくれて助かったぜ。」

「ふん、貴様は俺のライバルだ。
俺以外に負けるのは許さんぞ。」

「ああ。」

明日は楽しみだ。
おそらく俺の知らないカードを組み合わせてくるのだろう。
だが俺には三幻神がある。流石に彼女も三幻神の対策はできないだろう。
三幻神はほぼ戦闘でしか破壊できないし、彼女はどうやら戦闘は苦手のようだ。
相手の場に何も無いときにしか攻撃してないし、全てが直接攻撃だった。

それはそれで厄介だが、その前に三幻神を揃えれば勝てるだろう。

ｓｃｅｎｅ茜

「これよりバトルシティ決勝戦を行う！！両者準備は。」

「いつでもいいぜ。」

「…ちょっと待って下さい。

武藤さん、この決闘はアンティ無しでやりませんか？」

アンティ有りだと私が勝って王様の記憶が戻らなくなってしまうと困るし。

『一応負けるかもしれないっていう心配はないの、御主人？』

（…あんなバランスの悪いデッキに負けるわけがない。

唯一心配なのは相手の引き運ね。）

「ああ、構わないぜ。」

「それでは、始め！！」

「決闘！！」

「…決闘。」

「先攻は貰うぜ！ドロー！
魔法カード、融合発動！手札のクィーンズ・ナイト、キングス・ナイト、ジャックス・ナイトの三体を融合！現れよ、アルカナナイトジョーカー！
カードを一枚伏せて魔法カード、天よりの宝札を発動！互いのプレーヤーは手札が6枚になるようにドローする！
魔法カード、融合解除を発動！クィーンズ・ナイト、キングス・ナイト、ジャックス・ナイトを特殊召喚！
そしてこの3体を生け贄に捧げ、現れよ！オベリスクの巨人兵！
ターンエンド！」

（…白龍わかった？私がいった事。）

『うん。初手から揃いすぎだね。あんな反則な引き持ってる人とやりたくないよ、ボク。』

「よしっ。流石遊戯だぜ！初っぱなから神を召喚したぜ！」

「…ドロー。魔法カード、サイクロン発動。相手の伏せカードを破壊。
「くっ。聖なるバリアーミラーフォースが！」
カードを2枚伏せてターンエンド。」

「俺のターン、ドロー！
バトル！オベリスクでプレーヤーに直接攻撃！」

「…罠カード、レインボーライフ発動。」

「神に罠は効かないぜ！」

「…これは自分に作用する罠。
手札を１枚捨て、このターン自分が受けるダメージ分ライフを回復する。」

「なにっ！？」

「夜霧のライフが一気に８０００になっちまったぜ！？」

「くっ。翻弄するエルフの剣士を守備表示で召喚し、ターンエンド。」

「…ドロー。
スタンバイフェイズ時に墓地にあるキラースネークの効果発動。キラースネークを手札に加える。
魔法カード、未来融合を発動。Ｆ・Ｇ・Ｄを選択し、デッキから伝説の白石３枚とレッドアイズ・ダークネスメタルドラゴンとホワイト・ホーンズ・ドラゴンを墓地に送る。
そして伝説の白石の効果発動。墓地に送られた時、デッキから青眼の白龍を手札に加える。効果で青眼の白龍を３枚手札に加える。」

「なっ！？青眼の白龍だと！？」

「貴様か！？俺様がいくら探しても見つからなかった青眼の白龍を４枚持つ者は！？」

「…たぶんそう。魔法カード、融合発動。
手札の青眼の白龍３体を融合。青眼の究極竜を融合召喚。
伏せカード、リビングデットの呼び声発動。レッドアイズ・ダーク

ネスメタルドラゴンを特殊召喚。
効果発動。青眼の白龍を特殊召喚。
青眼の究極竜、レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴン、青眼の白龍を生け贄に捧げ、ラーの翼神竜を召喚。」

「今度はラーまで！？」

「どういう事だ！？」

「…イシュタール家は聞いてない？ペガサスが三幻神を2組つくった話を。」

「ええ、あります。
一組はファラオの記憶を呼び覚まし、もう一組には精霊が宿ると。
おそらく貴女が持っている三幻神には精霊が宿っています。」

「…よく御存知で。

Θλω　ναι　τηνι　αιτιδη　συνφειια.　Διπ
ουν　λα　τα　πνεματα.

スフィアモード解除。
ラーの攻撃力守備力は生け贄に捧げたモンスターの合計となる。よってラーの攻撃力は１０３００、守備力は８７００となる。」

「攻撃力１０３００だと！？」

「不味いぞ、遊戯！」

「遊戯！」

『…完全にアウェー、マスター。』

（…分かってるわよ。それくらい。）

「…ラーの翼神竜でオベリスクの巨人兵を攻撃。」

「くっ。俺はクリボーの効果を発動！1度だけ戦闘ダメージをゼロにする！」

「…魔法カード、マジックプランター発動。リビングデットの呼び声を墓地に送り2枚ドロー。
2枚伏せてターンエンド。」

「俺のターン、ドロー！
魔法カード、強欲な壷発動！
魔法カード、埋葬されし生け贄発動！
俺は自分の墓地のクリボーと夜霧の墓地の青眼の究極竜を除外する！
そして俺は手札からブラックマジシャン、ブラックマジシャンガール、疾風の暗黒騎士ガイアを特殊召喚！
そして魔法カード、命削りの宝札を発動！カードを5枚ドロー！
翻訳するエルフの剣士、疾風の暗黒騎士ガイア、ブラックマジシャンガールを生け贄に捧げ、現れよ！ラーの翼神竜！
ラーの翼神竜の攻撃力は５７００、守備力は５０００となる！そしてラーの翼神竜の効果発動！

Γνομαι　να　με　τα　πνεματα.

自分のライフを1残し、残りをラーの翼神竜の攻撃力、守備力に加

える！
そして、ブラックマジシャンを生け贄に捧げ、ラーの翼神竜の攻撃力、守備力をあげる！
これがラーの翼神竜の攻撃力は１２１９９、守備力は１１０９９となる！
バトル！ラーの翼神竜で夜霧のラーの翼神竜を攻撃！ゴッド・ブレイズ・キャノン！」

「…罠カード、ドレインシールド発動。
相手モンスター一体の攻撃を無効にし、その攻撃力分ライフを回復する。私のライフはこれで２０１９９となる。」

「やるな。
カードを2枚伏せてターンエンド。」

「兄さま、遊戯は大丈夫なの？」

「ふん、あいつが俺以外に負ける筈がなかろう。」

「姉さんはどう見る？」

「どちらも三幻神の使い手。どちらが勝ってもおかしくありません。が、おそらく少女が勝つでしょう。」

「彼女がまだ手を残してると？」

「いえ、寧ろ三幻神さえも彼女からしたら戦略のひとつなのかも知れません。
三幻神を囮にしてる可能性も否定できません。」

「…ドロー。手札を1枚捨て装備魔法D・D・R発動。除外されている青眼の究極竜を特殊召喚。
装備魔法、早すぎた埋葬発動。レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴンを特殊召喚。
レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴンの効果で伝説の白石を特殊召喚。
青眼の究極竜、レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴン、伝説の白石を生け贄に捧げ、オシリスの天空竜を召喚。
1枚伏せて魔法カード、命削りの宝札発動。5枚ドロー。
ターンエンド。」

「強いな、夜霧。だが俺は負けない！ドロー！
ラーの翼神竜でオシリスの天空竜を攻撃！
「…速攻魔法、コマンド・サイレンサー発動。攻撃を無効にし、互いに1枚ドローする。」
カードを1枚伏せてターンエンド！」

「…ドロー。スタンバイフェイズ時に墓地にあるキラースネークを手札に加える。そして未来融合の効果でF・G・Dを融合召喚。
魔法カード、埋葬されし生け贄発動。
武藤の墓地のオベリスクと自分の墓地の青眼の究極竜を除外する。
手札からホワイトホーンズドラゴンを2体特殊召喚。
ホワイトホーンズドラゴンの効果発動。相手の墓地の魔法カードを5枚まで除外する。
1体目の効果で融合、融合解除、天よりの宝札を除外。2体目の効果で強欲な壷、埋葬されし生け贄、命削りの宝札を除外。
ホワイトホーンズドラゴン2体とF・G・Dを生け贄に捧げ、オベリスクの巨人兵を召喚。」

「夜霧の場に三幻神が揃っちまったぜ！？遊戯大丈夫か？」

「不味いよ、兄さま！」

「くっ。」

「…手札を１枚捨てて装備魔法Ｄ・Ｄ・Ｒ発動。除外されている青眼の究極竜を特殊召喚。
カードを３枚伏せターンエンド。」

「今遊戯の場には攻撃力１２１９９のラーの翼神竜と伏せカードが３枚でライフはわずか１。
夜霧の場には攻撃力１０３００のラーの翼神竜と残りの三幻神に青眼の究極竜、伏せカードは４枚でライフは１９３９９か。
負けんなよ、遊戯！！」

「頑張って、遊戯！」

（…なんか私が嫌いな熱血シーンになってるんだけどどうしよう。）

『もう終わらせちゃえば、主人？
わざわざあたいらを揃えるためにこの決闘引き延ばしてるんだし。』

（…そうね。次で終わらせる。）

「皆が俺を応援してくれてる！俺のターン、ドロー！
手札から速攻魔法、異次元の埋葬を発動！オベリスクとクリボーを墓地に戻す！
そして貪欲な壷を発動！クリボーとオベリスクとクィーンズ・ナイトとキングス・ナイトとブラックマジシャンをデッキに戻し、２枚

ドロー！
魔法カード、命の水を発動！墓地からブラックマジシャンガールを特殊召喚！」

「…オシリスの効果発動。
相手がモンスターの召喚、反転召喚、特殊召喚に成功した時、攻撃表示なら攻撃力、守備表示なら守備力を２０００下げる攻撃を行う。
そしてこの攻撃で攻撃力または守備力が０になった場合、そのモンスターを破壊する。
召雷弾。」

「伏せカード、地縛霊の誘いを発動！
召雷弾の対象をラーの翼神竜に変更する！
そしてラーの翼神竜は自分より下位のモンスター効果を受けない！
召雷弾は無効となる！
更に魔法カード、賢者の宝石を発動！デッキからブラックマジシャンを特殊召喚！」

「…オシリスの効果発動。
召雷弾。」

「くっ！
そして手札から速攻魔法、神々の黄昏を発動！」

「おっしゃ！神でも魔法の効果なら受ける！」

「さすが遊戯だぜ！」

「俺のデッキ・手札・墓地からモンスターカードを全てゲームから除外する！

その後、相手フィールド上のモンスターを全て破壊しゲームから除外する！
三幻神と青眼の究極竜を破壊して除外！
そしてバトル！
ラーの翼神竜とブラックマジシャン、ブラックマジシャンガールで直接攻撃！
俺のターンは終了だぜ！」

「遊戯の勝ちは決まったな。
夜霧の主力は全て墓地か除外されている。
それに奴のライフは４７００．
次の遊戯のターンで決まりだ。」

「そう決めつけるのは少し早計では？」

「なんだと？」

「…ドロー。
武藤、私の予想通りの行動、感謝する。」

「なっ！？」

「どういう事だ！？」

「…魔法カード、封魔の矢発動。相手はこのターン魔法、罠を発動できない。
そして魔法カード、埋葬呪文の宝札を発動。Ｄ・Ｄ・Ｒ２枚と早すぎた埋葬を除外し、２枚ドローする。
魔法カード、次元融合を発動。ライフを２０００払い互いに除外されているモンスターを可能な限り特殊召喚する。」

「俺は疾風の暗黒騎士ガイアと翻弄するエルフの剣士を守備表示で特殊召喚するぜ。」

「…三幻神と青眼の究極竜を特殊召喚。
三幻神を生け贄に捧げ、邪神アバターを召喚。
邪神アバターの効果発動。相手ターンで数えて2ターンの間、相手は魔法、罠を伏せる事はできず、発動もできない。」

「なっ！？邪神だと？なんだそれは！？」

「おそらくあれは三幻神と対を為す存在なのでしょう。
私もこれ以上の事はわかりませんが。」

「…邪神アバターの攻撃力はフィールド上で最も攻撃力の高いモンスターの攻撃力＋1となる。」

「そんな！」

「遊戯！」

「…邪神アバターでラーの翼神竜を攻撃。
ダークネス・ゴッド・ブレイズ・キャノン。」

「ぐわあぁぁ！」

「遊戯！」

「磯野！審判は！？」

「は、はい！バトルシティ決勝戦、
勝者は夜霧茜！」

「…ありがとうございました。」

「ああ、ありがとう。いい決闘だった。
また機会があればよろしくな。」

「…ええ。それでは失礼します。」

そういって私は青眼の白龍を実体化させて乗ってアルカトラズを後にした。
サイコデュエリストではないがこういう風に精霊を実体化させたり攻撃を現実に反映させたりできる。
ほとんど闇の決闘みたいなものだが、自分の意思で切り替えできる。

それにしても王様のチートドローっぷりには驚いた。
どこをどうしたらあんな重いデッキが回るのやら。不思議だ。

『御主人も十分すごかったけどね。』

まぁ、実際三幻神と青眼の究極竜を揃えれたのは以外だった。
せいぜい2体くらい揃えられればいいかなと思っていた。白龍とそんな会話をしつつ、自分の家に戻った。

第４話（後書き）

この時代ではビートが殆どでそれ以外のデッキはホントに稀というイメージです。

カウンター罠もこの時代にはあまりありませんし、あっても初期ライフ４０００でライフの１／４や１／２を削ってまで発動する価値はないかなと。

終焉のカウントダウンは初期ライフの半分を削ってさらに往復１０ターン凌ぐ必要があるので防御系カードが少ないＤＭ時代では使えないカード扱いにしました。

そしてゲームで禁止解除してたまに使う八汰ロック。

一応アスワンの亡霊と強烈なはたきおとしで再現できるのでいつか書こうかなと思います。

今年は出来ればもう一回更新できたらなと思っています。

ドーマ編はオリカが多いのでなかなか書くのが難しいです…

第5話（前書き）

今回からドーマ編になります。
といっても暫くは決闘はありません。
それにしてもドーマ編は壊れカード多いですね。

第5話

ｓｃｅｎｅ茜

バトルシティが終わって数ヶ月。
今日もいつもと変わらずＩ2社の副社長室で仕事をしていた。

（…人生何もないのが一番。）

『御主人、何を突然。』

特にはないのだが、今この静かな日常が何かと落ち着くのだ。
何しろつい最近まで非日常的な事をやっていたのだから。

バトルシティの直前でサイコデュエリストのように精霊以外のカードを実体化出来ることに気付いた。
自分の精霊については知ってから色々力を使えた
（前回の白龍に乗った事やその他いろいろ）
けど、精霊以外でもできたのには驚いた。

試しに魔法カードの天空の泉を決闘盤に入れて実体化してみたら、
部屋のど真ん中に泉が出てきた。
部屋が広かったのとあまり物は置いてなかったので泉に物が落ちる被害はなかったのが救いだった。
試しに手を入れてみたらひんやりとした水特有の感触があった。
決闘盤から天空の泉を抜くと、何事もなかったように部屋は元に戻った。

それいこう仕事の合間を縫って様々な事を試した。

例えば上級モンスターを実体化するのに生け贄はいるのか、とか融合モンスターなどの召喚制限のあるモンスターも普通に実体化できるのかなど。
ちなみに上級モンスターを実体化するのに生け贄は必要なかったし、召喚制限があるモンスターも普通に実体化できた。
それに気付いていこう、移動する際はモンスターを実体化してそれに乗って移動している。

また、モンスターとは会話等もでき、精霊と変わらなかったが、精霊と違い勝手に実体化はできない。
流石に勝手に実体化させると困るので助かったが。
尚、どうやら種族によって実体化させやすい種族と実体化させにくい種族があるようで、ドラゴン族は特に実体化させやすいが、サイキック族はなかなか実体化できない。
三幻神がいうには私と相性のいい種族ほど実体化しやすいらしい。
ドラゴン族はバトルシティの決勝とかで使ったからだろうか。

「…そういや今頃王様は冥界に帰ったのかな？」

確か原作ではバトルシティが終わって闇獏良と記憶探しの闇のゲームをしたはずである。
そして闘いの儀で武藤に負けて冥界に戻る筈。

『う～ん、ちょっと待ってて、御主人。
ラーに聞いてみる。』

それだけいうと白龍の姿が消えてしまった。
三幻神の所にでもいったのだろう。

暫くすると、白龍が少し焦ったように戻ってきた。

『御主人、まだファラオ冥界に帰って無いってさ。
後ファラオが持ってる方の三幻神のカードの力が封印されて奪われたって。』

…三幻神が封印された？
そんなの原作には無かった気が…
うろ覚えだから自信ないけど。

『それに確か秘密結社が動き出したらしくて、オレイカルコスの神を復活させようとしてるらしいよ。
それに御主人の力とは別の力でモンスターが実体化して大変らしいよ。』

オレイカルコス…
アニメオリジナルのドーマ編か。
そういや同じアニメオリジナルの乃亜編は無かった。
今は時間があるからドーマについて少し調べてみよう。

モンスターの実体化？
まぁ、いいや。
私の力とは無関係らしいし。

「…ん、わかった。
わざわざありがとう。」

ドーマね。
アニメは殆ど見てなくて、辛うじて王様が狂戦士の魂を使った所は見たけど、何の役にもたちそうにない。
休憩がてらの会話も終り、また書類を見ていると一つおかしな書類が混じり込んでいた。
「…ん？
なんでこんなにＫＣの株をペガサスは買ってるの？」
それはＩ２社の保有する他社の株式の割合の書類だったのだが、ＫＣだけ１週間前の書類と比べて持ち株比率があがりすぎていた。

ｓｃｅｎｅ海馬

バトルシティで夜霧が優勝したのは気に喰わん。
奴が俺が探していた残りの青眼の白龍を持っていることも気に入らん。
そして何よりＩ２社の副社長だ。
俺も１０歳で社長になったから他人の事は言えんが、あいつは異常だ。
６歳でＩ２社の副社長になり、その経営手腕は確かだ。
実際Ｉ２社の業績は彼女が副社長に就任していらい右肩上がりにあがっている。
さらにあの決闘の戦略の多さ。
Ｉ２社の副社長は単に気に入らんだけだからほっといていい。しか

し、あの決闘の腕はほっとけるものではない。
バトルシティの予選で相手を圧倒し、予選を1位通過。
おまけに遊戯にも勝った。
それにたまにだが俺の知らないカードも使っていた。
Ｉ２社はカードの製作も行っていたからそれでつくったのか？
まぁ、奴について調べるのはまたの機会にするとしよう。
何故なら、
「社長！
ＫＣの株が何者かによって大量に買われてます！」
「それに世界中からモンスターが実体化してると苦情が殺到してます！」
調べる余裕などないのだからな。
「株の方は早急にどの会社が買収しているか調べろ！
実体化の方はメインコンピューターを再度バグがないか調べろ！」
その後も指示を出していると、
「社長！
ＫＣの株を買収している会社がわかりました。」
「さっさと言え！」
「Ｉ２社です！」
「なっ！？」

Ｉ２社だと！？
ペガサスか夜霧どちらの仕業かわからん。
しかしペガサスは以前我が社を乗っ取ろうとして失敗している。
となると夜霧の仕業か。
あの小娘め！

「それもペガサス社長の独断だそうです！
Ｉ２社にいる者からの情報では更に副社長にも話していないようで。
」

ペガサスだと！？
それに夜霧にも話してないだと？
少しおかしいな。
Ｉ２社では副社長の夜霧が実質的なトップで、ペガサスは半分引退状態だと聞いていたが。
その状況でペガサスがＭ＆Ａを勝手に始めれる筈がない。

「社長！
何者かが我が社にハッキングしてきてます！」

この状況でまた厄介事を！

「さっさと追い払え！」

「ダメです！
既に侵入されています！

ハッカーとの間に回線がつながってますがいかがなされますか？」

「寄こせ！」

オペレーターを退かして座る。

「誰だ、貴様は！」

『初めまして、海馬瀬人。
我が組織の名はドーマ。
私はそうだな。
ドーマの首長をやっている。
デュエルモンスターズが実体化しているのも我が計画の一部。』

「貴様が元凶か！！」

『そうだ。
だが私にかまっている暇はあるのかな？
今ＫＣはＩ２社からＭ＆Ａを受けていると思っていたが。』

「Ｉ２社も貴様が原因か！」

『Ｉ２社の副社長には困らされたがね。
彼女の内部組織改革のおかげでこちらからの使いが入れなくなってしまってね。
それに重要な要案は必ず彼女の部下と彼女に回る様になっているし、彼女のサインがないと実行されないのでね。
なんとか忍び込んで書類を入れたのは良かったが、そのせいで今回のＫＣに対するＭ＆Ａもあっさり廃案になってしまったよ。』

「それならなぜＩ２社が我が社にＭ＆Ａをしかけている！」

『ペガサスを使ったのさ。
Ｉ２社の資金は使えなかったが、Ｉ２社の名前はなんとか使えるようにしたのさ。
これは公には彼個人の財産でＩ２社の名でＫＣ株を買っていることになっている。
流石に彼女も社長が個人で株を買うのは止められないのでな。
もっとも資金はこちらで用意しているがね。』

「くっ、小賢しい！
そこまでして何が目的だ！」

『大したことではないよ。
我が神復活の生け贄がほしいのさ。
それも只の生け贄では意味が無い。
強力な決闘者の魂が必要なのだ。
そして、海馬瀬人。
お前も我が神復活のための生け贄にふさわしい。
既にファラオの所には刺客を送りこんである。君もＫＣが乗っ取られたくないのであれば決闘者の王国へ来る事だな。』

「なんだと！？
貴様、それにペガサスをどうやって操った！」

『いずれわかるさ。
では、また会おう。』

「待て、まだ話は終わってない！」

くそっ！
俺が生け贄に相応しいだと？

ふざけるな！

「社長！
コンピューターの制御権が戻ってきました。」

「なら、Ｉ２社の夜霧に繋げ！
話がある！」

屈辱だが、奴の手を借りなければどうしようもできん。

『…海馬？
珍しい。
でもちょうどよかった。
聞きたいことがあるんだけど。』

「後にしろ！
それよりペガサスはどこにいるか知ってるか！？」

『…少し前から行方不明。
何者かに連れ去られたと思う。
社長室から侵入されてそのまま連れて行かれた。』

行方不明だと！？
ドーマに連れ去られた後か！

『…その時に決闘したらしい。
それで、オレイカルコスの結界というフィールド魔法が発動されたらしいけど、その後のデータがすべて消えてた。』

オレイカルコスだと？

「なんだ、そのオレイカルコスというのは。」

『…どうやら１００００年前に存在していた古代都市アトランティスにあった鉱物で近年たまに発掘されてる。
なんでも超合金があったらしいんだけど、実際はわからない。』

「フン、そんなオカルトを俺が信じるとでも？」

『…どっちでもいい。
とりあえずあったらしいことを知ってもらえればいい。
で、こっちの話だけど、なんでペガサスがＫＣにＭ＆Ａを仕掛けたかわかる？
大方ペガサスを連れ去った者の仕業だと思うけど。』

「そのとおりだ。
そいつらはドーマを名乗っていた。」

『…ドーマね。
ありがとう。
切るわよ。』

「待て、まだ話がある。
ドーマから決闘者の王国に行けと言われた。
そっちになにか異常はあるか？」

『…まだ何もない。
けど、明日はエジプトのイシュタール家にいくから、その間になにかあるかも。』

「大事なところで役に立たんな、貴様は。」

『…武藤の三幻神が封印されて奪われたと聞いたから、イシュタール家に神を封印できる力の手掛かりを探しに行く。
海馬の情報でドーマとわかったからすぐに戻れるはず。』

「遊戯の神が奪われただと！？
貴様の神は無事なんだろうな！？」

『…私が管理を怠るとでも？
常に肌身離さずもっている。』

「いらぬ心配だったな。
では明日決闘者の王国にはいるぞ？」

『…わかった。』

ふん。
何者が俺の邪魔をするとしても、蹴散らしてくれるわ！

第5話（後書き）

今年の更新は今回までです。
次話は来年になります。

では、少し早いですが、よいお年を。

第6話（前書き）

新年あけましておめでとうございます。
今年もよろしくお願いします。

今回はかなりの捏造や独自解釈がありますのでご了承下さい。

第６話

ｓｃｅｎｅ茜

海馬との話の翌日、私は今エジプトに向かっている。
昨日白龍がいった通り、モンスターが実体化しており、実際何回も襲われた。
始めは氷結界の龍トリシューラに乗っていて、襲われても返り討ちにできると思っていた。
確かに大抵のモンスターは返り討ちにできたが、モンスターが大群でくるとどうしてもじり貧になってしまった。
私を乗せてて全力で回避できないせいもあるが。

なので今はトリシューラを中心にして、四方に、ホルスの黒炎竜ＬＶ．８、ブラック・ローズ・ドラゴン、ダークエンド・ドラゴン、ライトエンド・ドラゴンを実体化させている。
これだけいれば、流石に襲われても困らない。それでもモンスター４００体ほどが同時に襲ってきた時は多少焦ったが。

「…それにしてもしつこい。」

そう、モンスターを蹴散らしながら進んでいるが、一体だけ他のモンスターとは別格の存在がいた。
それは隙あらば襲ってこようとし、此方が攻撃しようとすると直ぐに攻撃圏外からでてしまう。
此方の目的はエジプトに行くことなので無駄な戦闘は避けたいが、此処で振り切らないと後々面倒な事になりそうだ。

「…トリシューラは少しスピードを下げて。

ホルスとローズは残って。
ライトとダークであの鬱陶しいヴィクトリードラゴンを墜落させて。
」
ライトエンドとダークエンドは任せろといわんばかりに咆哮をあげ、ヴィクトリードラゴンに向かっていった。
私もサポートするために決闘盤を構える。
3体の竜が戦闘を始めたが、互いになかなかダメージを与えられない。
ライトエンドとダークエンドは互いにスイッチしながら戦闘を行い、ヴィクトリードラゴンに攻撃を当てるが、相手の守備力が高くあまり効果がない。
ヴィクトリードラゴンも攻撃してくるが、2体が片方が攻撃してる間はもう片方が守っている為に攻撃が当たらない。
このままでは埒が空かないので援護に入ることにした。
「…永続罠、六芒星の呪縛、デモンズ・チェーン、闇の呪縛発動。
装備魔法、団結の力をライトエンド・ドラゴンとダークエンド・ドラゴンに装備。」
六芒星の呪縛、デモンズ・チェーン、闇の呪縛で三重にヴィクトリードラゴンを拘束し、団結の力でライトエンドとダークエンドの攻撃力をあげる。
そこまでやれば後は一方的な戦いだった。
動けないヴィクトリードラゴンに2体が同時にブレス攻撃を放つと、直撃しあっけなく消え去った。

「…御苦労様。」

「「グゥオオオ！」」

ヴィクトリードラゴンはどうやらリーダー格だったらしく、その後は襲われることなくエジプトまで辿り着いた。

イシュタール家の場所がわからなかったので空港で待ち合わせをしていたので空港まで向かった。

中で暫く探して、海外便の出口に向かうと3人がいた。

私が後ろからでてきたのが意外だったのか驚いていた。

『そりゃ普通は飛行機で来るから出口からでてくるのを待つのが一般的じゃない、主人。』

『というかなんでわざわざモンスターを実体化させてこっちにきたの、御主人。

こっちの方が速いってのはあるけど。』

（…速く来たかったのと、一応モンスターを少しでも消しとこうかと思った。）

『ならあたいも行きたかったよ。

なんで呼んでくれなかったんだい？』

（…ドーマは武藤しか三幻神のカードを持っていないと思ってるから、バレそうな真似はできなかった。）

『ドーマねぇ。

別にあたいらなら返り討ちにできる程度の力しかないよ。
それにオレイカルコスの神も主人の力があれば恐れる必要もないし。
』

（…私の力については後で教えて。
とりあえず今はドーマについての情報が必要。）

「久しぶりですね、三幻神を従えし少女。」

「茜ちゃん、久しぶりだね。
といっても実際に話すのは始めてだけどね。」

「お久しぶりです、夜霧様。」

「…久しぶり。
そうね。
様はいらない。」

「それより茜ちゃん、どうやってエジプトまで来たの？
飛行機じゃないみたいだけど。」

「…モンスターに乗ってきた。」

「どうやってモンスターを手懐けたのですか？」

「…自分の力で実体化させた。
バトルシティでも青眼の白龍に乗って帰ったし。」

「そういえばそうでしたね。
とりあえずこのまま立ち話もなんですし、一旦移動しましょう。」

私はイシュタール家の車に乗ってある遺跡にやってきた。
「ここの奥に三幻神に対抗できうる力について書かれている石板があると伝えられています。
ただ、私達では石板に書かれている文字が読めないのでこれ以上の事はわかりません。」
「…古代神官文字ではないの？」
確か古代神官文字ならマリクが読める筈。
「少なくとも古代神官文字ではなかったよ。
それならボクが読めるからね。
それといつのかは分からないけど古代文字ってのは確かだと思うよ。
」
生憎私は古代神官文字以外の古代文字は読めない。
ならば見てもしょうがないかなと思いつつも、何か情報があるかもと思い遺跡の中に入っていった。
遺跡の最深部の部屋に辿り着くと、そこには4枚の石板が四方に置かれていた。
正面以外の石板は私がこの世界に来た時に見た三幻神の石板と同じように3枚のカードらしきものがピラミッド型に描かれていた。
中央には千年パズルではなく、他の何かが描かれていた。
一つはおそらくルーン、辛うじて読み取れた。
残りの2つは全くわからなかった。
それぞれの石板の下には何やら説明らしき文字が書かれている。
私には読む事は出来なかったが。

そこで精霊なら読めるかもと思い、声をかけてみる。

（…この文字読める？）

『う～ん、ボクにはさっぱりわからないよ。』

『我にも解らん。』

『…私も大雑把にしか読めない。
でもオシリスなら読めた筈。
そうよね？』

（…オシリス？）

『…
うん？
どうかしたかい、主人？』

どうやら正面の石板を見て何か考え込んでいたようだ。

（…3枚の石板の下に書かれてる文字をオシリスは読める？）

『あぁ、そっちの方だね。
それなら問題なく読めるよ。』

（…なら実体化してから読んで欲しい。
イシュタール家にも聞かせたい。）

『了解したよ。』

そういってオシリスは実体化した。
イシュタール家の３人は突然現れたオシリスに驚いていた。

「茜ちゃん、そこにいる人は誰なの？」

「マリク、彼女の精霊でしょう。
それもおそらくオシリスの天空竜。」

『当たりだよ。
流石は墓守りの一族といった処かね。
主人にあんたらにも聞かせてくれって頼まれてね。

さて、まずは主人達が入ってきた入り口の上にある石板から読むよ。

…王が邪神を己の名と三幻神の力によって封印してから１０００年
西方の地にて神の力を持つ者顕る
彼の者、己の前に伝えられし神話を集める
彼の地の神と呼ばれし存在、それは人が神格化したものなり
彼の者、神を己に取り込まんとす
それゆえ、強弱の見境なく神彼の地に顕る
彼の者、神を取り込まんとすが、叶わず
彼の者、己に神を取り込む事諦む
だが、神々は下界に顕現し、既に天界に戻る事叶わず
故に彼の者、神々を石板に封印す

此に描かれし神、彼の者が封印した神の中でも強大な力を持つ者なり
一柱、戦争と死の神であり、彼の者の集めし神話の主神、オーディン
一柱、雷、天候、農耕を司り、後に主神の子息となりし神、トール
一柱、主神の義兄弟であり、悪戯好きな神、ロキ

彼の者、後に三柱を極神と名付ける
三極神の力、彼の三幻神にも劣らぬ力を持つと伝えらるる

つまり、あたいらがファラオと邪神ゾークを封印してから１０００年後、つまり今から２０００年ほど前。
西方だから欧州かね、そこに神の力を自分の物にしようとした奴がいたんだよ。
で、力を得る為に神々をこの地に召喚した。
処が彼は神々の力を得られなかった。
しかも、神々は元いた世界に帰れなくなって暴れ始めた。
そこで彼は神々を石板に封印した。
その中でもオーディンとトールとロキの三極神があたいらに匹敵する力を持っていると伝えられてるだとさ。』

極神ね。
確か５Ｄ'Ｓでどこかのチームが使ってたような気がする。
目にルーンの文字があったような。
それにしてもオーディンだから北欧神話か。確か氷結界の龍グングニールや勝利の導き手フレイヤも元ネタが北欧神話だった筈。
グングニールはオーディンが持っていた槍。
フレイヤはフレイで豊穣の女神。

『それじゃ次いくよ。
これは此の辺のものだね。

…王が邪神を己の名と三幻神の力によって封印してから５００年
近きに精霊と心通わし者集まりし地あり
彼の地の者、精霊に強大な力あらんこと知る
其れすなわち彼の地の者の力を欲す所以となる

彼の地の者、精霊の力使わんとす
彼の地の者、我等が地の三幻神に似せし存在作れり
その存在に天界の天使の名をつける
ひとつは雷を司る天使ラミエルと悪魔アモンより名づけし
ハモン
ひとつは神の炎の称号を持ちし四大天使の一角、ウリエルより名づけし
ウリア
ひとつは癒しを司る四大天使の一角、ラファエルより名づけし
ラビエル

彼の地の者、これらの存在を三幻神に似せて三幻魔と名づける
三幻魔の使役には精霊を操る力が不可欠
彼の地の者、精霊と心通わす故に三幻魔を使役す
三幻魔、使役者に無限の命与えん
だが、三幻魔の存在のみで他の精霊の力全て失われん
故に、彼の地の者三幻魔を封印す

これは今から２５００年前、精霊を見ることが出来た人間が集まった里があったのさ。
で、精霊と交流している内に精霊に力があるのを知ったわけさ。
人間は力があればほしがるからね、精霊の力を人間も使えるようにしようとしたんだよ。
で、あたいら三幻神に似せて力が集まりやすくしたんだろうね。
それで、三幻魔って名づけたと。
三幻魔を扱うには精霊の力が必須なのさ。
で、里の者は精霊と交流していたから多少は力を持っていて、三幻魔を扱う事が出来た。
そして、三幻魔は使役者を不老の存在にする力があった。
ところが、三幻魔は存在するために他の精霊の力の殆どを奪う必要

があったらしくてね。
人間は他の精霊の力を奪ってまで不老が欲しかったわけじゃなさそうだね。
そのまま三幻魔は封印されたって話さ。』

三幻魔か。
確かＧＸで理事長が若返ろうとして復活させようとしたんだっけ。

「…その三幻魔は今何処に封印させてるかわかる？」

『ちょっと今は分からないね。
後で調べておいた方がいいかい？』

「…お願い。」

「それにしても凄い発見だよ、これは！
今まで全く知られてなかった歴史がこれに書かれていたなんて！」

『そりゃそうだろうねぇ。
２０００年も前だとまともに文字があった文明なんて少ないから記録が残ってないだろうし、それに仮にあっても今の人間が読める古代文字なんて古代神官文字くらいなもんだよ。
しかもファラオと関係の深い人物しか読めないときた。
他の古代文字なんてあったところでただの傷にしか見えないだろうさ。』

それにしても極神に三幻魔。
となるともう一つは三邪神の線が高い。
三邪神なら多少イシュタール家にも伝わってるらしいし。
原作でも三幻神の暴走を防ぐ為に作られたとされてたし。

それに私が持ってるし。

「…オシリス。
もうひとつに書かれているのは三邪神についてなの？」

『ご名答だよ、主人。
おや？
これの一部には古代神官文字が使われてるね。
イシュタール家はそこだけ解読していたのかい？』

「はい。
といってもそこに書かれていたのは三幻神の対になる存在としかありませんでしたが。」

『それだけでも十分だね。
とりあえず読むよ。

…三幻神創られし頃
三幻神の力この地に安らぎを与えん
だが、一度この力破壊に向けられし時、この地滅び避けること能わず
故に三幻神と同等の力を持ち、三幻神の力を防ぐ存在を必要と考う
る者達現る
彼等、光のみならず、闇も必要と思う
故に、三幻神を防ぐ存在を邪神と名付ける
だが、王始め神官は此れを邪神ゾークと考うる
故にこの三邪神を封印せんとす
彼の三邪神、邪神ゾークとは一線をきす存在なり
邪神ゾーク悪の化身であり、人の心より生まれし存在
三邪神、三幻神と同じく自然より生まれし平穏をもたらす闇の化身
光しか知らぬ神官共、此れを知らず三邪神封印す

三邪神の存在なくなりしとき、行き場のない闇、悪に変わりて邪神ゾークとなる
封印されし三邪神、
一柱、明と暗を司りし大地の神と対を成す邪神
ドレッド・ルート
一柱、善と悪を司りし天空の神と対を成す邪神
イレイザー
一柱、天と地を司りし太陽の神と対を成す邪神
アバター

あたい達と同じ時期にこの邪神は作られた。
あたい達の力が強大過ぎるからね、誰かが暴走を恐れるのは当然さ。
で、暴走を抑える為に三邪神を作った。
処が、この時代には邪神ゾークと名乗る存在が出ると予言されてた時期でね。
三邪神を作った人は光の対の闇を意識したと思うんだけどね、ファラオ達は予言にいわれた邪神ゾークと勘違いしちまったのさ。
で、ファラオや神官は三邪神を封印しちまうんだ。
それで今まで三邪神に溜まっていた闇が人に触れて悪になって邪神ゾークが生まれた。
皮肉にもファラオ達は己の手で最大の悪を解放しちまったんだね。
で、その封印された邪神は
一柱がオベリスクの対を成す邪神ドレッド・ルート
一柱があたいの対を成す邪神イレイザー
一柱がラーの対を成す邪神アバター。

で、三邪神なんだけど、何故か封印が解かれてて主人が持ってるんだよね。
普通にしてれば問題ないけど、闇が近くにある事は忘れないで欲し

いよ、主人。』

「…わかった。」

「では、茜さんがバトルシティで使った邪神アバターというのは、」

『ここに書かれてるラーの対を成す邪神さ。
それもあたいら三幻神と同じく本物さ。
それと、三邪神は別に人に害なす存在ではないよ。
象徴としての闇であるだけだよ。』

「という事は、茜ちゃんは三幻神と三邪神両方持ってるって事？」

『そうさ。
そしてその方が安全さ。
片方が暴走してももう片方で抑えられるからね。』

オシリスの解説が終わって残るは正面の石板のみ。
そこには巨大な竜と竜が3体描かれている。

「…オシリス、正面の石板はどういうのなの？」

『できれば主人の為に言いたくないんだけどねぇ。』

「…ならドーマに関する事だけでいい。」

『まぁそれなら大丈夫かね。

これは今海底に沈んでいる古代都市アトランティスにあるのと同じものさ。

ドーマが復活させようとしてるのはあの巨大な竜の巨大竜リヴァイアサン。
そしてリヴァイアサンと対峙してる3体の竜は人間の間では名も無き伝説の竜と呼ばれてるよ。
あたいらは名前を知ってるけどいわないよ。

後はこの石板が描かれているのはあたい達の時代より７０００年前、つまり今から約１００００年前にあった古代都市アトランティスの崩壊の様子だよ。
モンスターが都市を襲ってる絵があれだね。
殆ど主人が調べたのと変わらないけど今あたいからはこれくらいしかいえないよ。』

伝説の名も無き竜に巨大竜リヴァイアサンね。
モンスターが都市を襲ってる？
今と同じかしら？

「…オシリス、今モンスターが町を襲ってるのは、１００００年前と同じ状況にあるってこと？」

『そのとおりさ。』

どう対処すればいいのやら。
後々考えるとしよう。

「…オシリス、ありがとう。
それとイシュタール家も助かった。」

「こちらこそ新たに伝承がわかって感謝してます。」

「茜さんはもうお戻りになられますか？」

「…ええ。
ちょっと今危ない状況だから。」

「今度来る時はゆっくりしていってね、茜ちゃん。」

「…またね。」

そして私は再びトリシューラ達を実体化させ、Ｉ２社本社に向かった。

第6話（後書き）

今回も決闘なしです。
次には決闘を入れる予定です。

第7話（前書き）

原作キャラでだいぶ動きが変わる人がいるのでご注意下さい。

第7話

ｓｃｅｎｅ闇遊戯

俺達はバトルシティが終わって暫くしてから、記憶を取り戻そうとして童実野美術館の石板の前にやってきた。
そこで三幻神を掲げたのだが、何故か石板が氷漬いてしまった。
しかも、デュエルモンスターズが実体化して町を襲い始めた。
更に三幻神のカードは奪われてしまい、ドーマと名乗る集団の者と闇の決闘もした。
その時にオレイカルコスの結界というフィールド魔法を使われ、負けた者の魂は奴等の神復活の生け贄になってしまうらしい。
辛うじて倒す事ができたが。

そして美術館でホプキンス教授とレベッカと再開し、今回の人類滅亡の危機に俺が唯一対抗できる事を聞いた。
そしてモンスターが実在する事も。
ついでにレベッカが１２歳で大学生という事も知った。
驚いたが、それを考えてると、茜の６歳でＩ２社副社長というのはなおさら異常に感じるな。

そして、教授と話した日の夜、ブラックマジシャンガールが出てきてこの世界以外の世界があるといい、今そのバランスが崩れかけているそうだ。
そのせいでモンスターが実体化しているらしい。
そして、２つの世界を救うには太古よりデュエルモンスターズの世界を守ってきた名も無き竜の力が必要らしい。
だが、その竜は封印されていて真の決闘者にしか封印を解くことができない。

それでも相棒と共に竜の封印を解くことが出来た。
封印されていた竜の名はティマイオスだった。

そして目が覚めると、オーロラが目の前に広がっていた。
慌てて外に出ると空に目が浮かんでいた。
そして、

『名も無きファラオよ、我等が神の復活の生け贄になるがいい！！』

という声と共に巨大な竜巻が襲ってきた。
ティマイオスを召喚してなんとか事なきを得たが。
目を破壊したら、ブラックマジシャンガールがでてきて、２つの世界の間に開かれた扉を閉めれるようになったという。
扉を閉めれば実体化していたモンスターも消えると。
ただ、ヴィクトリードラゴンをリーダーとする集団は何故か扉が閉まっても消えずに残るといっていた。
それと、邪悪な意思はまだこの世界に居り、ブラックマジシャンガールの仲間も捕らえられたままのようである。邪神を倒さないと、いずれ２つの世界は滅びてしまうと言いながら、ブラックマジシャンガールは消えてしまった。
その後、オーロラは消え、ティマイオスのカードが手元に残っただけだった。

そして城之内君たちと今後の方針を考えていると、アメリカのペガサスから小包が届いた。
中身はカードとビデオだった。
ビデオの内容は、どうやら俺達と話がしたいからアメリカまで来てほしいというものだった。
しかも、彼は監視されているらしい。
副社長である茜には監視が付いていないようだが、彼女に会う事は

できないようだ。
彼を監視している者は、どうやら茜をかなり警戒しているらしい。
なので、彼女と接触するのは不可能のようだ。
そこで、彼女との接触ばかりに監視の目がいってる隙をついて俺たちにビデオを送ったそうだ。

俺達には他に情報がなかったので、アメリカに行くことにした。
ペガサスは迎えの飛行機を用意してあると言っていたしな。
それにしても、ビデオと共に送られてきたイリュージョンの鍵はどういったカードなのだろうか？

次の日、俺達は空港でＩ２社の飛行機があり、それに乗ってアメリカへ来た。
その後、リムジンに乗ってＩ２社にやってきた。
途中でドーマの手先に襲われるハプニングがあったが。

Ｉ２社の中に入ると、誰もおらず、出口が閉められてしまった。
そして舞がやってきた。
最初は仲間だと思ったが、彼女がペガサスの魂を封印したようだ。
ペガサスは封印されたが茜は無事なのだろうか。
彼女はＩ２社の副社長だし、決闘の腕も確かだ。
ドーマにとって敵に回ると厄介な存在だろう。
ただ、そうはいっても彼女はまだ６歳だ。
戦闘に持ち込まれたら彼女では抵抗出来ないだろう。

「舞！
茜はどうした！？」

「茜？
ああ、遊戯をバトルシティで倒した奴ね。

何もしてないわ。
寧ろ、わざわざ彼女のいない日を狙ってペガサスを封印したり今ここにいるのよ。」

どういう事だ？
何故彼女を避ける？

「何故茜のいない時に行動する！？」

「仕方がないじゃない。
彼女はドーマにとって厄介な存在なのよ。
既に此方の動きを探り始めてるようだしね。
今日の事も事前に知っていたようね。」

な！？
茜は今日の事を知っていただと！？

「私達がここに来た時には人っ子一人いなかったわ。
それにロビー以外は封鎖されていて出入りできなかったのよ。
ほんと厄介ね。

まぁ、それは置いときましょう。
それより城之内、私と決闘しなさい！

フィールド魔法、オレイカルコスの結界発動！」

舞がオレイカルコスの結界を発動し、舞と城之内君の決闘が始まった。
城之内君はなんとか舞の攻撃を凌ぎ、決闘中にヘルモスに選ばれた。
そしてヘルモスの効果を使って城之内君の方に流れが来ていた。

が、その時ドーマの三銃士のヴァロンがオレイカルコスの欠片を使い、決闘を中断させた。
その後、３人は消えた。

俺達が中にいると、海馬達と御伽君達がやってきた。

「遊戯君達！
無事かい！？」

「御伽君！」

「遊戯。
何故貴様達がここにいる？」

お前こそ何故ここに来た？

「海馬。
俺達はペガサスに呼ばれてきたのだが。」

「ペガサスだと？
奴は無事なのか？
夜霧は行方不明だと言っていたが。」

「いや、俺達が来た時には既に…」

「舞だ。
孔雀舞がドーマを手を組んでペガサスの魂を奪っちまったらしい。」

「くっ！
やはりドーマか！」

海馬はドーマについて何か知っているのか？
「海馬、ドーマについて何か知ってるか？
俺達は何も情報がなくて困ってるんだが。」

「俺も殆ど知らん。
夜霧は多少知っていたようだが。
それよりも奴等のせいで我が社の株が大量にＩ２社に保有される事態になってしまったのだ。
俺が引導を渡してやらねれば気がすまん！」

茜が奴等について知っているのか。
しかし彼女は今何処にいるんだ？

「ねぇ、海馬君。
茜ちゃんは何処にいるか知らない？
ペガサスが魂を奪われてしまったから、彼女も危ないと思うんだけど。」

「夜霧か。
あいつは今日はエジプトにいる筈だ。」

エジプトだと！？
一体何の為に？

「イシュタール家にいって三幻神を封じれる力を持つ存在を調べるといっていたが。
なんでも貴様の三幻神は奪われたそうだな。」

待てよ。
何故夜霧が三幻神の力を封じられて奪われた事を知っている？
美術館の時にはいなかった。
ならば何処で知った？

「海馬、彼女が何処で俺の三幻神が封印されて奪われた事を知ったか聞いてないか？」

「ん、貴様らが伝えたのではないのか？」

「いや、違う。
そもそも彼女とはバトルシティ以降一度もあってない。」

「夜霧が怪しくないか？
舞の話だと今日の待ち伏せも知っていたようだしな。」

確かに。

「いや、それはないだろう。」

意外にもそれを否定したのは海馬だった。

「俺のところにドーマの首長を名乗る奴から連絡があってな。
そいつは夜霧が邪魔だと言ってた。
それにあいつはＫＣの株が買われる事を知らなかったしな。
あいつがドーマの仲間なら知らないなんて事はないからな。」

なら彼女は何故いろんな事を知っている？
疑問は尽きない。

「じゃあさ。
とりあえず茜ちゃんが帰ってくるまで待ちましょうよ。
その方が情報の交換とかできるし。」

俺達は杏子の意見に従う事にした。
しかし、俺は一つ気になったことがある。
あのペガサスが狙われているのに何の対策も立てていないはずがない。
俺は皆にこのことを伝え、手掛かりを探すことにした。
そして暫くすると、ペガサスのプライベートルームについた。
そしてそこでソリットヴィジョンとして残してあったペガサスの話からドーマについて知った。

俺達はＩ２社の中で茜の帰りを待っていると、何故か御伽君についてきていた竜崎と羽蛾が慌てながらこちらに向かってきた。

「も、モンスターがこっちに向かって来とるで！」

「それも見たことのないモンスターだ！」

なんだと！？
モンスターはもう実体化してない筈だが。

「とりあえず様子を見てみようぜ！」

俺達は外に出た。
空を見上げると、５体の龍がいた。

「なんだ！？
あのドラゴン達は！？」

どれも俺達の知らない種だった。
俺達が呆然としている間に龍達は近くに着陸して消えた。
俺達は龍が消えた所に向かった。
そこに人影が見えた。

「誰かが近づいて来るぞ！！」

またドーマの連中か！？
だが、よく見ると何処で見たことのある顔だった。

「あれって茜ちゃんじゃない？」

「ああ、彼女で間違いないだろう。」

「さっきの会話から気になっていたんだけど、茜ちゃんってもしかしてＩ２社副社長の夜霧茜の事？」

「ああ。
御伽君は茜について何か知っているのか？」

「うん。
アメリカでは若きＩ２社の副社長として有名だよ。
僕も一度だけ彼女とあった事があるからね。」

そうこう話している内に、彼女が此方へやってきた。

「…お久しぶりです、皆さん。
初めての方もいますが。」

「ふん。
夜霧、貴様は今日はエジプトにいるのではなかったのか？」
「…用事が早く終わったから此方の様子を確認しに来た。」
「なぁなぁ、あんさんホンマにＩ２社の副社長なん？」
「…そうだけど。」
彼奴等は何をしたいんだ？
「なら、仰山レアカード持っとるんちゃうか！？
ワイ等にも分けて欲しいんやけど。」
「そうだ！
遊戯達ばかりペガサスからレアカードを貰うのは狡いぞ！」
いや、ティマイオスはペガサスから貰ったカードではないんだが。
というかこいつ等は単にレアカードが欲しいだけだろう。
「こら、２人も！
茜ちゃんに迷惑かけないの！」
「…そんなにどうしてレアカードを欲しがる？」
「そんなもん、強くなるために決まっとるわい！」
「…弱い者はどんな強力なカードを持っても強くなれない。」
「僕達が弱いとでもいうのか！

ならここで僕達と決闘しろ！
で、僕達が勝ったらレアカードを分けろ！」
彼奴等では茜には勝てないと思うがな。
「…構わない。
勝ったらこの地底のアラクネーとジュラック・ヴェルヒプトをあげる。」
なんだ、それらのカードは？
「…地底のアラクネーは星６で地属性、昆虫族の攻撃力２４００守備力１２００の融合モンスター。
融合素材は闇属性モンスターと昆虫族モンスター１体。
効果は、このカードの融合に《融合》は必要ない。
自分フィールドに存在する融合素材を生け贄に捧げる事で融合召喚できる。
このカードが攻撃する場合、相手はダメージステップ終了時まで魔法・罠カードを発動する事ができない。
１ターンに１度、相手フィールド上に表側表示で存在するモンスターを　装備カード扱いとしてこのカードに１体のみ装備する事ができる。
このカードが戦闘によって破壊される場合、代わりにこの効果で装備したモンスターを破壊する事ができる。」
なんだと！？
融合がいらない融合モンスター！？
それに融合素材も緩いな。
手札融合できないのは欠点だが、十分優秀なカードだな。

「…ジュラック・ヴェルヒプトは星5で炎属性の恐竜族で、攻守は？の融合モンスター。
融合素材は炎属性か恐竜族のモンスターと恐竜族モンスター1体以上。
このカードの攻撃力・守備力は、このカードの融合素材としたモンスターの元々の攻撃力を合計した数値になる。
このカードが裏側守備表示のモンスターを攻撃した場合、ダメージ計算を行わず裏側守備表示のままそのモンスターを破壊する事ができる。
どちらも私が自分で作ったシリーズで世界に7枚しかないカード。
稀少価値は高いし効果もそこそこ優秀。
これでどう？」

負けても何もないし、当然受けるだろう。
俺のデッキには昆虫族も恐竜族もいないからあれ等は使えないが、シリーズといっていたから魔法使いを素材とするモンスターはいないだろうか？
あれば是非欲しいな。

「十分や！
まずはワイと決闘や！」

「…面倒だから2人纏めて決闘する。
バトルロワイヤルルールで先攻は貰う。」

「僕達をなめてるのか！？
いいさ、後悔させてやる！」

羽蛾、竜崎はともかくお前は既に負けた事があるだろう。

「「決闘！」」

「…決闘。
ドロー。
モンスターをセットし、カードを2枚伏せてターンエンド。」

茜がどんなデッキか全く予想がつかないな。
1枚も情報がない。

「ワイのターン、ドロー！
融合発動や！
手札の俊足のギラザウルスとヘルカイドプテラを融合や！
ヘルホーンド・ザウルスを融合召喚や！
カードを伏せてターンエンドや！」

「僕のターン、ドロー！
代打バッターを守備表示で召喚！
カードを2枚伏せてターンエンド！」

「…ドロー。
不幸を告げる黒猫を反転召喚。
効果で強烈なはたき落としをデッキの一番上に置く。
手札から魔法カード、天使の施し発動。
デッキから3枚ドローして2枚捨てる。
モンスターをセット、カードを2枚伏せてターンエンド。」

不幸を告げる黒猫が攻撃表示で出ているが、大丈夫なのだろうか？

「ワイのターン、ドローや！
バトルや！

ヘルホーンド・ザウルスはプレーヤーに直接攻撃できる能力を持っとるで！
プレーヤーに直接攻撃！」

不味い！
ヘルホーンド・ザウルスの攻撃力は２０００、一気に半分ライフが削られてしまう！

「…罠カード、ディメンション・ウォール。
自分が受ける戦闘ダメージは変わりに相手が受ける。」

「なんやと！？」

茜の目の前に不可思議な穴が開き、ヘルホーンド・ザウルスのブレスを吸い込んだ。
そして竜崎の後ろから穴が開き、ブレスが竜崎に直撃した。

「不味いわ。
カードを伏せてターンエンドや。」

「僕のターン、ドロー！
魔法カード、殺虫剤を発動！
代打バッターを破壊する！
そして代打バッターの効果を発動！
手札からインセクト女王を特殊召喚する！
女王様の攻撃力は場の昆虫族モンスター１体につき２００あがる。
よって女王様の攻撃力は２４００！
そして共鳴虫を召喚！
バトルだ！
共鳴虫で不幸を告げる黒猫を攻撃！」

「…罠カード、死のデッキ破壊ウイルス発動。
不幸を告げる黒猫を生け贄に捧げる。
相手のフィールド上に存在するモンスター、相手の手札、相手のターンで数えて３ターンの間に相手がドローしたカードを全て確認し、攻撃力１５００以上のモンスターを破壊する。
まずインセクト女王とヘルホーンド・ザウルスを破壊。」

「なっ！」

「僕の女王様が！！」

「…そして相手の手札を確認して攻撃力１５００以上のモンスターを破壊する。
まずは恐竜使いの手札から。
冥界の鎖にフロストザウルス。
フロストザウルスを破壊。
次に昆虫使い。
毒蝶ーポイズン・バタフライね。
毒蝶ーポイズン・バタフライを破壊。」

「くっ！
だが、不幸を告げる黒猫がいなくなったことで共鳴虫の攻撃はお前への直接攻撃になる！」

「…罠カード、カード・ブロック発動。
戦闘ダメージを０にし、１枚ドローする。」

「くそっ！
ターンエンドだ。」

茜のデッキはなんだ？
今までのカードからでは予想できない。

「…ドロー。
魔法カード、苦渋の選択発動。
デッキから逃げまどう民、弾圧される民、団結するレジスタンス、ゾンビキャリア２体を選択。
選ぶのは…、じゃあ次のプレーヤーで。」

逃げまどう民に弾圧される民、団結するレジスタンスか。
まさか大革命か？

「そんな弱小モンスターばっかり選んだところでなんにもならんで！逃げまどう民にするで！」

「…残りは墓地に送る。
罠カード、闇のデッキ破壊ウイルス発動。
自分フィールド上の攻撃力２５００以上のモンスターを生け贄に捧げる。」

「どこにも攻撃力２５００以上のモンスターなんていないじゃないか！」

「…私の場の伏せモンスターは可変機獣ガンナードラゴン。
このカードの元々の攻撃力は２８００。
よって条件を満たす。
罠カードを選択。
相手のフィールドと手札を確認し、さらに３ターンの間にドローしたカードを確認し、罠カードだった場合、破壊する。」

これで羽蛾と竜崎はドローしても攻撃力１５００以下のモンスターと魔法カードしか手札に加えられないな。

「…とりあえず恐竜使いの手札にある冥界の鎖を破壊。
次に恐竜使いの伏せカードを確認する。
ジュラシック・ハートに聖なるバリアー ミラーフォース。
両方破壊。
昆虫使いの伏せカードを確認。
擬態にむしばみね。
これも両方破壊。
カードを一枚伏せ、魔法カード天よりの宝札発動。
互いのプレーヤーは手札が６枚になるようにドローする。
そして死と闇のデッキ破壊ウイルスの効果。
攻撃力１５００以上のモンスターと罠カードを破壊する。
恐竜使いの手札は、
二頭を持つキング・レックス、屍を貪る竜、暗黒プテラ、荒野、メガザウラー、ジャイアント・レックス。
暗黒プテラと荒野以外を破壊。
昆虫使いの手札は、
虫除けバリアー、ＤＮＡ移植手術、グレート・モス、フェロモンワスプ、パラサイト・キャタピラー、装甲百足ーアーマー・センチフィード。
ＤＮＡ移植手術、グレート・モス、装甲百足ーアーマー・センチフィードを破壊。」

「くっ！
ワイ等の手札が！」

「…永続魔法、王家の神殿発動。

このカードが表側表示で存在するかぎり、手札から罠カードを発動する事ができる。」

あれはリシドも使っていたカードだな。

「…罠カード、マインドクラッシュ発動。
カード名をひとつ宣言する。
相手がそのカードを手札に持っていれば、破壊する。
なければ、自分の手札をランダムに1枚破壊する。」

普段なら発動しにくいが、この状況なら確実に当たるだろう。

「…昆虫使いの虫除けバリアーを宣言する。
持っていれば発動される。」

「あるよ、くそっ！」

「…速攻魔法、手札断殺発動。
互いのプレーヤーは手札を2枚墓地に送り、2枚ドローする。」

「またかいな！」

「…恐竜使いの手札。
スパイク・ライノセラスに威嚇する咆哮。
両方破壊。
次は昆虫使いの手札。
ガード・マンティスに落とし穴。
落とし穴を破壊。」

凄いな。天よりの宝札で互いに6枚ドローした筈なのだが、竜崎の

手札、フィールドは共に０、羽蛾も手札１枚にフィールド上には共鳴虫のみだ。

「…アスワンの亡霊を召喚。
恐竜使いに直接攻撃。
アスワンの亡霊の効果発動。
相手に戦闘ダメージを与えた時、墓地から罠カード１枚をデッキトップに置く。
大革命をデッキトップに置く。
カードを伏せて魔法カード、命削りの宝札発動。
さらに２枚伏せてターンエンド。」

「ワイのターン、ドロー！
ちっ、引いたカードはダイナ・スタンプや。
ターンエンドや。」

「僕のターン、ドロー！
くそっ、引いたカードはブレイング・マンティスだ！
破壊されて、共鳴虫を生け贄に捧げ、ガード・マンティスを守備表示で召喚！」

「…カウンター罠、神の宣告発動。
ライフを半分払い、ガード・マンティスの召喚を無効にして破壊する。」

「なんだと！
くぅ、ターンエンドだ。」

今羽蛾のライフは４０００で手札、フィールドにカードは０。
竜崎のライフは１５００で手札に速攻魔法ダイナ・スタンプがある

だけ。
茜のライフは２０００で手札は３枚、場にはアスワンの亡霊に永続魔法の王家の神殿に伏せカードが２枚。
しかも伏せカードの一枚は強烈なはたき落としだ。

「凄いね、茜ちゃんは。
よくここまで場を荒らせるね。」

「ホントだな。」

「…ドロー。
アスワンの亡霊を召喚。
魔法カード、運命の宝札発動。
サイコロを１回振る。
出た目の数だけデッキからカードをドローする。
その後、同じ数だけデッキの１番上からカードをゲームから除外する。」

「ここでまたドロー補給かいな！」

サイコロの目は…３。

「…３枚ドローして３枚除外する。
バトル。
アスワンの亡霊で２人に直接攻撃。
カードを２枚伏せてターンエンド。」

「ワイのターン、ドロー！
引いたカードは俊足のギラザウルスや！
死のデッキ破壊ウイルスの効果は受けんで！」

「…カウンター罠、強烈なはたき落とし発動。
手札に加えたカード１枚を捨てる。」

「なん…やて？
ターンエンドや。」

「僕のターン、ドロー！
引いたカードは縄張りだ。
ターンエンド。」

「…エンドフェイズに死と闇のデッキ破壊ウイルスの効果は消える。
そして永続罠、神の恵み発動。
デッキからドローするたびにライフを５００回復する。
ドロー。
ライフを５００回復する。
アスワンの亡霊で２人に直接攻撃。
アスワンの亡霊の効果で強烈なはたき落としをデッキトップに置く。
メインフェイズ２に永続魔法、デーモンの宣告発動。
１ターンに１度だけ、５００ライフポイントを払い　カード名を宣言する事ができる。
その場合、自分のデッキの一番上のカードをめくり、宣言したカードだった場合手札に加える。
違った場合はめくったカードを墓地へ送る。
私は強烈なはたき落としを宣言。
デッキトップは強烈なはたき落としなので、手札に加える。
カードを伏せてターンエンド。」

２人のライフは５００と３０００。
しかも場には何もなく、手札も今は使えないカードしかない。

竜崎は次のドローに全てがかかっているな。

「ワイのターン、ドロー！
おっしゃ、魔法カード「…カウンター罠、強烈なはたき落とし発動。」
ワイの強欲な壷が…。
ターンエンドや。」

「だがこれで強烈なはたき落としはもうない！
僕のターン、ドロー！
手札から魔法「…カウンター罠、強烈なはたき落とし発動。」
なっ！！
2枚目…だと！？
命削りの宝札が…。
ターンエンド。」

なんか見てて可哀想になってくるな。

「なんかもう見ちゃいられないぜ、あの決闘。
2人が可哀想に見えてくるんだが。」

「奇遇だね、本田君。
僕もだよ。」

「私も…。」

「…ドロー。
ライフを500回復。
アスワンの亡霊で2人に直接攻撃。
2体の効果で強烈なはたき落としを2枚デッキトップに戻す。

そしてこの直接攻撃で恐竜使いのライフは０。
ライフを５００支払いデーモンの宣告発動。
強烈なはたき落としを宣言。
トップは強烈なはたき落としなので手札に加える。
カードを伏せてターンエンド。
恐竜使いは抜けたから昆虫使いのターン。」

「くっそ、ドロー！」

「…カウンター罠、強烈なはたき落とし発動。」

「ターンエンドだ！」

「…ドロー。
ライフを５００回復。アスワンの亡霊２体で直接攻撃。アスワンの亡霊の効果発動。
強烈なはたき落としをデッキトップに置く。
メインフェイズ２でライフを５００支払いデーモンの宣告発動。
強烈なはたき落としを宣言。
トップは強烈なはたき落としなので手札に加える。
カードを伏せてターンエンド。」

これは、無限ループだな。

「つかよ、なんで夜霧は止めささないんだ？
羽蛾の場はがら空きなんだから、モンスターを召喚すれば勝てるじゃねえかよ。」

「いや、本田君。
おそらく茜もあれしかやる事がないんだ。

あれほどの手札破壊に無限ループだ。
モンスターは必要最低限しかいれていないだろう。
それに苦渋の選択で5体墓地にいってしまったからな。」

「無限ループ？」

「ああ、アスワンの亡霊の効果でデッキトップを強烈なはたき落としで固定し、デーモンの宣告で強烈なはたき落としを手札に加え続ける。
デーモンの宣告のコストが払えなければ続かないが、永続罠、神の恵みの効果で毎ターンコスト分のライフを回復できる。
だから、毎ターン強烈なはたき落としを引き続けるんだ。
相手の場が何も無いときにこれを使うと、今みたいな状況になる。」

解説している内に決闘が終わった。

「…負けたから約束通りカードはなし。」

「そ、そんなぁ。」

「一枚くらいいいだろ！
どうせまだいっぱいもってるんだし。」

「…あんまりしつこいと物理的に黙らせるけど、その方がいい？」

「へん！
小学校に負けるほど柔な体じゃないぜ！」

「お、おい羽蛾。
流石にそこまでせんでもええんちゃうか？」

どうやら羽蛾は周りが見えなくなっているようだ。

「茜ちゃん、危ない！」

羽蛾が茜に殴りかかろうとした時、突然人が現れて拳を掴んだ。

「なっ！」

それは身長１９０ほどもある青色の服を着た大男だった。

『我等が主人に手を出そうとするとはな。
覚悟は出来てるだろうな？』

「ひっ！！
ひぃぃぃぃ！！」

羽蛾は凄まじい勢いで逃げ出した。

「…恐竜使い。」

「な、なんや？」

「…本当に強くなりたい？」

茜は何を言うつもりだ。

「も、勿論や。」

「…その為の覚悟はある？」

「覚悟やて？」

「…そう。
例えば海馬見たいに幼少期の全てを勉強に費やすとか。
何の代償も無しに強くなんてなれない。」

「ワ、ワイは…」

「…今すぐ答える必要はない。
強くなる覚悟があるならまたＩ２社の私の所にくるといい。
今は時期が悪い。
日本に帰る手段はある？」

「無いで。
来る時も遊戯達の荷物に紛れてきたでな。」

「あの荷物の中に竜崎君達がいたの！？」

ある意味感心するな。
その行動力を別の所に使えればな。
今回はいい切欠になるだろう。

「…なら此方で日本まで送る。
ちょっと待ってて。」

そういうと茜はビルの中に入っていった。
大男は此方に残っている。
彼からは何か懐かしい力を感じるな。
大男は此方に気づくと此方に向かってきた。

『ファラオか。
３０００年ぶりになるな。』

「なっ！
どうして俺の事を！
それに３０００年ぶりとはどういう事だ！」

『短気な所は相変わらずか。
それは自分で考える事だな。』

それだけ言うと男は消えてしまった。

「なんだったんだ、あいつ？」

「わからない。
が、何か懐かしい力を感じた。」

俺が考えに耽っている間にＩ２社から茜が出てきた。

「…今飛行機を用意させてるからそれで日本まで送る。」

「ええんか！」

「…それくらい構わない。
後、一応名刺。
覚悟が決まったら連絡して。」

「恩に切るでぇ。
そいじゃあな！」

竜崎はそういうと飛行機の方へ向かっていった。

「茜ちゃん、どうして竜崎君にそこまで？」

「…私はカードの製作をしてるけど、私以外にカードを使いこなせる人がいなかったからちょうどいいかなって思ったから。」

「茜、どんなカードなんだ？
少し見せて欲しいんだが。」

「…これ。
ライトロードっていうシリーズ。」

茜からデッキを借りて皆で見ると、

「なんだぁこれ？
こんなの使えるのか？
墓地に落とす効果ばっかりじゃなぇか。」

「とてもじゃないが俺には使えねぇな。
遊戯と海馬はどうだ？」

「ふむ、扱いは難しそうだが切り札の裁きの龍の効果は魅力的だ。
何よりドラゴン族だ。
他の効果も優秀なのも多いしな。
遊戯はどうみる？」

「そうだな。
強力だが、俺としては好ましくないな。

墓地に行ったモンスターへの敬意を忘れてしまう事もあるしな。」

「…他にもあるけど、誰か私以外で使える人が必要だからね。
いろいろなカードの試作品を試して貰いたいし。
だからちょうどよかった。」

成る程な。
竜崎も新しいカードを最初に使えるから互いに利益があるわけか。

「で、遊戯。
これからどうするんだ？」

…
どうしようか。

第7話（後書き）

何故か書いていたらこうなってしまいました…

デッキも大革命の予定がウイルスになってたり、竜崎の救済フラグまで。

ぐだぐだですみません。

第8話（前書き）

アニメのオリカが多くて調べるのに時間がかかりました…

予約する日時を間違えてましたｏｒｚ

第8話

ｓｅｎｃｅ表遊戯

僕達は結局ホプキンス教授の所へ向かうことにした。
海馬君達とは別行動をする事になっちゃったけど。
茜ちゃんは一回ホプキンス教授に会ってみたいらしく、一緒に行動することにした。
といっても、彼女はモンスターを実体化させてそれに乗っているけどね。
それに、彼女は途中で少し気になることがあるから調べる、と言って別行動をとった。

僕達は御伽君の車に乗ってホプキンス教授の家へ向かった。
ところが、教授の家に向かうと、そこには爆破された家の跡しかなかった。
幸いレベッカは買い物に出かけており無事だった。
彼女の話を聞くと、どうやら教授は何者かに連れ去られてしまったようだ。
しかも、ドーマらしい。
メッセージが残されており、ドーマの三銃士の一人のラフェールからだった。
どうやらもう一人の僕が夜明けに一人でデット・バレーに行かないといけない。
僕ともう一人の僕は皆に何も言わず、デット・バレーへ向かった。

ｓｅｎｃｅ茜

私は武藤達と別行動をとり、デット・バレーへ向かった。
白龍がいうにはポプキンス教授はそこにいるらしい。
最初は自宅にいたのだが、途中から居場所が変わっていた。
デット・バレーに着くと、そこには一軒の小屋があった。
中に入ると２つの影があった。
片方は教授だろうが、もう１人が誰かわからない。

『御主人、あの人も精霊が見えると思うよ。
声は聞こえないみたいだけど。』

（…わかった。）

「夜霧茜か。
どうやってここを知ったのだ？」

「…教える必要はない。
そっちこそ、何故私の名を？」

「ふっ、口は達者だな。
我が名はラフェール、ドーマの三銃士の一人だ。」

ドーマの三銃士ねぇ。
なんか後ろにエアトスとかの精霊が見えるけど、まぁいいや。

「さて、夜霧。
一体何が目的だ？」

おや？

武藤や海馬、城之内の話ではドーマは問答無用で決闘を仕掛けてくるといっていたが、案外話が通じそうな相手だ。

「…とりあえず教授と会う事。
一回彼とは話してみたかったし。」

「ふむ、そうか。
教授は今は眠っているが、目覚め次第解放する。
教授を拐った目的はあくまでも名も無きファラオを誘い出す為だからな。」

「…そう。
それにしてもいきなり決闘を仕掛けてくると思っていたけど。
海馬や城之内の話を聞くと問答無用だったらしいから。」

「私を彼等と一緒にするな。
それに、夜霧とは出来れば闘いたくないのでな。」

私と闘いたくない？
彼等の目的は強い魂を持つ決闘者を生け贄にする事の筈。
一応武藤より強い私が狙われないとは思えないけど。
一回はっぱかけてみますか。

「…私が弱すぎて貴方達の神の生け贄に相応しくないから？」
「そんなことはない。
夜霧は我等の動きにいち早く気付いてたようだかしな。
おまけに我等の神と同等の力をお前から感じるとダーツ様が仰っていたからな。」

…どうしよう。

相手あっさり喋ったんだけど。

「ところで夜霧、お前の横にいるのは誰だ？
たまに話しかけているようだが。」

「…私の精霊。
そういう貴方の後ろにも精霊達がいるじゃない。」

「なっ！
精霊が見えるだと！？」

何をそこまで驚くのだろうか。
確かに珍しいかもしれないけど。

「すまん、取り乱した。まさか自分以外に精霊が見える者がいるとは思わなかったのでな。」

…なんというか、素直な人って印象が強い。
今時ああいう人は珍しい。
精霊も見えるらしいし、決闘の腕もそこそこありそう。
是非とも押さえておきたい人材ね。

さて、どうやって勧誘しよう。
こういう時は決闘で賭けをすればいいのだろうか？
遊戯王ではよくあることで、たしか決闘で全て解決できたような。
どうせなら試してみよう。

「…普通に決闘しても面白くないから、賭けをしない？」

「賭けだと？」

「…そう。
貴方が勝てばオレイカルコスの結界で私の魂は生け贄になる。
けど、私が勝っても貴方が生け贄になるだけで此方に利益がない。
だから、こっちの要求も聞いてもらう。
私が勝てば、貴方達の企みが失敗したら、Ｉ２社で働いて貰う。
どうかしら？」

「ふむ、私はそれで構わないが。」

「…交渉成立。」

これで人材確保。
精霊が見える人なんて滅多にいないからね。
ホプキンス教授を探しにきて正解だった。

「決闘！」

「…決闘。」

ｓｃｅｎｅ白龍

「先攻は私が貰う、ドロー！
永続魔法、守護神の宝札を発動する！
自分の手札から5枚捨てて発動する。
その後、このカードの発動時にデッキからカードを2枚ドローする。

このカードが表側表示で存在する限り、次の自分のターンのドローフェイズ時にデッキからカードを1枚ドローする。
2枚ドロー！
モンスターをセットし、カードを伏せてターンエンドだ。」

守護神の宝札ね。
最初に手札を5枚捨てないといけないのは痛いね。
でも、魔轟神とかなら逆にメリットになるね。
うまく使えば相当おいしいカードだよ。

「…ドロー。
カードを4枚伏せてターンエンド。」

御主人、手札事故かな？

「事故でも起こしたか？
私のターン、ドロー！
守護神の宝札の効果でさらに1枚ドロー！
バック・アップ・ガードナーを反転召喚！
手札から装備魔法、重力の斧－グラールをバック・アップ・ガードナーに装備！
そして手札からガーディアン・グラールを特殊召喚！
手札にこのカードしかない時、手札から特殊召喚する事ができる！
そしてバック・アップ・ガードナーの効果発動！
1ターンに1度、自分フィールド上に表側表示で存在するこのカード以外のモンスター1体選択する。
このカードに装備している装備カード1枚を選択したモンスターに移し替える。
重力の斧をガーディアン・グラールに装備！
ガーディアン・グラールの攻撃力は３０００となる。

そして、重力の斧の効果でお前はモンスターの表示形式を変更できない。
いくぞ！」

「…永続罠、サイバー・サモン・ブラスターを発動。
さらに永続罠、サイバー・シャドー・ガードナーを発動。
このカードは発動後モンスターカードとなり、自分のモンスターカードゾーンに特殊召喚する。
サイバー・サモン・ブラスターの効果で機械族モンスターが特殊召喚に成功した時、相手に３００ポイントのダメージを与える。」

「くっ！
だが攻撃力は０だ！
ガーディアン・グラールでサイバー・シャドー・ガードナーを攻撃！」

あーあ。
多分この後御主人は宮廷のしきたりをつかうんだろうね。
そしてあのデッキはモンスターが一切入ってない魔法・罠デッキだよ。
なんでそんなデッキをここで使うかは分からないけどね。

「…サイバー・シャドー・ガードナーの効果。
このカードが攻撃宣言を受けた時、このカードの攻撃力・守備力は相手攻撃モンスターと同じ数値になる。」

「なっ！？
相討ちにはさせん！
速攻魔法、セルフサクリファイス発動！
自分フィールド上のモンスターが戦闘またはカードを破壊する効果

の対象になった時に発動する事ができる。
自分のライフを１０００ポイント支払う事で、戦闘またはカードを破壊する効果を無効にする！
驚いたぞ。
これでターンエンドだ。」

「…エンドフェイズにサイバー・シャドー・ガードナーの効果発動。
相手ターンのエンドフェイズに魔法・罠ゾーンにセットする。
ドロー。
永続魔法、波動キャノン発動。
自分のメインフェイズ時、フィールド上に表側表示で存在するこのカードを墓地へ送る事で、このカードの発動後に経過した自分のスタンバイフェイズの数×１０００ダメージを相手ライフに与える。
貴方のライフは残り２７００。
よって３ターン後にこのカードを墓地に送る事で３０００のダメージを与える。
ターンエンド。」

新エキスパートルールだとバーンカードは本当に強力だよね。
御主人が使うバーンデッキなんてほぼ全部１ターンでライフを削りきっちゃうし。
なんでここの人達はバーンデッキ使わないんだろうね？

「私のターン、ドロー！
守護神の宝札の効果で更にドロー！
カードを１枚伏せる。魔法カード、天よりの宝札を発動！
そして伏せておいた装備魔法、静寂のロッド－ケースト発動！
バック・アップ・ガードナーに装備！
静寂のロッドの効果！
装備モンスターの守備力は５００アップし、装備モンスターを対象

にするこのカード以外の魔法カードの効果を無効にし破壊する！
そしてガーディアン・ケーストを召喚！
装備魔法、女神の聖剣ーエアトスーをバック・アップ・ガードナーに装備！
そして、ガーディアン・エアトスを特殊召喚！
自分の墓地にモンスターがいない場合、手札から特殊召喚できる！
バック・アップ・ガードナーの効果で女神の聖剣をガーディアン・エアトスに装備！
更に装備魔法、ガーディアン・シールドをガーディアン・グラールに装備！
この装備魔法は「ガーディアン」と名の付くモンスターのみ装備できる。
装備モンスターの守備力は３００アップする。
「ガーディアン」と名の付くモンスターが戦闘で破壊される場合、代わりにこのカードを破壊する。
バトルだ！」

「…メインフェイズ終了時に永続罠、サイバー・シャドー・ガードナー発動。
そしてサイバー・サモン・ブラスターの効果で３００ダメージ。」

「構わん！
ガーディアン・グラールでサイバー・シャドー・ガードナーを攻撃！」

うん？
さっきは相討ちにしたくないからっていって攻撃を無効にしたけど。
さっきの装備魔法になんか効果があるのかな？

「ガーディアン・シールドの効果は、「ガーディアン」と名の付く

モンスターが戦闘で破壊される場合、代わりにこのカードを破壊するだ。
ダメージは与えられないが、サイバー・シャドー・ガードナーは破壊できる！」

まぁ、妥当な判断だね。
どうせなら魔法・罠除去の方が効率がいいとは思うけど。
只、御主人相手にそれは通用しないよ？

ガーディアン・グラールが攻撃して爆発が起き、その煙が晴れる。
そして御主人の場には何事もなかったかのようにサイバー・シャドー・ガードナーがたっていた。

「な、何故だ！？
サイバー・シャドー・ガードナーは戦闘破壊された筈だ！」

「…永続罠、宮廷のしきたりを発動した。
宮廷のしきたりが有る限り他の永続罠は破壊されない。
それが効果破壊、戦闘破壊どちらでも関係ない。」

あれを突破するには一回宮廷のしきたりを破壊してからサイバー・シャドー・ガードナーを破壊するか、特殊召喚自体を封じる、罠を無効にする、破壊ではなくバウンスか除外する必要がある。
それか永続効果の攻撃力を下げるやつかな？
でも普通のデッキなら破壊ぐらいしかないし、けっこう厄介なんだよね。

「くっ！
カードを伏せてターンエンドだ。」

「…エンドフェイズ時にサイバー・シャドー・ガードナーは魔法・罠ゾーンにセットされる。
ドロー。
スタンバイフェイズ時に波動キャノンにカウンターを1つ乗せる。
伏せカード、レインボーライフ発動。
手札を1枚捨て受けるダメージを無効化し、その分ライフを回復する。
永続罠、女神の加護発動。
自分は3000ライフポイント回復する。
自分フィールド上に表側表示で存在するこのカードがフィールド上から離れた時、自分は3000ポイントダメージを受ける。」

「一体何がしたいのだ？」

「…見てれば分かる。
速攻魔法、非常食発動。
女神の加護を墓地に送りライフを1000回復する。
そして女神の加護の効果で3000ダメージを受けるが、レインボーライフの効果で3000回復する効果になる。」

つまり、女神の加護で3000回復、非常食で1000回復、レインボーライフで3000回復、合わせて7000ライフを回復した。
非常食は悪夢の蜃気楼かゴブリンのやりくり上手とのコンボ用にいれたカードだね、きっと。

「…カードを伏せてターンエンド。」

今回は魔法・罠ゾーンが一杯で邪魔になってたカードを退かすのに使ったんだ。

「ライフが１００００越えだと！？
く、私のターン、ドロー！
守護神の宝札で更にドロー！
手札から装備魔法、流星の弓ーシールをバック・アップ・ガードナーに装備！
ガーディアン・シールを召喚！
バック・アップ・ガードナーの効果で流星の弓をガーディアン・シールに装備！
バトルだ！」

戦闘で破壊できないから直接攻撃を狙いにきたね。
悪くないけど、火力が足りなさすぎるね。

「…メインフェイズ終了時に永続罠、サイバー・シャドー・ガードナー発動。
サイバー・サモン・ブラスターの効果で３００ダメージ。」

これで彼の残りライフは２１００だ。
次の御主人のターンで波動キャノンの効果を発動し、次の相手のターンでサイバー・シャドー・ガードナーを特殊召喚すればサイバー・サモン・ブラスターの効果で御主人の勝ちだね。

「直接攻撃までは防げまい！
ガーディアン・シールで直接攻撃！」

御主人のライフは７００減って１０３００。
焼け石に水だね。

「私の場は埋まっている。
これでターンエンドだ。」

「…ドロー。
スタンバイフェイズ時に波動キャノンにカウンターを1個乗せる。
波動キャノンの効果発動。
波動キャノンを墓地に送り相手にカウンターの数×１０００、今回は２０００ダメージを与える。」

「ぐぅ！」

それにしても、相手はオレイカルコスの結界を使ってこなかったね。
なんでだろう？

「…ターンエンド。」

「私のターン、ドロー！
ふむ、勝てんな。
メインフェイズに入る。」

「…永続罠、サイバー・シャドー・ガードナー発動。
サイバー・サモン・ブラスターの効果で３００ダメージ。
私の勝ちね。
約束通り、ドーマの企みが失敗したらＩ２社で働いてもらう。」

「わかっている。
しかし、お前は何者だ？
我々ドーマの様に心の闇を知っているが、光も知っている。
それでいて、どちらに偏っているわけでもなく、均衡を保っている。
人間が持つ力は普通、光か闇の力のいずれかだ。
だが、お前からはそのどちらも感じ取ることが出来なかった。
決闘していて感じたが、光でも闇でもなく、あえて言えば「無」だ

な。
善悪関係なく全てを滅ぼす流れ無き純粋な力。
普通の人間にそのような事は到底不可能だ。
それこそ、我等が神の様な存在しか持ちえぬ力。
それを、一介の人間であるお前が持っている。
それが俺には気になる。」

確かになんでだろう？
御主人が持つ力は、自然界に稀にあるような純粋な力の集まり。
そこには人の邪念、正義などは一切ない。
だから、精霊の力も使えるんだけどね。

前に、御主人が実体化させやすい種族を調べてたけど、あれは単にどの種族が自然との関わりが深いか確認しているのと変わらなかった。
ドラゴンは自然と共に生きる種族。
だから御主人の力と最も相性が良かった。
サイキック族は精神に関するものが多い。
ここでいう精神は判明な上級認識能力である悟性および理性の事ね。
これは自然とは相反するものだから御主人の力とは相性が悪い。
他では、悪魔族や天使族、機械族も基本的に相性が良くない。
雷族、魚族、炎族、植物族との相性はいいよ。

話がそれちゃったけど、なにかしらの心情を持っている人間にあんな力が持てる筈がない。
なのに、御主人はそれを持っている。
不思議だね。三幻神は何か知ってるみたいだけど。

「…私にも詳しくはわからない。
ただ、闇の力も光の力も影響を受けない事くらいしか知らない。」

「そうか。
変な事を聞いてすまなかったな。

む？
教授が起きたようだな。
連れて帰っていってくれ。」

「…わかった。
それじゃ、企みが失敗するように。
是非Ｉ２社に欲しいから。」

「残念だができない相談だ。
気をつけてな。」

まぁ、とりあえず教授を連れて武藤達と合流しよう。

第8話（後書き）

ラフェールは真面目な印象が自分の中にあります。

最初に見たときのガーディアン・エアトスの効果と攻撃力には驚きました。

攻撃力１００００００はけっこうな衝撃でしたね。

第９話（前書き）

けっこう前の前書きで、ＤＭ時代を６話で終わらせると書きましたが、まだ続きます。

第9話

ｓｃｅｎｅ茜

私はホプキンス教授と青眼の白龍に乗っている。
ラフェールとの決闘の後、教授を連れて教授の研究所跡に向かっている。
彼の研究所はドーマによって破壊されたようだ。
私が青眼の白龍を実体化させた時は、驚いていたが、今では楽しんで乗っている。

教授の研究所跡に降り立つと、人影が此方へ向かってきた。
武藤の仲間と女の子のようだ。
武藤は今頃ラフェールのいるデット・バレーに向かっているのだろう。
そういえば馬がデット・バレーの方向に向かっていたのが見えたが、あれだろうか？

「お爺ちゃん！」

「レベッカ！」

女の子は教授の孫らしい。

「茜ちゃんじゃないか！？
何処にいってたんだい？」

前にＩ２社に自作ゲームの売り出しに来ていた御伽が話しかけてきた。

「…御伽か。
ホプキンス教授の所にいっていた。」
「それにしても茜ちゃんが無事でよかったわ。
ホプキンス教授を助けにいったって事はドーマの三銃士と闘ったの？」
「…一応。」
「帰ってきたって事は勝ったんだよな？」
「…まぁ。
でもオレイカルコスの結界は使われなかったからまだラフェールはデット・バレーにいる筈。」
「オレイカルコスの結界を使ってこなかったぁ？
おかしくねぇか？
彼奴等は神の復活とやらで生け贄がいるんだろ。それなのになんでだ？」
多分勝てそうになかったのと、私を警戒していたからだろう。
でも、そういうのも面倒だったので
「…わからない。」
と答えといた。
武藤の仲間達と話していると、教授と孫がやってきた。

「貴女が夜霧茜ね！
私はレベッカ！
お爺ちゃんを助けてくれてありがとう！
１２歳だけどこうみえても大学生なのよ。
よろしくね！」

やたらとテンションが高い。
肉親が無事だったからだろうか？

「これこれ。
茜君、本当に助かったよ。」

「…それほどでも。
ところで教授、今後の研究はどうされますか？」

「ふむ、研究よりもまずはドーマをどうにかしないと不味い気がしてね。
茜君はどこまで知ってるのかね？」

「…あまり詳しくは知りませんが、１００００年前の古代アトランティスに存在していたと言われる巨大竜リヴァイアサンを神としていて、その復活を企てていること。
後は人類の歴史に介入していた事。
それと、モンスターの実体化と町の襲撃がドーマの仕業ということくらいです。」

「巨大竜リヴァイアサンか。
茜君、何処の資料を調べたのかね？
私の知る限りでは、それらしき絵は確認できたが名前は分からなかったのでね。」

「…エジプトにありました。
文字が古代文字で書かれていましたが。」
その後は2人で情報交換という名の雑談になってしまったが。
「ねぇ、茜。」
「…何、レベッカ。」
「ちょっと2人の話を聞いてたんだけど、ぜっんぜん話についていけなかったのよ！
これでもジーニアスなのよ！
それが小学生に劣るなんてあってはならない事なのよ、わかる！？」
自分でジーニアスって普通はいわないと思うけど。
「…わからない。」
何が言いたいのだろうか。
「つ・ま・り！
悔しいから私と決闘しなさいって事！！
全米チャンピオンの実力見せてあげるわ！」
…？
今の会話の何処につまりなんて言葉が入るのだろうか。
というか何故決闘。

話が繋がってない気がするが、とりあえずレベッカがうるさいので仕方なく決闘する事にした。

「決闘！」

「…決闘。」

ｓｃｅｎｅ城之内

「私の先攻、ドロー！
速攻魔法、手札断札を発動するわ！
互いに手札を２枚捨てて２枚ドローする！
ビッグバンガールを守備表示で召喚するわ！
カードを３枚伏せてターンエンドよ！」

ビッグバンガールって事はレベッカのデッキはバトルシティで夜霧の対戦相手が使ってたキュアバーンデッキか。

「…ドロー。
モンスターをセットし、カードを３枚伏せてターンエンド。」

夜霧はさっぱりわからんな。

「私のターン、ドロー！
スタンバイフェイズ時に墓地の堕天使マリーの効果を発動！
自分のライフを２００回復するわ！」

ライフを２００程度回復したってなんにもならないと俺は思うんだがなぁ。

「そしてビッグバンガールの効果を発動！
自分のライフが回復した時、相手に５００のダメージを与えるわ！
魔法カード、浅すぎた墓穴を発動！
互いに自分の墓地からモンスターを裏側守備表示で特殊召喚するわ！
私は千年の盾をセットするわ！」

千年の盾って守備表示３０００のモンスターじゃないか！
なかなか倒せるもんじゃねぇよ、あれは。

「…風霊使いウィンをセット。」

「霊使いね。
コントロール奪取の効果をもってるけど、残念ながら私のデッキに風属性は殆ど入ってないわ！
私のターンはこれで終わりよ！」

夜霧はどうやって攻略するんだ？

「…ドロー。
永続罠、ＤＮＡ移植手術発動。
属性をひとつ宣言し、このカードが表側表示で存在する限りフィールド上の表側モンスターの属性は宣言した属性になる。
風属性を選択。」

属性を変えて何になるんだ？

「あちゃあ！
確かさっき風霊使いをセットしたわよね？」

「…そう。
風霊使いウィンを反転召喚。
リバース効果発動。
このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、相手フィールド上の風属性モンスター１体のコントロールを得る。
ビッグバンガールのコントロールを貰う。」

これでレベッカからのバーンダメージはなくなったな！
それでもまだ守備力３０００の千年の盾が残っているけどな。

「…風霊使いウィンとビッグバンガールを生け贄に捧げ、始祖神鳥シムルグを召喚。
効果発動。
風属性のみを生け贄に捧げこのカードを召喚した時、相手フィールド上のカードを2枚まで手札に戻す。
裏側守備表示モンスターと真ん中の伏せカードを戻す。」

「運がいいわね。
伏せてあったカードは光の護封壁よ。」

これでレベッカを守るモンスターはいなくなったな！

「…始祖神鳥シムルグで直接攻撃。
カードを伏せてターンエンド。」

これでレベッカのライフは１３００、茜のライフは３５００だな。

「私のターン、ドロー！
堕天使マリーの効果で２００回復するわ！
ＵＦＯタートルを守備表示で召喚！
魔法カード、強欲な壷を発動！
２枚ドローするわ！
更に天使の施しを発動！
３枚ドローして２枚捨てるわ。
カードを１枚伏せてターンエンドよ！」

「…ドロー。
裏側守備表示のシールド・ウィングを生け贄に捧げ、２体目の始祖神鳥シムルグを召喚。」

おかしくないか？
さっきは２体生け贄にして始祖神鳥シムルグを召喚したよな？
なんで今度は１体でいいんだ？

「ちょっと！
なんで生け贄がさっきより減ってるのよ！」

「…始祖神鳥シムルグの効果。
風属性モンスターの生け贄に必要な数が１体減る。
これは手札での属性を参照するから、ＤＮＡ移植手術は関係ない。」

成る程な。
これで夜霧は風属性を出すのに生け贄はいらなくなったな。

「…始祖神鳥シムルグの効果。
ＵＦＯタートルとさっきのターン伏せたカードを手札に戻す。」

「させないわよ！
リバースカード、和睦の使者を発動！
このターン、私のモンスターは破壊されず、戦闘ダメージを受けない！」

レベッカもやるな！

「２人ともレベルたけぇな。
流石はＩ２社の副社長と全米チャンピオンだな。」

「ほんとね。
城之内も少しは参考にしたら！？」

「うるせ～な。
俺にはああいう戦い方は合わねぇんだよ！」

頭を使うデッキなんて使えるか！

「…カードを伏せてターンエンド。」

「私のターン、ドロー！
墓地の堕天使マリーの効果でライフを２００回復するわ！
そしてＵＦＯタートルを攻撃表示で召喚！
永続罠、スピリットバリアを発動するわ！
バトルよ！
ＵＦＯタートルで始祖神鳥シムルグに攻撃！」

あいつは何を考えてるんだ？
わざわざ自滅しにいくなんて。

「スピリットバリアの効果でダメージは受けないわ！
そしてＵＦＯタートルの効果でビッグバンガールを特殊召喚！」
ビッグバンガールを出すために自滅したのか！
「メインフェイズ２に魔法カード、天よりの宝札を発動よ！
カードを２枚伏せてターンエンドよ！」

「…ドロー。
バトル。」

「攻撃させないわよ！
永続罠、超重力の網を発動！
レベル４以上のモンスターは攻撃できないわ！」

これで夜霧のモンスターは攻撃できなくなったな。
大丈夫か？

「…罠カード、トラップ・スタン発動。
このターン、このカード以外の罠の効果を無効化する。」

「ちょっと！
カウンター罠、神の宣告を発動！
ライフの半分の８５０を払い、トラップ・スタンを無効にして破壊するわ！」

どっちも譲らないな。
少し夜霧が有利か。
でも、レベッカの場には超重力の網があるからな。

「…モンスターをセット。
カードを伏せてターンエンド。」

「さっきのは危なかったわよ。
全米チャンピオンの私をここまでてこずらせるなんて凄いじゃないの。」

うん？
レベッカは夜霧の事知らないのか？
知っているにしては見下してる感じがするしな。

「私のターン、ドロー！
墓地の堕天使マリーの効果でライフを２００回復し、ビッグバンガールの効果で相手に５００のダメージよ！
そして手札の黄金の天道虫の効果を発動！
このカードを相手に見せる事でライフを５００回復する！
そしてビッグバンガールの効果で５００のダメージよ！
更にもう1枚黄金の天道虫の効果を発動！
ライフを５００回復し、ビッグバンガールの効果で５００のダメージ！」

レベッカのライフは２０５０、夜霧のライフは２０００か。
このままだと後2ターンで夜霧のライフが０になっちまうぞ！

「そして手札から魔法カード、光の護封剣を発動！
相手ターンで数えて3ターンの間、相手は攻撃できない！
次のターンで私の勝ちよ！
カードを伏せてターンエンドよ！」

また何かライフを回復するカードを引いたのか？

「…ドロー。
レベッカ、風属性の特徴といえば？」
茜は何を言うつもりだ？
「何をいうかと思ってたら、そんな事ね。
ジーニアスな私が知らないわけないじゃない！
フィールド上のカードを破壊、バウンスするカードが多い属性よ！
それがどうしたのよ？」
レベッカ、お前本当に自分でジーニアスっていうの辞めた方がいいぞ。
夜霧が言いたい事、俺でも分かったってのにな。
「…それを知ってるならこの先の展開がわかる筈。
魔法カード、大嵐を発動。
場の魔法・罠を全て破壊する。」
「それくらいお見通しよ！
カウンター罠、神の宣告を発動よ！
ライフを１０２５払い、大嵐を無効にして破壊よ！
残念だったわね？」
いや、レベッカ。
遊戯を倒した彼奴がそんな一回魔法を使っただけで終わるわけないだろう。
「…魔法カード、二重召喚発動。
このターン、２回通常召喚できる。

魔法カード、ハリケーン発動。
場の魔法・罠を全て手札に戻す。」

「しつこいわよ！
カウンター罠、神の宣告発動よ！
ライフを５１２払い、ハリケーンを無効にして破壊よ！」

「…これで貴女の伏せカードはなくなった。
女忍者ヤエを召喚。
効果発動。
手札から風属性モンスター１体を墓地に捨てる。
相手フィールド上に存在する魔法・罠カードを全て持ち主の手札に戻す。」

「なっ！」

「…デブリ・ドラゴンを召喚。
効果で墓地から攻撃力５００以下のモンスターを効果を無効にして特殊召喚する。
風霊使いウィンを特殊召喚。
風霊使いウィンとデブリ・ドラゴンを墓地に送り、デッキから憑依装着ウィンを特殊召喚。
この方法で特殊召喚に成功した時、貫通効果を得る。
バトル。
憑依装着ウィンでビッグバンガールを攻撃。」

よく1ターンに3回も魔法・罠除去カードを使ったな。
俺なんて大嵐くらいしか入れてねぇぞ。

それにレベッカの残りライフは１６２か。

すげぇ中途半端なライフだなぁ、おい。

「…女忍者ヤエと始祖神鳥シムルグ２体で直接攻撃。」

「きゃあああぁぁ！」

最後にやり過ぎじゃないか？
合計６９００のダメージだしよ。

「ちょっとぉ！
最後彼処までする必要なかったでしょう！
酷いじゃない！」

「…それをいうなら問答無用で決闘を仕掛けて来た人はどうなるの？
そのせいで調整中のデッキ使うはめになった。」

やべ、なんか避難した方が良さそうだな。
夜霧の奴、相当苛ついてるぞ。

「ねぇ、茜ちゃん。
さっきのデッキってまだ調整中の奴だったのかい？」

お、勇者だな御伽は。
あの雰囲気の夜霧に話しかけるなんて。

「…そう。
コントロール奪取に特化したわけでもなく、ビート能力もいまいち。
中途半端なデッキ。
まだこの前見せたような融合モンスター達を使えばましだけど。」

あのデッキを中途半端っていいきるか、普通？
確かにバトルシティで使ってたデッキよりはバラバラだった感じはするがよ。

「えっ！
私その中途半端なデッキに負けたって事！？」

そういう事だ。
つか、相手が悪いだけだと思うぞ、俺は。
他の奴があれを使ったなら、楽に勝てたと思うが。

「貴女一体何者なの！？
調整中のデッキで全米チャンピオンに勝つ６歳ってなによ！？」

やっぱり夜霧の事は知らなかったようだな。
というかレベッカも１２歳で全米チャンピオンは十分凄いからな？

「これレベッカ。
落ち着きなさい。」

「でもお爺ちゃん！」

「茜君、すまんね。
レベッカが強引に決闘を申し込んで。
レベッカ、彼女はＩ２社の副社長だよ。」

その時のレベッカの表情は凄かったな。
負けて真っ赤になってた顔が一瞬で真っ青になったんだぞ？
んなの俺は漫画でしか見たことないぞ。
つーか、そんなに夜霧は有名なのか？

「なぁ、教授にレベッカ。
夜霧ってそんなに凄いのか？」

「城之内君。
彼女は此方では知らない者はいないくらい有名だよ。
何しろ５歳で副社長に就任、その後Ｉ２社の業績をかなり上げたからね。
それに、此方の大会でも幾度も圧倒的な強さで優勝しているからね。
」

すげぇな、夜霧。

そんなこんなで夜が明けそうになった時、遊戯が帰ってきた。

第１０話（前書き）

今回はおそらく遊戯王で最も有名だと思う場面ですが、うまく書けなかった気がします。
そこの場面は殆ど原作そのまんまです。

第１０話

ｓｃｅｎｅ茜

帰ってきた王様から話を聞いた。
どうやら、ラフェールと決闘して負けたようだ。
で、オレイカルコスの結界で魂を捕られる筈だったのだが、武藤が身代わりになったようだ。
で、その時にオレイカルコスの結界の効果についての話があり、次のような効果らしい。

このカードがフィールド上に存在する限り、自分フィールド上のモンスターの攻撃力は５００ポイントアップする。
また、自分フィールド上の魔法・罠カードゾーンはモンスターカードゾーンとしても扱い、自分は魔法・罠カードゾーンにモンスターカードを召喚、特殊召喚する事ができる。
自分フィールド上のモンスターカードゾーンと魔法・罠カードゾーンにモンスターカードが存在する場合、相手はモンスターカードゾーンのモンスターを攻撃対象に選ばなければならない。
このカードは魔法・罠・効果モンスターの効果を受けない。
又、オレイカルコスと名のつかないフィールド魔法を発動することはできない。

攻撃力増加はそこまでの脅威ではないが、魔法・罠ゾーンにまでモンスターを置けるのは恐ろしい。
展開力のあるデッキなら容易にモンスターを１０体並べられる。
更に、オレイカルコスと名のつかないフィールド魔法の発動もできないし、破壊もできない。

これは流石に対策をしないと不味い気がする。
出される前に封じときたいからハンデスが一番無難だけど、初手で使われたら対処のしようがない。
となると、破壊されないフィールド魔法というのを逆手に取るのが一番理想的？
一応地縛神とＳｉｎがあるからなんとかなるかな。
特に地縛神はフィールド魔法がある状態なら相手の魔法・罠の効果を受けないし、相手のモンスターに関係なく直接攻撃でき、更に相手から攻撃対象にされないからかなり強力。
問題は、地縛神を召喚するときに人の魂を生け贄にする必要があるけど、三幻神の力を使えば生け贄は必要なくなるから大丈夫。
その代わり、かなり辛いけど。

そうと決まれば一回本社に戻ってデッキを作ろう。
教授に一声掛けてから本社に向かった。

ｓｃｅｎｅ御伽

遊戯君が帰って来てから、僕達は今後どうするか話し合った。
遊戯君がドーマから聞いた話では、彼等は人類の歴史の清算が目的らしい。
前にモンスターが実体化したのも、その為の準備だったらしい。
その話を聞いて、とてもじゃないけど僕達の敵う相手じゃない。
杏子ちゃんも同じことを思ったらしく、警察に連絡した方がいいと言ったが、ベッキーに証拠がない荒唐無稽な話は信じてもらえないと言われてしまった。

海底神殿に証拠が残ってるからそれを取りに行けばいいんだけど、既にドーマに先をこされててだめっぽい。

その時教授がやってきて、フロリダの博物館にまだ資料が残ってると言われ、僕達はそこに向かう事にした。
で、海馬君にフロリダまで連れて行ってもらおうと城之内君が電話をかけたけど、あえなく失敗。
次に、茜ちゃんに頼もうとしたけど、何処かにいったのかここにいない。

「こんな大事な時に夜霧は何処にいったんだよぉ！」

と本田君がいったら、教授が、茜ちゃんはオレイカルコスの結界の対策をすると言ってＩ２社にいった事を教えてくれた。
とりあえず一回Ｉ２社に電話してみようとなって、また城之内君がかけた。
案の定、彼女はまだ帰ってきていなかったけど、後２時間ほどで着くらしい。
２時間か。
かなり微妙な時間だね。

「だったら２組に分かれた方がよくないか？
俺達が先に行って資料を確保しとくから、御伽と教授達は夜霧に迎えに来てもらってくれよ。
教授の体調はまだ万全じゃないし、教授がいないと意味がないからな。」

という事で、遊戯君、城之内君、杏子ちゃんに本田君が先に行く事になった。
彼らを駅まで送ってから、Ｉ２社に再度電話をして、迎えに来ても

らう事になった。
そういえばどの乗り物でくるかわからないけど、まさかモンスターに乗ってくるって事はないよね？
なんかありそうで怖いんだけど。

暫くして外から飛行機のエンジン音が聞こえるまでは少し落ち着けなかった。
教授とベッキーの3人で、飛行機に向かうと、中から人が来て僕達を中に案内してくれた。
中は普通の飛行機と違い、広い部屋になっていた。
茜ちゃんを見つけたけど、彼女はカードを見てこれは違う、これを入れるとあれとのシナジーが無いとかいってデッキを作っていた。
それに、彼女の傍には大量のトランクがあった。
どうやらあの中にはカードが入っているようだね。
よく見ると、カードは1枚1枚スリーブに入れられていた。
ずいぶんカードを大事にしているね。
それにしても、ずいぶん量が多いね。

飛行機が離陸して、ようやく彼女は僕達に気がついたようだ。

「…いらっしゃい。
武藤達とは別行動？」

「そうなんだよ。
2手に分かれてフロリダに向かってるんだ。」

「…なら途中で彼等も拾っとく。」

「助かるよ。」

茜ちゃんは部下に電車を追いかけるように指示を出して、またすぐにデッキ作りに戻っちゃった。
ベッキーは茜ちゃんの持っているカードが気になったらしく、カードに触れようとした。
その時、それまでデッキ作りに没頭していた茜ちゃんが

「…触るならこれをつけて。」

といって手袋を渡してきた。
今更だけど彼女の手にも同じようなものがはめられていた。
なんでスリーブのうえに手袋までしないといけないのか不思議に思ったけど、まぁいいっか。

適当にトランクを開けると、それは当たりだったのかこの前竜崎君と羽蛾君の時の商品にした融合がいらない融合モンスターでいっぱいだった。

えーと、ヴァイロン・オメガにブラッド・メフィスト、漆黒のズムウォルト、トライデント・ドラギオンとかいろいろあるね。
融合素材の縛りは凄く緩くて、一番きついのでさえ特定のモンスターに特定の属性で、緩いと融合モンスターの種族か属性が同じモンスターになんでもいいからモンスターの素材。
素材がなんでもいいって融合なのかな？
寧ろ吸収って感じがするけど。
ほとんどの種族の融合モンスターがあるけど、水族と魚族だけないね。
ドラゴン族、機械族、戦士族の融合モンスターは数が多いみたい。
他にもいろいろ見たけど、知らないシリーズが殆どだった。
六武衆、アルカナフォース、ヴェノム、暗黒界、剣闘獣とかいろい

ろ。
結構トランクにぎっしり入っていたから、しまい直すのが大変だった。
何とかしまいこんで、茜ちゃんがどんなデッキを作っているのか気になったからちょっと覗いてみた。
なになに。
栄誉の贄、地縛波、地縛神の咆哮に早すぎた復活か。
それにモンスターはなんかナスカの地上絵に書かれているのに見てるね。
トカゲとか鯱とかコンドルっぽいしね。
地縛神っていうシリーズらしいね。

「…あまり見ない方がいい。
これらのカードには普通の人は見るだけで精神が汚染される事もあるから。」

「うぉ！
驚かさないで欲しいよ、茜ちゃん。
それにしても、この地縛神？ってナスカの地上絵っぽい見た目だけど、なにか関係あるの？」

「それは私も気になるね。
若い頃に調べていたのだけれどね、殆ど何も分からなくてね。
せいぜいシグナーという単語と５０００年毎に起こる災厄という事しか分からなかったよ。」

いつの間にか3人とも茜ちゃんの周りにいた。
茜ちゃんは少し呆れた様子を見せたけど、溜息をついてから話してくれた。

「…まぁ、時間があるからいいか。
そもそもは…

ｓｅｎｃｅ城之内

俺達は電車に乗って空港まで向かっている。
遊戯は今回の事が相当こたえているのか、杏子が話しかけても何の反応も返さない。

「今は何を言っても無駄だぜ。
今度ばかりは流石の遊戯も相当こたえてるみたいだからなぁ。」

「ほっとけよ。」

2人が少し驚いたように俺の方を向く。

「もう一人の遊戯は俺が、この城之内克也様が救い出してやるぜ！」

とか言ってみたりしたが、なんだかんだで心配だな。

遊戯が出て行ってから暫く経ったが、なかなか戻ってこないな。
心配になった俺達は遊戯を探すが、見つからない。
その時、ヘルモスのカードが光って上を示した。
もしかして、列車の上にいるのか？
俺達は慌てて上に上がった。
すると、そこには決闘をしている遊戯と羽蛾がいた。

そして羽蛾の額にはオレイカルコスの紋章があった。
羽蛾の奴、ドーマに寝返りやがったのか！？
なにやら話をしているようだが、何の話をしているんだ？
「そういや、俺に勝てたら相棒の居場所を教えてやるって約束してっけなぁ、ヒャヒャヒャ。
どうやらこれじゃ教えてやれそうにないな。
だってお前負けちゃうんだもん、ヒャヒャヒャ。」
な！？
もう一人の遊戯の居場所を知っているだと！？
本当か！？
「だが俺は意外とやさしい性格でね、特別に教えてあげるよ。
だって可哀想だからさ。」
「貴様！」
「俺、見たんだよ。
お前の相棒の魂が封印されたカードをさぁ、ヒャヒャヒャ！」
「！それは何処にあるんだ！
言え！」
遊戯！
少し落ち着けよ！
「まぁ焦るなよ、少し落ち着きなよ。」

そういって羽蛾はあるカードを取り出した。
まさかそれに遊戯の魂が！？

「それをこっちに寄こせ！」

「嫌だね、今は決闘中なんだぜぇ？
早く続けろやぁ。」

ビリッ

な！？
あいつ、遊戯の魂が封印されたカードを破りやがっただと！？

「うわあぁぁぁ！！」

遊戯！

「ヒーヒャヒャヒャヒャ！！」

「なんて事を…」

ほんとに何をしやがる、あいつは！

「羽蛾ぁ！」

「な～んてね。
うっそだよ～ん。
これはただのカードさ。」

それでもカードを破ることはないだろう！

「あんた、最低よ！」

「ジョークだよ、ジョーク。」

「覚悟しろよぉ！
この虫野郎！」

「ひょぇ？」

遊戯の奴、完璧に我を忘れてるな。

「魔導戦士ブレイカー、特殊能力発動！
マナ・ブレイク！」

「魔導戦士ブレイカーの特殊能力？
まさか！」

「魔力カウンターをひとつ取り除く事でフィールドの魔法・罠カードを１枚破壊する事が出来る！
虫よけバリアーを破壊しろ！」

よし！
これで遊戯は攻撃できるようになったな！

「魔力カウンターを取り除いた事で、魔導戦士ブレイカーの攻撃力は３００下がる。
これで貴様がくれたポイズン・バタフライで攻撃できるぜ！」

「ひゃぁぁ！」

「いくぜ！虫野郎！
ポイズン・バタフライでアーマー・センチフィードを攻撃！」
「くっ！」
「まだまだぁ！
魔導戦士ブレイカーで直接攻撃！」
「ぐわぁ！
な～んてね。
これでお前のモンスターは全て攻撃終了。
ポイズン・バタフライの効果でお前のライフは０だ！
ヒャーヒャヒャヒャ！
やったー！
俺の勝ちだ！」
「何勘違いしている。」
「ひょ？」
なんか手があるのか？
「まだ俺のバトルフェイズは終了してないぜ！」
「な～にいってんだ。
お前のモンスターは全て攻撃終了したじゃないか。」
「速攻魔法発動、狂戦士の魂！」

狂戦士の魂？

「手札を全て捨てて、効果発動！
こいつはモンスター以外のカードを引くまで、何枚でもカードをドローし、墓地に捨てるカード。
そして、その枚数分攻撃力１５００以下のモンスターは追加攻撃できる！」

魔導戦士ブレイカーの攻撃力はちょうど１５００！
狂戦士の魂で追加攻撃できるぜ！

「さあいくぜ！
１枚目、ドロー！
モンスターカード、クィーンズ・ナイトを墓地に捨て、魔導戦士ブレイカーで追加攻撃！

２枚目、ドロー！
モンスターカード！」

おし！
これで遊戯の勝ちだな！

「３枚目！
モンスターカード！」

「ぐわぁ！」

「ドロー！
モンスターカード！

ドロー！
モンスターカード！
ドロー！
モンスターカード！
ドロー！
モンスターカード！」
遊戯、既に決着はついてるぞ！
羽蛾の周りを結界が囲み、羽蛾の魂を捕らえ始める。
それでも遊戯はまだ攻撃を続けようとしている。
「ドロー！
モンスターカード！」
「もうやめてぇ！
遊戯ぃ！」
杏子はそういって遊戯をとめようとする。
「なにをする！
ＨＡ☆ＮＡ☆ＳＥ！」
「とっくに羽蛾のライフは０よ！
もう勝負はついたのよ！」
杏子に諭され、ようやく落ち着いたか？
羽蛾の奴はオレイカルコスの結界に魂を奪われちまった。

と思ったら、遊戯の奴、羽蛾に約束を果たせって言い出したぞ！？
羽蛾が話せないのは分かってるだろ、遊戯！

「かわいそうな遊戯…」

ほんとだぜ。

その時だった。
俺たちを乗せた列車が突然脱線しやがった。
そのまま滑って行くが、ってこの先崖かよ！！
落ちたら死んじまうぞ！！
頼むから止まってくれ！

だが、俺の願いはかなわず、俺達は列車ごと谷底へ落ちて行った。

「「「「うわぁぁぁぁ！！」」」」

静香、すまん。
兄ちゃんはここで死んじまうようだ…

ｓｃｅｎｅダーツ

「む？
名も無きファラオの気配が消えた？」

「ダーツ様、まさか死んだのでは？」

「いや、何かが私からファラオの気配を隠している。」
「ならば、私がダーツ様の目となり、必ずや名も無きファラオを見つけ出しましょう。」
「頼むぞ。」
「はっ！」
ラフェールはそういって退出した。
一体何者だ？
名も無きファラオが最優先だが、小娘も無視できぬ。
あれの傍から三幻神の力と、オレイカルコスの神に似た何か邪悪な力も感じる。
三幻神は我が元にあるが、気のせいだろうか？
それに、あの邪悪な力は冥界の力か？
まさか、南米のナスカに封印されし者たちか！？
くっ、だが南米の最強の存在であるスカーレッド・ノヴァの力は感じられん。
それ以外ならおそるるに足らんな。
だが、それでも伝説の竜もいる状態でさらなる力と戦うのは少し分が悪い。
まずは、あの小娘から封じなければならぬな。
あれは三銃士では勝てぬ。
現にラフェールも敗北した。
ならば私が直々に相手をするしかあるまい。
あの異能の力を我等が神に取り込むことができれば、神も最盛期以

上の状態で復活できるだろう。
その為に、伝説の竜を持つ者と離れさせる必要がある。
アメルダとヴァロンにも動いてもらわねば。

第１０話（後書き）

後書きに書く事がないのでアニメや原作オリジナルカードの紹介でもしようかと思います。

狂戦士の魂、アニメオリジナル
速攻魔法
手札をすべて捨てる。デッキからモンスター以外のカードが出るまでカードをドローし、全て墓地に捨てる。
モンスターカードを引いた回数分、攻撃力１５００以下のモンスターは追加攻撃できる。

逆巻く炎の精霊を使ったらどうなるんでしょうかね？

第１１話（前書き）

今回は短い上にかなり飛ばします。
ネタが思い付きませんでしたｏｒｚ

何故か次の話は出来ていたので強引に話を合わせました。

アニメを見ながら書くのはきついです…

第１１話

ｓｃｅｎｅ御伽

僕達は飛行機で遊戯君の乗った電車を追いかけてるんだけど、全く電車が見えない。
いくら時間差があったといっても、いい加減見えてもおかしくない頃なのに。
その時、パイロットから連絡があった。

『夜霧様、前方に電車が脱線したと思われる痕跡がありますが。』

電車が脱線しただって！
遊戯君達は大丈夫なのか！？

「…電車は何処にある？」

『何処にも見あたりません。
恐らく谷底に落ちたかと。』

ちょっと、やばくないかい！？
レベッカも顔が真っ青になってるし。

「…とりあえず谷底まで降りれる？」

『この飛行機の大きさでは少し危険かと。』

どうやって助けにいけばいいんだい？
飛行機は駄目みたいだし。

「…それじゃこの辺に着陸して待機してて。
私達で探すから。」

『畏まりました。』

飛行機は線路の少し脇に着陸した。
教授は飛行機に残っているから、僕と茜ちゃんとベッキーの3人だ。

「で、どうやって探すのよ？
まさか歩いて探すつもりじゃないでしょうね！」

「…まさか。
これに乗ってく。」

そういって茜ちゃんは1枚のカードを見せてきた。
え～と、氷結界の龍トリシューラって名前だね。
そっか！
茜ちゃんはモンスターを実体化できるんだった！

僕達はトリシューラに乗ってあたりを探し始めた。
暫く探していると、突如空にオーロラが輝きだした。
確か前にモンスターが実体化した時も同じようにオーロラがでてたような。

それからまた暫く探したけど、結局皆は見つからなかった。
茜ちゃんの方に遊戯君や海馬君達がＫＣに向かっているという連絡があったので、僕達も急いで向かう事にした。
一回飛行機まで戻って、そこから茜ちゃんが魔法カードのワーム・ホールを使って一瞬でＫＣ社まで移動した。

ほんと便利だね。
フロリダの博物館の方はどうやらＫＣ社の人が向かったらしいんだけど、ドーマの連中に占領されちゃったらしい。

皆と合流して、占領されたＫＣに乗りこんでいろいろ調べた結果、ドーマのボスのダーツはパラディウス社の総帥って事が分かった。
パラディウス社ってのは世界の経済や政治まで牛耳れるほどの結社らしい。

ニュースから人々の魂が生け贄にされている事を聞いて、時間がない事を再確認した僕達は一刻も早くパラディウス本社に向かう事になった。
けど、城之内君が一人で先走っちゃって、遊戯君達は城之内君を探しに、海馬君とモクバ君と茜ちゃんはパラディウス本社にのりこむことになった。

途中、ドーマのモンスターに襲われたけど、遊戯君と海馬君の伝説の竜が蹴散らせてくれた。
茜ちゃんは街中で使うと危ないといってモンスターを実体化しなかった。
僕と教授、レベッカは待機組で皆の成功を祈るしかない。
がんばって、皆！

ｓｃｅｎｅ遊戯

俺達は城之内君を探してダウンタウンまでやってきた。
途中で杏子がなにか光ってると気付き、俺達はその光る方向へ向かった。
その時、オレイカルコスの結界が前方に現れた。
城之内君！

「あれが出たって事は、城之内が危ないぞ！」

暫く走り続けたが、なかなか城之内君は見つからない。
くっ！
こうしている間も城之内君が！

それからも探し続けたが、城之内君は見つからない。
そして、俺はティマイオスが泣いているのを感じた。
まさか、城之内君は負けたのか！？
俺は不安な気持ちを隠せずにいた。

それからある公園までたどり着くと、そこには魂を奪われた城之内君の体があった。
俺は城之内君を2人に任せると、1人でパラディウス本社に向かった。

ダーツ！
お前は俺が許さない！

ｓｅｎｃｅ海馬

俺は遊戯達とは別行動で先にパラディウス本社に向かう事にした。
歩いて行くのは俺の気が済まなかったので、車に乗っていく事にしたがな。

パラディウス社に向かっていたが、途中でドーマの手下のモンスターに襲われた。
青眼の白龍とクリティウスで粉砕してくれたがな！
雑魚共がうっとおしいわ！！

あの雑魚共のせいでだいぶ時間を失ってしまった。
現に、凡骨を探していた遊戯の仲間と合流してしまったのだからな。
凡骨は決闘に負け、魂を奪われたようだな。
ふん！
凡骨ごときではドーマには敵う筈もなかろう。

遊戯はどうやら先にいったらしいな。
夜霧も何処にいったのやら。

俺達は再び車に乗り、パラディウス社までやってきた。
エレベーターの側に孔雀が倒れていた。
どうやらこいつも魂を抜かれているようだな。

だが、こいつが凡骨の魂を取ったらしい。
なら、誰がこいつの魂を奪ったのだ？

そんな事を疑問に持ちつつ、エレベーターで屋上に上がった。
そこには決闘をしている遊戯とドーマの三銃士の一人がいた。
ちょうどオレイカルコスの結界を発動したところだな。

遊戯の場にはクリバビロンに伏せカード。
相手の場にはガーディアン・グラールとガーディアン・エルマか。

「あ！
あいつ遊戯を破ったやつじゃねぇか！」

何！？
奴が遊戯を倒しただと！？
「ガーディアン・グラールでクリバビロンを攻撃！
英断の突撃！」
遊戯のモンスターが破壊され、残りのライフが１０００になったな。
遊戯の場にはモンスターが残って無い。
直接攻撃を喰らったら終わりだぞ！
「リバースカードオープン！
命の綱！
手札を全て捨てて発動する！
そして俺の手札は０！
よってこのままクリバビロンを特殊召喚！
そして攻撃力は８００上がる！」
何とか凌いだな。
「カードを１枚伏せて、ターン終了だ。」
「大丈夫かしら、遊戯？」
「残りライフが１０００しか残ってないぞ？」
「１０００もあれば沢山だ！
俺は信じるぜ、遊戯を！」
だが、オレイカルコスの結界の力はこんなものではない。

遊戯、貴様が負けた奴に勝つことで、その汚名を雪げるか？

「俺のターン、ドロー！
クリバビロンの特殊効果発動！
クリボー５兄弟に分離！」

チビが５体出てきたか。
それでどうする、遊戯？

「クリベーの特殊効果発動！
クリバンデッドに合体！
さらに手札から魔法カード、黒魔術の儀式を発動！
ライフを半分払い、ブラックマジシャン１体を特殊召喚できる。
現れよ、ブラックマジシャン！」

だが、これで遊戯のライフは５００。
一撃で削られてしまうぞ！

「ブラックマジシャンでガーディアン・エルマを攻撃！
黒・魔・導！」

「リバースカードオープン！
ガーディアン・フォーメーション！」

そして奴のモンスターはブラックマジシャンの攻撃をかわした。

「なに！？」

「このカードは、ガーディアンと名のつくモンスターガ攻撃されたときに発動可能！

モンスター1体の配置を変更できる！
前衛にモンスターがいる限り、後衛のモンスターに攻撃できない！」
奴のデッキ、オレイカルコスの結界の能力を効果的に引き出すために計算されている。
「更に、デッキから装備魔法を1枚、発動する事が出来る！
女神の聖剣 - エアトス！」
「ターン、エンドだ。」
「ワタシのターン、ドロー。
名も無きファラオ。
もう一度悪夢を再現してやろう。」
悪夢だと？
「いでよ、ガーディアン・エアトス！」
ガーディアン・エアトスだと？
なぜ生け贄なしで召喚できる！？
「ガーディアン・エアトスは自分の墓地にモンスターがいない時、生け贄なしで召喚できる！」
なんなんだ！？
この圧倒的な、一瞬で場を制圧する力は！？
「やべぇぞ！
遊戯はあのモンスターにやられたんだ！

あいつは、相手の墓地にあるモンスターの攻撃力を吸収しちまうんだぞ！」

何！？

なんだ、その能力は！？

「クリバンデッドの特殊効果発動！
生け贄に捧げることで、デッキからカードを5枚ドロー出来る！
そして、モンスター以外のカードを手札に加え、モンスターは墓地へ送る！」

相手の攻撃力をあげてでも攻撃を防げるカードが出来れば、なんとかなる。
やってみる価値はある。
引けるか、遊戯！？

「エアトスの特殊効果！
聖剣のソウル！」

な！
エアトスの攻撃力が７０００まで上がってしまった。
遊戯、貴様は防げるか？

「ゆけ、ガーディアン・エアトス！
フォビドゥン・ゴスペル！」

ここまでか！
だが、攻撃したエアトスの剣が壊れ、攻撃力も３０００にまで戻っている。
何があったのだ！？

遊戯は墓地からあるカードを取り出す。
あれは、超電磁タートル！
「俺が欲しかったカードは魔法でも罠でもない。
こいつだ！
このカードは、墓地に送られたターンの好きなタイミングでバトルを終了させる事が出来る！」
それでこそ俺の宿敵だ！
「くっ！
ターンエンドだ！」
その後、ティマイオスとブラックマジシャンが融合したアミュット・ドラゴンを召喚し、ガーディアン・エアトスを破壊した。
これで遊戯が有利になったと思ったが、相手の様子がおかしい。
結界が鼓動している！
そして地面が裂け、新たなモンスターが出てきた。
「エアトスが戦闘で破壊されたとき、デッキからガーディアン・デスサイスを特殊召喚できる！
そして、死神の大鎌を装備する！」
ガーディアン・デスサイス。
なんという禍々しさだ！
そして奴のターンでアミュレット・ドラゴンが破壊される。
どう凌ぐ、遊戯！
その後、遊戯が黄泉天輪を発動した。

オレイカルコスの結界が黒く染まり、中の様子が見えなくなった。
何が起こっているのだ！？

その後、中の様子が見えてきたが、見えなくなる前となんら変わった様子はない。
何があったのだ？

その後も遊戯は攻撃を防ぎ続けた。
そして、死者蘇生を使ってなんと相手の墓地にあるガーディアン・エアトスを特殊召喚した。
更に、凡骨のヘルモスを使い、ガーディアン・デスサイスを破壊した。
相手はソウル・チャージをつかい、己のライフを0にした。
オレイカルコスによって魂を奪われると思ったが、何故かは知らぬが、奪われなかったようだ。

まぁ別に構わんが。

遊戯が決闘に勝利した後、パラディウス本社が崩れ始めてきた。
エレベーターも壊れ八方塞がりに見えたが、磯野がヘリを飛ばしてくれたおかげで事なきを得たがな。

遊戯があやつから預かったというメモリーの中に、ドーマの本拠地と思われる地図があった。
俺達はその島へ向かう事にした。

ドーマめ、首を洗って待っていろ！
俺様が粉砕してくれる！

ｓｃｅｎｅ茜

私は武藤達と合流してからは別行動をとっていた。
どうも嫌な力を感じる。

案の定、私が一人になった時に、何者かが現れた。
それはソリッドヴィジョンでは無かったが、実体があったわけでもない。
思念体といえばいいのだろうか？

「フッフッ、夜霧茜だな？
既に知っているとは思うが我が名はダーツ。
ドーマの首長をしている。
お前の魂は名も無きファラオと決闘する前に頂きたいのでね。
この島に来い。
そこで待っているぞ。」

言いたい事だけいってそれは消えてしまった。
残っているのは地図だけだった。
飛行機に戻り、操縦士に地図の所までいくように指示した。
武藤達は置いていっても問題ないであろう。

「夜霧様、しかし危険ではありませんか？
相手の罠かも知れませんし。」

それはないと思う。
そんなことができたら態々オレイカルコスの結界なんて使わずに一気に生け贄を集められるだろう。
とりあえず操縦士にそれらしい説明をして、出発した。

私はその間、デッキの最終調整をした。
無いとは思うけど、万が一の為に負けないコンボは入れておこう。
引き分けなら魂は奪われないらしいし。

デッキ調整が終わったぐらいの時に、飛行機はドーマの本拠地に着いていた。

「…いってくるけど、もし危なくなったら先に逃げて構わないから。」

いざとなったらモンスターを実体化すればいいし。

神殿の奥まで進むと、そこにはダーツが待ち構えていた。

「よくぞきたな。」

「…呼び出したのはそっちでしょう。」

「確かにな。
だが、その事はもういい。

太古の昔、決闘は魂を賭けた戦いだった。
ならば、先人にならい我等も魂を賭けて闘おうではないか。

そして我等が神復活の為の生け贄になって貰うぞ！」

話し合いは…無理ね。
しょうがない。

「決闘！」

「…決闘。」

第１１話（後書き）

《アミュレット・ドラゴン》
レベル８／闇属性／ドラゴン族／攻撃力２９００／守備力２５００
このカードは「ティマイオスの眼」の効果で「ブラック・マジシャン」１体を墓地へ送った場合のみ特殊召喚する。
１ターンに１度、自分の墓地に存在する「ティマイオスの眼」「クリティウスの牙」「ヘルモスの爪」以外の　魔法カードを全てゲームから除外して発動する。
このカードの攻撃力は、ゲームから除外した魔法カードの枚数×３００ポイントアップする。

《ガーディアン・デスサイス》
効果モンスター／レベル８／闇属性／アンデッド族／攻撃力２５００／守備力２０００
このカードは通常召喚できない。
自分フィールド上に存在する「ガーディアン・エアトス」が　戦闘で破壊され墓地へ送られた時、このカードをデッキから表側守備表示で特殊召喚する事ができる。
このカードが特殊召喚に成功した時、自分のデッキから「死神の大鎌－デスサイス」をこのカードに装備する。
このカードは自分フィールド上に表側表示で存在する限り、　このカードのコントローラー他のモンスターを召喚・特殊召喚する事ができない。
また、このカードが表側攻撃表示で存在する時、このカード以外の自分のモンスターを全て破壊する。
このカードが墓地へ送られた時、手札を１枚捨ててこのカードを特殊召喚しなければならない。

《クリバンデッド》
効果モンスター／レベル３／闇属性／悪魔族／攻撃力１５００／守備力３００
このカードは通常召喚できない。「クリベー」の効果でのみ特殊召喚する事ができる。
このカードをリリースする事で、自分のデッキからカードを５枚ドローする。
その後、ドローしたカードの中からモンスターカードを全て墓地に捨てる。

《ガーディアン・フォーメーション》
通常罠
自分フィールド上に「ガーディアン」と名のつくモンスターが攻撃対象になった時に発動する事ができる。
攻撃対象となったモンスターの位置を変更する。
その後、自分のデッキから装備魔法カードを１枚選択して、自分フィールド上のモンスター１体に装備する事ができる。

第１２話（前書き）

今回でドーマ編は終了です。

数話挟んだらＫＣグランプリ編に入りたいと思います。

第１２話

ｓｃｅｎｅ茜

「先攻は貰う、ドロー！
フフ、手札からフィールド魔法、オレイカルコスの結界を発動！
これで敗者の魂は我等が神の生け贄となる！
だが、これではお前相手では足りぬな。
更に永続魔法、オレイカルコス・デウテロスを発動！

そして手札から儀式魔法、オレイカルコス・ミラーを発動！
手札のオレイカルコス・デクシアとオレイカルコス・アリステロスを生け贄に捧げ、デッキからミラーナイト・コーリングを魔法・罠ゾーンに儀式召喚！
そしてミラーナイト・コーリングが特殊召喚に成功した時、ミラーナイトトークンを４体特殊召喚する！
ミラーナイトトークンの特殊召喚に成功した時、鏡カウンターを１つ乗せる。
これで私のターンは終了だ。」

最初から全力ね。
それにしてもどれも効果がわからないカードね。
けど、恐らくミラーナイトトークンは破壊耐性があるわね。
そうでなければ攻撃力０のミラーナイト・コーリングを出す意味がない。
とりあえず様子みね。

「…ドロー。
永続魔法、王家の神殿発動。

手札から罠カードを発動する事ができる。
融合デッキのスターダスト・ドラゴンを墓地に送り、Ｓｉｎスターダスト・ドラゴンを特殊召喚。
Ｓｉｎと名のつくモンスターはフィールド上に１体しか存在できない。
そしてフィールド魔法が発動していない場合、自壊する。
最も、これはオレイカルコスの結界があるから無意味ね。」

「くっ！
オレイカルコスの結界は発動されたら破壊出来ないのを逆手にとったか！」

「…そういうこと。
無駄だと思うけど、Ｓｉｎスターダスト・ドラゴンでミラーナイトトークンを攻撃。」

どんな結果になってもミラーナイトトークンの効果が分かればいいや。

「フフ、ミラーナイトトークンの効果を発動！
ミラーナイトトークンの攻撃力は、ダメージ計算時にミラーナイトトークンと戦闘を行う相手モンスターと同じ攻撃力になる。
ミラーナイトトークンがフィールドを離れる場合、代わりに鏡の盾カウンターを１個取り除く。
そしてミラーナイト・コーリングの効果を発動！
自分フィールド上に存在するミラーナイトトークンに乗っている鏡の盾カウンターが取り除かれた時、そのトークンに鏡の盾カウンターを１個乗せる。
無駄な攻撃に終わったな。」

効果が分かっただけましね。
結局、戦闘での突破は不可能って事ね。
なら、地縛神で直接攻撃するしかない。

「…手札から罠カード、ＳｉｎＴｕｎｅ発動。
自分フィールド上のレベル７以上のＳｉｎと名のついたモンスターが戦闘で破壊された時に発動する事ができる。
デッキからカードを２枚ドローする。
モンスターをセットし、カードを３枚伏せてターンエンド。」

「私のターン、ドロー！
オレイカルコス・デウテロスの効果を発動！
自分のスタンバイフェイズ時にこのカードのコントローラーは、自分フィールド上のモンスターの数×５００ポイントのライフを回復する。
私の場には５体のモンスターがいる。
よって２５００ライフを回復する。」

毎ターンライフを回復か。
オレイカルコスの結界の時にはなかったから、二重目の結界の効果ね。

「バトルだ！
ミラーナイトトークンで裏側守備表示モンスターを攻撃！」

「…伏せたモンスターはキラートマト。
効果で２体目のキラートマトを攻撃表示で特殊召喚。」

「構わぬ！
２体目のミラーナイトトークンでキラートマトを攻撃！」

「…キラートマトの効果は発動しない。」

「ほぅ。
ならば、ミラーナイトトークン2体で直接攻撃！」

「…っ！」

「更にミラーナイト・コーリングで直接攻撃！」

「…罠カード、栄誉の贄発動。
自分のライフが３０００以下の時に相手が直接攻撃を宣言した時に発動する事ができる。
そのモンスターの攻撃を無効にし、自分フィールド上に贄の石碑トークン2体を特殊召喚し、自分のデッキから地縛神と名のついたカード1枚を手札に加える。
地縛神Ａｓｌｌａ　ｐｉｓｃｕを手札に加える。
贄の石碑トークンは、地縛神と名のついたモンスターの生け贄召喚以外のためには生け贄にできず、融合素材とする事も出来ない。」

「やはり南米の封印されし冥界の力を使うか！
だが我等が神には敵うまい！
ターンエンドだ。」

「…ドロー。
2体の贄の石碑トークンを生け贄に捧げる。
今再び、四千九百三十年の時を越え、冥府の扉が開く
我らが魂を新たなる世界の糧とするがいい
降臨せよ
地縛神Ａｓｌｌａ　ｐｉｓｃｕ」

巨大な心臓が現れ、そこから地縛神Ａｓｌｌａ　ｐｉｓｃｕが現れる。
神殿の一部を嘴で崩し落とし、存在を主張する。
「…地縛神が場に存在する限り、地縛神と名のつくモンスターを召喚、特殊召喚、反転召喚できない。
そしてフィールド魔法がない場合、自壊する。」

「くっ！
忌々しい！」

「…地縛神は相手に直接攻撃する事ができる。
地縛神Ａｓｌｌａ　ｐｉｓｃｕで直接攻撃。」

「なにっ！？
だが、オレイカルコス・デウテロスの効果を発動！
相手モンスターが直接攻撃の宣言時に自分フィールド上のモンスター１体を生け贄に捧げる事で、その攻撃を無効にし、攻撃モンスター１体を破壊する。
ミラーナイトトークンを生け贄に捧げる！
ミラーナイトトークンの効果で鏡カウンターを取り除き、ミラーナイト・コーリングの効果で鏡カウンターを乗せる！」

鉄壁の布陣ね。
ただ、地縛神に魔法は効かない。

「…地縛神Ａｓｌｌａ　ｐｉｓｃｕの効果。
このカードは相手の魔法・罠カードの効果を受けない。
よってオレイカルコス・デウテロスの効果も受けない。」

「何！？
ぐわぁぁ！」

ダーツは地縛神Ａｓｌｌａ　ｐｉｓｃｕの攻撃を喰らい結界に激突した。
さっきまではオレイカルコスの結界があったけどダメージがプレーヤーに反映される事はなかった。
けれど、地縛神が現れた事によってこの決闘は闇のゲームへと変わった。

「…カードを伏せてターンエンド。」

「なかなかやるな。
その力、光でも闇でもない無の力のおかげか。
私のターン、ドロー！
オレイカルコス・デウテロスの効果でライフを２５００回復する。」
地縛神Ａｓｌｌａ　ｐｉｓｃｕの攻撃だけじゃライフを削れない。
他に攻撃手段が必要ね。

「バトルだ！
ミラーナイトトークンで地縛神Ａｓｌｌａ　ｐｉｓｃｕを攻撃！」
だけど、ミラーナイトトークンは一向に攻撃をしない、いやできない。

「何故だ！
何故攻撃をしない！」

「…地縛神Ａｓｌｌａ　ｐｉｓｃｕの効果。
相手はこのカードを攻撃対象に選択する事はできない。」

「くっ！
ターンエンドだ。」

「…エンドフェイズ時に速攻魔法、終焉の焔発動。
自分のフィールド上に黒焔トークンを2体守備表示で特殊召喚する。
このトークンは闇属性モンスター以外の生け贄召喚のための生け贄にはできない。
ドロー。
罠カード、亜空間物質転送装置発動。
地縛神Ａｓｌｌａ　ｐｉｓｃｕをエンドフェイズまでゲームから除外する。
そして地縛神Ａｓｌｌａ　ｐｉｓｃｕの効果発動。
このカードの効果以外でこのカードがフィールド上から離れた時、相手フィールド上に表側表示で存在するモンスターを全て破壊し、破壊したカード1枚につき８００のダメージを相手ライフに与える。
」

「なっ！
だが、ミラーナイトトークンは鏡カウンターを取り除く事でフィールドを離れない！」

「…けど、ミラーナイト・コーリングは破壊される。
そして、ミラーナイト・コーリングがいなくなった事でミラーナイトトークンに鏡カウンターは乗せられない。
それと８００のダメージを受けてもらう。」

「ぐぅ！」

「…2体の黒焔トークンを生け贄に捧げる。
積年の恨み積もりし大地に眠る魂達よ
今こそ穢された大地より出でて、我に力を貸さん
降臨せよ、地縛神Ｃｈａｃｕ　Ｃｈａｌｌｈｕａ。
手札から魔法カード、天よりの宝札発動。
互いに手札が６枚になるようにドローする。
地縛神Ｃｈａｃｕ　Ｃｈａｌｌｈｕａの効果発動。
１ターンに１度、このカードの守備力の半分のダメージを相手ライフに与える事ができる。
この効果を発動するターン、このカードは攻撃できない。
１２００のダメージを受けてもらう。」

「ぐぅ！」

「…手札から魔法カード、強欲な壺発動。
２枚ドロー。
魔法カード、ライトニング・ボルテックス発動。
手札を１枚捨て、相手の表側モンスターをすべて破壊する。」

「なに！？」

「…そして融合デッキからサイバー・エンド・ドラゴンを墓地に送り、Ｓｉｎサイバー・エンド・ドラゴンを特殊召喚。
バトル。
Ｓｉｎサイバー・エンド・ドラゴンで直接攻撃。」

「ぐわぁぁぁ！」

「…速攻魔法、セベクの祝福発動。

自分のモンスターが相手プレイヤーへの直接攻撃に成功した時に発動する事ができる。
その時相手に与えた戦闘ダメージの数値分だけ自分のライフポイントが回復する。」

これでダーツの残りライフは１３００に対して７０００。
油断は出来ないけど多少は優位に立てた筈。

「…カードを伏せる。
エンドフェイズに地縛神Ａｓｌｌａ　ｐｉｓｃｕは場に戻る。
ターンエンド。」

「なに！
地縛神は１体しか存在できない筈だ！」

「…地縛神がフィールド上に表側表示で存在する場合、地縛神と名のつくカードを召喚・反転召喚・特殊召喚する事ができない。
けど、太陽の書の効果は召喚ではなく表示形式の変更のみだから問題ない。」

「ぐっ！
私のターン、ドロー！
永続魔法、オレイカルコス・トリトスを発動！
そしてオレイカルコス・ギガースを守備表示で召喚！
そしてライフを５００払い、オレイカルコス・キュトラーを魔法・罠ゾーンに特殊召喚！
ターンエンドだ。」

残り少ないライフを払ってまで召喚したオレイカルコス・キュトラー。

キュトラーってキュアと響きが似てるからライフを回復する効果でもあるのかな？

「…ドロー。」

Ｓｉｎサイバー・エンド・ドラゴンの貫通攻撃が通れば勝ちだけど、そこまで甘くはないかな。

「…Ｓｉｎサイバー・エンド・ドラゴンでオレイカルコス・ギガースを攻撃。
Ｓｉｎサイバー・エンド・ドラゴンは貫通効果を持っている。」

「オレイカルコス・キュトラーの効果を発動！
このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、戦闘で発生する自分への戦闘ダメージは０になる！
そしてオレイカルコス・ギガースの効果発動！
このカードが破壊され墓地へ送られた場合、このカードを攻撃力を５００上げて特殊召喚する！」

不味い。
ＯＣＧならこういう系統の効果はリセットされるけど、こっちではリセットされなかった気がする。
次のターンに自爆特攻されたら最終的にＳｉｎサイバー・エンド・ドラゴンが破壊されてしまう。

「…カードを伏せてターンエンド。」

「私のターン、オレイカルコス・ギガースの効果でドローフェイズはスキップされる。
オレイカルコス・デウテロスの効果発動！

ライフを１０００回復する！
バトルだ！
オレイカルコス・ギガースでＳｉｎサイバー・エンド・ドラゴンを攻撃！」

やっぱり自爆特攻してきた。
７回目の攻撃でＳｉｎサイバー・エンド・ドラゴンは破壊されてしまった。

「…っ！」

闇のゲームで受けるダメージは初めてだけど、かなり痛い。
４００ダメージでこれなら、さっきダーツが受けた４０００ダメージはどれくらいなのだろうか。

「…Ｓｉｎサイバー・エンド・ドラゴンが破壊された時に伏せカード、ＳｉｎＴｕｎｅを発動。
２枚ドロー。
そして、Ｓｉｎサイバー・エンド・ドラゴンが破壊された事により、ライフの半分の３３００払い、手札からＳｉｎトゥルース・ドラゴンを特殊召喚。」

「ほう。
ナスカの地縛神の次は矛盾を超えし竜か。
どちらも強大な力を持ち、尚且つフィールド魔法がある時に真価を発揮するカードだな。
私のターンはこれで終了だ。」

「…ドロー。

手札から罠カード、ＳｉｎＣｒｏｗＳｔｒｅａｍ発動。
自分フィールド上にＳｉｎと名のついたモンスターが表側表示で存在する場合に発動する事ができる。
相手フィールド上に存在するモンスターを１体選択して破壊する。
オレイカルコス・キュトラーを破壊する。」

「オレイカルコス・トリトスの効果を発動！
自分フィール上のモンスターを対象にするカードの効果を受けない！
ＳｉｎＣｒｏｗＳｔｒｅａｍは無駄だったな。」

「…っ。
魔法カード、ＳｉｎＳｅｌｅｃｔｏｒ発動。
自分の墓地に存在するＳｉｎと名の付くモンスターカード２枚をゲームから除外する。自分のデッキからＳｉｎと名の付くモンスターカードを２枚選択して手札に加える。
墓地のＳｉｎスターダスト・ドラゴンとＳｉｎサイバー・エンド・ドラゴンを除外してＳｉｎスターダスト・ドラゴンとＳｉｎサイバー・エンド・ドラゴンを手札に加える。
Ｓｉｎトゥルース・ドラゴンを守備表示に変更。
地縛神Ｃｈａｃｕ　Ｃｈａｌｌｈｕａの効果で１２００のダメージを与える。
ターンエンド。」

今は凌ぐしかない。
幸い相手のライフは６００で、ドローフェイズはスキップされるからなんとかなる。

「私のターン、オレイカルコス・デウテロスの効果でライフを１０００回復する。
魔法カード、死者蘇生を発動！

ミラーナイト・コーリングを魔法・罠ゾーンに特殊召喚！
そしてミラーナイト・コーリングの効果でミラーナイトトークンを４体特殊召喚！
バトルだ！
オレイカルコス・ギガースでＳｉｎトゥルース・ドラゴンを攻撃！」

何がしたいの？
守備表示だから戦闘破壊もないし、オレイカルコス・キュトラーの効果も戦闘ダメージを０にするだけ…
まさかオレイカルコス・キュトラーに何か効果がある？

「さらにミラーナイトトークンでＳｉｎトゥルース・ドラゴンを攻撃！」

「…っ！」

「私のターンは終了だ。」

「…ドロー。」

地縛神Ａｓｌｌａ　ｐｉｓｃｕでオレイカルコス・ギガースに自爆特攻すればダメージで勝てるけど、あの伏せカードが気になる。
地縛神に魔法・罠は効かないけど、ダーツに作用するカードだと防げない。
けど、ここでチャンスを逃すわけにもいかない。

一回地縛神Ｃｈａｃｕ　Ｃｈａｌｌｈｕａの効果で様子見をしよう。

「…地縛神Ｃｈａｃｕ　Ｃｈａｌｌｈｕａの効果発動。
相手に１２００のダメージを与える。」

「カウンター罠、聖なる突風ディバイン・ウィンドを発動！
自分が受ける効果ダメージを１度だけ０にして、そのダメージの数値の倍を相手プレイヤーに与える！
２４００のダメージを受けてもらおう！」

「…っ！」

先程の比ではない痛みが襲う。
思わず膝をついてしまった。
けど危なかった。
地縛神Ａｓｌｌａ　ｐｉｓｃｕで攻撃していたら此方のライフが０になるところだった。

「…カードを伏せてターンエンド。」

「私のターン、オレイカルコス・デウテロスの効果でライフを３５００回復する！
速攻魔法、エナジー・リフレクトを発動！
自分フィールド上のモンスター１体を生け贄に捧げ発動する。
発動ターンのエンドフェイズ時まで、相手プレイヤーに直接攻撃する事ができる！
ミラーナイトトークンの鏡カウンターを取り除き、生け贄とする。
そしてミラーナイト・コーリングの効果でミラーナイトトークンに鏡カウンターを乗せる！」

ほんと厄介すぎる壁ね。

「これで終わりだ！
オレイカルコス・ギガースで直接攻撃だ！」

「…罠カード、次元幽閉発動。
相手モンスターの攻撃宣言時に発動する
その攻撃モンスター1体をゲームから除外する。
これでオレイカルコス・ギガースは復活しない。」

「だが、まだオレイカルコスの結界で攻撃力が上がっているミラーナイトトークンがいる！
ミラーナイトトークンで…」

ダーツが攻撃宣言しようとした時、私の後ろから人影が2つ現れた。
それは武藤と海馬だった。

「夜霧、貴様何故先にいった！
奴は伝説の竜を持つ俺達でしか倒せぬぞ！」

「そうだぜ。
無茶はするな、茜。」

「くっ！
名も無きファラオに海馬か。
この小娘に時間を取られ過ぎたか！
伝説の竜に選ばれし者よ！
この小娘の次はお前達が相手だ！」

「ふん。
言われるまでもない。」

「ミラーナイトトークンよ、小娘に引導を渡せ！」

ｓｃｅｎｅ闇遊戯

俺達がダーツの所に向かうと、そこには既に茜の姿があった。

「何故夜霧が俺達より先にいるのだ！？
それになんだ、夜霧が使っているモンスターは！
あんな巨大なモンスターがいてたまるか！」

茜が召喚しているモンスター2体はこの島では収まりきらず、海に出ている。
あれからかなりの邪念を感じるが、今は気にしている余裕はないな。

「海馬、それよりもあのオレイカルコスの結界は変じゃないか？
三重になっているように見えるが。」

「何！？
確かに三重になってるな。
あれはダーツだけが使うオレイカルコスの結界なのか？」

俺達は2人が決闘している部屋に入った。
場は、茜はさっきの巨大なモンスター2体に伏せカードが1枚に永続魔法の王家の神殿。
ダーツの場にはフィールド魔法のオレイカルコスの結界、永続魔法のオレイカルコス・デウテロスにオレイカルコス・トリトス。
これが三重になった原因か。
それに魔法・罠ゾーンにミラーナイト・コーリングにオレイカルコ

ス・キュトラー、モンスターゾーンにミラーナイトトークンが４体。
ライフはダーツが４７００に茜が９００。
そしてミラーナイトトークンが茜に直接攻撃をしようとしている。
これを喰らったら負けだぞ！

「…速攻魔法、コマンド・サイレンサー発動。
相手ターンのバトルフェイズを終了し、お互いのデッキからカードを１枚ドローする。」

なんとか凌いだな。

「カードを伏せて私のターンは終了だ。」

「…エンドフェイズに速攻魔法、終焉の焔発動。
自分のフィールド上に黒焔トークンを２体守備表示で特殊召喚する。
ドロー。
手札から魔法カード、アドバンス・ドロー発動。
地縛神Ｃｈａｃｕ　Ｃｈａｌｌｈｕａを生け贄に捧げ、２枚ドロー。
もう１枚アドバンス・ドローを発動。
地縛神Ａｓｌｌａ　ｐｉｓｃｕを生け贄に捧げ、２枚ドロー。
地縛神Ａｓｌｌａ　ｐｉｓｃｕの効果発動。
地縛神Ａｓｌｌａ　ｐｉｓｃｕがフィールドを離れた時、相手フィールド上の表側表示モンスターを全て破壊し、１体につき８００のダメージを与える。」

これが決まれば４８００のダメージだな！

「ミラーナイトトークンの鏡カウンターを取り除き破壊を無効にする！」

「…だけどミラーナイト・コーリングとオレイカルコス・キュトラーは破壊される。
そして１６００のダメージを受けてもらう。」

「ぐっ！」

突風がダーツの場を襲い、モンスターを破壊した。
更にダーツもオレイカルコスの結界の壁まで飛ばされた。
まさか、闇のゲームをやっているのか！？

「ぐっ！
だが、破壊されたオレイカルコス・キュトラーの効果を発動！
オレイカルコス・キュトラーが破壊され墓地へ送られた時、自分の手札・デッキ・墓地からオレイカルコス・シュノロス１体を召喚条件を無視して特殊召喚する！
現れよ、オレイカルコス・シュノロス！
こいつは魔法・罠ゾーンに召喚しておこう。
そして墓地のオレイカルコス・アリステロスとオレイカルコス・デクシアの効果を発動！
オレイカルコス・シュノロスが特殊召喚された時、特殊召喚する！
現れよ、究極の剣、オレイカルコス・デクシア！
究極の盾、オレイカルコス・アリステロス！
そしてオレイカルコス・シュノロスの攻撃力、守備力はオレイカルコス・キュトラーで無効にしたダメージ分になる！
よって攻撃力は１１８００！」

なっ！？
攻撃力１１８００だと！

「そしてオレイカルコスの結界により攻撃力を５００上げる。

オレイカルコス・デクシアとオレイカルコス・アリステロスの攻撃力・守備力は戦闘を行うモンスターの攻撃力に３００足した数値になる！
オレイカルコスの結界の効果でこれも攻撃力が５００上がる。」
それでは攻撃をする度に８００のダメージを受けてしまう！

「…黒焔トークン２体を生け贄に捧げる。
究極の破壊をもたらせ
最強の地縛神
出でよ
Ｗｉｒａｑｏｃｈａ　Ｒａｓｃａ。」

巨大な石の心臓のようなものが出てきた。
何だあれは？

心臓のようなものから先程より巨大なコンドルのようなモンスターが出てきた。
だが、攻撃力、守備力は共に１。
大丈夫なのか？

「…地縛神Ｗｉｒａｑｏｃｈａ　Ｒａｓｃａの効果発動。
自分のバトルフェイズをスキップする変わりに相手のライフを１にする。
ポーラスター・オベイ。」

「何！？
ぐうぁぁぁ！」

ダーツは再び結界に激突し、ライフが１になる。

それにしても、ライフを1にする効果か。
恐ろしいほど強力だな。
だが、次のターンに攻撃を喰らったら負けてしまうぞ！

「…カードを伏せてターンエンド。」

「くっ！
私のターン、ドロー！
オレイカルコス・デウテロスの効果でライフを１５００回復する！
カードを伏せてターンエンドだ。」

何故地縛神Ｗｉｒａｑｏｃｈａ　Ｒａｓｃａを攻撃しなかったんだ？

「貴様等、何を此の場に置いて茶番劇等を演じているのだ！
地縛神Ｗｉｒａｑｏｃｈａ　Ｒａｓｃａに攻撃すれば勝てたであろう！」

「ふっ。
名も無きファラオに海馬。
お前達は少々無知ではないか？
あの地縛神と名のついたモンスターには攻撃出来ないのだよ。」

成る程な。
ちなみに茜がボソッと貴方も知らなかったじゃないのっと言っていた。
どうやらダーツも攻撃するまで知らなかったようだな。

「…ドロー。
地縛神Ｗｉｒａｑｏｃｈａ　Ｒａｓｃａの効果発動。
ポーラスター・オベイ。」

「ぐわぁ！」

「…手札から魔法カード、アドバンス・ドロー発動。
地縛神Ｗｉｒａｑｏｃｈａ　Ｒａｓｃａを生け贄に捧げ、２枚ドローする。
そして手札から罠カード、早すぎた復活発動。
地縛神Ａｓｌｌａ　ｐｉｓｃｕを蘇生。」

うっ。
さっき生け贄に捧げた地縛神が出てきたが、ヘドロのような紫色の液体を垂らした状態で復活した。
あまり見たくないな。

「…早すぎた復活で蘇生した地縛神は戦闘ダメージを与えられない。
カードを伏せてターンエンド。」

「私のターン、ドロー！
オレイカルコス・デウテロスの効果でライフを１５００回復する！
カードを伏せてターンエンドだ。」

互いに動けない状態が続いているな。

「…ドロー。
手札から罠カード、亜空間物質転送装置発動。
地縛神Ａｓｌｌａ　ｐｉｓｃｕをエンドフェイズ時まで除外する。
そして地縛神Ａｓｌｌａ　ｐｉｓｃｕの効果発動。
これで終わりよ。」

さっきの相手の表側表示モンスターを全て破壊し、一体につき８０

０のダメージを与えるやつか！
ダーツのライフは１５０１。
茜の勝ちだ！

だが、いつまでたってもオレイカルコスの結界が消えない。
まさか、まだ終わってないのか！？
煙が消えると、そこには闇の空間から現れたような蛇のモンスターがいた。

「全く、驚かされたよ。
まさか蛇神ゲーを出す事になろうとはね。」

だがどうやってあれを召喚した？
それにダーツのライフは…０！

「地縛神Ａｓｌｌａ　ｐｉｓｃｕの効果の前に罠カード、デストラクト・ポーションを発動した。
自分フィールド上に存在するモンスター１体を選択して発動する。
選択したモンスターを破壊し、破壊したモンスターの攻撃力分だけ自分のライフポイントを回復する。
これでオレイカルコス・シュノロスを破壊し、ライフを１２３００回復した。」

「だが、それだけではそのモンスターが出てきた事の説明にはならんぞ！」

「蛇神ゲーの効果さ。
自分フィールド上に存在するオレイカルコス・シュノロスが破壊された時、自分のライフを１００００以上全て支払う事でのみデッキ・手札から特殊召喚する。

その時、「自分のライフポイントが０になったら相手はこのデュエルに勝利する。」というルールが無効になり、このカードがフィールドから離れたとき、自分はこのデュエルを敗北する。
このカードが攻撃宣言を行う場合、自分のデッキの上からカードを１０枚墓地へ送らなければならない。
このカードは他のカード効果を受けない。
そして、蛇神ゲーの攻撃力は∞！」

なっ！
攻撃力∞だと！？
それに他のカード効果を受けない効果もあるのか！
どうやって倒すんだ！？

「…面倒なモンスターを。
手札から罠カード、早すぎた復活発動。
地縛神Ｗｉｒａｑｏｃｈａ　Ｒａｓｃａを蘇生。
手札から魔法カード、命削りの宝札発動。
手札が５枚になるようにドローする。

武藤と海馬。」

「なんだ？」

「…後は任せる。
カードを２枚伏せてターンエンド。」

「いよいよ諦めたか！」

「…勝つのにはね。
けれど、負ける気もない。」

勝たず負けず…引き分けか！
引き分けならオレイカルコスの結界は発動しないからな。

「私のターン、ドロー！」

「…速攻魔法、バーサーク・モード発動。
フィールド上に存在する全てのモンスターを表側攻撃表示に変更する。
全てのモンスターはこのターン攻撃を行わければならない。
発動ターンのエンドフェイズまでフィールド上のモンスターは戦闘では破壊されない。
そして罠カード、ラストバトル！発動。」

あのカードは！
地縛神Ｗｉｒａｑｏｃｈａ　Ｒａｓｃａの攻撃力では蛇神ゲーに敵わないが、バーサーク・モードの効果で戦闘破壊されないから引き分けになる！

「…自分のライフが１０００以下の時、相手ターンで発動する事ができる。
自分フィールド上モンスターを１体選択し、他のお互いのフィールドと手札のカードを全て墓地に送る。
オレイカルコスの結界系と蛇神ゲーはこのカードの効果を受けないから場に残る。
私は地縛神Ｗｉｒａｑｏｃｈａ　Ｒａｓｃａを選択。
その後、相手はデッキかフィールドからモンスター１体を選択してデッキから選んだ攻撃表示で特殊召喚し、戦闘を行う。
エンドフェイズ時にフィールド上にモンスターが残ったプレイヤーをデュエルの勝者とする。

その他の場合は引き分けとする。
蛇神ゲーには他のカード効果が効かないから勝てないけど、地縛神Ｗｉｒａｑｏｃｈａ　Ｒａｓｃａも相手の魔法・罠の効果を受けず、バーサーク・モードで戦闘で破壊されない。
互いに破壊出来ないから引き分けになる。」

「くっ！
最後まで小癪な真似を！
蛇神ゲーで地縛神Ｗｉｒａｑｏｃｈａ　Ｒａｓｃａを攻撃！
インフィニティ・エンド！」

「…Ｗｉｒａｑｏｃｈａ　Ｒａｓｃａ、デス・シンギュラリティ。」
蛇神ゲーと地縛神Ｗｉｒａｑｏｃｈａ　Ｒａｓｃａの攻撃がぶつかり合い、その衝撃で地面が抉られてゆく。
中にいる茜は無事なのか？

砂埃が薄くなり、周りの様子が見えてきた。
ダーツと茜は壁に叩き付けられていた。
オレイカルコスの結界は既に無く、蛇神ゲーと地縛神Ｗｉｒａｑｏｃｈａ　Ｒａｓｃａの姿も見えない。

「おい、夜霧！
しっかりしろ！」

俺と海馬は茜の傍に向かった。
茜は全身傷だらけで意識を失っていた。
それに、なんだ？
右足の傷だけ他の傷と明らかに違う。
禍々しい紫色になっているな。

なぜかはわからないが、とりあえず茜を安全な場所に横たわらせて置いた。
そういえばダーツはどうなった？
とても無事とは思えないが。

ガラリ、と瓦礫が動いた方を向くと、そこにはダーツが立っていた。

「…はぁ…はぁ。
ぐっ！
あの小娘、オレイカルコスの結界対策の最終手段としてあのコンボを残していたとはな！
つくづく用意周到な奴だ！
だが、もうその小娘は動けまい！
名も無きファラオと海馬瀬人よ！
お前達を倒し、我等が神を復活させる！」

決闘は、海馬が倒されたが、最終的に真の姿となった伝説の三騎士の連携攻撃で蛇神ゲーを倒した。
ダーツを倒した事によって相棒、城之内君、海馬の魂が戻ってきた。
俺達は再会を喜んだが、その時地震が起こった。
俺達は慌てて神殿の外に出ると、海中からアトランティスが浮上してくるのを見た。
皆はＫＣのヘリコプターに乗って待機して貰った。

1台何処かのヘリがあるが、誰のだ？
俺と海馬と城之内君の3人でアトランティスに乗り込み、三騎士と三幻神の力でオレイカルコスの神を倒した。
オレイカルコスの神が海に落ちた事によって巨大な津波が発生し、神殿がのみ込まれそうになった。
が、この星の闇を俺の器に入れた事によって奇跡的に津波が消滅した。
俺達は意気揚々とヘリで神殿を後にしたのだが、何か忘れてる気がするんだが。
ヘリを見渡すと、中には城之内君、本田君、杏子、モクバに海馬。
…
夜霧がいない。
「なぁ皆。
夜霧は何処にいるか知ってるか？」
「「「「「あっ」」」」」
「どうするんだよ！
あいつの怪我ひどかったぞ！」
「今から戻る？」
俺達がどうするか話していると、通信が入ってきた。
『ここに名も無きファラオ達はいるか？』

「ラフェール！」

『お前達、夜霧を忘れているだろう。
既にＩ２社のヘリに乗せておいたぞ。』

それを聞いて皆安心した。

「つぅかよ、なんでお前が出たんだ？
Ｉ２社の社員でもねぇし。」

『何故かと言われてもな。
以前夜霧と賭けをしてドーマの企みが失敗した時には自分の所に来いと誘われてな。
で、島を出ようとした時に夜霧を見つけたわけだ。』

賭け？
一体いつそんな事をしたのだろうか。

「ふん。
とりあえず戻る手間が省けた事には礼を言おう。
それで、夜霧が起きたら俺に連絡するように伝えろ。」

『分かった。
では切るぞ。』

「でも良かったわね、茜ちゃんも無事で。」

「ああ、だが足の怪我が酷かったからな。
影響がないか心配だ。」

俺達はヘリで教授達の所へ下ろして貰った。
レベッカや教授に御伽君とも再会し、皆で数日ゆっくり過ごした。

そして、今俺達が直面している問題は、
「どうやって日本に帰ろうか？」
日本へ帰れない事だ。

第１２話（後書き）

流石に主人公が勝つと不味いのでこういう展開にしました。
又ラストバトル！の効果はアニメ効果です。
といっても、相手はフィールドからもモンスターを選べるという事しか違いはありませんが。

《ミラーナイト・コーリング》
儀式・効果モンスター／レベル６／光属性／機械族／攻撃力０／守備力０
「オレイカルコス・ミラー」により降臨。
このカードが特殊召喚に成功した時、「ミラーナイトトークン」（機械族・光・星１・攻／守０）を４体自分フィールド上に特殊召喚する。
「ミラーナイトトークン」が特殊召喚に成功した時、鏡の盾カウンターを１個乗せる。
「ミラーナイトトークン」の攻撃力は、ダメージ計算時「ミラーナイトトークン」と戦闘を行う相手モンスターと同じ攻撃力になる。
「ミラーナイトトークン」がフィールドを離れる場合、代わりに鏡の盾カウンターを１個取り除く。
このカードが自分フィールド上に表側表示で存在する限り、自分フィールド上に存在する「ミラーナイトトークン」に乗っている鏡の盾カウンターが取り除かれた時、そのトークンに鏡の盾カウンターを１個乗せる。

この作品では、直接攻撃の時はオレイカルコスの結界の効果を受けるようにしました。
原作では分からないですが。

《オレイカルコス・キュトラー》
効果モンスター／レベル３／闇属性／悪魔族／攻撃力５００／守備力１２００
このカードは自分のライフを５００ポイント支払う事で手札から特殊召喚する事ができる。
このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、戦闘で発生する自分への戦闘ダメージは０になる。
このカードが破壊され墓地へ送られた時、自分の手札・デッキ・墓地から「オレイカルコス・シュノロス」１体を召喚条件を無視して特殊召喚する。
「オレイカルコス・シュノロス」の攻撃力はこのカードの効果で無効化した戦闘ダメージと同じ数値になる。

《地縛神Ｗｉｒａｑｏｃｈａ　Ｒａｓｃａ》
効果モンスター　星１０／闇属性／鳥獣族／攻１／守１
１ターンに１度、自分のターンのバトルフェイズをスキップする事で、相手ライフを１にする事ができる。

第１３話（前書き）

今回からＫＣグランプリ編に入ります。

ゴールドシリーズ３０パック買ってトリシュが出なかったｏｒｚ

第１３話

ｓｃｅｎｅ茜

目が覚めると知らない天井…
いや、自分の寝室だ。

ん？
なんで自分の寝室？
たしかダーツと決闘して…

あぁ。
蛇神ゲーと地縛神Ｗｉｒａｑｏｃｈａ　Ｒａｓｃａの攻撃の衝撃で壁に叩き付けられて気を失ったんだっけ。
誰かがＩ２社まで運んでくれたのか。

とりあえず体を起こそうとしたけど、激痛が走り、とてもじゃないけど起きれない。
どうしようかなと思ってると、ドアをノックする音が聞こえた。

「…どうぞ。」

入ってきたのはペガサスだった。

「Ｈｏ、大丈夫なのデ～ス？
随分酷い怪我だったのデ～ス。」

「…体は動かせないけど、一応大丈夫だと思う。
足の感覚がないのが不安だけど。

ところでどれくらい寝てた？」
「２日ほどデ～ス。
今はちょうどお昼前デ～ス。」
「…ありがとう。
そういえばペガサスも大丈夫なの？
孔雀に負けて生け贄になりかけたけど。」
「Ｎｏ～プロブレムデ～ス。
起きたばっかりで悪いのデ～スが、２人来客がいマ～ス。」
客？
一人はラフェールだと思うけど。
もう一人は竜崎？
「…分かった。
起こすの手伝って欲しいんだけど。」
自力じゃ痛くて無理。
「い～え。
そのままでいてくだサ～イ。
連れてきマ～ス。」
そういってペガサスは出ていって、予想通りの２人を連れてきた。
「久しぶりやな！
えらい怪我してもうたな。」

「久しいといえば久しいのか。
約束通り来たぞ。」

「…2人も久しぶり。
まずは竜崎の用件からね。
決意は決まった？」

「まぁな。
今まではなんやかんや言うとったが、楽に勝ちたかっただけやった気がしてな。
強くなるには努力せなあかん思うたからな。」

「…じゃあ、仮に強くなったとして、周りからの視線に耐えれる？
羨望、期待、嫉妬とかに。
特に貴方は昆虫と一緒にいたからそれからの視線。」

「かまへん。
寧ろ、そういう視線を受けてみたいわい。」

「…ならいいけど。
じゃあまずは基礎から勉強してもらう。
内容は後で話す。」

「了解や。」

まずは主なシリーズとかを覚えてもらわないと。
名前や主な効果、対策とか色々。

「…じゃ次はラフェール。
どうしたい？

単純にＩ２社の社員として働くか、竜崎と一緒に決闘を学び直しながら働くか。」

「そうだな。
新しく学び直すのも悪くないな。
では彼と一緒に学びながら仕事もしよう。」

案外あっさり決まったわね。
元からある程度決まってたとはいえ。

「それと、海馬から伝言を預かっている。」

海馬から？

「目が覚めたら連絡しろといっていたが。」

一体何の話だろうか。
まぁ、まずは着替えたい。

「…分かった。
でも、そろそろお昼だから食堂でご飯食べてきたら？
場所は女中に聞けば分かるから。」

「了解や。」

「分かった。」

２人は話しながら部屋を出た。
２人と入れ替わりに女中達が入ってきて、包帯を取り替えてくれたり着替えさせてくれた。

移動する時には車椅子に乗って移動する事にした。
モンスターを実体化すればいいのだが、室内で移動するのにちょうどいい大きさのモンスターがいなかったので諦めた。
ちょっとたって2人が戻って来たので、海馬と連絡をとる事にした。

『夜霧か、目が覚めたのか。』

「…おかげさまで。
で、何の用？」

『あぁ、今回のドーマの事件のせいで我が海馬コーポレーションの評判ががた落ちしてしまったのでな。
イメージアップの為にＫＣグランプリを開く事にしたんだが、それに出て欲しい。』

「…私が？」

『あぁ。
お前はバトルシティ優勝者でもあるしな。
どうだ？』

出たいとは思うけど、出られる状態じゃない。
それか誰か変わりに出してみる？

「…出たいとは思うけど、体が動かないから無理。」

『っ！
そこまで酷い怪我なのか？』

「…少なくとも当分車椅子で生活するくらいには。
私は出れないけど、代理でも出す？」

『代理か。
まぁいい。
お前が選ぶ奴なら問題なかろう。
KCグランプリは1週間後に開催するつもりだ。
迎えを寄越した方がいいか？』

「…お願い。
私も見に行きたいし。」

『承知した。
それまで精々ゆっくり怪我でも治す事だな。』

「…ありがと。
じゃ。」

よし。
代理は竜崎にしよう。
1週間もあれば多少は大丈夫でしょう。

「…ラフェール、竜崎。
話は聞いてたでしょう？」

「一応な。」

「…ならいい。
ラフェールは当日私の傍にいて。」

「分かった。」
「…そして竜崎。
貴方には私の変わりにＫＣグランプリに出てもらう。」
「はぁ？
ちょいと無理やないか！？
１週間しか無いんやで！」
１週間もあればだいぶ変わるのに。
「…大丈夫。
１週間で多少はましになる。」
「はぁ。
まぁワイも強うなれたらどないでも構わへんが。」
なら早速始めよう。
「…それじゃ付いてきて。
ラフェールにはちょっと車椅子を押して欲しいんだけど。」
私は２人を連れてある部屋に向かった。

ｓｃｅｎｅラフェール

私達が茜に付いてやってきた部屋は、一面にカードが置かれており、真ん中に何かの機械が置かれている部屋だった。

「…まず2人はどんなデッキをメインにしたい？」

「ワイは恐竜族やドラゴン族を使うたデッキを作りたいで！」

「私はやはり、墓地にモンスターを置かずに済むデッキを作りたいな。」

これは私の信念だ。
サブデッキならまだいいが、メインデッキは墓地に送りたくない。

「…なら、竜崎はあそこにある恐竜族に関連のあるカードをとってきて、全部覚えて。」

「全部やて！？」

「…種族統一デッキを作るならそれくらいやらないと駄目。
それからエースにしたいモンスターも2～3枚選んどいて。」

「分かったで。
やったるで～！」

竜崎は意気込んでカードの山に向かって行った。
私にはどんな課題を出される事やら。

「…ラフェールは墓地にモンスターを送りたくないというけど、全く送りたくない？

それとも最低限は落ちてもいい？」

「メインデッキだからな。
可能ならば全く送らずに済ませたい。」

「…なら、除外系のカードのカードを使う？
これらなら墓地に送らずに済むけど。」

除外系のカードか。
考えとしてはいいが、生憎除外系のカードは種類が少なかった筈だ。
それも、ヘル・テンペストとかのように使い勝手の悪いカードが多い。

「だが、除外系のカードは種類が少なくないか？
とてもじゃないがデッキが作れるほどではないと思うのだが。」

私がそういうと茜はとある一角を指差した。

「…意見は彼処にあるカードを見てからいって。貴方の知らないカードもあるから。」

私は半信半疑だったが、茜が嘘をつくとも思えなかったのでその言葉に従った。
なので、彼女が指差した場所にあるカードを一枚見てみた。

…なんだ、このカードは？
次元の裂け目。
永続魔法で墓地へ送られるモンスターは墓地へは行かずゲームから除外されるだと！？
こんなカードがあるのか！

私はその後夢中になってカードを見た。
墓地にいくカードを無条件で除外するマクロ・コスモスを始め、様々な除外に関する効果を持つカードがあった。
茜の言った通りだな。
これだけ種類があればデッキが作れない筈がない。

「…どう？
これでも作れない？」

「いや、十分だ。
寧ろ何を入れるべきかで悩むな。」

「…良かった。
後、これを渡しておく。」

そういって3枚のカードを渡してきた。

これは、ガーディアン・エアトス！
だが、私の持っているガーディアン・エアトスと効果が違うな。
だいぶ似ているが。

「…それは私がリメイクしたガーディアン・エアトス。
前のカードは効果は強力だけど、少し使いづらい所があったから使いやすくしといた。
基本的に女神の聖剣に関する所だけ直しておいた。」

確かに女神の聖剣以外の効果はほぼ同じだ。
女神の聖剣を墓地に送ることで発動する効果は多少弱体化されていたが。

だが、私が作ろうとしているデッキとの相性は此方の方がいいな。
墓地にモンスターを送らないからいつでもエアトスを特殊召喚できるしな。

「有り難くもらっておく。」

「…どういたしまして。
そろそろ医師に足を診てもらう時間だから席を外すわ。
効果を覚えながらデッキ作ってて。」

そういって茜は部屋を出ていった。
さて、とりあえずさっき見た次元の裂け目とマクロ・コスモスを入れて…

ｓｃｅｎｅ竜崎

夜霧からカードを覚えるように言われて3日。
その間ホンマに死ぬ気でカードを覚えたで。
その甲斐あってか恐竜族に関してのカードはだいたい覚えてもうた。
夜霧にデッキの構成を変えてデッキを3つ作って欲しい言われたで、とりあえず考えてみたで。

まず前に夜霧が見せたジュラックシリーズや。
恐竜族の融合モンスターはこいつらやないと召喚出来へん。
次にディノインフィニティを切札としたデッキや。
こいつは除外された恐竜族が多いほど攻撃力が上がる奴や。
せやけど、自分から除外するカードが少ないのが残念やな。

後は普通に強力な恐竜族を詰め込んだデッキや。
ドラゴン族は恐竜族が終わってからでええ。恐竜族だけで手一杯やし。
それに夜霧がワイを代理に選んでくれようやし、その期待に答えたいんや。
そうするにはやっぱ恐竜族やないとアカン。

「…デッキ出来た？」

おぉう！？
なんや、夜霧かいな。
急に話しかけられたから驚いたやないか！
せやけど、ちょうどええな。

「のぉ夜霧。
デッキを作ってみたはええけど、いつ実戦練習するんや？
ＫＣグランプリまで後４日しや無いんやけど。」

流石に数回は試してみんと不安やしな。
ワイがそういうと、夜霧は部屋の真ん中にあった用途の分からん機械を指差した。
あれがどないしたん？

「…あれはＩ２社で作ってる決闘のシュミレーションマシン、デュエルターミナル。
ＣＰＵと対戦ができるわ。
レベルは１〜１２まであるけど、デッキの回り具合を確かめるならレベル３以下をお勧めする。

ターミナルを使うにはこのＩＤカードを使って。
ＩＤカードに対戦成績とかが残るから。
私とペガサスは忙しくてあまりこれを使えないから、２人にテストプレイを兼ねて使って欲しいの。」

ほぇ。
決闘のシュミレーションマシンまで作っとるんか。

ほな、遠慮なくやらせてもらおか。
カードを差し込み、レベルを３に設定する。

『ピピッ！
ＩＤ確認中…
確認シマシタ。
ＣＰＵレベル３ニ設定。
使用デッキ…【デミスドーザー】ニ設定。デュエルヲスタートシマス。』

お、始まるようやな。

「決闘や！」

『デュエル。』

「ワイの先攻や！
ドロー！」

今回ワイが選んだデッキはジュラックや。
それに、夜霧から恐竜族以外の融合モンスターの一部も貰っとるし、
よっぽど大丈夫やろ。

「モンスターをセットし、カードを2枚伏せてターンエンドや！」

『ピピッ、ドロー。
手札カラマンジュ・ゴッドヲ召喚。
マンジュ・ゴッドノ効果発動。
自分ノデッキカラ儀式モンスター又ハ儀式魔法カード1枚ヲ手札ニ加エル事ガデキル。
高等儀式術ヲデッキカラ手札ニ加エル。
バトル。
マンジュ・ゴッドデセットモンスターヲ攻撃。』

破壊されたのはジュラック・スタウリコや！
戦闘によって破壊された場合、自分フィールド上に「ジュラックトークン」（恐竜族・炎・星1・攻／守0）2体を守備表示で特殊召喚する効果をもっとるで！

「ジュラック・スタウリコの効果でジュラックトークンを2体特殊召喚するで！」

『ピピッ、2枚セット。
ターンエンド。』

「ワイのターン、ドロー！
ジュラックトークン2体を生け贄に捧げ、ジュラック・タイタンを召喚や！
バトル！
ジュラック・タイタンでマンジュ・ゴッドを攻撃や！」

これでCPUのライフは2600や！

「カードを伏せてターンエンドや！」

『ピピッ、ドロー。
手札カラ儀式魔法、高等儀式術ヲ発動。デッキカラ甲虫装甲騎士２枚ヲ墓地ニ送リ、手札ノ終焉ノ王デミスヲ儀式召喚。』

終焉の王デミスやて？
やけにけったいな名前やけど、どんな効果があるんや？

『終焉ノ王デミスノ効果ヲ発動。
ライフヲ２０００払イ、終焉の王デミス以外ノフィールド上ノカードヲ全テ破壊スル。』

なんやて！？
ＣＰＵのライフは６００まで減ったけど、モンスターを出されたら不味いで！

『破壊サレタ黄金ノ邪神像ノ効果ヲ発動。
コノカードガ破壊サレ墓地ニ送ラレタ時、自分フィールド上ニ邪神トークンを１体特殊召喚スル。
終焉ノ王デミスト邪神トークンデダイレクトアタック。
カードセット。
ターンエンド。』

た、助かったで。
ギリギリ６００残ったで。
そないしても、これでレベル３とかありえへんで。
普通に１ターンキルされかけたで。

「ワイのターン、ドローや！
手札から魔法カード、苦渋の選択を発動！
ジュラック・アウロ３枚にジュラック・ヘレラ２枚の中から選びや！」

『ピピッ。
思考中、思考中。
ジュラック・ヘレラヲ選択。』

「残りは墓地に送るで。
手札から魔法カード、真炎の爆発を発動や！
自分の墓地に存在する守備力２００の炎属性モンスターを可能な限り特殊召喚するで！
この効果で特殊召喚したモンスターはこのターンのエンドフェイズ時にゲームから除外されるけどな。
墓地のジュラック・アウロ３枚を特殊召喚や！
そしてジュラック・アウロ２体を融合！
竜の屍を超えて、全てを食い破れ！
融合召喚！
竜の暴君、ジュラック・ギガノト！」

このカードは夜霧から貰った内の１枚や。
そないしても、なんでこいつ等を使う時に口上を言うんやろな？
まぁええけど。
ジュラック・ギガノトはジュラックと名のついたモンスターの攻撃力を墓地のジュラックの数×２００あげる効果をもっとる。
今、ワイの墓地にジュラックと名のつくモンスターは３枚。
よって６００攻撃力が上がるわけや。
せやけど、まだこれからあげるで！

「手札から魔法カード、天使の施しを発動！
３枚ドローして２枚墓地に送るで！」
苦渋の選択で加えたジュラック・ヘレラとジュラック・ティラヌスを墓地に送ったで。
これで墓地にはジュラックが５体や。

「魔法カード、死者蘇生を発動や！
今捨てたジュラック・ティラヌスを特殊召喚や！
そして、ジュラック・ティラヌスとジュラック・アウロを融合！
影に隠れた臆病者は、全て丸飲みにしてしまえ！
融合召喚！
竜の暴食者、ジュラック・ヴェルヒプト！」

こいつは前の夜霧との決闘で賭けになったカードや。
ジュラック・ヴェルヒプトの攻撃力・守備力は、このカードの融合素材としたモンスターの元々の攻撃力を合計した数値になるで。
まさしく暴食者やな。
今の攻撃力は２００と２５００で２７００や。
そして墓地にはジュラックが６体。
ヴェルヒプトとギガノトの攻撃力は１２００上がって３９００と３３００や！

「これで終わりや！
ジュラック・ヴェルヒプトで終焉の王デミスを攻撃や！」

『ピピッ、リバースカード和睦ノ使者発動。
コノターン、戦闘デモンスターハ破壊サレズ、戦闘ダメージモ受ケナイ。』

防がれてしもうたな。

「カードを伏せてターンエンドや！」

『ピピッ、ドロー。
墓地ノ甲虫装甲騎士２体ヲ除外シテデビルドーザーヲ特殊召喚。
デビルドーザーヲ生ケ贄ニ捧ゲ、偉大魔獣ガーゼットヲ召喚。
コノカードノ攻撃力ハ生ケ贄ニ捧ゲタモンスターノ２倍ニナル。
ヨッテ偉大魔獣ガーゼットノ攻撃力ハ５６００トナル。』

ちょいまちや！
いきなり攻撃力５６００かいな！？
どんだけハイレベルなんや！

『偉大魔獣ガーゼットデジュラック・ギガノトヲ攻撃。』

「させへんで！
メインフェイズ終了時に罠カード、威嚇する咆哮を発動や！
このターンは攻撃できへんで。」

『ピピッ、終焉ノ王デミスト邪神トークンヲ守備表示ニ変更。
ターンエンド。』

ほんま危なかったで。
恐竜族に合うっつう理由で威嚇する咆哮入れといて良かったで。

「ワイのターン、ドローや！」

引いたカードはフォースや！
使い勝手は悪そうやったけど、恐竜族やと相手に攻撃力が上回られ

ると勝てへんから入れといたんや。
今回はそれが役に立ったな！

「手札から魔法カード、フォースを発動や！
フィールド上に表側表示で存在するモンスター２体を選択して発動する。
エンドフェイズ時まで、選択したモンスター１体の攻撃力を半分にし、その数値分もう１体のモンスターの攻撃力をアップするで！
偉大魔獣ガーゼットの攻撃力を半分の２８００にし、ジュラック・ギガノトの攻撃力を２８００上げる！
ジュラック・ギガノトの攻撃力は６１００や！
今度こそ終わりにするで！
ジュラック・ギガノトで偉大魔獣ガーゼットを発動や！」

今度は攻撃が通りＣＰＵのライフが０になった。

『ピピッ、デュエル終了。
ネーム、ダイナソー竜崎通算成績１勝０敗。
…
更新完了シマシタ。
カードヲお受ケ取リ下サイ。』

ふぅ。
マジでしんどかったわ。
せやけど、これでレベル３やろ。レベル１２とかどうなっとるんや？
興味はあるけど、ＫＣグランプリが４日後に迫っとる。
またデッキを調整せんとな。

ｓｃｅｎｅ茜

目が覚めた日、私は自分の右足がおかしい事に気付いた。
全身が痛いのだが、右足だけ何も感じない。
それに、あり得ないくらい禍々しい紫色の傷があった。
流石に普通の怪我ではないと思って、三幻神に聞いてみた所、面倒な事が分かった。

ダーツとの決闘の最後で、右足だけ蛇神ゲーと地縛神Ｗｉｒａｑｏｃｈａ　Ｒａｓｃａの攻撃の余波が直接当たったらしい。
そのせいでこんな傷がついたらしい。
なんで右足だけに当たったのかよくわからなかったけど。
それに、この傷は治らないらしい。
最強クラスの邪神２体の攻撃というのが原因らしく、三幻神でも治せないっぽい。
当然、自然治癒もしない。
一応、この傷は多少足が痛むくらいで日常生活には支障がないらしいが。
はぁ。
とりあえず明日からは長いスカートにしよう。
それかズボンにするか。
傷は隠さないと。

それにしても、ＫＣグランプリね。
何事も無ければいいんだけどね。
無理だとは思うけど。

第１３話（後書き）

主人公の足の怪我の部分はおかしいところだらけとは思いますが、後に使うのでスルーでお願いします。

土日なのに模試とかで潰れて平日以上に忙しかったです…

第１４話（前書き）

更新遅れてすみません。
パソコンに触れなかったので、携帯からの更新です。
まとまった時間が欲しいですｏｒｚ

第１４話

ｓｃｅｎｅ茜

いよいよＫＣグランプリが開催される日になった。
私達３人は今ＫＣ社の飛行機の中にいる。

「ああ、緊張してきたわ。
どないしよう、どないしよう。」

「少しは落ち着いたらどうだ、竜崎。
それにお前はいろんな大会に出てたのではないか？」

「確かに出とったで。
でも今回はＩ２社の推薦、夜霧の変わりに出場やで。
無様な決闘はできへんやで。」

何故か竜崎が妙に緊張している。
それにそこまで私の変わりって事にプレッシャーを感じなくてもいいのに。

この１週間の竜崎の決闘の腕の上がり方は凄まじかった。初日に一回デッキを作らせてみたら、攻撃力しかみないでモンスターを入れたりして悲惨な有り様だった。
それがたった２日で一応だけどジュラックを作り、ターミナルでレベル３を倒した。
そして大会前日の昨日はレベル４を撃破した。
恐らく城之内相手だったら勝てるだろう。

最も、城之内はギャンブル要素が濃いので確実とは言い難いが。
流石に海馬や武藤はまだ倒せないだろうけど、良いところまではいける筈。

それよりも、ひとつ厄介な問題がある。
ここ数日、何処かの会社からのハッキングが四六時中行われている。
それも、海馬にＫＣグランプリに代理を出すといった次の日からだ。
今のところ、侵入はされてないようだが、何か関係があるのだろうか？

まぁ、今はＫＣグランプリで竜崎がどこまでいけるか見学しますか。
移動中だったけど、病み上がりだからか妙に眠くなってしまい、そのまま寝てしまった。

ｓｃｅｎｅ遊戯

僕達は教授の所でどうやって帰るか考えていると、ＫＣのヘリが上空に現れた。
そして中からモクバ君が出てきて、僕達に日本に送る代わりにＫＣグランプリに出て欲しいと言われた。

「つかよ。
別にＫＣじゃなくてＩ２社に頼めばよくねぇか？
俺達を連れてきたのはペガサスなんだしよぉ。」

「へん！
お前等茜とペガサス以外にＩ２社の知り合いがいるのか？」
いないけど、何か問題でもあるのかな？
「今、ペガサスは遺跡巡りをしているらしいから連絡がとれないぜ。
そして茜はまだ目を覚ましてないから連絡しても無駄だぜ！」
えっ！
茜ちゃんまだ目を覚ましてないの？
大丈夫なのかな？
「という訳でＫＣグランプリに参加して欲しいんだよ、遊戯と城之内！」
「でもよぉ、普通こういうのは海馬本人が来て頭を下げるべきじゃねぇのか？」
「そうだけどよぉ！
兄様はＫＣグランプリの主催者として凄く忙しいんだよ！
今回の大会にも出れないくらいなんだよ！」
海馬君が大会に出ない！？
そんなに忙しいんだね。
（どうする？
もう一人の僕？）
『出てもいいんじゃないか？
どうせ日本に帰る方法もないしな。』

（そうだね！）

「モクバ君、僕出るよ！
ＫＣグランプリに！」

「あんまやる気はしねぇが、遊戯が出るっつうんなら俺も出てやるぜ。」

「ほんとか！
助かるぜ、遊戯！
これで成功間違いなしだぜ！」

僕としても大会に出れるのは楽しいし、それで日本まで送ってくれるなら出なきゃ損だよ！

「ねぇ、私も出るわよ！
これでも全米チャンピオンなんだし、問題ないわよね？」

「ああ、勿論だ。
最初から招待する予定だったぜ。
ほら、３人分の招待状だ。

それと、ＫＣグランプリまではホテルをとってあるからそこでゆっくりしてくれよ！
そして、ＫＣグランプリ参加者とその連れはなんと！
オープン前の海馬ランドで遊び放題だぜ！」

海馬ランドで遊び放題だって！？
やったね！

「まじかよ！
海馬も太っ腹だな！」

「これにＫＣの命運がかかっているからな！
それくらい当然だぜ！」

ＫＣの命運を賭けてるって、けっこう責任重大じゃないの！？
さりげなく重要な事に僕達巻き込まれてない？

『くよくよ悩んでてもどうにもならないぜ、相棒。』

うん、もういいや。
なんかいろんな事に巻き込まれすぎてどうでもよくなってきちゃったよ。

僕達は海馬ランドで１週間過ごした。
ずっと海馬ランドで遊んでいたけど、未だに回りきれてない。
どれくらい広いんだろうね？
それと、その間に他の大会参加者もやってきた。
何故かじいちゃんも変装して参加してるし。
城之内君以外にはバレバレなのに…

今日はＫＣグランプリ前日だけど、今来ている参加者は７人。
まだ最後の１人が来ていない。
最初は僕も参加者の筈だったんだけど、５日くらい前にモクバ君からグランプリの優勝者と決闘してもらうって言われた。
僕としては茜ちゃんがやった方がバトルシティ優勝者だし適任だと

思ったんだけど、どうやら参加しないらしいね。
茜ちゃんも海馬君と同じく忙しいのかな？

そんな事を考えていると、上空から飛行機が近くの着陸場に着いた。
あれに最後の１人が乗ってるのかな？

「なぁ皆。
あれに誰が乗ってるか気にならねぇか？」

「私も気になる！
ねぇダーリン、見に行きましょう！」

そう言ってレベッカは僕の手を掴んで引っ張って行く。
為す術なく僕は引っ張られた。

僕達が着いた時には、タイミングが良かったのか人が降りてくる所だった。
車椅子を誰かが押しているね。
う～ん。
何処かで見た気がするなぁ。

『相棒、あれは茜とラフェールと竜崎じゃないか？』

え、嘘！？
よ～く目を凝らして見ると、確かに３人が見えた。
ってあれ？
茜ちゃんは大会に参加しないんじゃなかったの？
皆も３人に気付いたようで声をかけていた。

「よう、夜霧！
それに竜崎も久しぶりだな！」

「城之内やないかい、久しぶりやな！
それと、ちょい静かにしてもらえへんか？
夜霧が飛行機の中で寝てしもうてな。
そのまま寝かしときたいんや。」

「わりぃな。」

茜ちゃんは寝てるんだ。
疲れてるのかな？

「久しぶりだな、名も無きファラオと武藤遊戯。」

「久しぶりだね、ラフェール。
茜ちゃんはやっぱりＫＣグランプリに出るの？」

「いや、彼女は出ない。
最近体が動かせるようになったばかりだからな。
とてもではないが決闘など出来ん。
さっきも飛行機でここまで来たが、途中で体力がなくなって寝てしまったくらいだからな。」

そんなに酷かったんだ。
なら、どうして海馬ランドに来たんだろう？

暫く話してから、ラフェールは茜ちゃんを部屋に送っていった。
竜崎君は海馬ランドを回りたいといって僕達と行動する事になった。

ｓｃｅｎｅ城之内

竜崎も加えて全員で海馬ランドを回って暫く経つと、羽蛾の野郎が見えた。
どうやって入って来たんだ？

「やっと見つけたぜ、遊戯！
なんでもＫＣグランプリとやらに出るんだってな！？
それを聞いて態々来たぜ！
今日こそお前を倒して優勝商品のレアカードを…ってなんで竜崎がいるんだ！」

「へん！
ワイはきちんと招待されとるわ！
同伴者としてやけどな。
（夜霧にワイが出ることはギリギリまで秘密にしとけ言われたからな。）
お前さんとは違うわい！」

まぁ、竜崎は夜霧と一緒に来たからな。

「なに！？
この裏切り者め！
俺達は一緒にレアカードを貰いにアメリカに来たんじゃなかったのか！？

なのにどうして1人だけで美味しい思いをしているんだよ！」
「んな事言われても困るで。
お前さんが夜霧に勝手に殴りかけて逃げてしもうたやないか。」
「そんな事どうでもいい！
遊戯と決闘しようと思っていたが、気が変わった。
竜崎、俺と決闘しろ！」
…なんつうか、羽蛾の逆恨みというか八つ当たりというか。
ドンマイ、竜崎。
「はぁ。
どうせ断っても無駄なんやろ？
なら受けるしかないやろ。
んと、こいつでええか。」
ほぇ。
あいつデッキを3つ持ってるのか。
「ほな、始めよか。」
「「決闘！」」
「先攻は貰うぞ、ドロー！
代打バッターを守備表示で召喚！
カードを2枚伏せてターンエンドだ！」
「ワイのターンや、ドロー！
手札からキラーザウルスの効果を発動や！

このカードを手札から墓地に捨てて、デッキからジュラシックワールド1枚を手札に加えるで！
そしてフィールド魔法、ジュラシックワールドを発動や！」

おお！
なんかジャングルみたいなフィールドが出てきた。

「そして暗黒プテラを召喚！
暗黒プテラを生け贄に捧げ、魔法カード大進化薬を発動！
相手のターンで数えて3ターンの間、レベル5以上の恐竜族モンスターを生け贄なしで召喚する事ができるで！
暗黒プテラは戦闘以外で墓地に送られた時、手札に戻ってくる！
カードを2枚伏せてターンエンドや！」

モンスターがいないが、大丈夫か？

「場ががら空きだな！
俺のターン、ドロー！
魔法カード、殺虫剤を発動！
代打バッターを破壊する！
そして、代打バッターの効果でインセクト女王を特殊召喚！
共鳴虫を召喚！
バトルだ！
共鳴虫を生け贄に捧げ、女王様で直接攻撃！」

「永続罠、化石発掘を発動や！
手札を1枚捨てるで。
そして、今捨てた超伝導恐獣を効果を無効化して特殊召喚や！
超伝導恐獣の攻撃力は３３００！
更にジュラシックワールドの効果で攻撃力が３００上がって３６０

０や！」
攻撃力３６００だと！？
「くっ、ターンエンドだ。」
「ワイのターン、ドロー！
魔法カード、運命の宝札を発動や！」
出は目は…６！
「６やから６枚ドロー！
そしてデッキの上から６枚除外されるで。
ワイは暗黒ドリケラトプスを攻撃表示で召喚や！
バトルや！
暗黒ドリケラトプスでインセクト女王を攻撃！」
「女王様ぁ！」
「まだ終わっとらんで！
超伝導恐獣で直接攻撃や！」
「うわぁ！」
これで羽蛾のライフは残り１００。
次で終わりだな！
「くっ、ドロー！
共鳴虫を守備表示で召喚！
カードを伏せてターンエンドだ！

「ワイのターン、ドローや！
エレメント・ザウルス攻撃表示で召喚や！
エレメント・ザウルスは場に地属性がいるとき、戦闘によって破壊した効果モンスターの効果は無効化されるで。
これで終わりや！
エレメント・ザウルスで共鳴虫を攻撃！
リクルーターとしての効果はつかえへんで。」

「速攻魔法、コマンド・サイレンサーを発動！
攻撃を無効にし、バトルを終了させる！
そして互いに1枚ドロー！」

「メインフェイズ2に魔法カード、苦渋の選択を発動や！
エレメント・ザウルス、究極恐獣2枚、超伝導恐獣2枚から選択しいや。」

「なら、究極恐獣を選ぶ！」

「残りは墓地にいくで。
カードを3枚伏せてターンエンドや！」

強いな、竜崎。
闘ったら、勝てるか？

「僕のターン、ドロー！
永続罠、ＤＮＡ改造手術を発動！
フィールド上のモンスターを昆虫族に変える！
更に永続魔法、虫除けバリアーを発動！
相手の昆虫族モンスターは攻撃できない！

カードを伏せてターンエンドだ！」
「ワイのターン、ドローや！
面倒なコンボやな。
カードを2枚伏せてターンエンドや。」
流石にあのコンボを破るのは時間がかかるな。
「俺のターン、ドロー！
魔法カード、トゲトゲ神の殺虫剤を発動！
場の昆虫族を全て破壊する！
ＤＮＡ改造手術の効果でお前のモンスターは昆虫族になってるからな、ヒョヒョヒョ。」
「なんやて！？
ワイの恐竜達が！」
不味いぞ！
竜崎の場はがら空きだぞ！
「魔法カード、死者蘇生を発動！
女王様を復活する！
そしてコカローチナイトを召喚！
バトルだ！
コカローチ・ナイトで直接攻撃！」
「罠カード、生存本能を発動や！
自分の墓地の恐竜族を除外して、その数×４００のライフを回復する！
墓地の恐竜族８枚を除外してライフを３２００回復するで！」

これで直接攻撃を喰らってもライフは４０００だな！

「くっ！

だが、直接攻撃は受けてもらう！

そして、コカローチ・ナイトを生け贄に捧げ、女王様で直接攻撃だ！

コカローチ・ナイトの効果でこのカードはデッキの一番上に戻る！

ターンエンドだ！」

「ワイのターン、ドローや！

ベビケラサウルスを守備表示で召喚や！

そしてエンドフェイズに罠カード、大噴火を発動や！

場のカードを全て破壊するで！」

うぉ！

地震みたいな揺れが起きて、火山が噴火しやがった！

ソリッドヴィジョンとはいえ、かなり怖ぇぞこれ！

「女王様ぁ！」

「そしてベビケラサウルスの効果を発動や！

このカードが効果によって破壊され墓地へ送られた時、デッキから

レベル４以下の恐竜族モンスター１体を選択して　自分フィールド

上に特殊召喚する！

ディノインフィニティを特殊召喚！」

なっ！？

攻撃力１２０００だと！？

有り得ねぇだろ、その数字！

「ディノインフィニティの元々の攻撃力は、除外された自分が持ち主の恐竜族モンスターの数×１０００ポイントの数値になるで！
ワイのターンは終わりや！」

さっきの生存本能はこいつの攻撃力を上げる事が目的か！

「くっ！
ドロー！
コカローチ・ナイトを守備表示で召喚。
ターンエンドだ。」「ワイのターン、ドローや！
これで決めるで！
ディノインフィニティをもう一体召喚や。
魔法カード、強行軍を発動や！
発動ターンのエンドフェイズまで、自分フィールド上に表側攻撃表示で存在する全てのモンスターの攻撃力を半分にする事で相手プレイヤーに直接攻撃する事ができる！」

「なんだと！？」

ディノインフィニティの攻撃力は１２０００だから、６０００で直接攻撃できる！

「ディノインフィニティ２体で羽蛾に直接攻撃や！
ダブル・インフィニティ・ファング！」

「うわぁぁぁ！」

すげぇな、竜崎。
それにしてもすっきりした顔してるな。
あいつも頭にきてたのか？

「これで満足やろ。
さっさと帰りや。」

「くそぉぉ！
覚えてろぉぉ！」

羽蛾は捨て台詞を残して逃げてったな。
あいつよく逃げてるよな。

俺達は竜崎と一緒に海馬ランドを回る事にした。
海馬ランドの中心にある、ブルーアイズドームに着いた。

第１４話（後書き）

なんか羽蛾が決闘してる回数が無駄に多い気が…

《ジュラシックワールド》
フィールド魔法
恐竜族・鳥獣族モンスターの攻撃力・守備力を３００ポイントアップする。
恐竜族・鳥獣族は相手の罠の対象とならず、効果も受けない。
自分のコントロールする攻撃表示の恐竜族・鳥獣族モンスターが相手モンスターの攻撃対象になった時、そのモンスターを守備表示にする事ができる。

《強行軍》
通常魔法
発動ターンのエンドフェイズまで、自分フィールド上に表側攻撃表示で存在する全てのモンスターの攻撃力を半分にする事で相手プレイヤーに直接攻撃する事ができる。

第１５話（前書き）

更新が遅れてすみません。

大まかな流れはあるのですが、詳細は殆どアドリブでいってたらネタがでてこない…

今回も繋ぎだと思って下さい。

次回は…まともになると思うので。

第１５話

ｓｃｅｎｅジーク

「ジーク様、海馬コーポレーションよりＫＣグランプリへの招待状が届いております。」

ＫＣグランプリか。
んふふふ。
君はまだ知らない。
ＫＣの起死回生を狙ったこのイベントこそが、海馬瀬人。
これが君の命取りになるのだよ。

少し面白い余興とでもしゃれこもうか。

ｓｅｎｃｅ城之内

俺達はブルーアイズドームにやってきた。
結構広いな。
なんでもここがメイン会場で、決闘の様子が全世界に流れるらしい。
みっともない戦いはできないな。
ちょうど誰かが決闘しているところで、スケープ・ゴートとＤＮＡ改造手術のコンボでＦＧＤを召喚したところだった。
コンピューターのくせにあんなものまで使えるのかよ！？

「へへ！
驚いたか！？

あのデュエルマシンには世界中のあらゆるカードと決闘者のデータが入ってるんだぜ！
それにレベルも自由に変えれるから初心者でも楽しめるんだぜ！」
それはすげぇな。
「そういやＩ２社も決闘シュミレーションマシンのデュエルターミナルっつうモンがあったで。」
Ｉ２社もそういうのを作ってるんだな。
「おい竜崎、それはほんとかよ！？
もしほんとうだったら、Ｉ２社とのシェア争いになっちまうよ！」
「どないしたねん、そないに慌てて。
デュエルターミナルの本来の用途はＩ２社で作ったカードの試運転らしいで問題ないやろ。
それに、あんなん一般向けとちゃうで。
モクバ、今の決闘のレベルはどれくらいや？」
「確かあれはレベルマックスだぜ。」
レベルマックスかよ！
けっこう強そうだったしな。
「多分あれはデュエルターミナルやとレベル１か２やで？
もうレベル５以上は今のワイには無理やったでな。」
おいおい！？
あれがレベル１だと！？

それに竜崎のデッキはかなりバランスが良くなってた筈だ。
遊戯も褒めてたくらいだからな。
それがレベル４までしか勝てないってどんだけだよ！？

「竜崎君のデッキでレベル４が限界かぁ。
一回そのデュエルターミナル僕もやってみたいな。」

遊戯！？
俺もやってみたいとは思うけどよぉ。

「ならＫＣグランプリが終わった後で夜霧に頼めばええやろ。
それに、デッキ診断も出来るしな。」

デッキ診断もできるのか。
もうなんでも有りだな。

「まぁそれなら問題ないっか。
ＫＣとしてはＩ２社とは争いたくないしな！」

俺達が話し込んでいると、子供達がよってきた。

「あ、バトルシティ準優勝者の遊戯さんだ！
サイン下さい！」

「僕も！」

「私も！」

遊戯は子供達にもみくちゃにされてるな。
にしてもすげぇ人気だな。

俺もバトルシティベスト5なんだが、何なんだよこの格差。
俺が微妙にしょげていると、一人の子が遊戯にデッキを見て欲しいと頼んできた。
俺も気になったので覗いてみる。
どれどれ…
って殆どしドラゴン族しか入ってねぇじゃねえかよ！？
なんか昔の俺を思い出すな…
俺もモンスターしか入れてなくて遊戯に散々言われたからな。
たしか、

『なぁにこれぇ、全部戦闘タイプのモンスターじゃない、ダメだよこれじゃ。
デュエルモンスターズじゃ魔法カードとモンスターカードのコンビネーションが重要なんだ。
モンスターだけじゃ相手の魔法カードに軽くいなされちゃうよ。』

…今思うとなかなか酷い事言ってるな、遊戯の奴。
流石に子供相手に同じ事は言わなぇよな？

「確かにバランスは良くないね。
けど、君がカードを好きだって気持ちが君のカードを強くするんだ。
」

いいこと言うぜ、遊戯。
そして竜崎、何故お前は遊戯を恨めしげに睨みつけてるんだ？
あんのチートドローの持ち主、全員がお前のような運を持っとると思うなよって呟いてるが。

「そうだ！
そんな君にこれを上げるよ！
僕の親友に似てるんだよ。」

凡骨の意地？
おい、まさかその親友って俺じゃないよな？
なんか本田達が俺をチラッと見て笑ってるのは気のせいだよな？
絶対そうだ！

遊戯からカードを貰った子供は喜んでデュエルマシーンに挑戦しにいった。
まぁ初心者レベルなら大丈夫か？

子供がデッキをセットして、決闘が始まろうとした時だった。
突然ドームの入り口が封鎖されてしまった。
子供達はかなりパニクってんな。
俺も人の事言えねぇけど。

レベッカがいろいろハッキングとかして、どうやらレベルマックスのデュエルマシーンを倒さないと出れないらしい。
つか、ＫＣってハッキング喰らいすぎじゃねぇか？

で、デッキはさっきのモンスターばっかのやつだ。
遊戯が子供の変わりに決闘する事になったが、流石に勝てんのか？

ｓｃｅｎｅ竜崎

『私のターン、ドロー。
怒れる類人猿を攻撃表示で召喚。
ターンエンド。』

ちょい待ちや。
これレベルマックスやろ？
なんで伏せカードすらないんや！？
しかも攻撃力は所詮２０００。
どうみても雑魚やろ。
せやけど、あのデッキやときついとちゃうか？

「俺のターン、ドロー！
くっ！
プチリュウを守備表示で召喚！
ターンエンドだ。」

やっぱあのデッキやと遊戯でも事故るようやな。

『私のターン、ドロー。
魔法カード発動、コストダウン。
手札を1枚捨てることで、手札にあるモンスターカードのレベルを
2つ下げます。
よって天空騎士パーシアスが召喚可能になりました。
天空騎士パーシアスを攻撃表示で召喚！
天空騎士パーシアスの特殊能力、守備表示モンスターを攻撃した時、
攻撃力が相手の守備力を超えている分だけプレイヤーへダメージを
与えます。
天空騎士パーシアスでプチリュウを攻撃。』

「くっ…」

『そして天空騎士パーシアスの効果でドロー。
バトル続行。
怒れる猿人類でダイレクトアタック。』

「ぐわあぁぁ！」

これで遊戯の残りライフは８００やな。
あんなチャンスでたかだか４０００のライフを削れんってどないやっとるねん！？
それか、これが普通で夜霧の所のデュエルターミナルが異常なんやろか？
せやけど、あのデュエルマシーンは世界中の決闘者のデータが入っとる言うとった。
せなら、もうちょいましなデッキ作れると思うんやけどな。

その後もＣＰＵは人造人間サイコショッカーを召喚したりしたで。
最も、あのデッキに罠カードはなかったけどな。
遊戯は追い詰められ、残りのライフが２００で手札もなくなってしもうた。
せやけど、場には凡骨の意地がある。
次のドローに懸かっとるで。
まぁ、遊戯のドロー運なら問題ないやろ。

『俺のターン、ドロー！
君のデッキは、君の思いに応えてくれた…！
この瞬間！
永続魔法、凡骨の意地の効果発動！
ドローしたカードが通常モンスターだった場合、そのカードを相手

に見せることでもう1枚ドローすることができる！オレが引いたのはこれだ…！
カース・オブ・ドラゴン！
もう1枚ドローする！
デビルドラゴン！
ドロー！
砦を守る翼竜！
ドロー！
ダイヤモンドドラゴン！
ドロー！
地を這うドラゴン！
ドロー！
暗黒の竜王！
ドロー！」

おお、一気に手札が7枚まで増えたで。
せや、さりげなくダイヤモンドドラゴンがあったが、あれけっこうなレアカードとちゃうか？

「俺はスピリット・ドラゴンを攻撃表示で召喚！」

スピリット・ドラゴンか。
なんか攻撃力を上げる効果があった気がするけど、どないな効果やったっけ？

「スピリットドラゴンの特殊効果発動！
バトルの時、手札のドラゴン族モンスターを墓地に捨てるたびに攻撃力・守備力を１０００ポイントアップする！
オレの手札にドラゴン族のモンスターは６枚…！
攻撃力６０００ポイントアップ！

行けスピリットドラゴン！
スピリットバーストオオオオッ！！」

攻撃力７０００の攻撃がサイコショッカーに直撃し、ＣＰＵのライフが０になった。
いやぁ、でもホンマハッキング喰らったのがＫＣで助かったわ。
もしこれがＩ２社のデュエルターミナルだったら…
おお、考えるだけで怖いで。
一回面白半分で１２レベルに挑んだけど、ライフハンデ１０倍で負けてしもうたくらいやし。

にしても、あのデッキで勝った遊戯はやっぱり強いで。
強いというよりは強運つうべきやろか？
せやけど、城之内も強運つうか悪運あるしな。

まあとりあえず無事に外に出れたからよしとするか。

「遊戯～！
なんだよあのカード！
まさかお前までオレのこと凡骨だと思ってねーよな！？」

ん、なんや城之内。
お前さんまだ自覚がなかったんかいな？
まぁその凡骨に負けたワイがいう資格はないけどな。
せやけど、今回の大会で絶対にリベンジしてやるで！

「え？
あ、あれはその…
後は頼む、相棒！」

「ええ！？
ひどいよもう一人の僕！」

なんや、遊戯もえらい世渡り上手になってんな。
その変わりにもう一人は犠牲になってるっぽうけどな。

「誰が凡骨だよチクショー！」

うるさいで、城之内。
だから凡骨言われるんちゅうねん。
関係あらへんけど。

そんな事を考えておると、ヘリがついて海馬がえらい形相でやってきたで
弟が心配やったんやろか？

「海馬！
今ごろ来やがって！
お前が作ったデュエルコンピューターのせいで酷い目に遭ったんだぞ！？」

「わめくな凡骨！
あれはオレのミスではない、何者かが我が社のシステムにハッキングをかけて来たのだ。
恐らくＫＣグランプリが成功するのが面白くない輩の仕業だろうが…
オレに挑戦したことを必ず後悔させてやる！」

いや、その発言どうかと思うで。
ワイも夜霧の受け売りやけど、ハッキングは確かにミスやあらへんが、侵入された事は確実にＫＣのミスや。

Ｉ２社でハッキングされたっつう話は聞かへんかったしな。
ＫＣの警備が甘い証拠や。

それと、今回のハッカーは確実に社会的に終わったで。
今回の大会はＫＣの威厳を取り戻すイベントや。
せやけど、このイベントはＩ２社にも多少影響する。

この前の事件で手に入った株の一部はまだＩ２社が持っとるらしいでな。
ＫＣの株が下がればＩ２社も損する事になる。
夜霧がその事態をほっとくわけないやろ。
どんな報復がくるか分からんけどひとつ言えるのは、絶対に逃げ切れない事やな。
Ｉ２社を舐めたらあかんで。

とりあえずワイ等は宿泊先に戻った。
夜霧はもう起きてたから、ワイは今日起こった事を話した。
夜霧は大まかになら犯人の目星はついとるらしいけど、証拠がないらしい。
結局、ＫＣグランプリで相手が動くのを待つしかないらしいで。

とりあえずワイの目標は、城之内を倒す事や！
犯人探しは夜霧やラフェールがやってくれるやろ。
ワイは自分の出来る事をやるで！
とりあえずデッキの調整でもしよか。

ｓｃｅｎｅジーク

ふむ。
バトルシティ準優勝者の武藤遊戯。
彼もＫＣグランプリに参加するとは。
実に好都合。彼を倒し、ＫＣグランプリで我が家の権威を示してやるのだ！

だが、念には念をいれてあれをもっていく事にしよう。
フッフッフ。

「「「いってらっしゃいませ、ジーク様。
いってらっしゃいませ、ジーク様。」」」

さあ、幕開けといこうではないか！

第１５話（後書き）

今回の話に合わせるために１４話の最後を変更しました。

時間と文才が欲しいこの頃です。

第１６話

ｓｃｅｎｅ茜

『皆さまお待たせ致しました！
海馬コーポレーション主催、ＫＣグランプリ・最強デュエリスト決定トーナメント開会式を開始します！
大会に先立ちまして、決闘者の招待に参りたいと思います！

最初の決闘者はこの方！
立ちはだかる強敵は全てその身に宿す悪運で切り抜けてきたギャンブラー決闘者、城之内克也選手！』

最初から凄まじい紹介ね。
まぁ間違ってはないけど。

「どうも～！
って、なんだよこの紹介は！？
俺が大会とかで勝ち上がったのは運がいいだけだと思ってんのかよ！？
誰だ、これを考えたのは！？」

『さて、どうやら大会前から興奮しておりますね。
それだけこの大会に意気込んでおられるのでしょう！

続いて二人目の決闘者！
我等がアメリカの誇る若き全米チャンピオン！
レベッカ・ホプキンス選手！』

「みんなぁ！
応援よろしくねぇ～！」

『続いて3人目の決闘者！
アジアのデュエルクイーン、ヴィヴィアン・ウォン選手！』

「ニーハオ！
よろしくね！」

『4人目の決闘者！
若年10歳にして数々の大会で優秀な成績を納めている、レオン・ウィルソン選手！』

「みなさん、よろしくお願いします！」

レオン・ウィルソン？
おかしい。
此方の資料にはレオン・フォン・シュレイダーとあるけど。
にしてもシュレイダー家ね。
彼は問題ないけど、シュレイダー家は危ないわね。
特に彼の兄のジークフリード・フォン・シュレイダーは。
去年一回パーティーであったけど、あんなナルシストは世界中を探しても他にいないだろう。

それに、今回のKCにちょっかいをかけているのも恐らくというか間違いなくシュレイダー家だろう。
愚かにI2社にもハッキングしてきたくらいだし。
勿論逆探知していろいろとウイルスを送り込んどいた。
ちょうどいい暇つぶしにはなったからよかったけど。

『5人目の決闘者！
デュエル界のカリスマといえばこの人あり！
ジーク・ロイド選手！』

…海馬は何を考えてるの？わざわざ今回の妨害者張本人を呼ばなくてもいいのに。
このまま直ぐ捕まえてもいいけど、一応証拠はない。
そうするとKCグランプリは間違いなく失敗してしまう。
はぁ、面倒ね。

「…ラフェール。」

「ん？
どうした茜。」

「…さっきのナルシストの行動をKC側が気づくように仕向けといて。
で、ナルシストにKCじゃなくて此方に警戒させるのもよろしく。
後、あれと決闘する事になったらこのデッキ使って。
ちょうどアレのいい御披露目になりそうだし。」

あのナルシストには生け贄になって貰おう。
まだ怪我が完治してないのに、態々仕事を増やしてくれたお礼はたっぷりしないとね。
ウイルスは送り込んけど、調査にどれだけの時間を浪費したか…

「り、了解した。して茜、どのくらいで倒せばいいのだ？」

少しラフェールの顔色が悪いけど、気のせいよね？

「…そうね。
じっくりいたぶってからで問題ないわ。
最初の数ターンはわざと不利な状況にしておいて。
その方が観客も盛り上がるし。
それの回し方は分かってるわね？」

「勿論だ。
では、少しここを離れる。」

そそくさとラフェールは仕事に向かってった。

いつの間にか残る選手は竜崎だけになっていた。

『８人目の決闘者！
Ｉ２社の推薦により出場！
元全日本選手権準優勝者、ダイナソー竜崎選手！』

「ども～！」

「竜崎！？
お前夜霧の付き添いだけじゃねぇのかよ！？」

「すまんな、あれ半分嘘や。
夜霧に誰にも言うな言われてもうたでの。」

「はぁ、まぁいいや。
とりあえずよろしくな。」

「こちらこそや。」

『では、次はＫＣ副社長のモクバ様の開催宣言です！』

「こほん！
これより海馬コーポレーション主催！
ＫＣグランプリ・最強デュエリスト決定戦を開催する！
ＫＣグランプリ王者には、なんとバトルシティ準優勝者武藤遊戯と戦う権利が与えられるんだぜ！
遊戯、一言みんなに挨拶してくれよ！」

なかなかな無茶振りで。
こういう場に慣れてないのか顔を真っ赤にして壇上に上がる武藤。
かなり珍しいかも。

「え、え～と。」

武藤が諦めて話しだそうとした時、上空から爆音がした。
何事かと上を向いたが…

なんでジェットスクランダーをつけて降りてこようと思ったのよ、海馬。
しかもスーツが青眼の白龍にそっくりって。
どれだけ目立ちたがり屋なんだか…

「諸君！
これだけは言っておく！
これは祭りではない、ショーでもない！
デュエリスト達によるプライドを賭けた生き残りのゲームだ！
諸君たちが目撃するのはデュエリスト達の断末魔と、たった一人の歓喜の声！
選ばれたデュエリスト達よ、生き残りたくば勝て！

このオレにその生き様を見せてみよ！」

いやいや、これＫＣの評判回復の為の大会でしょう。
いくら建前とはいえ、仰々しすぎな気が。

「そして、この大会には出場しないが、武藤遊戯以外のゲストも呼んでいる！」

会場から驚きの声が響く。
…海馬、後で覚えててね。

「バトルシティ優勝者でＩ２社の副社長の夜霧茜だ！
彼女からも一言挨拶がある！」

海馬の部下も私が話すとは知らなかったらしく、慌ててマイクを持って走って来た。
傍若無人な上司をもって大変ね。

『…先程の海馬社長の繰り返しになりますが、決闘者の皆さん。
各々自身のベストを尽くし、この大会に相応しい決闘を観れることを楽しみにしています。』

『海馬社長、夜霧様、ありがとうございました！
では、早速一回戦に参りましょう！
対戦の組み合わせはコンピューターによって自動的に組分けられます！

第１試合！
レベッカ・ホプキンスＶＳヴィヴィアン・ウォン！

第２試合！
レオン・ウィルソンＶＳマスク・ザ・ロック！
第３試合！
ジーク・ロイドＶＳ！
第４試合！
ダイナソー竜崎ＶＳ城之内克也！』

いきなり城之内とね。
２人の実力は互角でデッキ構成はダントツで竜崎の方が上。
これだけ見れば、竜崎の方が優位。
ただ、城之内の運は恐ろしい。
こればかりは数字では判断できない。

『第１試合は中華街！
第２試合は古代の神殿前！
第３試合はジェットコースター前！
第４試合はジュラシックパークにて、１時間後に開始されます！
なお、全ての試合はこちらからモニターで観戦出来ます！』

ジュラシックパークか。
竜崎に都合のいい場所ね。
折角だし、見に行こうかしら。

ｓｃｅｎｅ遊戯

僕達は城之内君の応援の為、ジュラシックパークに向かってる。
レベッカの応援にも行きたかったけど、本人から「あの女とは決着を着けないといけないから来なくていい。」って言われちゃった。
物凄く燃えてたけど、何かあったのかな？

僕達が着くとそこには既に竜崎君と茜ちゃんがいて、竜崎君はデッキの調整をしているみたい。
そういや城之内君はまだ居ないけど、大丈夫かな？

「城之内の奴、道に迷ってたりしてないだろうな！？
後５分しかないぞ！」

結局城之内君は決闘開始１分前に辿り着いた。
服に葉っぱや木の枝が着いてたりするけど、やっぱり迷ってた？

「待たせたな、竜崎！」

「ようやっと来たかい。
待ちくたびれたわい。」

「では、トーナメント１回戦第４試合を始めます！」

「「決闘！」」

「俺の先攻、ドロー！
鉄の騎士ギア・フリードを攻撃表示で召喚！
カードを2枚伏せてターンエンドだ！」

「ワイのターン、ドローや！
フィールド魔法、ジュラシックワールドを発動や！
つってもここは元々ジュラシックパークやし、見た目は変わらへんけどな。」

確かに殆ど変わってないね。

「ハイドロゲドンを召喚や！
バトルや！
ハイドロゲドンで鉄の騎士ギア・フリードを攻撃や！
ハイドロ・ブレス！」

ハイドロゲドンの方が攻撃力は低い筈…
ああ！
ジュラシックワールドの効果で攻撃力が３００上がるんだった！
ハイドロゲドンの攻撃がギアフリードに直撃し、破壊されちゃった。

「ハイドロゲドンの効果を発動や！
このカードが戦闘によって相手モンスターを破壊し墓地へ送った時、
自分のデッキからハイドロゲドン1体を特殊召喚する事ができる！
特殊召喚したハイドロゲドンで城之内に直接攻撃や！」

「させるかよ！
速攻魔法、スケープゴートを発動！
羊トークンを4体守備表示で特殊召喚するぜ！」

「なら、ハイドロゲドンでトークンを攻撃や！
カードを3枚伏せてターンエンドや！」

「俺のターン、ドロー！
手札から融合を発動！
ベビードラゴンとワイバーンの戦士を融合！
現れろ、ドラゴンに乗るワイバーン！
手札から魔法カード、天よりの宝札を発動！
互いに手札が6枚になるようにドローする！
バトルだ！
ドラゴンに乗るワイバーンで直接攻撃！
こいつは相手フィールド上に表側表示で存在するモンスターが地・水・炎属性のみの場合、相手プレイヤーを直接攻撃する事ができる！
滑空剣！」

「ちぃ！
面倒なモンスターやで。」

これで城之内のライフが竜崎君のライフを上回った！
でも、次のターンで攻撃されたらハイドロゲドンが増えちゃう！

「カードを2枚伏せてターンエンドだ！」

「ワイのターン、ドローや！
魔法カード、苦渋の選択を発動や！
ジュラック・アウロ、ジュラック・ガリム、ジュラック・グアイバ、ジュラック・デイノ、ジュラック・ヴェローを選択するで。」

「なら俺はジュラック・グアイバを選ぶぜ！」

「グアイバを手札に加え、残りは墓地に送るで。
ハイドロゲドンを生け贄にして魔法カード、大進化薬を発動や！
超古代恐獣を攻撃表示で生け贄無しで召喚や！
そして永続罠、リミット・リバースを発動や！
墓地のジュラック・アウロを特殊召喚するで！
そして超古代恐獣の効果を発動や！
墓地から恐竜族が特殊召喚した時、１枚ドローするで！
そしてジュラック・アウロの効果を発動や！
このカードを生け贄に捧げ、墓地のレベル４以下のジュラック１体を特殊召喚するで！
ジュラック・ヴェローを特殊召喚し、超古代恐獣の効果で１枚ドローや！」

えっと、竜崎君の場には超古代恐獣にハイドロゲドン、ジュラック・ヴェローに手札が…７枚！？

「バトルや！
ジュラック・ヴェローでドラゴンに乗るワイバーンを攻撃や！」

「永続罠、モンスターＢＯＸを発動！
相手モンスターが攻撃をする度に、コイントスで裏表を当てる！
当たりの場合、攻撃モンスターの攻撃力は０になるぜ！
裏を選択！」

そしてコインは…裏だ！

「おっし！
迎え打て、ドラゴンに乗るワイバーン！」

これで竜崎君のライフは後６００だ！

「やっぱ出よったか、ギャンブルカード。
ジュラック・ヴェローの効果を発動や！
表側攻撃表示で存在する　ジュラック・ヴェローが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、自分のデッキから攻撃力１７００以下のジュラックと名のついたモンスター１体を特殊召喚する事ができる！
ジュラック・モノロフを特殊召喚や！
そしてジュラック・モノロフでドラゴンに乗るワイバーンを攻撃や！」

「へん！
またモンスターＢＯＸの効果を発動するぜ！」

「何回もやらせへんで！
手札から速攻魔法、サイクロンを発動や！
モンスターＢＯＸを破壊するで！」

ん？
なんでさっきは発動しなかったんだろう？
そうすればモンスターは破壊されなくてダメージも受けずに済んだのに。

「ジュラック・モノロフは相手フィールド上に存在する全てのモンスターに１回ずつ攻撃をする事ができるで！
全ての羊トークンに攻撃や！」

成る程。
ジュラック・ヴェローでワイバーンを破壊できればそれでよし。
ダメージを喰らってもジュラック・モノロフが出て、結局はモンスターを殲滅できたって訳だね。

「ハイドロゲドンで直接攻撃や！」

「ぐっ！」

不味い！
城之内君の残りライフは１９００！
超古代恐獣の攻撃を受けたら負けてしまう！

「これで終わりや！
超古代恐獣で城之内に直撃攻撃や！」

「罠カード、悪魔のサイコロを発動！
サイコロを振り、出た目で相手のモンスター１体の攻撃力を割るぜ！」

１以外の数字が出ればこのターンは凌げるね！
そして出た目は…３！

「よしっ！
超古代恐獣の攻撃力は１０００に下がるぜ！」

「悪運の強いやっちゃな、城之内！
カードを２枚伏せてターンエンドや！」

「俺のターン、ドロー！
黒竜の雛を召喚！
そして黒竜の雛を生け贄に捧げ、真紅眼の黒竜を特殊召喚！」

「真紅眼の黒竜…。」

「今度は俺が追い詰めたぜ！
真紅眼の黒竜で超古代恐獣を攻撃！
黒炎弾！」

これが決まれば城之内君の勝ちだよ！

「ジュラシックワールドの効果を発動や！
自分のコントロールする攻撃表示の恐竜族・鳥獣族モンスターが相手モンスターの攻撃対象になった時、そのモンスターを守備表示にする事ができる！
超古代恐獣を守備表示に変更するで！」

惜しい！
でも、これでドロー効果を潰せたね！

「そうこなくっちゃな！
ターンエンドだ！」

「ワイのターン、ドローや！
魔法カード、天使の施しを発動！
３枚ドローして２枚捨てるで。
魔法カード、愚かな埋葬を発動！
ジュラック・アウロを墓地に送るで。
魔法カード、死者蘇生を発動！
超古代恐獣を特殊召喚や！
そして魔法カード、真炎の爆発を発動！
自分の墓地に存在する守備力２００の炎属性モンスターを可能な限り特殊召喚する！
この効果で特殊召喚したモンスターは　このターンのエンドフェイ

ズ時にゲームから除外されるけどな。
ジュラック・アウロを3体特殊召喚するで！」
墓地にジュラック・アウロは2体しか…
そういや天使の施しを使ってたから、その時に送ったんだ！
「そして超古代恐獣の効果で1枚ドローや！
ジュラック・アウロ3体の効果を発動！
ジュラック・アウロを生け贄に捧げ、ジュラック・ガリム、ジュラック・グアイバ、ジュラック・デイノを特殊召喚や！
そして超古代恐獣の効果で3枚ドローや！」
ここで一気に3枚もドローした！？
「そしてジュラック・ガリムとジュラック・グアイバを融合！
竜の屍を超えて、全てを食い破れ！
融合召喚！
竜の暴君、ジュラック・ギガノト！」
融合無しで融合できるモンスター！？
そういや前茜ちゃんが見せてくれた事があったね。
「ジュラック・デイノと超古代恐獣を融合！
影に隠れた臆病者は、全て丸飲みにしてしまえ！
融合召喚！
竜の暴食者、ジュラック・ヴェルヒプト！
そして永続魔法、黄泉天輪を発動や！
このカードの発動時にフィールド上に存在する全てのモンスターを破壊する。！
その後、お互いのデッキからモンスターカードを全てゲームから除

外する。
このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、お互いのプレイヤーは、互いのターンのスタンバイフェイズ毎に、墓地に存在するモンスターを1体選択して特殊召喚できるで！
カードを伏せてターンエンドや！」

「俺のターン、ドロー！」

「黄泉天輪の効果を発動や！
ワイは超古代恐獣を攻撃表示で特殊召喚するで！」

「なら俺は真紅眼の黒竜を特殊召喚するぜ！
そして魔法カード、黒炎弾を発動！
相手ライフに２４００のダメージを与えるぜ！」

効果ダメージなら防がれにくい！

「させへんで！
罠カード、生存本能を発動や！
墓地の恐竜族１３体を除外して、ライフを５２００回復するで！」

また防がれた！？
しかも、竜崎君の除外された恐竜族は２０体を越えてる！
ディノインフィニティを出されたらどうしようもないよ！？

「防がれちまったか。
なら罠カード、蘇生の石板を発動！
墓地の黒竜の雛を特殊召喚！
更に魔法カード、死者蘇生を発動！
ドラゴンに乗るワイバーンを特殊召喚！

そして3体のモンスターを生け贄に捧げ、ギルフォード・ザ・ライトニングを攻撃表示で召喚！
このカードに生け贄3体を捧げて召喚に成功した時、相手フィールド上に存在するモンスターを全て破壊する！
ライトニング・サンダー！」

「ちぃ！」

「ギルフォード・ザ・ライトニングで直接攻撃だ！
ライトニング・クラッシュ・ソード！」

これで生存本能で回復されたライフ分を削れた！

「カードを伏せてターンエンドだ！」

「ワイのターン、ドローや！
黄泉天輪の効果を発動や！
墓地のディノインフィニティを攻撃表示で特殊召喚や！
こいつの攻撃力は２２０００や！
」

これも天使の施しで送ってたんだ！

「俺は真紅眼の黒竜を守備表示で特殊召喚するぜ！」

「罠カード、異次元からの帰還を発動や！
ライフを半分の３００払い、除外されてるモンスターを可能な限り特殊召喚するで！
除外されとる超古代恐獣、ジュラック・ギガノト、、ディノインフィニティ2体を特殊召喚や！

そしてジュラック・ギガノトと超古代恐獣を融合！
影に隠れた臆病者は、全て丸飲みにしてしまえ！
融合召喚！
竜の暴食者、ジュラック・ヴェルヒプト！
こいつの攻撃力は超古代恐獣とジュラック・ギガノトの攻撃力の合計となるで！」

えっと、２７００と２１００で４８００！？
それにジュラシックワールドの効果で攻撃力５１００まで上がってる！
それにディノインフィニティ３体の攻撃力も４０００下がったといっても１８３００！？
合計攻撃力が６００００っておかしいからね？
これ本当にデュエルモンスターズ？

「いくらなんでもこれは防ぎきれんやろ！
バトルや！ジュラック・ヴェルヒプトで真紅眼の黒竜を攻撃や！」

「くそっ！
レッドアイズが！」

「これでトドメや！
ディノインフィニティ３体で直接攻撃や！
トリプル・インフィニティ・ファング！」

城之内君！

「タダで負けてたまるかよ！
罠カード、運命の分かれ道を発動！
お互いのプレイヤーはそれぞれコイントスを１回行い、表が出た場

合は２０００ライフポイント回復し、裏が出た場合は２０００ポイントダメージを受ける！
俺のライフは８００、お前のライフは３００。
これを外したら負けだぜ！」

…城之内君。
そんなカードを使ってるからギャンブル決闘者って呼ばれるんだよ。
今回はそれしか打つ手がなさそうだからしょうがないけど。

「最後まで運で勝負するつもりや？
まぁええわ、運でもお前を倒してやるで！」

２枚のコインが現れ、空高く舞い上がる。
城之内君が勝つには竜崎君が裏を出すしかない。
攻撃力１８０００越え３体の直接攻撃に２０００のライフはあっても変わらないしね。

２枚のコインが同時に落ちる。
出た目は…

「「どっちも裏！？」」

えっ！？
それじゃ、引き分け？
「どないなるねん？」

「俺が知りたいっつうの！」

そういや茜ちゃんは誰かと連絡を取ってるけど、誰とかな？
僕がその事を気にした時、海馬君の声が響き渡った。

『つい先程、１回戦第４試合で勝敗がつかず引き分けになった。
夜霧との協議の結果、エキストラデュエルに突入する事になった！』

エキストラデュエル？
なんだろう、それ。

『エキストラデュエルのルールを説明する！
通常通り決闘を開始する　。
そして互いに３ターン経過した時にライフが多い方を勝者とする！
それでも結局がつかない場合、決闘を続行し、ライフが変動した時点で勝敗が決まる！
なお、デッキの枚数が同じになるようにしてデッキのカードを１５枚までなら変更してもよい！
以上でエキストラデュエルの説明を終わる！

１５分後にエキストラデュエルを開始する！』

へぇ。
そんなルールあったんだ。
竜崎君は茜ちゃんの所にいってデッキのカードを入れ換えてる。
ライフ回復カードを多めに入れてるのかな？

「いやぁ、危なかったぜ！」

「危なかったじゃねぇぞ、城之内！
確実に負け試合だったじゃねぇかよ！」

「まぁまぁ本田君。
それより城之内君、デッキはどうするの？
竜崎君はだいぶ替えてるけど。」

「ん？
別に替えなくても大丈夫だと思うぜ。」

少しはライフ回復カードを入れた方が良いと思うんだけど。
城之内君が問題ないなら構わないけど。

少しすると竜崎君もデッキ調整が終わった見たいだね。

「では、只今よりエキストラデュエルを開始する！」

「「決闘！」」

第１６話（後書き）

何故か引き分けにしてしまいました…

《蘇生の　石板》
罠カード
自分または相手の墓地に存在するモンスター１体を選択して発動する。
選択したモンスターを自分フィールド上に特殊召喚する。

《死者蘇生》の罠カード版ですね。

《黄泉天輪》
永続魔法
このカードの発動時にフィールド上に存在する全てのモンスターを破壊する。
その後、お互いのデッキからモンスターカードを全てゲームから除外する。
このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、お互いのプレイヤーは、自分と相手のターンのスタンバイフェイズ毎に、墓地に存在するモンスターを１体選択して特殊召喚する事ができる。

魂吸収があると莫大なライフが回復出来ますね。
ヘルサターン１キルが容易になりそうです。

第１７話（前書き）

前回の話でジークの相手の名前を入れ忘れてましたｏｒｚ

しかし名前が分からないからスルーします↑

第17話

ｓｃｅｎｅ遊戯

「今回はワイからや！
ドロー！
奇跡のジュラシック・エッグを守備表示で召喚や！
そして手札から魔法カード、苦渋の選択を発動や！
暗黒ドリケラトプス、究極恐獣、超古代恐獣、ディノインフィニティ、ジュラック・モノロフから選びや！」

「なら超古代恐獣を選ぶぜ！」

「残りは墓地に送るで。
奇跡のジュラシック・エッグの効果を発動や。
恐竜族モンスターが自分の墓地に送られる度にこのカードの上にカウンターを2つ置くで。
そして魔法カード、天使の施しを発動や！
3枚ドローして2枚捨てるで。
恐竜族を捨てたで奇跡のジュラシック・エッグにカウンターが更に2個乗るで。カードを2枚伏せて永続魔法、魂吸収を発動！
除外されるカード1枚につきライフを５００回復するで！
ターンエンドや。」

エキストラデュエル用に随分カードを替えて来たね。
魂吸収は強そうだけど、そんなに除外するカードは多くないと思うんだけど？

「俺のターン、ドロー！」

「この瞬間永続罠、マクロコスモスを発動や！
墓地に送られるカードは墓地に送られずゲームから除外されるで！」
無差別除外カード！？
不味いよ、城之内君！

「へん！
たかがライフが５００ずつ回復しようと関係ないぜ！
黒竜の雛を召喚！
そして黒竜の雛を生け贄に捧げ、真紅眼の黒竜を特殊召喚！」

「黒竜の雛が除外された事でライフを５００回復するで！」

「そして魔法カード、黒炎弾を発動！
２４００のダメージを与えるぜ！」

あちゃあ。
ライフにダメージを与えるカードはギリギリまでとって置いた方がよかったのに。

「ちぃ！
せやけど魔法カードも発動後に除外されるで、ライフを５００回復するで！」

「何ぃ！？」

さっきのデッキから戦略が一変してるね。
カードを１５枚入れ替えるだけでそんなに変わるものなのかな？

「カードを2枚伏せてターンエンドだ！」

「ワイのターン、ドローや！
奇跡のジュラシック・エッグの効果を発動や！
このカードを生け贄に捧げる事で、奇跡のジュラシック・エッグに乗っていたカウンターの数以下のレベルの恐竜族モンスター1体をデッキから選択して特殊召喚する！
カウンターは4つ乗っとったで、デッキからレベル4のディノインフィニティを守備表示で特殊召喚や！
そして奇跡のジュラシック・エッグが除外された事でライフを500回復するで！
魔法カード、化石発掘を発動！
デッキからレベル6以下の恐竜族モンスターを手札に加える！
レベル4のディノインフィニティを加える。
そしてライフを500回復するで。
カードを2枚伏せてターンエンドや。」

「エンドフェイズに速攻魔法、スケープゴートを発動！
羊トークンを4体特殊召喚する！」

「魂吸収でライフを500回復するで。」

これで竜崎君のライフが城之内君を上回ってしまった！

「俺のターン、ドロー！
魔法カード、スタープラスターを発動！
自分フィールド上のモンスター1体を生け贄に捧げて発動する。
羊トークンを生け贄に捧げる！
サイコロを1回振り、出た目の数と生け贄に捧げたモンスターのレベルの合計分を持つモンスターが手札に存在する場合、そのモンス

ター1体を選択してフィールド上に特殊召喚する。
手札にない場合、手札のモンスターを全て捨てる！」

「またギャンブルカードかいな！？
何枚デッキに入れとるねん！？」

「別に何枚でも良いだろう！？
運も実力の内だ！」
確かにそうだけど、城之内君は少し運に頼りすぎだよ！

「サイコロの目は…5！
羊トークンのレベル1と合わせてレベル6のモンスターを特殊召喚する！
人造人間サイコショッカーを特殊召喚！」

「しもうた！
そいつの存在を忘れとったで！」

サイコショッカーは罠カードを無効化する効果がある！
これでマクロコスモスも無効になって魂吸収も発動しない！

「バトルだ！
人造人間サイコショッカーでディノインフィニティを攻撃！
そして真紅眼の黒竜で直接攻撃だ！
黒炎弾！」

よし！
これで竜崎君のライフは１７００。
エキストラデュエルだから次のターンで決着が着くから、竜崎君のターンを凌げば城之内君の勝ちだ！

人造人間サイコショッカーもいるし、よっぽど大丈夫だね。

「カードを伏せてターンエンドだ！」

「ワイのターン、ドローや！
魔法カード、運命の宝札を発動するで！」

確かあれは、サイコロの目の分だけドローして…同じ枚数デッキの上から除外するカード！

「出た目は…６や！
６枚ドローしてデッキから６枚除外するで！
そして魂吸収でライフを３０００回復や！」

「んだと！？
何回ライフを回復する気だよ！？」

「勝つまでや！
ディノインフィニティを攻撃表示で召喚！
ターンエンドや！」

除外されてる恐竜族はさっきの運命の宝札で２体に増えた。
６枚除外して１枚しか恐竜族がなかったのは助かったよ。

「泣いても笑ってもこれが最後のターンか！
ドロー！」

「速攻魔法、禁じられた聖杯を発動や！
エンドフェイズ時まで、選択したモンスターの攻撃力は４００ポイントアップし、効果は無効化される！

当然選ぶのは人造人間サイコショッカーや！」
これでサイコショッカーの罠封じがなくなってしまった！
「だが、俺の勝ちは決まったぜ！
魔法カード、天よりの宝札を発動！
互いに手札が６枚になるようにドローする！
そして装備魔法、巨大化を発動！
人造人間サイコ・ショッカーに装備するぜ！
自分のライフポイントが相手より下の場合、装備モンスターの攻撃力は元々の攻撃力を倍にした数値になる！
俺のライフは４０００、お前のライフは５６００だ！」
これでサイコショッカーの攻撃力は５２００になった！
レッドアイズと2体の攻撃が決まれば勝てる！
「更に装備魔法、パンプ・アップを発動！
人造人間サイコ・ショッカーに装備！
装備モンスターの攻撃力は、エンドフェイズまで倍になるぜ！」
これで人造人間サイコショッカーの攻撃力は１０４００！
「バトルだ！
真紅眼の黒竜でディノインフィニティを攻撃！
黒炎弾！」
「罠カード、生存本能を発動や！
墓地の恐竜族を5体除外してライフを２０００回復するで！
そして魂吸収の効果で更に３０００回復や！
ディノインフィニティの攻撃力も７０００に上がるで！」

竜崎君のライフが１０６００になっちゃった！
それより、レッドアイズの攻撃は止まらない！

「んだと！？
罠カード、和睦の使者を発動！
モンスターは戦闘で破壊されず、ダメージも受けない！」

ほっ。
でも、竜崎君のライフをこのターンで６１００以上削らないと勝てない！
どうするの、城之内君！？

「これでワイの勝ちやな！」

「いや、まだ終わらねぇぜ！
速攻魔法、リミッター解除を発動！
機械族モンスターの攻撃力を２倍にするぜ！」

「なんやて！？」

サイコショッカーの攻撃力は２０８００！
これならいける！

「トドメだ！
人造人間サイコ・ショッカーでディノインフィニティを攻撃だ！
電脳エナジーショック！」

サイコショッカー攻撃がディノインフィニティに直撃した！
城之内君の勝ちだ！

僕は城之内君に駆け寄ろうとしたけど、もう一人の僕が止めた。
『相棒、まだ竜崎のライフは０になってないぜ。』
え？
だって攻撃は直撃した筈。
ならなんで？
煙が晴れて竜崎君の姿が見えてきた。
残りライフは…２６４００！？
そんな！
「な！
なんでライフが減る処か増えてるんだよ！？」
「危なかったで。
罠カード、レインボー・ライフを発動したんや。
手札を１枚捨てて発動したで。
このターンのエンドフェイズ時まで、自分が受けるダメージは無効になり、その数値分ライフポイントを回復する効果を持っとるんや。
それで戦闘ダメージ１３８００分のライフを回復させてもろうたで。
」
成る程。
だからサイコショッカーの攻撃が直撃してもライフが残ってたんだ。
攻撃を無効化するカードなら攻撃が当たる前に防ぐもんね。
城之内君の最後の攻撃が防がれてしまったから、竜崎君の勝ちだね。
もしライフを３００００削れるバーンカードがあっても、レインボーライフで回復されちゃうし。

「くっそぅ！
ターンエンドだ！」

「そこまで！
一回戦第４試合勝者はダイナソー竜崎選手！！」

「っしゃあ！
やっと城之内に勝てたで！」

「あ～あ、負けちまったぜ。
けど、いい決闘だったぜ竜崎。
それと、次は俺が勝つから覚悟しとけよ？」

「へん！
そん時は返り討ちにしてくれるわい！」

がっちり握手する二人。
最近純粋な決闘をしてないから、なんか新鮮に見えてくるよ。

「惜しかったな、城之内！
まぁ次頑張りゃいいさ！」

「そうね。
ところで他の試合はどうなったのかしら？
レベッカちゃん勝てたのかしら？」

レベッカの実力なら一回戦は大丈夫だと思うよ。
次からは分からないけど。

『只今をもちまして一回戦全試合が終了しました。
準決勝に進出した４名をご紹介します！

１人目の決闘者！
レベッカ・ホプキンス選手！
２人目の決闘者！
レオン・ウィルソン選手！
３人目の決闘者！
ジーク・ロイド選手！
４人目の決闘者！
ダイナソー竜崎選手！

そして準決勝の組み合わせは…
第１試合！
ブルーアイズコースター前にてレベッカ・ホプキンス選手対レオン・ウィルソン選手！
第２試合！
ブルーアイズメリーゴーランド前にてジーク・ロイド選手対ダイナソー竜崎選手！

１時間後に開始です！』

お、どっちも近いね。
ていうか殆ど隣だね。
これなら両方の試合が生で観れるよ！

『助かるぜ。
竜崎の試合は観ておきたいからな。
あいつのプレイングは参考になるのも多いし、知らないカードもかなり出てくるから見てて飽きないからな。』

確かにね。
そうと決まれば、早速移動しよう！

ｓｃｅｎｅ海馬

「社長、先日海馬ランドでデュエルコンピュータがハッキングされた件について御報告があります。」

「なんだ。
さっさといえ。」

どこのどいつだ！？
我がＫＣに喧嘩を売ろうとしている輩は！

「あれを仕掛けたのはシュレイダー社という情報が入って来ております。」

シュレイダー社だと？
確か我が社と同時期にアミューズメント事業に切り替えたという話は聞いているが。
成功したＫＣを妬んで、信用が揺らいでいる今を狙っての犯行か？

「それと、夜霧様からお電話が着ておりますが。」

「繋げ。」

彼奴なら何か知ってるかもな。

『…海馬。』

「何の用だ？
俺は忙しいのだぞ。」

『…それくらい知ってる。
このＫＣグランプリで引き分けになった場合、どうするの？
人数が少ないから両者失格にするわけにもいかないし。』

引き分け？

「ふん。
引き分けの時なんぞ考えてあるわけがなかろう。
何を突然に。」

この俺の辞書に引き分けなどほぼ皆無だ！

『…第４試合が引き分けになりそうなんだけど。』

なんだと！？
早急に案を考えればならぬ！

『…どうせ考えてなさそうだったから、一応案はあるけど。』

くっ！
これ以上借りを作るのは不味いが、背に腹は変えれん。

「その案を聞こうではないか。
採用するかは別としてだが。」

『…初期ライフはそのままで、互いに3ターンが過ぎた時点でライフが多い方の勝利。
それでも決着がつかない場合、ライフが変動するまで決闘を続行する。
これくらいが妥当だと思うけど。』

ふむ、悪くないな。
一応延長決闘だが、それを考慮してターンで区切ってあるしな。

「それならそのまま採用するぞ？」

『…1つ追加。
デッキの中身を15枚まで変更可能にして。
ただし、デッキの枚数は同じになるようにしないといけないけど。
同じデッキだとつまらないし、同じ結果になりやすいでしょう？』

「だが、デッキの中身を替えないこともあるだろう。
その時はどうする？」

『…そのときはその時。
普通替えると思うけど。』

それ以前に引き分けなどなかったからな。
ここらで決めておくのも一手か。

「まぁいい。
お前の案を全面採用しよう。」

『…助かる。
ちょうど今引き分けになったところだし。
本題に入りたかったけど、この試合が終わってからまた連絡し直す。
』

「本題を先に言え、貴様は！
はぐらかしおって！」

『…今はこっちの方が至急に解決する必要があると思ったから。』

「社長！
第４試合が引き分けに終わりましたが、どうなさいますか？」

くっ！
なんというタイミング！
仕方がないか。

「マイクを貸せ！
俺様が直々にルール説明をしてやる！」

ｓｃｅｎｅ茜

さて、１回戦が終わって時間もできたし、そろそろ海馬にネタバレしようかな？
ラフェールがさりげなく情報は流したけど、結局シュレイダー社が

関係していることしか掴んでないようだ。
ＫＣグランプリに２人偽名で出てるのも気づかないくらいだし。
何回もハッキングはされるわ、情報は掴めないやでＫＣの未来が不安になるけど。

『今度こそ本題を話して貰うぞ！』

「…はいはい。
まず、今回の妨害はシュレイダー社が行なっているのは知ってるね？」

『ああ。』

「…なら、シュレイダー家の長男と次男がＫＣグランプリに出場してるのも知ってるよね？
自分で招待したくらいなんだし。」

『は！？
今貴様、シュレイダー家の人間がＫＣグランプリに出てるといったか！？
バカな！』

…知らずに４枠の中から２枠シュレイダー家を選んだのね。
ある意味奇跡ね。

「…事実。
ジーク・ロイドとレオン・ウィルソン。
本名はジークフリード・フォン・シュレイダーとレオンハルト・フォン・シュレイダー。

で、犯行の理由は逆恨みらしいけど、心当たりは？」

『そんなのいちいち覚えておらんわ！
だが、我が社とほぼ同時期にアミューズメント産業に転換したかららしいからな。
大方それだろう。』

ほぅ。
てっきりＫＣから悪質な営業妨害でも喰らってたと思ってたけど、
ただの私怨ね。
よくもそんな下らない理由で私の仕事を増やしてくれたわね…

『その事実があるなら、準決勝は中止するか？
幸いまだ始まってないようだしな。』

「…そんな事したら相手の思う壺。
とりあえず準決勝は普通に進めて。
レオンの方は問題ないけど、ジークの方が主犯だから。
ジークが決勝に進んだら、なんか理由を付けて失格にさせて。
そして、変わりにラフェールと決闘させるように仕向けといて。」

『そこまで情報が揃っていて俺が黙っているとでも思うのか！
直々に潰してくれるわ！』

五月蝿。
ここは切札を使って黙らせるべきね。

「…今ＫＣ株の２０％を持ってるのは何処だったかしら？」

『き、貴様！』

「…それに、なにもＫＣだけがハッキングされた訳じゃない。
Ｉ２社にも侵入しようとしてきた。
勿論、駆除して逆にハッキングしてあげたけど。
今本社に連絡してパソコンからボタン１つ押すだけで、シュレイダー社を潰せるわよ？」

『それがどうしてラフェールがジークと決闘する理由になるのだ！、』

「…だから、最初に被害を受けたのよ。
主に私の休憩時間が。
その報いは受けるべきでしょう？
本来なら私が再起不能にしてあげたいけど、決闘できないからラフェールに頼んだのよ。

ついでに融合要らずの融合モンスターの正式な御披露目もしたいし。」

『お前の理由もただの私怨だろう！？
そして本音と建前が逆だ！』

「…ただの？
何をいってるのかしら？
最近仕事が増えてきてるのよ。
そこに余分な仕事を増やしてくれた馬鹿がノコノコとやってきたのよ？
これを潰さずして何をするの？」

人は休憩を取られるとやっていけないのよ。

『…まぁ、今回はお前には恩があるから許そう。
だが！
今度俺と決闘しろ！
どちらが本当の青眼の白竜使いかを証明する為に！！』

「…はいはい。
まぁ竜崎が勝ったら問題ないけど。
予防作はとっといて損はない。」

『俺には予防ではなく一つ一つが必殺にしか見えないんだか…
哀れな子羊の行く末が気になるな。』

「…まぁ、よろしく。
私は竜崎の応援に行くから。

後、今回の妨害がシュレイダー社ってのはラフェールに流させたものだから。」
海馬が最後になんか喚いていたが無視。
車椅子を押してもらい、竜崎と準決勝の会場のブルーアイズメリーゴーランドへ向かった。

第17話（後書き）

一回城之内にアルカナフォースを使わせたい作者です。
何処かでいれようかな…

第１８話（前書き）

特に書くネタがないですｏｒｚ

第１８話

ｓｃｅｎｅ闇遊戯

ちょうど今から準決勝が始まるな。
俺達が居るところからは両方の試合が見える。
相棒達はレベッカの応援をしているが、俺は竜崎の決闘を観ている。

「ワイの先攻や、ドロー！
手札のキラーザウルスを捨てて、フィールド魔法ジュラシックワールドを手札に加えるで！
そして俊足のギラザウルスを特殊召喚や！
魔法カード、大進化薬を発動！
俊足のギラザウルスを生け贄に捧げるで。
ジュラック・タイタンを攻撃表示で召喚するで！
カードを伏せてターンエンドや！」

最初から攻撃力３０００のモンスターか。

「私のターン、ドロー！
ワルキューレ・ツヴァイトを攻撃表示で召喚！
そしてワルキューレ・ツヴァイトの効果を発動！
召喚に成功した時、相手フィールド上のモンスター１体を破壊する！
ジュラック・タイタンを破壊する！」

竜崎のフィールドががら空きになってしまうぞ！

「へん！
ジュラック・タイタンは効果モンスター・罠カードの対象にならん

で！」

「なんだと！？」

攻撃力３０００で耐性持ちか。
なかなか強いな。

「くっ、ならば！
永続魔法、女神ウルドの裁断、女神ヴェルダンディの導き、女神スクルドの託宣を発動！」

なんだ、あれらのカードは？

「まずは女神ウルドの裁断の効果！
１ターンに１度、相手のデッキの上からカードを３枚めくり、その中のカードの順番を入れ替える事ができる！
相手はめくったカードを確認する事ができない。
さあ、見せてもらうぞ！」

３枚確認してデッキに戻すジーク。
何をしたいんだ？

「続いて女神ヴェルダンディの導きの効果！
１ターンに１度、相手のデッキの１番上のカードの種類を宣言する！
当たった場合、相手はそのカードをフィールド上にセットする。
私が宣言するのはモンスターカード！」

ウルドの効果でデッキトップの順番を変えたから確実に当たるな。
しかし、態々相手にモンスターを出させる理由が見つからないが。

「最後に女神スクルドの託宣の効果！
1ターンに1度、相手フィールド上の裏側表示モンスターの名前を宣言する！
当たった場合、そのカードをゲームから除外する。
私が宣言するのは、究極恐獣！」

「ちぃ、面倒なカードを使いよって！」

女神ウルドの裁断でデッキトップを操作し、女神ヴェルダンディの導きでモンスターを裏側守備表示でださせ、女神スクルドの託宣で除外する。
恐ろしいコンボだぜ。

「カードを伏せてターンエンドだ！」

「ワイのターン、ドローや！
超伝導恐獣を攻撃力表示で召喚や！
バトルや！
超伝導恐獣でワルキューレ・ツヴァイトを攻撃や！」

「罠カード、ヴォーダンの裁きを発動！
相手モンスター攻撃宣言時に発動する事ができる。
自分のデッキからカードを1枚ドローし、手札の魔法カードをデッキの一番上に置く。
その後、相手モンスターの攻撃を無効にし、バトルフェイズを終了する！」

「なら、フィールド魔法、ジュラシックワールドを発動や！
カードを伏せてターンエンドや！」

「私のターン、ドロー！
女神ウルドの裁断、女神ヴェルダンディの導き、女神スクルドの託宣の効果を発動！
女神ウルドの裁断の効果でデッキの上から3枚を確認して入れ替える。
女神ヴェルダンディの導きでモンスターを宣言し、裏側守備表示で特殊召喚！
女神スクルドの託宣でジュラック・アウロを宣言し、除外する！
ワルキューレ・ツヴァイトを生け贄に捧げ、フォーチュンチャリオットを召喚！
そして魔法カード、終幕　の光を発動！
自分のライフを１０００ポイント支払い、墓地に存在する攻撃力２０００以下の光属性モンスター1体を自分フィールド上に表側攻撃表示で特殊召喚する！
ワルキューレ・ツヴァイトを特殊召喚！
そしてワルキューレ・ツヴァイトの効果で超伝導恐獣を破壊する！」

「ちぃ！」

「そしてフォーチュンチャリオットの効果を発動！
1ターンに1度だけ自分のメインフェイズに装備カード扱いとして、フィールド上のこのカードを自分フィールド上に表側表示で存在するワルキューレという名のついたモンスターに装備、または装備を解除して表側攻撃表示で元に戻す事が可能！
この効果で装備カード扱いになっている時のみ、装備モンスターの元々の攻撃力をエンドフェイズまで半分にする事で、装備モンスターはこのターン相手プレイヤーに直接攻撃する事ができる！
ワルキューレ・ツヴァイトに装備して直接攻撃！」

これで竜崎のライフは３２００か。

「ターンエンドだ！」

「ワイのターン、ドローや！
魔法カード、強欲な壺を発動！
２枚ドローするで！
暗黒プテラを召喚や。
そして俊足のギラザウルスを特殊召喚！
暗黒プテラと俊足のギラザウルスを融合！
屑鉄に包まれし鋼の龍よ、犠牲を払いて抗う者を蹂躙せよ！
融合召喚！
出でよ、スクラップ・ドラゴン！
そして暗黒プテラを手札に戻すで。」

恐竜族以外では初めて見るな、融合を使わない融合モンスターは。

「なんだ、そのモンスターは！？
何故融合を使わない！？」

「コイツは融合を使って召喚は出来へんのや。
そのかわりに自分フィールド上の特定のモンスターを墓地に送って召喚するんや。
コイツの場合はドラゴン族又は地属性のモンスターとモンスター１体以上が条件や。」

「なんだ、その出鱈目な召喚条件は！？」

「んなもんワイが知るか。
バトルや！
ジュラック・タイタンでワルキューレ・ツヴァイトを攻撃や！」

「フォーチュンチャリオットの効果を発動！
装備モンスターが破壊される時、代わりにこのカードを破壊する！」
「せやけどダメージは受けてもらうで！
更にジュラック・タイタンでワルキューレ・ツヴァイトを攻撃や！」
「ぐぅ！」
ジークのライフが１００まで減ったな。
後一押しだな。
「ワイのターンは終了や。」
「私のターン、ドロー！
ふふっ。
魔法カード、ニーベルングの財宝を発動！
相手フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を選択して、
自分のデッキからニーベルングの指輪を選択したモンスターに装備
する。
その後、自分のデッキからカードを5枚ドローする！
ジュラック・タイタンにニーベルングの指輪を装備！
ニーベルングの指輪を装備したモンスターは魔法・罠・効果モンス
ターの効果を受けず、攻撃宣言を行う事ができない！
そして5枚ドロー！」
なんだ、あのカードは！？
メリットありで5枚引けるのは強力過ぎるだろう！
「そして女神ウルドの裁断、女神ヴェルダンディの導き、女神スク

ルドの託宣の効果を発動！
女神ウルドの裁断の効果でデッキトップを3枚入れ替える。
そして女神ヴェルダンディの導きの効果でモンスターを宣言し、裏側守備表示で特殊召喚。
女神スクルドの託宣の効果でエレメント・ザウルスを宣言！
除外する！

ワルキューレ・アルベストを攻撃表示で召喚！
ワルキューレ・アルベストの効果を発動！
1ターンに1度、相手の墓地に存在するモンスター1体をゲームから除外する。
ワルキューレ・アルベストの攻撃力は、発動ターンのエンドフェイズまで　ゲームから除外したモンスターの元々の攻撃力の数値分アップする。
俊足のギラザウルスを除外して攻撃力を１３００アップ！
バトルだ！
ワルキューレ・アルベストでスクラップ・ドラゴンを攻撃！」

「しもうた！
スクラップ・ドラゴンが！」

「カードを伏せてターンエンドだ！」

「ワイのターン、ドローや！」

「この瞬間、ニーベルングの指輪の効果を発動！
ニーベルングの指輪を装備しているモンスターのコントローラーはドローフェイズ時にカードをもう1枚ドローする。
ドローしたカードをお互いに確認し、その中にモンスターカードがある場合、そのモンスターカード1枚を墓地に捨てる！」

なに！？
まだ効果があったのか！
「さて、カードを引いて見せて貰おうか。
最も、引くカードはキラーザウルスだがね。」
「その通りや。」
「墓地に送って貰おう。」
「ワイはディノインフィニティを攻撃表示で召喚や！
コイツの攻撃力は除外されとる恐竜族１体につき１０００上がる！
４体除外されとるで攻撃力は４０００や！」
ここでジークの除外効果が裏目にでたな！
ディノインフィニティの攻撃が決まれば竜崎の勝ちだ！
「ディノインフィニティでワルキューレ・アルベストを攻撃や！
インフィニティ・ファング！」
「罠カード、フリッカの仲裁を発動！
自分の墓地に存在するヴォーダンの裁きをゲームから除外する事で
発動する事ができる。
このターン自分が受ける全ての戦闘ダメージは０になる！」
「ちぃ、防ぎよったか。
カードを伏せてターンエンドや。」
「私のターン、ドロー！

女神ウルドの裁断、女神ヴェルダンディの導き、女神スクルドの託宣の効果を発動！
デッキを上から3枚入れ替え、モンスターを宣言し裏側守備で特殊召喚！
そしてハイドロゲドンを宣言、除外する！
ワルキューレ・アルベストの効果を発動！
墓地の俊足のギラザウルスを除外して、攻撃力を１３００上げる！
ワルキューレ・ドリッドを攻撃表示で召喚！

そして魔法カード、ワルキューレの抱擁を発動！
自分フィールド上のワルキューレと名の付いたモンスター1体と相手フィールドのモンスター1体を選択して発動する！
ワルキューレと名の付いたモンスター1体を守備表示に変更して、相手フィールドのモンスター1体をゲームから除外する。
ワルキューレ・ドリッドを守備表示にしてディノインフィニティを除外！」

「なんやと！？」

不味いぞ！
攻撃力６０００のディノインフィニティが除外されてしまった！
まだ攻撃力３３００のジュラック・タイタンがいるが、安心出来ないぞ！

「カードを伏せてターンエンド！」

「ワイのターン、ドローや！」

「ニーベルングの指輪の効果を発動！
相手はもう1枚ドローし、モンスターなら墓地に送る。

俊足のギラザウルスを墓地に送って貰おうか。」

「ワイは魔法カード、次元融合を発動や！
ライフを２０００払い、互いに除外されとるモンスターを可能な限り特殊召喚するで！
お前さんのモンスターは除外されとらんで、ワイだけ特殊召喚できるで！」

「何！？」

よし！
竜崎の除外されているモンスターは６体！
そのうちの４体を召喚できる！

「ワイはスクラップ・ドラゴン、究極恐獣、ハイドロゲドン、エレメント・ザウルスを特殊召喚や！
そしてカードを伏せてスクラップ・ドラゴンの効果を発動や！
１ターンに１度、自分及び相手フィールド上に存在するカードを１枚ずつ選択して、選択したカードを破壊する！
ワイは今伏せたカードとお前さんの場の女神スクルドの託宣を破壊するで！」

「くっ！」

これであの除外コンボは無くなった！
だが、ニーベルングの指輪はまだ残っているぞ？

「ジュラック・タイタンと究極恐獣を融合や！
影に隠れた臆病者は、全て丸飲みにしてしまえ！
融合召喚！

竜の暴食者、ジュラック・ヴェルヒプト！
コイツの攻撃力・守備力は融合素材にしたモンスターの攻撃力の合計となる！
ジュラック・タイタン、究極恐獣共に攻撃力は３０００！
よってヴェルヒプトの攻撃力・守備力は６０００や！
そしてタイタンが場から離れた事によって、対象のいなくなったニーベルングは破壊されるで！」

「なに！？
それに攻撃力６０００だと！？」

ディノインフィニティ以外でもここまでの高攻撃力が出せるんだな。
なんか竜崎の決闘を見ていると俺達のモンスターの火力不足を痛感するぜ。

「まだや！
ハイドロゲドンとエレメント・ザウルスを融合！
氷結纏いし蒼き神槍よ、今凍てつく世界をその手の中に！
融合召喚！
全てを誘え、氷結界の龍　ブリューナク！

ブリューナクの効果を発動や！
手札を捨てて、その枚数分フィールド上のカードを手札に戻す！
１枚捨てて、ワルキューレ・ドリッドを手札に戻すで！」

「なんだと！？」

かなり強力な効果だな。

「魔法カード、運命の宝札を発動や！
サイコロの目は…３！
３枚ドローし３枚デッキトップから除外する！
再びブリューナクの効果を発動や！
手札を１枚捨てて、伏せカードを手札に戻す！」

「させん！
罠カード、和睦の使者を発動！
このターンモンスターは戦闘で破壊されず、ダメージも受けない！」

なかなか残り１００が削りきれないな。

「しぶといで。
カードを２枚伏せてターンエンドや。」

「私のターン、ドロー！
ふっふっふ！
どうやら運命の女神は私に微笑んだようだな。」

なに？
キーカードでも引いたのか？

「ワルキューレ・アルベストを攻撃表示で召喚！
そしてワルキューレ・アルベストの効果を発動！
ジュラック・タイタンを除外して、攻撃力を３０００上げる！」

攻撃力の上がったワルキューレ・アルベストでブリューナクを攻撃
されたらライフが０になってしまう！

「罠カード、生存本能を発動や！

墓地の恐竜族４体を除外して、ライフを１６００回復するで！
そしてワルキューレ・アルベストの効果は不発や！」

「小賢しいマネを！
装備魔法、霊剣ーノートゥングをワルキューレ・アルベストに装備！
装備モンスターの攻撃力は４００ポイントアップする。
このカードがワルキューレと名の付いたモンスターに装備した時、
フィールド上に存在するドラゴン族モンスターを１体選択してゲームから除外する事ができる！
スクラップ・ドラゴンを除外！
魔法カード、天よりの宝札を発動！
互いに手札が６枚になるようにドローする！」

互いに手札が増えたな。
どう動く？

「魔法カード、Ｗａｌｋｕｒｅｎ　Ｒｉｔｔを発動！
自分の手札からワルキューレと名の付いたモンスターを４体特殊召喚する！
現れろ、ワルキューレ・ツヴァイト、ワルキューレ・アルベスト、ワルキューレ・ドリッド、ワルキューレ・ブリュンヒルデ！
ワルキューレ・ツヴァイトの効果でジュラック・ヴェルヒプトを破壊！
バトルだ！」

「ちっ！
バトルはさせへん！
罠カード、威嚇する咆哮を発動や！
このターン、攻撃宣言出来へんで！」

なんとか凌げたな。
次のターンになれば手札が十分にあるから勝機がある！

「ふふっ。
それで防げたと思ったのか？」

「なんやと？」

「速攻魔法、時の女神の　悪戯を発動！
１ターンスキップして、自分のターンのバトルフェイズになる！」

「はっ！？
なんや、その効果は！？」

ターンをスキップする効果だと！？

「ターンが経過した事で威嚇する咆哮の効果は消える！
バトルだ！
ワルキューレ・ドリッドで氷結界の龍ブリューナクを攻撃！
ドリッドの攻撃力は除外されている相手モンスターの数×１００上がる！
除外されているモンスターは１０体！
よって攻撃力は２３００、ブリューナクと同じ値だ！」

運命の宝札で除外されてたのが３枚ともモンスターだったのか！
２体のモンスターは相討ちになり、消滅する。
竜崎の場にはモンスターも伏せカードもない。
ジークの攻撃を防ぐ術はないな。

「残りの乙女騎士でプレーヤーに直接攻撃！」

「そこまで！
準決勝第２試合、勝者はジーク・ロイド選手！
よって、決勝戦はレオン・ウィルソン選手対…」

レベッカは負けてしまったのか。
審判が決勝の組み合わせを発表をしようとした時、放送が入った。

『ＫＣグランプリ主催者の海馬だ！
決勝進出者のジーク・ロイド選手に不正が確認された為、決勝戦への進出を認めない！
よって、ＫＣグランプリ王者はレオン・ウィルソン選手！

だが諸君、このまま棄権にしてもつまらない。
そこで、ジーク・ロイドにはＩ２社の用意した決闘者と決闘して貰う！
１時間後にブルーアイズホワイトドームで行われる！

そしてレオン・ウィルソンには、その決闘終了後に武藤遊戯との決闘があるから準備をしておくように！
以上だ！』

ジーク・ロイドに不正行為だと！？

「まさか、気付かれたか？
いや、仮に気付いたとしてもこのタイミングで摘発する理由がない。

となると、Ｉ２社の仕業か？」

なにか呟いているが、なにをいっているんだ？

とりあえず、ドームに行けば分かるか。

相棒達と竜崎はドームに向かった。

そういえば茜とラフェールの姿が見えないが、何処にいったんだ？

第１８話（後書き）

《ワルキューレ・ツヴァイト》
効果モンスター／レベル４／光属性／天使族／攻撃力１６００／守備力１６００
このカードが召喚・反転召喚・特殊召喚に成功した時、　相手フィールド上のモンスターを１体選択して破壊する。

普通に使えますね。

《ワルキューレ・アルベスト》
効果モンスター／レベル４／光属性／天使族／攻撃力１６００／守備力１６００
１ターンに１度、相手の墓地に存在するモンスター１体を選択してゲームから除外する。
このカードの攻撃力は、発動ターンのエンドフェイズまで　ゲームから除外したモンスターの元々の攻撃力の数値分アップする。

此方も使えます。
数ターン維持できれば墓地アド奪えますし、攻撃力もなかなか期待できます。

《終幕の光》
通常魔法
自分のライフを１０００ポイント支払い、墓地に存在する　攻撃力２０００以下の光属性モンスターを１体選択して発動する。

選択したモンスターを自分フィールド上に表側攻撃表示で特殊召喚する。

《ワルキューレ・ブリュンヒルデ》
効果モンスター／レベル６／光属性／戦士族／攻撃力１８００／守備力２０００
このカードの攻撃力は、相手フィールド上に表側表示で存在する戦士族・ドラゴン族モンスターの数×３００ポイントアップする。
このカードの守備力を１０００ポイントダウンする事で、このカードは戦闘では破壊されない。

出番はなかったですが。

第１９話（前書き）

少し見にくいと思うので今日のテストが終わってから修正します。

第１９話

ｓｃｅｎｅ茜

海馬が放送でジークの失格と追加決闘の宣言をした。
今、ブルーアイズホワイトドーム内は観客で溢れかえっている。
彼等はとりあえず決闘が見れればそれで満足らしい。

『それでは、只今よりデュエルを開始します！』

「少し失礼。
私が何故失格になったのか説明して頂けるかな？
身に覚えはないのだが。」

「貴様！
よくもぬけぬけと！」

「…海馬、落ち着いて。
私が話しとくから。」

このまま海馬に説明させても失敗するのは目に見えてるし。
海馬の返事を待たずにマイクを奪い取っとく。

「おい、夜霧！」

「…黙ってて。
『…私が説明しますジーク・ロイド、いやジークフリード・フォン・シュレイダー。』」

「っ！？
な、何故！？」

『…順に説明します。
まず、偽名を使ってのＫＣグランプリへの出場。
最も、これはＫＣ側の不備なので失格にするほどの事ではないですが。』

「なら何故だ！？」

『…２つ目。
海馬ランドのデュエルコンピュータへのハッキング。
これを貴方が代表を務めているシュレイダー社が行なったとされていますが。』

「何を証拠に！？」

『…それが３つ目。
此方がその事を知ったのは、Ｉ２社にハッキングしてきた何者かのデータバンクに保存されていたからです。
そして逆探知をした所、シュレイダー社に辿り着いたのです。
更に、ＫＣグランプリを妨害する計画表もありました。』

「っ！
だ、だがそれではＩ２社も我が社にハッキングしたではないか！？
それならお互い様だろう！？」

『…Ｉ２社は正当な手段を使っただけです。
貴方も知っているでしょう。
企業間の間では、ハッキングされたらハッキング仕返しても正当防

衛として許される事を。』

「ぬぅ！」

『…本来なら、そのままシュレイダー社を摘発するのでしょうが。
丁度ＫＣグランプリ中ですので、決闘で決めてもらおうかと。
貴方が勝てば、今回の件については不問としましょう。
納得して頂けましたか？』

「ようするにこの決闘で勝てばいいのだろう！
良いだろう！
この私が負ける筈がないからな！」

負ける筈がないねぇ。
今回ラフェールに持たせたデッキは、元の世界でも大会優勝クラスのガチデッキ。
それにこの世界でのゆるゆるな禁止・制限カードを入れてある。
ラフェールがモンスターを墓地に送る事に慣れていないとはいえ、
このデッキ相手でも同じことが言えるかしら？

『…納得して頂けたようで。
ではラフェール、しっかりとお願いします。』

「分かっている。」

さてジーク。
愚かな者にはそれ相応の罰をしないとね？

「「決闘！」」

ｓｃｅｎｅ遊戯

ラフェールとジークの決闘が始まったね。
ジークの決闘の腕は分からないけど、あのデッキが強い事は分かる。
竜崎君を倒したくらいだもんね。
ラフェールも強いけど、あのデッキに勝てるかな？

「私のターン、ドロー！
ふっふっふ！！
どうやら運命の女神は常に私と共にあるようだな！
魔法カード、Ｗａｌｋｕｒｅｎ　Ｒｉｔｔを発動！
自分の手札からワルキューレと名の付いたモンスターを４体特殊召喚する！
現れろ、ワルキューレ・ツヴァイト、ワルキューレ・アルベスト、ワルキューレ・ブリュンヒルデ、ワルキューレ・ドリッド！
発動ターンのエンドフェイズ時、この効果で特殊召喚したモンスターを全て自分のデッキに戻しシャッフルする必要があるがな。」

先攻のプレーヤーは攻撃出来ないのに、なんで態々出したんだろう？

「そして速攻魔法、時の女神の悪戯を発動！
１ターンスキップして、自分のターンのバトルフェイズになる！
ターンが跳ばされたことで、Ｗａｌｋｕｒｅｎ　Ｒｉｔｔの効果でデッキに戻す必要がなくなり、バトルも行える！」

そんな！
先攻１ターン目に出されたら防ぎようがない！

「終りだ！
乙女騎士達で直接攻撃！」
ワルキューレ達の剣がラフェールに届きそうになった時、振り子みたいなモンスターが出てきて攻撃を防いだ。
「えっ！？」
「何っ！？」
「その程度で運命の女神が共にあるだと？
笑わせてくれるな。
手札からバトルフェーダーの効果を発動した。
相手モンスターの直接攻撃宣言時にこのカードを手札から特殊召喚し、バトルフェイズを終了する効果を持っている。」
ほっ。
危なかったね。
「くっ！
カードを伏せてターンエンドだ。」
「私のターン、ドロー！
魔法カード、苦渋の選択を発動。
ダンディライオン2枚、ゾンビキャリア2枚、グローアップ・バルブから選択してもらおう。」
「私はゾンビキャリアを選択する！」

「残りのカードは墓地に送られる。
そしてダンディライオンの効果を発動！
ダンディライオンが墓地へ送られた時、自分フィールド上に綿毛トークン２体を守備表示で特殊召喚する。
このトークンは特殊召喚されたターン、生け贄召喚のための生け贄には出来ないがな。
４体の綿毛トークンを特殊召喚！」

「ふっ！
生け贄に出来ないトークンを４体並べた所で何ができるというのだ！」

あのトークンは生け贄には出来ないけど、融合素材には出来るんじゃないかな？
竜崎君も融合モンスターを使ってたし、ラフェールも使うと思うんだけど。

「バトルフェーダーと綿毛トークンを融合！
その身に束ねし無限の知識よ！
今その知を紐解き仇なす敵に断罪を与えん！
融合召喚！
現れよ、ＴＧハイパー・ライブラリアン！」

「なに！」

やっぱり使ってきたね。
どんな効果を持っているんだろうね。

「そして綿毛トークン２体を融合！
瞬く星が夜空を染める星屑と成る。

天翔ける龍となれ！
融合召喚！
煌めけ、スターダスト・ドラゴン！
そしてＴＧハイパー・ライブラリアンの効果を発動！
融合モンスターが融合召喚に成功した時、１枚ドローする！」

融合召喚する度にアドバンテージを得られるね。
普通融合召喚は滅多に出来ないけど、あのモンスター達なら直ぐに融合できるから便利だね。

「デブリ・ドラゴンを攻撃表示で召喚！
デブリ・ドラゴンの効果を発動！
デブリ・ドラゴンが召喚に成功した時、自分の墓地に存在する攻撃力５００以下のモンスター１体を攻撃表示で特殊召喚する事ができる！
この効果で特殊召喚した効果モンスターの効果は無効化されるがな。
ダンディライオンを特殊召喚！

そしてダンディライオンと綿毛トークンを融合！
夜闇にゆれる陣羽織よ、懲悪の志を持ちて、その雄姿を天下に示せ！
融合召喚！
来たれ、ゴヨウ・ガーディアン！
ＴＧハイパーライブラリアンの効果で１枚ドローし、ダンディライオンの効果を発動！
綿毛トークンを２体特殊召喚する！
最も、場が空いてないから特殊召喚できないがな。」

凄い！
１ターンで上級モンスターが３体も！

それに、手札も減る処か増えてるし！

「バトルだ！
ゴヨウ・ガーディアンでワルキューレ・ドリッドを攻撃！
ゴヨウ・ラリアット！」

「くっ！」

「ゴヨウ・ガーディアンの効果を発動！
戦闘で相手モンスターを破壊した時、破壊を無効にして表側守備表示でコントロールを得る！」

「なにっ！？」

攻撃力２８００で相手モンスターのコントロールも奪えるの！？
強すぎだって！

「スターダスト・ドラゴンでワルキューレ・アルベストを攻撃！
シューティング・ソニック！
ＴＧハイパーライブラリアンでワルキューレ・ツヴァイトを攻撃！」

「くっ！」

これでジークのライフを８００まで減らせた！

「メインフェイズ２でデブリ・ドラゴンとワルキューレ・ドリッドを融合！
眩き光の輝きが新たな光を紡ぎ出す！
融合召喚！
導け！

ライト・エンド・ドラゴン！
ＴＧハイパーライブラリアンの効果で１枚ドローする！
カードを３枚伏せてターンエンドだ。」

「くっ、私のターン、ドロー！
ワルキューレ・ブリュンヒルデを守備表示に変更してターンエンドだ！」

何も出来ずにターンを終えるジーク。
最初に手札を使いすぎちゃったね。
まぁ、あれを防がれるとは思ってなかったんだろうね。

「私のターン、ドロー！
スタンバイフェイズ時に墓地のグローアップ・バルブの効果を発動！
スタンバイフェイズ時に墓地に存在する場合、このカードのレベルを１つ上げる。
その後、このカードのレベルと同じ枚数のカードを自分のデッキの上から墓地へ送り、墓地に存在するこのカードを自分フィールド上に特殊召喚する事ができる！
デッキからカードを２枚墓地に送り、グローアップ・バルブを特殊召喚！
バトルだ！
ライトエンド・ドラゴンでワルキューレ・ブリュンヒルデを攻撃！
シャイニングサプリメイション！」

「罠カード、ヴォーダンの裁きを発動！
相手モンスター攻撃宣言時に自分のデッキからカードを１枚ドローし、手札の魔法カードをデッキの一番上に置く事で、相手モンスターの攻撃を無効にし、バトルフェイズを終了する！」

「ならば、メインフェイズ2にゴヨウ・ガーディアンとグローアップバルブを融合！
数多の武器を扱いし機械龍よ、今ここ現れん！
融合召喚！
爆誕、パワー・ツール・ドラゴン！
ＴＧハイパーライブラリアンの効果でドロー！
そしてパワー・ツール・ドラゴンの効果を発動！
１ターンに１度、自分のメインフェイズ時に発動する事ができる。
自分のデッキからランダムに装備魔法カード１枚を手札に加える事ができる。」

ラフェールのデッキが自動でシャッフルされて、カードが取り出される。
自動でシャッフルされるのは便利だね。

「再融合を手札に加える！
カードを伏せてターンエンドだ。」

「私のターン、ドロー！
ふっふっふ！
どうやらまだ運命の女神は私を見放してはいないようだ！
魔法カード、ニーベルングの財宝を発動！
ＴＧハイパーライブラリアンを選択して発動！
自分のデッキからニーベルングの指輪を１枚選択して、選択したモンスターに装備する。
その後、自分のデッキからカードを５枚ドローする！

ワルキューレ・アルベストを攻撃表示で召喚！
相手の墓地に存在するゴヨウ・ガーディアンをゲームから除外しこのカードの攻撃力を、発動ターンのエンドフェイズまで　ゲームか

ら除外したモンスターの元々の攻撃力の数値分２８００アップする！
さらに装備魔法、霊剣ーノートゥングを発動！
ワルキューレ・アルベストに装備し、攻撃力を４００ポイントアップする。
さらにこのカードがワルキューレと名の付いたモンスターに装備した時、フィールド上に存在するドラゴン族モンスターを１体選択してゲームから除外する事ができる！
スターダスト・ドラゴンを除外！
バトルだ！
ワルキューレ・アルベストでライトエンド・ドラゴンを攻撃！」

攻撃力４８００のアルベストが攻撃力２６００のライトエンドに攻撃を仕掛ける。
ライフが２２００も削られちゃう！

「罠カード、緊急同調を発動！
相手のバトルフェイズ時のみ発動可能。
融合モンスターを融合召喚する！
ライトエンド・ドラゴンとＴＧハイパーライブラリアン、パワー・ツール・ドラゴンを融合！

蒼き帳が下りるとき、銀の吹雪が荒れ狂う！
理に背き、輪廻の鎖に楔を穿て！
融合召喚！
神滅ぼす矛となれ、氷結界の龍トリシューラ！！

トリシューラの効果を発動！
融合召喚に成功した時、相手の手札・フィールド上・墓地のカードをそれぞれ１枚までゲームから除外する事ができる！
手札１枚とフィールドのワルキューレ・アルベスト、墓地のワルキ

ユーレ・ドリッドを除外する！」

「なに！？」

強い！

召喚しただけで３枚も除外できるなんて！

「くっ！

カードを伏せてターンエンドだ！」

「運命の女神とやらはどこへいったのだ？

私のターン、ドロー！

装備魔法、再融合を発動！

８００ライフを払い、自分の墓地から融合モンスター１体を選択して自分フィールド上に特殊召喚し、このカードを装備する！

ＴＧハイパーライブラリアンを特殊召喚！

そして墓地のグローアップ・バルブの効果を発動！

レベルを１あげ、デッキを２枚墓地に送り特殊召喚する！

そして墓地のゾンビキャリアの効果を発動！

手札を１枚デッキの一番上に戻し、特殊召喚する！

この効果で特殊召喚した場合、フィールドから離れた時除外されるがな。

ゾンビキャリアとグローアップ・バルブを融合！

因果律の崩壊は精神世界の黒い炎

偶像の神に囚われ、超越者は復讐を誓う

融合召喚！！

報いよ！！

メンタルスフィア・デーモン！

そしてＴＧハイパーライブラリアンの効果で１枚ドロー！
２体目のゾンビキャリアの効果を発動！
手札を戻し特殊召喚！

ゾンビキャリアと氷結界の龍トリシューラ、メンタルスフィア・デーモンを融合！

破滅をもたらす光に正義の鉄鎚を今ここに下す！
融合召喚！
殲滅せよ、Ａ・Ｏ・Ｊディサイシブ・アームズ！

ＴＧハイパーライブラリアンの効果でドロー！
デブリドラゴンを召喚！
デブリドラゴンの効果でスノーマンイーターを特殊召喚！」

「いつそんなモンスターが墓地にいったのだ！？」

「グローアップ・バルブのコストで墓地に送られた。
そしてデブリドラゴンとスノーマンイーターを融合！

蒼き帳が下りるとき、紅き瀑布が雪崩れ落つ！
理を解し、仇なす者等に裁きを下せ！
融合召喚！
神破る矛となれ、氷結界の龍グングニール！」

…えっと、ラフェールの場には氷結界の龍グングニールにＴＧハイパーライブラリアンにＡ・Ｏ・Ｊディサイシブ・アームズの３体。
この決闘だけで何回融合したんだろう？

「Ａ・Ｏ・Ｊディサイシブ・アームズの効果を発動！

フィールド上に光属性モンスターが存在する時、１ターンに１度フィールド上のカードを破壊できる！
伏せカードを破壊！」

「罠カード、フリッカの仲裁を発動！
ヴォーダンの裁きを除外して、このターン自分が受けるダメージを０にする！」

「ならばグングニールの効果を発動！
１ターンに１度手札を２枚まで捨て、その枚数分フィールド上のカードを破壊する！
１枚捨てワルキューレ・ブリュンヒルデを破壊！
カードを伏せてターンエンドだ。」

「私のターン、ドロー！
ふっふ、ふっはっは！
どこまで運命とは残酷なものだろう！
魔法カード、サンダーボルトを発動！
相手フィールド上のモンスターを全て破壊する！」

「なっ！？」

嘘！
サンダーボルトはＫＣグランプリでは禁止カードの筈！

『おい貴様！
何故禁止カードをデッキに入れている！？』

「ふふふ、何をいう海馬よ。
カードとは使うためにあるのだよ。

それを禁止してしまうのは些か勿体ないのでね。
私が有効活用するだけさ！」

「汚ねぇぞ！」

「勝てば正義なのさ、この世は全て！
手札から魔法カード、白鳥の乙女を発動！
自分の手札からワルキューレと名の付いたモンスターを1体自分フィールド上に表側攻撃表示で特殊召喚する！
現れろ、ワルキューレ・ブリュンヒルデ！
そしてブリュンヒルデで直接攻撃だ！」

ラフェールの場にモンスターはいない！

「墓地のネクロ・ガードナーの効果を発動！
自分の墓地に存在するこのカードをゲームから除外して、相手モンスターの攻撃を1度だけ無効にする！」

「なかなかしぶといな。
だが運命の女神に愛されている私が負ける筈がない！
ターンエンドだ！」

「ふん。
禁止カードを使ってさえ私にダメージを与えられない輩が運命に愛されているだと？
ぬかせ！
私のターン、ドロー！
墓地のグローアップ・バルブ2体の効果を発動！
デッキから4枚墓地に送り、グローアップ・バルブを2体特殊召喚！
そして墓地に送られたライトロード・ビーストウォルフの効果を発

動！
このカードがデッキから墓地に送られた時、このカードを自分フィールド上に特殊召喚する！
更にライトロード・サモナールミナスを召喚し、効果を発動！
1ターンに1度、手札を1枚捨てる事で自分の墓地に存在するレベル4以下のライトロードと名のついたモンスター1体を自分フィールド上に特殊召喚する！
2体目のライトロード・サモナールミナスを特殊召喚！」
モンスターがいない状態からフィールドをモンスターで埋めた！
「ライトロード・ビーストウォルフとライトロード・サモナールミナスを融合！
魔術の夜に輝く星は秘蹟の錠を解き明かす式！
融合召喚！
我に応えよ、アーカナイト・マジシャン！
アーカナイト・マジシャンの融合召喚に成功した時、魔力カウンターを2つ乗せる！
そして魔力カウンターを取り除く事でフィールド上のカードを破壊する！
ワルキューレ・ブリュンヒルデを破壊！」
「な、なに！
バカな！」
ジークの場にはモンスターも伏せカードもない。
ラフェールの勝ちだね。
「魔法カード、ミラクルシンクロフュージョンを発動！

自分のフィールド上・墓地から、融合モンスターによって決められた融合素材モンスターをゲームから除外し、融合モンスターを融合素材とするその融合モンスター1体を融合召喚扱いとして融合デッキから特殊召喚する！
アーカナイト・マジシャンとTGハイパーライブラリアンを除外し、覇魔導士アーカナイト・マジシャンを融合召喚！
コイツも融合召喚時に魔力カウンターを2つ乗せる。
魔力カウンターを取り除き、1枚ドローする！
魔法カード、強欲な壺を発動！
2枚ドロー！

グローアップ・バルブ2体を融合！
舞い降りし光、暗中の策略を暴きださん！
青龍の姿、その目に焼きつけよ！
融合召喚、舞い降りろ！
ナチュル・パルキオン！
ライトロード・サモナールミナスの効果を発動！
手札を1枚捨て、ライトロード・ハンターライコウを特殊召喚！

そしてルミナスとライコウを融合！
人智を超えし能力を持つ者よ、我に救いと力を与えよ！
融合召喚！
包め、マジカル・アンドロイド！
カードを伏せ、魔法カード命削りの宝札を発動！
5枚ドロー！
今伏せた魔法カード、ミラクルシンクロフュージョンを発動！
メンタルスフィア・デーモンとマジカル・アンドロイドを融合！
アルティメットサイキッカーを融合召喚！
魔法カード、龍の鏡を発動！
墓地のトリシューラ、グングニール、ライトエンド・ドラゴン、デ

ブリ・ドラゴン2体を融合！
殲滅せよ、F・G・D！
そして、墓地にライトロードと名のつくモンスターが4種類以上いる時、このカードを特殊召喚できる！
降臨せよ、裁きの龍！」

さっきのターンのサンダーボルトでモンスターが居なくなったと思ったら、もっと強いモンスター達が出てきたね。合計の攻撃力は、2500＋2400＋2900＋5000＋3000の15800！！
もう一人のボクからも話は聞いたけど、2人とも数字がおかしいよ絶対！？

「お前の運命など、所詮その程度。
茜に刃向かおうとした事を後悔するんだな。
ナチュル・パルキオン、覇魔導士アーカナイト・マジシャン、アルティメットサイキッカー、F・G・D、裁きの龍でトドメだ！」

「ぐわぁぁぁ！！」

『し、勝者はI2社代表ラフェール選手！』

この決闘、最初は互角に見えたんだけどなぁ。
ジークは結局ラフェールの手のひらで踊らされてた感じがしたんだよね。

『では、1時間後に武藤遊戯選手とレオン選手によるエキシビションデュエルを行います！』

そういや次決闘だった！

準備しなきゃ！

第１９話（後書き）

ジークフルボッコの回でした。
最初適当にシンクロを融合にしてて結局あまり使ってなかったのですが、今回で大量に使って見ました。

今後は恐らくこんなに使うことは…数回はあるかも知れません。
少なくともイベント戦ですね。

普段は多少自粛。

なんか足りない気がしますが、眠気に勝てないので後程見直します。

第２０話（前書き）

更新が遅れてすみません。
投稿しようと思ったら、今回の話を飛ばして次のを書いてるのに気付きました。

次からは気を付けます。

第２０話

ｓｃｅｎｅジーク

馬鹿な！
この私が決闘で負けただと！？
これでは私の計画に狂いが生じてしまう！
それに、Ｉ２社に目を付けられていたのも想定外だった。
まさか、システムに侵入しようとして逆に侵入されていたとはな。

だが、まだ私には切り札が残っている。
いくらなんでもこれは防げまい。

くっくっく！
我が弟よ！
兄である私の為に動くがよい！

ｓｃｅｎｅ茜

「案外アッサリと終わったな。
俺はてっきり彼奴が逆上して襲ってくると思ったが。」

「…それはまだ彼の作戦が残っているから。
本当に手段がなくなれば暴力で訴えるかもしれないけど。」

「まだ残っているのか。
どれだけ我がＫＣに対して恨みがあるというのだ！
こんなチマチマとセコい事をせず、堂々と俺に挑戦を叩き付ければいいものを！」

そんな事する度胸があるのなら、ここまで逆恨みする事もないでしょうに。

まぁ、今回の妨害は防げるけど傍観しよう。
Ｉ２社にハッキングしようとした件の報復はさっきの決闘で十分だし。

「…それじゃ、私は武藤とレオンの決闘を見てくる。
ジークの最後の悪足掻きくらいは防ぎなさいよ。」

「ふん！
彼奴ごときに俺のロードは邪魔させん！」

思いっきり邪魔されてたけど、言わない方がいいのかな？
私が居なかったら、２人の正体にも気付かなかったのだろうし。

とりあえずそろそろ決闘が始まる時間だし、さっさと移動しよう。

なんとか決闘には間に合ったようね。
車椅子での移動がこんなに面倒とは思わなかった。

「なんや、夜霧やないか。
本部に居らんくていいんかいな？」

「…私はただのゲストだからいいの。
それに、面白そうな事も起こりそうだし。」

「ん、なんやおもろい事っうのは？」

「…見てれば分かる。
恐らくデュエルモンスターズ史上初の事よ。」

少なくとも私の知っている中では、他にはカードのテキストを書き替えた馬鹿はいなかった筈。
グールズでさえやってなかった事に平然と手を出す。
ある意味凄い。

「史上初かいな。
何がおこるんさかい？」

「…期待はしない方がいい。
みてて気持ちのいいものではないから。」

カードの改竄なんてされても観る方も対戦相手も詰まらないし。
まぁ今回改竄はオマケっぽいけど。

武藤とレオンの決闘が始まった。
一応流石というべきか、武藤優位で決闘が進んでいく。
レオンは憧れの武藤と決闘しているのは楽しいだろうけど、内心で

は複雑でしょうね。
そんな中、レオンはカードを引いて顔を強張らせる。
どうやらアレを引いたようね。

「なんや、レオンの動きがぎこちないように見えるんやけど。
なんかキーカードでも引いたんかいな？」

「…間違ってはない。」

キーカードっちゃキーカードだし。
スイッチとしての意味もあるけど。

でも、恐らくレオンはカードが改竄されていて、ウイルスの起爆スイッチになってる事は知らなさそうね。
彼はジークと違って純粋にデュエルモンスターズが好きな様だし。
顔を強張らせたのは、兄からのカードを使っていいか不安に感じたからでしょう。

レオンが葛藤していると、いつの間にかジークがステージの上にいた。
どうやって登ったのかしら？

「レオン、いやレオンハルトよ！
私が授けたカードで武藤遊戯を倒すのだ！
そうすれば、我がシュレイダー家はかつての栄光を取り戻せるだろう！
その暁には、お前の事も認めて貰えるだろう！」

「兄さん、本当ですか！？」

「ああ、約束しよう。
だからお前は存分に決闘するがいい！」
実の弟でも使える駒は使うのね。
天才とはいえレオンも１０歳の子供。
親と意見が合わず、まともに話もしてなければ寂しさを感じるでしょう。
それを利用して確実にあのカードを使用させる気ね。
一応本当に弟の事を思ってる可能性も無くはないけど、限りなく０に近い。

「僕はフィールド魔法、シュトロームベルクの金の城を発動！」

「なんじゃと！？
あれは幻のカードじゃ！」

武藤のお爺さんもいたんだ。
それにしても、よくこのカードの存在を知っていたわね。
私もデータをみるまで知らなかった。
シュトロームベルクの金の城の効果はかなり強力、というか反則級だった。

自分のスタンバイフェイズ毎に自分のデッキの上からカード５枚を墓地に送る。
送らなければ、このカードを破壊する。
１ターンに１度だけ、自分のメインフェイズ時に自分のデッキからレベル４以下のモンスター１体を自分フィールド上に表側攻撃表示で特殊召喚する。
フィールド上に存在するモンスターが攻撃可能な状態であれば、そのモンスターのコントローラーのターンに必ず攻撃しなければなら

ない。
相手フィールド上に存在するモンスターが攻撃宣言を行った時、その攻撃モンスターの攻撃力の半分のダメージを相手ライフに与えそのモンスターを破壊する。
自分フィールド上に存在するモンスターは、カードの効果では破壊されない。

最初の維持コストの墓地に5枚送るのはデメリットだと思うけど、私からしたらそれすらメリットにみえてしまう。
ライトロードがいい例。
他の効果も、破壊耐性や特殊召喚、強制攻撃に破壊してバーンという破格もの。
強制攻撃させて、攻撃を無効化し破格、さらにバーンダメージというのはやり過ぎだと思うのは仕方がない。

でもこれは、本来のシュトロームベルクの金の城の効果。
改竄されて、何処まで酷くなったのだろう？

「くっはっは！
でかしたぞ、レオン！
これでＫＣは終わりだ！」

「えっ！？
どういう事です、兄さん！」

やっぱりレオンは知らなかったのね。

「なに、簡単な事さ。
そのカードにはある仕掛けが入っていて、決闘で使用されると発動する設定になっている。

KCのメインコンピュータを破壊するウイルスのな！
これを防ぐにはそのカードを破壊するしかないのだよ！」

「そんな！？」

「なんつーセコい手使うねん、アイツは。
ワイはあんなんに負けたんかいな。」

地味に竜崎が落ち込んでいるけど、まぁいいや。

「僕は…
僕は純粋に決闘を楽しみたいんです！
だから、兄さんのやる事には反対です！
速攻魔法、サイクロンを発動！
破壊するのは…シュトロームベルクの金の城！」

「レオン！」

へぇ。
兄に逆らえるほど決闘が好きなのね。

サイクロンがシュトロームベルクの金の城に直撃するが、シュトロームベルクは何事もなかったかのように佇んでいた。

「そんな！？」

「はっはっは！
そのカードはテキストを書き替えたから最早破壊不可能だ！
それはモンスター効果、魔法、罠の如何なる破壊も効かん！
そしてフィールド魔法で上書きもできん！」

「汚ねぇぞ！」

「なぁ夜霧。
お前さんがいっとった史上初っつうのはテキストの改竄の事やったん？」

「…そう。
あのグールズでさえも手を出さなかったし。
何処まで酷くなるか気になった。」

「んや事いうたってな。
破壊できへんとかおかしいやろ？」

「…オレイカルコスの結界も破壊できなかった。
オレイカルコスは発動したらフィールドから離れないけど、あの言い方なら破壊以外の手段なら取り除けそう。
バウンスするなり除外するなり。
効果を無効化する手もある。」

「そう言われればそうやけどなぁ。
遊戯のデッキにんなカード入っとらんと思うで？」

それはそうだ。
除外はともかくバウンスの評価は異常に低いし。
再利用されてしまうのが原因だと思う。

「…まぁ、武藤ならなんとかするでしょう。」

「せやな。」

未来というかアニメで決闘王なんだし。

「僕は何て事を…」

「諦めるな、レオン！
まだ希望は残されている！
俺を信じろ！」

「遊戯さん…はい！」

「なんやろな。
遊戯の台詞が妙にキザっぽい気がするのは気のせいやろか？」

「…気のせいじゃない。」

主人公の台詞がキザなのは世界共通な気がする。

「僕のターンは終了です！」

「俺のターン、ドロー！
魔法カード、融合を発動！
手札のクィーンズ・ナイト、ジャックス・ナイト、キングス・ナイトを融合！
現れろ、アルカナナイトジョーカー！

バトルだ！
アルカナナイトジョーカーで森の狩人を攻撃！
」

「シュトロームベルクの金の城の効果を発動します！
相手フィールド上に存在するモンスターが攻撃宣言を行った時、その攻撃モンスターの攻撃力の半分のダメージを相手ライフに与えそのモンスターを破壊します！」

「なんや、あの反則な効果！
効果を改竄しすぎやないかい！」

「…あれは改竄されてない。
元々反則的な性能を持ってる。」

「なんやて！？」

なんでペガサスもこんなカード作ったんだろうね。

「俺はアルカナナイトジョーカーの効果を発動！
魔法カードの対象になった時、手札の魔法カードを捨てる事でその効果を無効化する！」

無効化効果ならシュトロームベルクにも効く。
ジークも中途半端に改竄したものね。
やるならオレイカルコスのように、他のカード効果を受けないようにすればよかったのに。

「カードを伏せてターンエンドだ！」

「僕のターン、ドロー！
シュトロームベルクの金の城の維持コストで…」

「その必要はないぞ、レオン！

今やそのカードの維持コストは相手のデッキの半分を墓地に送る事だ！」

「なっ！？」

デッキの半分ね。
悪くないけど、やっぱり元の自分のデッキから5枚送る方がどんなデッキにも入ると思う。
半分も送って、回収されたら目も当てれないし。

「武藤遊戯、お前のデッキは２６枚！
１３枚を墓地に送って貰おう！」

「くっ！」

「遊戯さん…」

「続けろ、レオン！」

「は、はい！
僕は魔法カード、イバラの呪いを発動します！
自分または相手の墓地に存在する効果モンスターを1体選択して、選択したモンスターが墓地に存在する限り、効果モンスターの効果を無効にします！
シンデレラを選択します！

そして魔法カード、百年　の目覚めを発動します！
自分フィールド上のイバラの呪いを墓地へ送って、デッキ・手札・墓地からイバラ姫1体を特殊召喚します！
イバラ姫を守備表示で特殊召喚します！

イバラ姫の効果を発動します！
1ターンに度、相手フィールド上のモンスター1体のコントロールを発動ターンのエンドフェイズまで得ます！
アルカナナイトジョーカーを選択します！」

「させないぜ！
速攻魔法、融合解除を発動！
アルカナナイトジョーカーを戻し、現れろ！
クィーンズ・ナイト、ジャックス・ナイト、キングス・ナイトを特殊召喚！」

「流石遊戯さんです！
僕のターンは終了します！」

「俺のターン、ドロー！

ふっ、ジーク！
見つけたぞ！
シュトロームベルクの金の城の攻略方を！」

「なに！？
シュトロームベルクの金の城は万能だ！」

「どうかな？
俺は魔法カード、ロイヤルストレートを発動！
自分フィールド上に存在するクィーンズ・ナイト、キングス・ナイト、ジャックス・ナイトをそれぞれ1体ずつ生け贄に捧げ、自分のデッキ・手札・墓地からロイヤルストレート・スラッシャーを1体選択して特殊召喚する！
墓地からロイヤルストレート・スラッシャーを守備表示で特殊召喚

！」

「いつの間にそんなカードが墓地に！？」

「シュトロームベルクの金の城のコストだ！
魔法カード、天よりの宝札を発動！
互いに手札が６枚になるようにドローする！
俺は６枚ドロー！

そしてロイヤルストレート・スラッシャーの効果を発動！
自分のデッキからレベル１、レベル２、レベル３、レベル４、レベル５のモンスターをそれぞれ１体ずつ墓地へ送り、相手フィールド上のカードを全て破壊する！

レベル１！
クリボー！
レベル２！
執念深き老魔術師！
レベル３！
岩石の巨兵！
レベル４！
翻弄するエルフの剣士！
レベル５！
カース・オブ・ドラゴン！」

なんで残りのデッキの６枚の中に都合良くこんなにモンスターが残っているんだか。
シュトロームベルクの金の城よりよっぽど武藤の存在の方が反則な気がする。
後城之内の運も。

「なに！？
だが、シュトロームベルクの金の城は破壊されぬ！」
「分かっているさ。
カードを3枚伏せて俺のターンは終了だ！」
「僕のターン、ドロー！」
「さぁ武藤遊戯、シュトロームベルクの金の城のコストを払って貰おうか！」
「ふっ、甘いなジーク！
俺のデッキは残り一枚！
その半分は0！
そしてコストが払われなくなった事でシュトロームベルクの金の城は自壊する！」
「なに！！？」
コストを払えなくして自壊させたのね。
確かに有効だけど、また面倒な方法を使ったわね。
でもまぁ、これでジークの企みは全て潰えたわね。
「これで心置きなく決闘できるぜ、レオン！」
「はい！
僕は親指小僧を召喚します！
そして魔法カード、大男の修行を発動します！
親指小僧を生け贄に捧げ、グローバーマンを攻撃表示で特殊召喚し

ます！
グローバーマンでロイヤルストレート・スラッシャーを攻撃です！」
「くっ！」
「僕のターンは終了です！」
「俺のデッキは後1枚、泣いても笑ってもこれが最後のターンだな。
俺のターン、ドロー！
手札から魔法カード、命の水を発動する！
墓地のブラック・マジシャン・ガールを特殊召喚！
そして伏せてある魔法カード、賢者の宝石を発動！
手札のブラック・マジシャンを特殊召喚！
そして魔法カード、黒・魔・道・炸・裂を発動！
自分フィールド上にブラック・マジシャンとブラック・マジシャン・ガールが表側表示で存在する場合に発動する事ができる！
発動ターンのエンドフェイズまで、ブラック・マジシャンの攻撃力はブラック・マジシャン・ガールの攻撃力の数値分アップする！
いくぞ、レオン！
ブラック・マジシャンでグローバーマンを攻撃！
黒・魔・導！」
「うわぁぁ！」
「そこまで！
KCグランプリエキシビションデュエル、勝者は武藤遊戯！」
予定通り武藤が勝ったわね。

さて、ここで決闘王の称号を受け取って貰いましょうか。
私はそんな称号いらないし。

『おい、夜霧。
なんだったのだ、さっきのウイルスは！』

海馬か。
そういや海馬に頼んでなかったかも。
丁度いいや。

「…私は言った筈。
ジークが最後の足掻きをするって。
それより、海馬は前から武藤を決闘王にしたがってたよね。
今回が丁度いい機会じゃない？」

『ふむ。
本当ならバトルシティの時にやりたかったのだがな。
誰かのせいでやれずじまいになってしまったし。
だがお前はいいのか？
一応お前が決闘王最有力候補だが。』

「…決闘王なんて称号なんか貰っても面倒事が増える予感しかしないし、武藤に渡しといて。」

危なかった。
今回言い出さなかったら、決闘王に担ぎ上げられてたかも。

『承知した。
まぁ問題はあったが、無事に終わって何よりだ。
お前もさっさと怪我を治しとけ。

そして俺様が決闘で叩き潰してやるわ！』

「…はいはい。
心配してくれてありがとう。
それじゃ閉会式とかよろしく。」

「話は終わったのか？
このままＩ２社に帰るのか？」

「ラフェールやないか。
ジーク戦と裏方御苦労様や。」

「ああ。
それで茜、どうする？」

「…いや、その前に城之内と話したいことがある。」

「城之内？
何を話すんや？」

「…前に城之内になんかいいバイトがあれば紹介して欲しいって言われたから。
彼にしか出来ない事を頼もうかと。」

城之内の強運でないとできない仕事の筈。

「まさか、彼奴にギャンブルカードを渡すっつう事はないよな？
あったら勝てる気せえへんで。」

「…そのまさか。
アルカナフォースとかをサポート無しで使える決闘者とか見てみたいし。」

「ほんまかいな。
まぁ、ええわ。
なら、さっさと行った方がええで。」

それもそうね。
多分彼等はドームにいるでしょうね。

ｓｃｅｎｅ遊戯

色々な事があったけど、ＫＣグランプリが無事に終わってよかったよ。
閉会式の時に、決闘王の称号を貰った時は驚いたけど。

僕達は最初断った。
茜ちゃんの方が相応しいと思ったし。
けど、茜ちゃん本人は僕達に決闘王の称号を貰って欲しかったらしい。
何でも面倒だからららしい。
茜ちゃんらしいと言えばらしいけど。

僕達は明日ＫＣの飛行機で日本に帰る事になってる。

そして、少し休憩してからもう一人の僕の記憶の手掛かりを探す事にした。

今日は最後のアメリカかぁと思いながら皆でホテルに向かっていると、茜ちゃん達3人が見えた。

「…城之内いる？」

城之内君に用でもあるのかな？

「いるぜ。

もしかして、この前のバイトでなんかいいのがあったのか！？」

バイト？

何を茜ちゃんに相談してるの、城之内君。

「…その件。

月給制で長期契約だけど、そこそこいいと思う。」

「まじか！

教えてくれ！」

「…月給は１００万円で、最低1年以上。」

月給１００万！？

最早バイトの金額じゃないよそれ！

「城之内、ぜってぇ危なぇぜそれ。」

「そうよ城之内。

いい話には裏があるっていうじゃない。」

「だけどよぉ。
１００万だぜ、１００万！」

「…因みに依頼元はＩ２社。」

え？
茜ちゃんの所？

「まじか！
本田、杏子！
Ｉ２社なら問題ねぇだろ！」

「問題ねぇな。
つか夜霧、それ俺もできねぇ？
やりたいんだが。」

本田君…

「…城之内程の強運とそこそこの決闘の腕前があればいいけど。」

強運？
強運を必要とするバイトってどんなの？

「…内容は試作カードのテストプレイ。
本来なら竜崎とラフェールに任せてるけど、ちょっと癖が強すぎて
使えないから城之内に頼もうかと。」

竜崎君とラフェールが扱えないカードってどんなんだろう？

「カードを貰えて金も貰えるんだろ？
やるぜ、やってやるぜ！」

「…それじゃこの契約書にサインして。
で、これらがそのカード。」

ラフェールが持っていた鞄を城之内君に渡す。
中身全部！？

「すげぇ数だな。
え～と何々？
アルカナフォース？
これの何処が使いにくいんだ？」

「効果を一回みてみぃや。
アルカナフォースは全部召喚、特殊召喚、反転召喚した時に正位置か逆位置かで効果が変わるカード群や。」

ほんとだ。
ていうか当たりの効果は強力だけど、外れのデメリットが酷くない？

「…要するに、ギャンブル性が凄く高いの。
これで城之内に頼む理由が分かるでしょう？」

…あはは。
完璧に分かっちゃうね。
確かに城之内君にぴったりだね。

「なんだよ！

全員揃って成る程って視線！
もの凄く痛いんだよ！」

「…まぁ、という訳でお願いね。
決闘盤も後で送るから、それを使って。
何回当たりがでるか測定できる装置を入れてあるから。
後の詳しい事は契約書に書いてあるから見ておいて。
それじゃ。」

茜ちゃん達はそれだけ言うと戻っていった。

「良かったな、城之内。
いいバイトが見つかって。」

「くそぅぅ！
なんなんだ、この複雑な気持ちは！」

…うん、平和だね。

第２０話（後書き）

結局城之内にアルカナフォースを使わせる事にしました。
どう影響するかは不明ですが。

次からは王の記憶編に入りますが、原作を無くしているので話が適当になってしまうかもしれませんがよろしくお願いします。

シュトロームベルクの金の城は改竄する前が強いと思うのは自分だけでしょうか？

第２１話（前書き）

今回はプロローグ的な感じです。

第２１話

ｓｃｅｎｅ茜

ＫＣグランプリが終わって１週間。
ようやく体も日常生活を送る上では影響が無いくらいまで回復した。
足の怪我は治ってないけど。
もう怪我じゃなくて呪いの一種ではないかと思う。

私は今モンスターに乗ってエジプトにあるとある遺跡に向かっている。
事の発端は数時間前だった。

いつも通り仕事を終えて、新しいデッキでも考えようと思っているとペガサスから連絡があった。
なんでも、ある遺跡を見つけたのはいいが、中に入る方法が分からないから来て欲しいらしい。
私も専門家じゃないから分からないとは思うけど息抜きにはなるかなと思い、今に至る。
そういや前にオシリスに三幻魔の封印されてる場所を聞いて、少し前にエジプトにあるって聞いたけど。
まさか、ね？

暫くうとうとしていると、いつの間にか遺跡の前に着いていた。
入り口らしき所の近くにペガサスがテントを張って待っていた。
どれだけ用意周到なのよ。

「よく来てくれたのデース。

私だけではどうしてもこの門を開けることが出来ないのデース。
ただ、門に古代神官文字で何かが書かれているのは確かデース。」

「…古代神官文字？
それなら一応読めるけど。」

門の前にいき、文字を見る。

「…此処に古より伝わりし三幻魔は封印される。
力を欲する者よ、永遠を求める者よ、通るべからず。汝の身に災い起きん。
知を求めし者よ、通るがよい。
試練を越えし時、真実を知る。」

古代神官文字を読み終わると、文字が光り門が開く。

「Ｏｈ～！
流石茜デース！」

「…それにしても、知を求めし者って随分きついわね。
古代神官文字を読めるのが最低条件って事のようだし。」

絶対中に入れさせる気がない仕掛けね。

遺跡の中はただっぴろい空間が広がっていて、中央には広場みたいな空間がある。
そして奥の祭壇らしき所には石板が3枚祀る様に佇んでいる。
あそこに三幻魔が封印されている？

「…ペガサス。

興奮して先走らないで。
何があるか分からないから。」

「茜は何でもお見通しデース。
分かったのデース。」

釘を刺しておいてよかった。
ぎりぎりな気もするけど。

いざという時に精霊の力を使える私を先頭にして、ペガサスは２０歩程後ろを着いてくる。
罠があると思うけど、何処に何があるかが全く分からない。
仕方がないから、慎重に進まざるを得なかった。
けれど、それが功を期した。

最初に見えた広場に踏み入れた途端、私とペガサスの間にあった床が抜け落ちた。
いや、私が広場に隔離されたというべきか。

「Ｗｈａｔ！？
茜、大丈夫デース？」

「…何ともない。
ペガサスはそこから動かないで。」

辺りを警戒していると、目の前に人影が現れた。
魔術師の様なフードをかぶり、杖を持っている。
けれど、人間にしては巨大すぎる事が異型の存在であることを示している。
もしかして機械でできている？

「こんな辺境な所に訪問者とは珍しい。
それも人間ときたか。
人間、汝は何を求めて此の地にやってきた？
力か？永遠の時間か？」

「…そんなものいらない。
永遠の時間なんてもってのほか。
強いていえば好奇心。」

永遠の時間は要するに不老不死の事だと思う。
不死といえば聞こえはいいけど、結局は何をされても死なないだけ。
恐らく痛みは普通に感じるだろうから、何回も死ぬような痛みは味わいたくない。

「ほぅ。
永遠を欲しない人間がいたとはな。
人というのは死を恐れ、永遠を求める。
これは普遍の定理。
それを求めぬ汝は何者ぞ？
それに、汝はこの地に封印されている者と同等以上の存在を所持しているな？」

「…なぜそれを知っている。」

三幻神、三邪神、地縛神にＳｉｎシリーズ。
よく考えると、アニメに出てくる伝説系のカードの殆どを持っている事になる。
知らず知らずのうちに力が漏れてる？

「汝の周囲から強烈な力を感じたのでな。
尤も、我の様な異型の者にしかわからぬ程度だがな。
それほどの力を持つ汝の実力、見極めさせて貰う！
決闘！」

「…問答無用ね。
決闘。」

決闘が始まると、先程抜けた床が相手の元に集まっていく。
もしかしなくても、あれは全てカードの石板？
相手の前に石板が５枚。
恐らく手札って事ね。
そういえば、５Ｄ'ｓでも同じ様な事があった気がするような。

「我の先攻、ドロー！
モンスターをセットし、カードを２枚伏せてターンエンド！」

「…ドロー。
神秘の代行者アースを攻撃表示で召喚。
そしてアースの効果発動。
アースが召喚に成功した時、自分のデッキから神秘の代行者アース以外の代行者と名のついたモンスター１体を手札に加える事ができる。
創造の代行者ヴィーナスを手札に加える。
バトル。
アースで伏せモンスターを攻撃。」
「モンスターはＡ・Ｏ・Ｊサイクルリーダー！
こいつの守備力はアースの攻撃力と同じく１０００！
よって戦闘では破壊されれん！」

まずい。
Ａ・Ｏ・Ｊの大半は光メタの効果を持っているから、このデッキとの相性は最悪ね。

「…カードを２枚伏せてターンエンド。」

「我のターン、ドロー！
サイクルリーダーを生け贄に捧げ、Ａ・Ｏ・Ｊルドラを召喚！
バトル！
ルドラでアースを攻撃！」

「…っ。」

唯一の幸いは相手がＡ・Ｏ・ＪカタストルやＡ・Ｏ・Ｊディサイシブ・アームズとかのシンクロ群を持ってないことね。
そうでなければルドラを使う意味もないし。

「カードを伏せてターンエンドだ。」

「…ドロー。
創造の代行者ヴィーナスを召喚。
ヴィーナスの効果発動。
５００ライフポイントを払って自分の手札またはデッキから神聖なる球体１体を自分フィールド上に特殊召喚する。
ライフを１５００払い、神聖なる球体を３体特殊召喚。
魔法カード、馬の骨の対価を発動。
神聖なる球体を墓地に送り、２枚ドローする。
神聖なる球体２体と創造の代行者ヴィーナスを融合。
天空を制した光の騎士よ、神の力を身にまとい、地上を照らせ

融合召喚
光輝け、神聖騎士パーシアス

パーシアスの効果発動。
1ターンに1度、相手フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体の表示形式を変更する事ができる。
このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。
ルドラを守備表示に変更する。」

「なぬ！？」

「…バトル。
パーシアスでルドラを攻撃。
ターンエンド。」

「我のターン、ドロー！
A・O・Jコアデストロイを攻撃表示で召喚！
バトル！
コアデストロイでパーシアスを攻撃！
コアデストロイが光属性モンスターと戦闘を行う場合、ダメージ計算を行わずそのモンスターを破壊する！」

ほんと厄介ね。
このデッキは純光天使だから、戦闘ではコアデストロイを破壊できないわね。
神光の宣告者でもいれておけばよかったわ。

「我のターンは終了だ！」

「…ドロー。
モンスターをセットしてターンエンド。」

「ふむ。
打つ手なしか。
我のターン、ドロー！
A・O・JD・D・チェッカーを召喚！
このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、互いに光属性モンスターを特殊召喚する事はできん！
バトル！
コアデストロイで裏側モンスターを攻撃！」

「…セットモンスターはジェルエンデュオ。」

「ならば、コアデストロイの効果で破壊する！」

「…手札から朱光の宣告者を発動。
このカードと天使族モンスター1体を手札から墓地へ送り、相手の効果モンスターの効果の発動を無効にし破壊する。」

「くっ！
ターンエンドだ。」

「…ドロー。」

今引いたのは聖なるあかり。
泥試合になりそうね。

「…聖なるあかりを守備表示で召喚。

このカードは闇属性モンスターとの戦闘では破壊されず、その戦闘によって発生する自分への戦闘ダメージは０になる。
このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、闇属性モンスターは攻撃宣言をする事ができず、お互いに闇属性モンスターを召喚・特殊召喚する事はできない。」

互いに互いのデッキのメタカードが入ってるのは案外珍しいかも。
あっちのＡ・Ｏ・Ｊは光メタのカテゴリの分厄介だけど。

「…魔法カード、天空の宝札を発動。
手札からＴｈｅｓｐｌｅｎｄｉｄＶＥＮＵＳをゲームから除外し、自分のデッキからカードを２枚ドローする。
このカードを発動するターン、自分はモンスターを特殊召喚する事ができず、バトルフェイズを行う事もできない。
２枚目の天空の宝札を発動。
アテナを除外して２枚ドロー。
カードを伏せてターンエンド。」

「ふぅむ。
我のターン、ドロー！
モンスターをセットしてターンエンドだ。」

「…ドロー。
ジェルエンデュオは天使族・光属性モンスターを生け贄召喚する場合、２体分の生け贄とする事ができる。
ジェルエンデュオを生け贄に捧げ、マスター・ヒュペリオンを攻撃表示で召喚。
マスター・ヒュペリオンの効果発動。
１ターンに１度、自分の墓地に存在する天使族・光属性モンスター１体をゲームから除外する事で、フィールド上に存在するカード１

枚を選択して破壊する。
神秘の代行者アースを除外してＡ・Ｏ・ＪＤ．Ｄ．チェッカーを破壊。」

「何！？」

「…バトル。
ヒュペリオンで伏せモンスターを攻撃。」

「罠カード、死のデッキ破壊ウイルスを発動！
Ａ・Ｏ・Ｊアンリミッターを生け贄に捧げ、相手のフィールド上に存在するモンスター、相手の手札、
相手のターンで数えて３ターンの間に相手がドローしたカードを全て確認し、攻撃力１５００以上のモンスターを破壊する！
マスター・ヒュペリオンを破壊！
更に手札のアテナも破壊する！」

「…ターンエンド。」

死のデッキ破壊ウイルスは予想外だった。
Ａ・Ｏ・Ｊで攻撃力１０００以下のモンスターはＡ・Ｏ・Ｊアンリミッターしかいなくて、アンリミッターも基本直ぐ効果を使うから入ってないと思ったけど。

「我のターン、ドロー！
魔法カード、強欲な壺を発動！
２枚ドローする！
そして速攻魔法、禁じられた聖杯を発動！
聖なるあかりのモンスター効果を無効にする！
Ａ・Ｏ・Ｊサウザンド・アームズを攻撃表示で召喚！

バトル！
サウザンド・アームズで聖なるあかりを攻撃！」
「…聖なるあかりが破壊されたときに永続罠、奇跡の光臨発動。
除外されているアテナを特殊召喚。」

「カウンター罠、神の警告を発動！
２０００ライフポイントを払って発動する。
奇跡の光臨を無効にし破壊する！」

「…カウンター罠、神の宣告を発動。
ライフの半分の４５０払い、神の警告を無効にし破壊する。」

「くっ！
攻撃を中断し、魔法カード、天よりの宝札を発動！
カードを3枚伏せてターンエンドだ！」

「…ドロー。
神秘の代行者アースを守備表示で召喚。
効果で奇跡の代行者ジュピターを手札に加える。」

「永続罠、閃光を吸い込むマジック・ミラーを発動！
このカードがフィールド上に存在する限り、墓地またはフィールド上で発動した光属性モンスターの効果を無効にする！
アースの効果を無効にし、アテナの効果も無効だ！」

とことん光メタに特化したデッキね。
でも、手札で発動する効果は防げないから、オネストの効果は通してしまう。

「…罠カード、第六感発動。
自分は1から6までの数字の内2つを宣言する。
サイコロを1回振り、宣言した数字の内どちらか1つが出た場合、
その枚数自分はカードをドローする。
ハズレの場合、出た目の枚数デッキの上からカードを墓地へ送る。
5と6を選択。」

ほんとに第六感を持っていない限り、基本的に5と6を選ぶのが定石。
外れても墓地を肥やせるから、損はしない。

「…出た目は3。
デッキから3枚墓地に送る。
魔法カード、死者蘇生発動。
光神機ー轟龍を特殊召喚。
バトル。
アテナでサウザンド・アームズを攻撃。」

「罠カード、和睦の使者を発動！」

「…ターンエンド。」

「我のターン、ドロー！
手札からA・O・Jコズミック・クローザーを特殊召喚！
コズミック・クローザーは相手フィールド上に光属性を含むモンスターが2体以上存在する場合、手札から特殊召喚する事ができる！
バトル！
サウザンド・アームズでアースを攻撃！」

「…っ。」

「さらにサウザンド・アームズは相手フィールド上に表側表示で存在する
光属性モンスターに1回ずつ攻撃をする事ができる！
アテナを攻撃！
そして攻撃時に速攻魔法、リミッター解除を発動！」

それは通すと不味いというか負ける。

「…罠カード、レインボーライフを発動。
手札を1枚捨て、受けるダメージを無効化し、その分回復する。」

「なに！？
だが、モンスターは残さん！
サウザンド・アームズで轟龍を攻撃！
ターンエンドだ。
そしてエンドフェイズにサウザンド・アームズとコズミック・クローザーは破壊される。」

さて、そろそろ決着をつけないといけない。
長引くと、デッキの相性でじわじわと追い詰められてしまう。

「…ドロー。
引いたカードは光神テテュス。
死のデッキ破壊ウイルスの効果で破壊される。
魔法カード、死者転生発動。
手札を1枚捨て、墓地の運命の女王エターニアを手札に加える。
魔法カード、封魔の矢を発動。
発動ターンのエンドフェイズまで、相手はフィールド上にセットされた魔法・罠カードを発動する事はできない。

そしてこのカードの発動に対して、魔法・罠・効果モンスターの効果を発動する事はできない。
罠カード、異次元からの帰還発動。
ライフを８７５払い、除外されているＴｈｅｓｐｌｅｎｄｉｄＶＥＮＵＳ、神秘の代行者アースを特殊召喚。
さらに装備魔法、早すぎた埋葬発動。
ライフを８００払い、マスター・ヒュペリオンを特殊召喚。
ＴｈｅｓｐｌｅｎｄｉｄＶＥＮＵＳ、神秘の代行者アース、マスター・ヒュペリオンを生け贄に捧げ、運命の女王エターニアを召喚。
止め。
エターニアで直接攻撃。」

「くっ！

見事だ。
汝の腕前は本物の様だな。
汝なら封印された精霊を使いこなせるかも知れぬな。
付いてこい。」

ペガサスと合流して私達は後を追った。
祭壇の前までやってくると、何かに気圧されるような息苦しさを感じる。

「…っ！」

「Ｗｈａｔ！？
茜、大丈夫デース？」

「どうした？
あぁ、どうやら汝には邪念が溜まっているようだな。

そのせいで精霊の力を過剰に感じてしまうのだろう。
心当たりはあるか？」

「…心当たりというか、これだと思う。」

そういってダーツとの決闘の時に付いた傷を見せる。
三幻魔は所有者に永遠の命を与えるというけど、それを応用して怪我を治す事はできる？

「ふむ。これはまた…。
何千年前からの邪念だ？
よくこれほどの邪念を溜めておけるな。
ここまでの邪念となると、いずれ発狂するものだが。」

「…発狂って。
三幻魔の力で治せない？」

「治せない事はない。
だが、不老不死にするより多量の精霊の力が必要となる。
果たしてこの世界にそれだけの力があるのかどうか。」

不老不死にするよりも難しいってどういう事？
はぁ。

「…まぁいいや。
それより、三幻魔は貰っていくから。」

「構わぬ。
精霊も封印されてるより誰かに使われた方がいいからな。
だが、くれぐれも扱いには注意しろ。」

「…忠告ありがとう。」

さて、息抜きのつもりがいつの間にか三幻魔を手に入れてしまったけど。
怪我を治すのには使えなさそうだし。
結局危険な要素が増えただけな気がするのは気のせいだろうか。

とりあえず本社に帰ろう。

ｓｃｅｎｅラフェール

ん？
茜宛に封筒が来ているが、何だこれは？
見た所アンクの御守りと手紙みたいだが。
手紙の中身は少し覗いたがさっぱり分からん。
何語なのだ、これは？
エジプト方面の言語か？

まぁいい。
とりあえず渡しておくか。

第２１話（後書き）

《運命の女王エターニア／Ｑｕｅｅｎ　ｏｆ　Ｆａｔｅ　－　Ｅｔｅｒｎｉａ》

効果モンスター
星８／光属性／天使族／攻２４００／守２０００
このカードは特殊召喚できない。
自分フィールド上の天使族モンスター３体を生け贄にして生け贄召喚しなければならない。
このカードの直接攻撃によって相手ライフを０にした場合、このカードのコントローラーはマッチに勝利する。

第３回世界大会準優勝賞品です。
今回の話を書いていて、トドメをどうしようかとｗｉｋｉを見たら、丁度このカードが出たので使って見ました。

次から原作に入ります。
だいたいの流れは決まりましたが、恐らく皆さんの予想とは違うものになるかと思い…ます。
作者の伏線の配置が下手なので気付いた方もいるとは思いますが。

第２２話（前書き）

ただでさえ短めのこの小説ですが、暫く決闘がないので更に短くなりますが、ご了承下さい。

第２２話

ｓｃｅｎｅ茜

三幻魔を手に入れてＩ２社に帰ってきたはいいけど、ラフェールから中身が不明な私宛の封筒が届いていたと聞かされた。
少し疑問に思いながら封筒を貰った。

自分の執務部屋に着いてから開けてみると、中には古代神官文字で書かれた手紙と千年錠が入っていた。
ラフェールが中身不明といったのにも納得できた。
こんなもの普通は見ても何か分からない。

それにしても千年錠ね。
何でまたこんなものが私の元に？
確か記憶編で武藤達がゲームの中に入るために使ってたと思うんだけど。

…ってもう原作の王様の記憶編に入る時期なんだ。
バトルシティからかなり時間が開いたから分からなかった。となると、これはバクラからの招待状？

手紙の方を読んで、記憶編が始まるのが確信できた。

『よぉ、副社長さんよぉ。
この手紙に書かれてある文字が読めるっつうんだったら、童実野町にある博物館にきなぁ。
遊戯達から話位は聞いてンだろ？
後はいけばおのずと分かるから省かせてもらうぜぇ。

一緒に送った千年錠は招待状みたいなもんだ。
忘れずにもってこい。』

記憶編は確か三幻神やゾークが出てくるやつだったような。
それと…
三千年前のエジプトが舞台だったっけな。

となると、三幻神と青眼の白龍はもっていくと不味そうね。
現代はカードだから私が持っていてもまだいいけど、記憶の中では石板に宿っていた筈。
三幻神はファラオ専用だし、青眼の白龍もなんかのイベントで出てきた筈。
それを私が迂闊に使ったら物語がどう転ぶか分からなくなってしまう。
原作という流れがあるなら、それに逆らわない方が安全だし。
その代わりに、三邪神と三幻魔でも持っていこう。
万が一の為にあっても困らない筈。

後、何か大事な事を忘れてる気がするけど。
まぁ、いいか。
思い出せない事を必死に考えるより今ある問題を片付ける為に動こう。
日本に行く事は置き手紙にでも書いておけばいいか。

ｓｃｅｎｅ竜崎

KCグランプリが終わって、ようやく本格的に決闘について学びだせるようになったで。とはいうものの、基本中の基本は一応終わっとる。
なんでも墓地肥やしや除外アドバンテージの重要性を知ることらしいで。

確かに、最初はなんで自分から墓地にカードを送る必要があるのか全く分からへんかったで。
特に苦渋の選択や天使の施しは何処が強いんやと何回も思ったで。
所が今やと、何でこんな使えるカードを使っとらんかったんやと昔の自分に説教したいぐらいや。

グランプリの時も、ワイの知らんかったカードを沢山使うたけど、あれは単に使う人が居らんかっただけで昔からあるカードが殆どやった。
夜霧が作ったカードはせいぜい融合がいらん融合モンスターとリミットリバース、マクロコスモスぐらいや。

せやて、ワイには知識が足りなさすぎる。
最初に決闘を学ぶゆうたけど、実際は知らへんカードを減らす事やな。

せなわけでグランプリが終わってからは夜霧に3日おきにお題をだして貰うて、それに関する事柄を調べとる。
今日はどんなお題がくるんやと思いながら、夜霧の執務室まで行く。

「夜霧、入るでぇ。」

返事はない。

おかしいで。
普段ならこの時間は必ず自分の執務室に居るっつうのに。

少し怪訝に思ったで、悪いとは思いながら扉を開けて部屋に入る。
普段と変わらへん必要最低限の物しかない殺風景な部屋。
もうちょい色んなもん置いた方がええと思うのはワイだけではない筈や。

少し部屋を探すと、机の上にメモ書きが置いてあるのを見つけた。

『少し面倒な事に巻き込まれたので日本に行きます。
恐らく数日で帰ってこれると思います。
私が居ない間、私の分の仕事をペガサスにやらせて下さい。
これを見つけた人にその任務を任せます。
後、三幻神と青眼の白龍のカードがこの部屋の金庫にしまってあるのでたまに確認しておいてください。』

その後も延々と注意書きが書いてあった。
夜霧は子供の留守を心配して長いメモ書きを残す母親かっちゅうの、とツッコミたくなる位長かったで。
どんだけ心配やねん。
それに、金庫なんて何処にあるんや。
さっき軽くみたけど、何処にもなかったで。

『追伸
竜崎が来たらここに書いてあるお題を伝えておいて下さい。

1回目
墓地コストを必要とするカード
2回目

多種族に効果を及ぼすカード
３回目
現在デュエルターミナルで試運転中の禁止・制限リストで、リストにアップされた原因』

きちんとワイへのお題も書いてあったで。
にしても、３回目のお題は難しすぎやないか？
そもそも禁止・制限リストがあったなんて初耳やで。

とりあえず、Ｉ２社の社員に夜霧が居らんことを伝えるのが先決やな。

ｓｃｅｎｅ茜

さて、と。
童実野町の博物館に着いたはいいけど、開館してる筈なのに人が全く居ない。
人払いでもされている？

異様とした雰囲気の博物館の中を歩いていく。
なんとなくだけど館を闇が包んでいるのを感じる。
それと、誰かに視られてるような気もする。
これらは千年アイテムの力かな。

そして何故バクラが千年錠を招待状といって送ってきたのかも理解できた。

恐らく千年アイテムを持っていないとこの博物館に入れないようになっているのだと思う。
それならさっき人が居なかったのも納得できるし。
暫く歩き回って、ようやく石板の前に辿り着いた。
博物館に入った時から感じていた視線らしきものも感じなくなった。
「…ここで千年錠を掲げればいいのかしら、バクラ？」
虚空に声をかけるが、当然の様に返事はなかった。
「…まぁ、最初から期待はしてないけど。
わざわざ呼び出したからには、闇のゲーム、せいぜい楽しませてくれるのでしょう？」
そういって千年錠を掲げる。
千年錠が光り輝き、私は意識を失った。

ｓｃｅｎｅバクラ

コイツは驚いたぜ。
Ｉ２社の副社長に古代神官文字で手紙を書いたが、まさか読めたとはな。
これなら、三千年前に隠された邪神についての手掛かりも掴めそうだな。

全く、暇つぶしに宿主の記憶を観ていたらあり得ねぇもんがみえたからな。
人生何が起こるか分かったもんじゃないぜ。

バトルシティの決勝戦で副社長が三幻神を使っていたのもそうだが、最後に召喚した邪神アバター。
あれは三幻神の影として三千年前に呼び出された神というのは知っていたが、それ以上の記録は何も残されちゃあいなかった。
バトルシティの後にイシュタール家の遺跡に忍び込んで邪神に関する石板もみたが、俺様の知っている以上の事は古代神官文字からは読み取れなかった。
他の古代文字の所に書かれているんだろうが、生憎俺様は読めないもんでねぇ。

彼処だけじゃねぇ。
長い間世界中のあらゆる遺跡を探したが、その邪神について書かれている資料は何もなかった。

流石の俺様も半分以上諦めていたさ。
そんな時だ。
ひょいと邪神が召喚されたのをみたのは。

思わず自分の目を疑っちまったぜ。
それからは、その邪神を召喚した女について調べれるだけ調べた。
詳しくは調べられなかったが、Ｉ２社の副社長である事と、何かの力を持っている事は突き止められた。
そりゃあ、千年アイテムと何の縁も無しに三幻神を使う奴がただの一般人な訳がないがな。

彼奴の事を知って、当初からの計画に付け加えて三千年前に存在を

消された邪神を復活させる案も万が一の為に用意した。
ゾークが負けるわけないが、もしもの為の作戦は必要だからな。

それに、当初は最初から多少予想がつきにくい案に更に不安要素を入れるのはどうかと思った。
下手をすると、邪神を敵に回すことになりかねねぇしな。
ファラオの軍勢は殆ど調べがついているから問題ないが、邪神についての情報は皆無だからな。
ゾークを越える邪神でないと言い切れる保証もない。

だが、俺様は敢えてその不安要素を入れる事にした。
存在が無き者にされたということは、その時代の勝者、ファラオに楯突いたということだ。
俺様が作った闇のゲームは指示がなければ史実通りに行動するようになっている。
つまり、邪神がファラオに楯突く史実が再現される事になる。
どの程度の規模であれ、ファラオの目が邪神に向けば、こちらも動きやすくなるしな。

おっと、少し考えすぎてたな。
いつの間にか副社長が石板まで来ていたようだな。

「…ここで千年錠を掲げればいいのかしら、バクラ？」

なに！？
まさか、俺様に気付いただと！？
いや、それはない筈だ。
今やこの博物館は俺様のテリトリーと化している。
副社長が何らかの力を持っていたとしても、博物館全体を覆う気配は感じても俺様は分からない筈だ。

恐らく俺様がここにいると予想して言ったに違いない。
「…まぁ、最初から期待はしてないけど。
わざわざ呼び出したからには、闇のゲーム、せいぜい楽しませてくれるのでしょう？」
！？
彼奴は闇のゲームだと気付いたっていうのか！？
いくらなんでもおかしすぎるぞ！
これは俺様が独自に進めていたものだ。
当然誰にも話しちゃいねぇ。
宿主でさえ何も知らねぇんだ。
それを何故見破った！？
ちぃ！
どうやらとんでもない化け物を招いちまったようだな。
仕方がねぇ。
今更変更は効かねぇし。
何より、ファラオ達がもうすぐきちまう。
さっさと副社長の体を回収するか。
千年錠しかないだと？
何故だ！
俺様が仕掛けたのは魂だけをゲームに閉じ込める事だけだ。
それがどうして体もゲームの中に入ったんだ！？
魂だけならファラオと俺様にしか見えないようになってるが、体ごと入ったとなると話が変わってくるな。

恐らく人形にも見えるンだろうな。

副社長の存在が吉と出るか凶と出るか。
まさしく神のみぞ知る、ってか。

第２２話（後書き）

次からは舞台が記憶の中になります。
かなり設定について独自解釈がありますが、よろしくお願いします。

第２３話（前書き）

主人公がゲーム世界に入ったのは遊戯達の少し前です。

そして今回も短いです。

デュエルがないとどうしても短くなってしまいますね…

第２３話

ｓｃｅｎｅ茜

「…また遺跡の中？」

石板に千年錠を掲げた所で記憶が途切れていたが、目を覚ますと遺跡みたいな構造をしている小部屋にいた。
気を失っている間に闇のゲームの中に入り込んだとは思うけど、此処が何処なのか皆目検討もつかない。

原作の中で遺跡らしい所といえばクルエルナ村の所ぐらいしか思い付かないけど、少なくともそこではない。
というか、少し前にいったばかりの三幻魔の遺跡や、この世界に来たときにいた遺跡にそっくりな気がする。
それを考えると、三幻神、三幻魔と来て、今回は三邪神に関する遺跡かな？
ドーマの時にイシュタール家の遺跡にあった内容で、三幻神と三邪神が同時期に存在したという記述もあったし。

遺跡の中を回って見ると、案の定奥の祭壇に石板が三枚佇んでいた。
絵柄を確認すると、イレイザー、ドレッド・ルート、アバターの三体が描かれていた。

念の為に自分の持っている三邪神と確認してみようと三邪神のカードを見てみると、カードのイラストだけが抜け落ちたかのように消えていた。
慌てて他のカードも確認してみると、三幻魔のカードもイラストが消えていた。

けれど、カードの存在事態がなかった事にされている訳ではなさそうである。
もしそうなら、このカード自体も無くなっている筈だし。
カードを確認したついでに自分の持ち物を確認したけど、特に何の変化もなかった。
決闘盤があるのが気になったけど、原作でも使ってたかと思い出した。

そうやって周りの状況を確認していると、ガヤガヤと人が集団で居る時特有の音が聞こえてきた。
3年前はやって来たのがペガサスだったけど、今回は誰？
暫く待っていると、集団の会話が聞こえてくるようになった。

「おい、何かあったか？」

「いや、何もないな。
本当にこんな所に邪神とやらがいるのかよ？」

「神官様達が来ているんだぞ、何かあるに決まっているだろう。」

「とはいってもなぁ。
後はここの奥しか残ってないじゃないか。」

「確か祭壇になっているそうだからな。
何かあるとしたらここだろうな。」

神官か。
確か6人いて皆千年アイテムを持っていたような。

誰かが裏切ってたんだけど、誰だっけな。

それより、見つかったら面倒な事になりそうね。
幸い入り口は祭壇から見て反対側だから、影に隠れれば見つからないだろう。

隠れれそうな場所を見つけてそこに潜り込む。
こういう時は体が小さいのは得ね。

影からこっそり様子を伺っていると、２０人程の集団がやってきた。
率いているのは…千年眼を填めている神官ね。
後は千年錠を持っている神官もいる。

「アクナディン様、あれがアイシスが千年タウクで見たという魔物ですか？」

「うむ、恐らくそうであろう。
まだ封印されてはいるが、千年眼を通して禍々しい邪念を感じる。
他にアイシスは何かいっていたか、シャダ？」

「はい。
異国の装いをした少女がこの遺跡に迷いこんでいて、その少女がこれらの魔物と大いに関係しているそうです。」

異国の装いって、完璧に私しか当てはまらないでしょう。
千年タウクはそんな予知性能高かったかしら？

「そうか…
ん？
そこに隠れているのは誰だ！

姿を現せ！」

私が隠れている場所を的確に指差すアクナディン。
なんか神官の性能が高すぎると思うんだけど。
これならバクラぐらい倒せそうな気がするけど。

場所がわれてしまった以上は出るしかないか。
いつまでも隠れてて攻撃されたらたまったものじゃないし。

私が隠れていた場所から出てくると何故か驚きの声が上がった。

「ふむ、やはりか。
彼処の魔物とは別の気配を千年眼が感じたが、お前だったのか。
名を名乗れ。」

「…夜霧茜。」

「今なんといった？」

「…だから夜霧茜。」

「何故だ？
此方の言葉を知らないのか？
だが、此方の言葉を理解しているようだが…」

ん、何？
私が話している事が理解出来ない？
もしかして私には日本語に聞こえてるけど、実際はエジプトの言葉を話している？
だとしたら物凄く微妙な翻訳性能のゲームね、これ。

「…私の名前は夜霧茜。」
一回エジプト語で話しかけたけど、やっぱり分からなかったらしい。
じゃあ、なんで言葉が通じない？
「シャダよ、アイシスはこの少女がこの国の言葉を理解できるかどうかいっていたか？」
「いいえ、何も。
しかし、受け答えは直ぐ行なった事から此方の言葉は理解しているかと思われますが。」
「ふむ、となると本当は我が国の言葉を話せるが、情報を与えたくないが為に異国人の装いをして誤魔化そうとしているのか？
シャダ、お主の千年錠であの少女の心を覗けるか？」
「いえ、アクナディン様。
彼処の魔物の影響か、ここでは何も見えません。
アクナディン様の千年眼ではどうですか？」
ちょっと。
何さりげなくプライバシーの侵害しているの。
いくら古代エジプトが階層性社会だからって、個人のプライバシーは侵害してはいけないと思う。
「何も見えぬか。
ワシの千年眼でも何も見えぬ。
仕方がないか。
近衛兵達よ、その少女を捕らえておけ。

ここでは分からなかったが、王宮の地下室で少し痛い目に合わせれば口も軽く成るだろう。」

「「はっ！」」

はい？
いまさらっと拷問すると同じ意味の言葉を口にしたわよね。
いきなりなんなのよ。

「アクナディン様、些か急性すぎではありませんか？」

「いや、シャダよ。
今民の間では邪神が復活するという噂が流れていて、多少なりとも不平不満が出ているのだ。
それを抑えるには、邪神関係で朗報を伝えねばなるまい。」

要するに、私を民衆の敵意に晒すことで神官達への不満を減らそうって事ね。
なんで政治家というのは何時の時代も同じ事をするのだろうか。

さて、どうしよう。
ここで逃げるべきか大人しく捕まって王宮にいくべきか。

本音を言えば今直ぐに逃げたいけど、逃げた所で此処が何処か分からないから逃げようがない。
それに、原作では武藤達は王宮に入れず苦労していた筈。
それを簡単に突破できたと思えば悪くはないのかも。
まぁ当然拷問は頂けないけど。

うん。
ここは大人しくしておこう。
まだここの世界の仕様も分からない内は素直にチュートリアル通りに進みましょうか。

ｓｃｅｎｅ闇遊戯

何なんだ、此処は？
爺ちゃんや海馬にそっくりな人物がいるわ、皆俺の事をファラオと呼んだりして。
もしかして、ここは俺の記憶の中なのか？

「ファラオ、先代の墓地を荒らした者がいたと聞いた後になりますが、アクナディン殿から邪神について報告があるようですな。」

「はっ、シモン殿。
恐れながら、ファラオ。
先程アイシスの予言に出てきた遺跡に向かい、邪神について調べて参りました。
その道中に、予言通り異国の装いをした紫髪の少女が居りましたので、確保して地下室に幽閉しております。
どうやら此方の言葉を理解してはいるようですが、此方の理解できない言語でしか話さないので他国の密偵である可能性も否定出来ませぬ。
そこで、ファラオのお許しがあれば、拷問にかけてでも邪神につい

て吐かせようと思います。」

「拷問か。
もっと穏便な手段は無いのか？」

流石に拷問はよくないと思うぜ。

「お言葉ながら、ファラオ。
今や民は邪神がいつ復活するか日々戦々恐々と過ごしております。
民の為にも邪神についての情報は一刻も早く手に入れるべきです。

そして、今邪神についての情報が目の前にあるのです！
ご心中お察ししますが、どうかご決断を！
これも全て民の為なのです！」

民か。
まだ実感はないが、仮にもファラオと呼ばれる立場に俺はいる。
ならば、民の事を最優先に考えねばなるまいな。

「わかった。
その件についてはアクナディンに任せる。
一刻も早く情報を得てくれ。」

「はっ、必ずや。
では、早速ですが失礼したします。」

ｓｃｅｎｅナレーション

その後、盗賊王を名乗るバクラが現れる。
ファラオはオシリスの天空竜を呼び出しバクラを追撃するが、街を人質にとられバクラの精霊のディアバウンドによってオシリスの天空竜は敗北してしまう。
オシリスの天空竜が倒された事によりファラオの精霊力は尽きてしまう。
しかし、この時ファラオを追いかけてこの世界にやってきたもう一人の遊戯と合流に成功し、精霊力を分けて貰う。
そしてその精霊力でラーの翼神竜を召喚し、ディアバウンドを倒し、勝利を収める。

しかし、突然時が戻り始める。
ラーが消え去りオシリスがディアバウンドに破れてしまう場面まで。
時が戻された事によりもう一人の遊戯と合流する事はできず、ファラオはバクラに敗れ、崖から転落してしまう。

ｓｃｅｎｅ闇遊戯

「クックック！
どぉやら第一章は史実どおり俺様の勝利だったなぁ、王様よぉ！」

「くっ！」

ここは童実野美術館の中にある隠し部屋だ。
ここで俺はバクラと闇のゲームをしている。

「ところで、王様よぉ。
お前のお仲間達の魂は今このゲームに入っているわけだが、体は何処にあるか知りてぇか？」

「なにっ！？
何処にある、バクラ！！」

「おお、怖い怖い。
心配しなくても、そら。」

バクラが指を鳴らすと６つある棺桶の内４つが開き、相棒達の体があった。
よかった、無事だったか。

ん？
残りの２つは誰の分だ？

「クックック！
因みに今回のゲームにはスペシャルゲストを２人呼んでいるぜ、王様よぉ！
当ててみな！
ヒントは、王様に関係がある奴等だぜ。」

俺に関係があるだと？

「…一人は海馬か。」

「ご名答だぜ。」

５つ目の棺桶が開き、海馬の体が横たわっていた。
「それじゃ、もう一人はだぁれだ？」
もう一人。
俺と関係がある人物。
俺と関係が深い物は三幻神…三幻神！
「もう一人は茜か！」
「流石だなぁ、王様よぉ！」
６つ目の棺桶が開くが、中には何も入っていなかった。
茜の体は何処だ？
「バクラ！
茜を何処へやった！？」
「さぁてね。
というのは冗談で、この中だ。」
そういってバクラはゲーム盤を指差す。
この中にあるのか？
「違ぇよ。
このゲームの世界の中だぁ。
ったく、なんで体ごと入っちまったかなぁ？」
バクラにとっても想定外の事なのか？

「まぁとりあえずこれで大まかな説明は終わったぜ、王様よぉ。
さて、これから第二章に入るが、準備はいいな？」

「ああ。」

「ならいくぜ。
第二章はファラオが残念ながら生還した所からだ。
それじゃ、スタート！」

第２３話（後書き）

なんか新しくエクシード召喚？みたいな物が出るみたいですね。
同じレベルのモンスターを２体使うらしいですね。
まだ低レベルのモンスターしか出てませんが、個人的にはレベル７や８のモンスターが出て欲しいです。

作者が使ってるデッキは基本シンクロを使わずに高レベルで押すタイプなので、そこにエクシード召喚が加われば戦略が増しそうな気がします。

第２４話（前書き）

更新がかなり遅れてすみません。
言い訳としてはテストとか色々重なってしまいました…
次からは元の３日くらいのペースに戻していきたいです。

一応あらすじに次の更新予定日を書くようにします。

本文は結構超展開になってしまいましたｏｒｚ

第２４話

ｓｃｅｎｅアイシス

ファラオの行方が分からなくなってしまって６日が経ってしまいました。
その間、王宮の近衛兵達の大半はファラオを探しに街を離れています。
私達神官も通常の業務以外の時間の殆どを捜索に割いていますが、未だに行方が分かりません。
千年タウクの反応から御存命なのは確かなのですが、それ以上の事は何も分かりません。
今この時程己の意思で千年タウクで未来を見ることが出来ないもどかしさが溜まる一方です。

そういえば千年タウクで思い出したのですが、ファラオが行方不明になる直前に邪神の遺跡で見つかった少女はどうしているのでしょう？
確か地下の牢獄に入れられたと聞きましたので、そこにいってみましょう。

王宮内にある階段を降りていくと、下の方から誰かが上がってくるのが見えます。
あれは…シャダでしょうか？
「おや、アイシスではないか？
どうしてこんな所へ？」

「少し前に見つかった少女の事が気になりましたので。
シャダこそどうして地下牢獄へ？」

「アイシスが気になっている少女の件だよ。
最近ようやく千年錠や千年眼が少しだが通じるようになったからな。
さっきまでアクナディン様と調べていたのさ。」

「それで、何か収穫はありましたか？」

ファラオが居ない間もずっと調べていたのでしょうか？

「あぁ、とはいったものの、精々彼女の心に魔物が3体いる事しか
分からなかったがな。」

「魔物が3体ですって！？」

普通私達が所持している魔物は1体。
それ以上を使役するにはディアディアンクが必要な筈です。
なのに、彼女は最初から3体を使役できるというのですか？

「ああ。
私にも信じがたいが、千年錠と千年眼、２つの千年アイテムが同じ
反応をしたんだ。
間違いないだろう。
そしてアクナディン様は、その魔物を引きずり出して石板に封印す
るべきだと仰っている。
だが私には嫌な予感がするのだ。」

「嫌な予感…ですか。」

「あぁ、これまで千年錠を使ってきたが、魔物の強さが分からなかった事はなかった。
それが、今回は全く強さが分からないのだ。
アクナディン様も同じ事を感じたように見えたが、アクナディン様はやや楽観的にみておられるような気がしたからな。」

シャダの千年錠が通じなかったですか。
そういや私の千年タウクも最初に反応して以来何の未来も見せていませんね。

「とりあえず私はファラオがお戻りになられたらこの事を話そうと思っている。
私の取り越し苦労なら構わないんだがな…」

私達が話し込んでいると、衛兵が此方にやって来ました。

「シャダ様、アイシス様！
ファラオがお戻りになられました！！」

ファラオが！？

「本当か！？
よかった、ファラオがご無事で。」

「それと、アクナディン様のご指示で明後日に例の少女の魔物を石板に封印する事も決まりました。
その時にファラオのお姿も見せ、民衆を安心させるようです。」

そんな！？
いくらなんでも急すぎます！

「何！？
しまった、遅かったか…
因みに、どういう名目だ？」

「はっ！
先日王宮に侵入したバクラの狙いは邪神の復活だそうなので、邪神の使いのあの少女を消してしまえば邪神は復活しないのではないかという話です。」

些か不確定過ぎる気もしますが…
そもそも少女が見つかった所に封印している邪神と、バクラが復活させようとしている邪神は同じ邪神なのでしょうか？

「そうか。
衛兵、ご苦労だったな。」

「いえ！
では失礼します！」

「シャダ…」

「こうなってしまってはどうしようもない。
後は神に祈る事しか出来ないな。」

明後日ですか。
神よ、どうか何も起こりませんように…

ｓｃｅｎｅ闇遊戯

ハサンに助けられ、なんとか王宮に戻って来ることが出来たぜ。
その後は疲れから2日程寝ていたらしい。
王宮に戻ってからの事は意識が朦朧としていたが、何かのイベントを今日やるらしい。
その場に俺も姿を見せる必要があるらしい。

そんな訳で来たわけだが、此処は闘技場か？
コロッセオみたいな作りをしている。
周りは民衆で溢れかえっている。
そして中央には3枚の白紙の石板。あの石板はバクラがディアバウンドを繰り出した石板と同じやつだな。
あそこにモンスターを封印するのか？
そしてアクナディンとシャダ、カシムの3人の神官が待機しているが、何が始まるんだ？

「ではこれより邪神の使いの女の魔物を石板に封印する！」

邪神という単語が出た瞬間に場は静まり返り、怒号が響き渡る。

「邪神だと！？
そんな奴の使いなんて殺してしまえ！」

「神官様の裁きを！」

暫く経って漸く収まったのを確認してから、衛兵達が一人の少女を舞台に引きずり出した。

「まぁ！」

３人以外の神官は俺の側に控えていたが、アイシスが声を上げた。
アイシスが声を出していなければ俺があげていただろう。
少女の身体中に火傷、切り傷、腫れが無数に存在していて、着ている服も辛うじて服の原型を保っている状態だ。
意識は辛うじてあるのか、時折苦しそうに声を出している。
そして腕には決闘盤がついていた。

ん？
決闘盤…
まさか！！

俺は思わず立ち上がり、舞台に上がろうとした。
しかし、セトやシモンに止められてしまった。

「ファラオ、今あの場では何が起こるかわかりません！
どうかこの場にお留まり下さい！」

「だが！」

あれは間違いなく茜だ！
そして茜はこの世界に体ごと入ってきている。
ここで受けた怪我は元の世界に戻っても治すまではそのままだろう。

くそっ！
俺が少しでも早く気付いて入れば！

俺が舞台に上がれずにいる間に着々と事は進んでいく。

「千年秤よ、この者の邪念を映せ！」
千年秤が大きく傾く。
「むっ！
この者の邪念の重さは計り知れぬぞ！」
「千年錠よ、この者の心を見通せ！」
千年錠が光輝く。
それと同時にシャダが弾ける様に後ずさる。
「み、見えたが…
この者の魔物の力は強大過ぎる！
ここにある石板では小さすぎる！」
「なんだと！
ええい、衛兵達よ！
魔物が姿を現して面倒な事になる前にこやつを殺してしまえ！」
やめろ！
本当に茜が死んでしまう！
俺の願いも虚しく衛兵の槍が茜を貫こうとした刹那、何処からともなく雷が降り注ぎ衛兵に直撃した。
「なっ！？
何が起こっている！？」

俺達が動揺していると、今度は巨大な火炎玉が闘技場に降り注ぐ。
幸い民衆は避難していた為、被害はなかった。

俺は茜の方を見ると、彼女の周りに紫色の靄がまとわりついているのが見えた。
それは茜の右足からでているようだ。
彼処は確かダーツとの決闘で、地縛神とゲーの攻撃の余波でついた傷だった筈だが…

俺がそんな事を思っていると、突然地面が揺れ始めた。
地震か！？

闘技場が半分に割れ、大地が割ける。
そしてそこから3つの影が現れた。

それは三幻神に酷似した魔物達だった。
が、三幻神と違い禍々しい気を発している。

「あれは、三幻神か！？」

「いえ、三幻神はファラオしか使役出来ません！
しかし三幻神に似た力を感じます！
あれを強いて名付ければ、三幻魔！」

三幻魔だと？
それと、三幻魔が現れてから感じるこの虚脱感は一体…
何かが三幻魔の元に集まっているが、それと影響があるのか？

「ファラオ！
あれらの魔物はどうやら我々の精霊力を奪っているようです！」

精霊力が奪われているだと！？
そして三幻魔の元に集まっていった精霊力が茜に注ぎ込まれる。
茜の体が光り、次の瞬間にはあれほど酷かった怪我は消えていた。
茜本人が治らないと言っていた右足の怪我もなくなっていた。
が、茜の眼をみると、一言で現すと狂気に捕らわれた目をしている。
茜は少しの間自分の体を確認すると、漸く此方に気が付いたのか向かってくる。

「くっ！
ファラオには指一本触れさせん！
現れよ我が魔物、デュオス！
あの女を攻撃しろ！」

セトの精霊が茜に斬りかかろうとするが、赤い魔物に阻まれる。

「くすっ。
そんな魔物、何千体集めようが私には敵わない。
その力を見せてあげる。

神炎皇ウリア、目障りな魔物を焼き付くしなさい。
ハイパーブレイズ！」

ウリアが吐き出した炎にデュオスは包まれ、そのまま消滅してしまった。

「がっ！」

「セト！
ならば私がいきます！
現れよ、スピリア！」

「くすくす。
偵察用の魔物を繰り出すなんて、何を考えているのかしらね？
まぁ構わないわ。
全てを壊してあげる。

降雷皇ハモン、音無き世界へ導け。
失楽の霹靂！」

一瞬前方が爆発し、暫くの間何も聞こえなくなってしまった。
閃光が収まり、爆音が鳴り響いた。
アイシスの精霊は当然この攻撃を耐えきれず、消滅した。

「けほっ！」

くっ！
この場を打開するには茜と闘うしかないのか！？

「茜！
次は俺が相手だ！」

「ふーん、誰かと思えば武藤なのね。
という事は貴方とそこの千年眼の神官が私をあんな目に合わせてくれた当事者って訳ね。」

「待ってくれ、茜！
俺は決してこんな事をしようとした訳じゃない！」

「あら、白を切るつもり？
私は貴方、つまりファラオの命令が出たから監禁された、という事を聞いたけどね。
それも私がこの世界にやってきて始めてこの王宮に着いた時に。」

「そ、それは…」

確かに俺はその事を言った。
だが…

「私だと知っていたらそんな事はしなかった、でしょう？」

な、何故俺が言おうとした事が分かるんだ！？

「さて、何ででしょうね？
それより、そんな事を考えている余裕があるのかしらね？

幻魔皇ラビエル、愚かなる王に裁きの鉄槌を。
天界蹂躙拳！」

「くっ！
現れよ、オベリスクの巨神兵！
迎え撃て、ゴッド・ハンド・クラッシャー！」

2体の巨人の拳がぶつかり合い、そこから衝撃波が拡がる。
それは空気を震わせ、大地を抉りとっていった。

「成る程。
三幻魔は三幻神と比べて少し下の格付けなのね。

この様子だとラーには敵わなそうね。
一回戦力を増やしに行きましょうか。
確かこの世界に来た時にいた遺跡の場所は…あっちね。」
まさか、邪神を復活させる気か！？
「さて、一回退かさせて貰うわ。
武藤と後話が通じないだろうけど千年眼の神官。
必ず貴方達に復讐させてもらうわ。
その時までに精々ゾークと戯れていなさい。
行くわよ、ウリア。」
茜は三幻魔の内の2体を消し、ウリアに乗って去っていった。
俺はただそれを見ているしかなかった。

ｓｃｅｎｅ闇遊戯（現実）
「ひゃーひゃゃ！
こりゃあまた傑作だなぁ、王様ぁ！
まさか、俺様が何もしなくても副社長が邪神復活に向かう状況をつくってくれるなんてなぁ！
それに、またトンデもない奴が出てきたもんだ。
三幻魔だっけなぁ？」

「くっ！」

迂闊だったぜ。
まさかあの時の少女が茜だったなんて思ってもいなかったぜ。
それに、茜の眼を見た瞬間、俺は彼女に恐怖した。
狂気に捕らわれているとはいえ、彼女の殺気に体が動かせなかった。
というか、何故狂気に捕らわれた？

「バクラ。
何故茜がああなったか分かるか？」

「あぁん？
何いってんだよぉ、王様ぁ。
てめぇらが拷問したからに決まってんだろぅ。
まぁ、狂気の方は足の怪我に溜まっていた怨念に取り付かれた感じだったなぁ。」

「怨念？」

「そうさ。
王様ぁ、お前は地縛霊の由来を知ってるか？
あれは、この世に未練を残した魂が成仏できずにこの世にとどまって悪影響を及ぼす。
んで、未練の殆どは誰々が憎い、復讐したいとかの負の感情だ。

さて問題だ。
副社長がその時使っていたモンスター群はなんでしょうか？

答えは、地縛神だ。
此処までいやあ分かるだろうよぉ。」

つまり、ダーツの時に地縛神の怨念が体に溜まってしまい、今回の件で暴走したって事か？

「だが、まぁ副社長が暴れているのがゲームの中でよかったぜ。
こんなもんこっちに来られたら、どうしようもなんねぇからなぁ。」

それほど強大な力なのか。

「んじゃぁ次いくぜ。
副社長の邪神復活の場面からだ。

精々頑張るんだなぁ。」

第２４話（後書き）

とりあえず後４話位で記憶編は終わります。
その後は間章を入れてからＧＸに入りたいと思います。

第２５話（前書き）

…遅れに遅れました。
すみません。

今回も超展開ですがご了承下さい。

第２５話

ｓｃｅｎｅ茜

さてと。
ウリアに乗って私が最初にいた遺跡の上空にやってきたけど、どうやら侵入を防ぐ為の結界が張られているようで今いる所から進めないわね。私を捕まえた時に神官達が張ったのかしら？
面倒な事をしてくれたわね。
無駄だと思うけど一回攻撃してみよう。

「ウリア、結界にハイパーブレイズ。」

ウリアが放った火炎弾は予想を裏切り、いとも簡単に結界を破ってそのまま遺跡に直撃して大穴を開けた。

「…なんか拍子ぬけしたけどまぁいいや。
手間が省けたと考えよう。
ウリア、そのまま穴に入って。」

中に入るとちょうど私が神官に捕まった場所、つまり三邪神の石板がある広場に出た。
当然中の景色は変わってなかったが、石板は結界で封印されていた。
この結界は流石に遺跡を被っていたのよりは強力よね？

「また拍子抜けするかも知れないけど、一応出てきてハモン、ラビエル。」

念のために残りの三幻魔も呼び出しておこう。

「ウリア、ハイパーブレイズ。
ハモン、失楽の霹靂。
ラビエル、天界蹂躙拳。」

三幻魔が一斉に結界に攻撃を放つ。
しかし、結界には全く綻びが見えない。
油断したわね。
外の結界があれだったからこれも脆いと思っていたけど、案外堅いわね。
少し戦力を増加させた方がよさそうね。

「出てきて、Ｓｉｎパラドクス・ドラゴン。
パラドックスブレス。」

三幻魔にパラドクスドラゴンの攻撃も加わるけど、まだ結界に変化はない。
見ててイライラするわね。

「ほんとに面倒ね。
出てきなさい、地縛神Ｕｒｕ！
ヘル・スレッド！」

蜘蛛の地上絵が上空に表れ、そこから巨大な蜘蛛が姿を現した。
地縛神の攻撃も加わると、それまで何事もなかった結界は音をたてながら砕け散った。

結界が無くなり、石板が置かれている祭壇に上る。
そして懐から三枚のカードを取り出す。
それらのカードには絵柄が何も描かれていなかった。

カードを掲げると、石板が呼応するかのように輝く。
余りの眩しさに思わず目を閉じてしまった。
目を開けると、石板には何も描かれておらず、変わりにカードに三邪神の絵柄が浮かび上がっていた。
これで目的は果たしたわ。
これからどうしようかしらね？

暫くどう動こうか考えていると、遠くで巨大な光と闇の力がぶつかるのを感じた。
あれは確か…ホルアクティとゾークだっけ？
彼処に行けば王様と千里眼の神官がいた筈。

くすっ。
いいことを思い付いたわ。
さっさと移動しましょう。

ｓｃｅｎｅ王様

茜が何処かに去ってから色んな事があった。
マハードがバクラによって殺された事。
アクナディンが俺達を裏切り闇の大神官になった事。
そして今俺達は邪神ゾークと対峙している。
一時は三幻神を召喚して有利になったが、ゾークによって石化してしまった。

「ゾーク様！
ファラオを倒した際には私の願いを叶えて下さいませ！」
闇の大神官に堕ちたアクナディンがゾークに呼び掛ける。
願いだと？

『くっくっく。
いいだろう。
貴様の息子を次のファラオにするのだろう？
好きにするがいい。』

アクナディンに息子がいるだと！？

『だが、先ずはファラオを殺さねばなるまい。
消え去れ！！』

ゾークはそういうと此方に攻撃を仕掛けてくる。
不味い！
今此方にあれを防ぐ手段はない！
俺の名前を探しに行った相棒達は間に合わなかったか…

「もう一人の僕に攻撃させないよ！
サイレント・マジシャン、サイレント・バーニング！」

「なんとか間に合ったぜ！
真紅眼の黒竜、黒炎弾！」

「ふん！
俺に負ける前に死ぬなど断じて許さん！
青眼の白龍、滅びのバーストストリーム！」

相棒、城之内君、海馬！
ゾークが放った攻撃は相棒によって軌道が逸れ、俺達に当たる事はなかった。

『なに！？』

「皆！」

相棒、城之内君、本田くん、杏子が此方に駆け寄ってくる。

「もう一人の僕！
君の名前を見つけたけど、僕達には読めなかったよ。」

くっ！
これだとゾークに対抗する手段が！

「そうよ！
遊戯、私が前に買ったペンダント！」

あれか！
俺は自分の首にかかっていたペンダントを外し、相棒に渡す。

「もう一人の僕の力になれるように…」

相棒達の祈りが届いたのか、ペンダントに徐々に文字が浮かび上がる。

「出来たぜ！
受け取れ、遊戯！」

城之内君がペンダントを渡してくる。
「皆、ありがとう！
ゾーク、俺達は闇に決して屈しない！
それを今から証明してやる！」
『馬鹿な！
名前を見つけただと！？』
「三幻神よ！
我が名の元へ集え！
我が名は…アテム！」

ｓｃｅｎｅ遊戯

もう一人の僕が本当の名前を呼ぶと、石化していた三幻神が復活し、
一つに交わった。
それまで暗黒の雲に覆われていた空が晴れ、神々しい女神が現れた。
「凄ぇ…」
「光の創造神、ホルアクティ！」

『なっ、ホルアクティだと！？』

『ゾークよ、貴方は本来居るべき所に還るべきです。』

「これで終わりだ、ゾーク！
ホルアクティでゾークを攻撃！
ホーリー・バニッシュ！」

ホルアクティがゾークを攻撃すると、ゾークはみるみる内に消滅していく。

『光ある限り闇もまたある……。
俺様には見えるぜ。
俺様を倒した所で第二、第三の邪神が再び現れるだろう……。
そして第二の邪神は…貴様等では到底敵うまい。
わはははは……っ。
がはっ！』

ゾークは最後に何か言い残して消滅した。

もう一人の僕が勝った！

「凄ぇぜ、遊戯！
いや、アテムだったな。
なんか慣れねぇぜ。」

「ほんとに凄いわ、アテム！」

「皆のおかげだぜ！」

「ふん、勝って当然だ！
それよりさっさと元の世界へ戻せ！」
そういえばどうやって戻るんだろうね？
『アテム、貴方は見事ゾークに勝ち三千年の歴史に終止符を打ちました。
しかし、まだ貴方にはやるべき事が残されています。
それを成し遂げなければ元の世界には戻れません。』
えっ？
ゾーク以外にも何かあるの？
「おい、どういう事だ！？
説明しろ、遊戯！」
「それは…」
もう一人の僕が説明しようとした時、突然何かがもう一人の僕を攻撃した。
もう一人の僕は何とかかわしたけど、誰が攻撃したの！？
「まさかゾーク様が敗北するなど！
こうなればファラオだけでも道連れにしてくれる！」
「アクナディン！
貴様に俺達と戦うだけの力は残っていない！
大人しく投降しろ！」

「ふざけるな！
誰が投降などするものか！
貴様のせいで、貴様のせいだ！
貴様を殺せば全てが収まる！」

そういって攻撃を仕掛けてきそうな時、突如地面から湧き出た黒い何かにアクナディンが呑み込まれた。

「なんだ、これは！？
ん、貴様はあの時の！！」

中に誰かいるの？

「何故私にこんな事をする！
…
ファラオに復讐だと？
な、なら私と組もうではないか。
お互いに利害が一致するではないか。
…
復讐対象に私も入っているだと！？
私が何をしたというのだ？
…
自覚がない奴が一番手に負えない？
ま、待ってくれ！
私は身に覚えがない！
や、やめてくれぇぇ！」

アクナディンが最後に叫び、その後静かになった。
何か復讐がどうのこうのいってたけど…

暫くすると黒い何かはなくなり、中には人影が一つ。なんか見覚えがあるような…

「ん？
あれってもしかして夜霧か？」

茜ちゃん！？
よく目を凝らすと確かに茜ちゃんっぽいね。
でもどうして？

「アテム、どうして茜ちゃんが此処にいるのよ！？」

「俺もよくはわからない。
が、バクラは保険と言っていたが…」

海馬君と同じ理由ではなさそうだね。

「全く、うるさかった奴ね。
最後まで口が減らなかったわね。

それにしても何で言葉が通じたのかしら？
三邪神の影響？」

茜ちゃんは何か一人でぶつぶつ言ってるけど、此処からじゃ聞こえないよ。

あれ？
瞬きしたら茜ちゃんが消えてるんだけど…
何処に消えたの？

「まぁどうでもいいや。
それより、次は王様、貴方よ。
覚悟は出来ているわね？」

もう一人の僕の直ぐ傍にいた！
なんかよくわからないけど、とりあえず危ない！

茜ちゃんがもう一人の僕を攻撃したけど、ホルアクティがギリギリで防いだ。

「ホルアクティ、光の創造神ねぇ。
なんで三幻神からこう変わるのかしらね？

とりあえず、今は邪魔な存在ね。」

まさかホルアクティを倒す気！？

「出てきなさい、神炎皇ウリア、降雷皇ハモン、幻魔皇ラビエル！」

あれは三幻神に似てる！
それと、なにかが3体の元に集まってるけど、なんだろう？

「なんだよ、あれ！
三幻神と似てるじゃねぇか！」

だけど、三幻神と同じくらいの力ならホルアクティには勝てなさそう…

「勿論これで終わりではないわよ？
邪神イレイザー、邪神ドレッド・ルート、邪神アバター！」

今度は三幻神が黒くなった感じのモンスター！
さっきの3体と合わせて6体でホルアクティを囲むような陣形をとってる。
流石にホルアクティだけじゃキツいかも！

「ホルアクティを援護して！
サイレント・マジシャン、サイレント・ソードマン、カース・オブ・ドラゴン、破壊竜ガンドラ、磁石の戦士マグネット・バルキリオン！」

「俺も手伝うぜ！
いっけぇ、真紅眼の黒竜、ギルフォード・ザ・ライトニング、アルカナフォースEX－THEDARKRULER、アルカナフォースEX－THELIGHTRULER、アルカナフォースXXI－THEWORLD！」

「ふん！
青眼の白龍、青眼の究極竜、VWXYZ－ドラゴン・カタパルトキャノン！」

僕、城之内君、海馬君は自分達のエースモンスターを召喚して、ホルアクティを援護する。
さっきまでホルアクティと茜ちゃんのモンスターが互角だったから、これで何とかなる！

「全く、他のモンスターはともかく青眼の白龍、究極竜と真紅眼の黒竜は厄介ね。
青眼の白龍は神に匹敵する力を持っているらしいし。

現れなさい、Ｓｉｎ青眼の白龍、Ｓｉｎ真紅眼の黒竜！」
茜ちゃんは更にブルーアイズとレッドアイズが鎧を着たような見た目のモンスターを召喚してきた。
えっとＳｉｎの意味って確か…何だっけ？
「Ｓｉｎ、宗教や道徳上の罪、罪悪か。
不粋な事をしてくれる！
ブルーアイズ！
偽者など蹴散らせ！
滅びのバーストストリーム！」
ブルーアイズがＳｉｎに攻撃をしてそれが直撃して爆煙が立ち込める。
流石海馬君！
「粉砕！玉砕！大喝采！
フハハ！」
「おお！
やるな、海馬！」
「ふん！
当然だ！」
煙が晴れると…Ｓｉｎだけじゃなくてブルーアイズも消えてる！？

「なっ！」

「くすっ。
少し私を甘く見すぎよ。
Ｓｉｎは元のモンスターの対の存在。
間違ってもレプリカではないわよ？

どう？
絶対の自信を持ってるモンスターが引き分けとはいえ敗れた気分は。
」

「ぐっ！」

「不味いぜ、これは。
レッドアイズも迂闊に攻撃出来ないぜ。」

どうしよう？
何か策はないの！？

「さてと。
貴方達、まだどうにかなると思っていないかしら？」

「どういう事だ、茜？
お前こそホルアクティを倒せるかと勘違いしていないか？」

「くすっ。
三邪神、三幻魔の６体で精一杯の神よ？
それにいつ私がこれが全力と言ったかしら？」

「何！？

まだ力を温存していたのか！」

まだいるの！？

これ以上は無理だよ！

「当たり前じゃない。

最初から全力を出すのは愚か者だけよ。

出でよ、地縛神Ａｓｌｌａｐｉｓｃｕ、地縛神Ｗｉｒａｑｏｃｈａ Ｒａｓｃａ、地縛神Ｕｒｕ、地縛神Ｃｕｓｉｌｌｕ、地縛神Ｃｃａｐａｃ Ａｐｕ、地縛神Ｃｃａｒａｙｈｕａ、地縛神ＣｈａｃｕＣｈａｌｌｈｕａ！」

上空に巨大な地上絵が７個。

ホルアクティを綺麗に囲むように展開される。

そしてそこから７体のモンスターが現れる。

どれもでかい！

ホルアクティより巨大なモンスターもいるよ！

「あれは！

ダーツの時に使っていたモンスター！」

「そのとおりよ。

先ずは目障りなモンスターを蹴散らしなさい！

Ｗｉｒａｑｏｃｈａ Ｒａｓｃａ、デス・シンギュラリティ！

ＣｈａｃｕＣｈａｌｌｈｕａ、ダーク・ダイブ・アタック！」

地縛神の内２体の攻撃がとんでくる！

「うわぁぁ！」
僕達のモンスターは守る術なくあっけなく倒される。
「くっそぉ！
どうすりゃいいんだよ！？
このままだとホルアクティもやられちまうぞ！」
「相棒、皆！」
「あら？
他人を心配する余裕なんて貴方にあるのかしら？
地縛神、三幻魔、三邪神！
一斉にホルアクティに攻撃！」
１３体のモンスターが同時にホルアクティを攻撃した！
「ぐうぅ！
お、俺は負けない！」
「あら、しぶといわね。
けど、どうやらギリギリ見たいね。
全ての精霊力を防御に回して凌いでいるわね。
ここで更に攻撃を強くしたらどうなるかしら？」
「ま、まだあるのか！？」
もう止めてよ！
もう一人の僕も限界だよ！

「ウリア、ハモン、ラビエル！
光を滅する闇と化せ！」
最初に出てきた3体が三幻神と同じように一つになって、1体のモンスターが姿を現した。
3体のモンスターがくっついた見たいな見た目だけど…なんか気味が悪いよ。
「混沌幻魔アーミタイル！
ホルアクティに止めを刺しなさい！
全土滅殺転生波！」
「ホルアクティ！」
ああ！
アーミタイルがホルアクティを攻撃する。
ホルアクティも防御を捨ててアーミタイルに攻撃を仕掛けた。
2体の攻撃が同時に相手に当たり、大爆発が起こった。
中から表れたのは、三幻神と三幻魔だった。
「くすっ。
終わりね、王様。
三幻神では私を防ぐ事は出来ないわよ？」
「そ、そんな…」

「どうかしらね？
一欠片の希望もないこの状況は？
まさしく絶望と言うべきかしら？」

「くっ！」

「けれど、このまま止めを差しても面白くないわね。
どうせだったらもっと絶望を味わしてからでもいいわ。」

これ以上の絶望なんてないよ！

「王様、貴方を支える最後の支柱はデュエルへの誇り。
それを今から完膚なきまで潰して、復讐としてあげる。」

「…いいだろう。
デュエルでお前の目を覚まさせてやるぜ！」

「アテム！
俺達もやるぜ！
お前一人で背負う必要なんざねぇよ！」

そうだね！
デュエルなら僕達も役に立てる！

「僕もやるよ！」

「俺もさっさと戻って仕事をする為に手伝ってやろう。」

「皆、ありがとう！」

「決まったようね。
この子達は今は必要ないわね。

４人ね？
なら、こうしましょう。
ルールはシングルでそちらは負けたら次の人と交代。
私はデュエルが終わる度にデッキを変えるわ。

ライフは各自８０００。
そして引き続きの時にフィールド、墓地、除外ゾーンはそのまま残す。
デッキを変えて手札は新たに５枚になるようにする。

つまり、貴方達は４回デュエルして誰かが私に勝てばいい。
簡単な話でしょう？」

「どんなルールでも構わん！
俺様が最初に出て決着を着けてくれるわ！」

「海馬君が最初にいくなら次は僕がいくよ。」

「んじゃ俺は遊戯の次だな。
アテムは最後に頼むぜ。」

「ああ、絶対に負けられないデュエル、頑張ろう！」

「くすっ。
それじゃ始めるわよ？
」

「「決闘！」」

第２５話（後書き）

最初は王様とだけの予定でしたが、これを逃すと城之内の決闘場面を書けなさそうなので急遽１Ｖｓ４の形にしました。

主人公が使うデッキは…分かりますよね？

順番はあれですが…

なんとか決闘に持ち込みました。

第２６話（前書き）

今回ちょっとルビを振ってみました。

３／１９から優先権に関してルール変更がありましたが、この作品では以前のままやります。

尤も、そんな優先権云々の場面はありませんけど…

第２６話

Ｓｃｅｎｅ海馬

「先攻は貰うわよ、ドロー。
アックス・ドラゴニュートを攻撃表示で召喚。
カードを２枚伏せてターンエンドよ。」

夜霧にしては珍しく１ターン目からモンスターを攻撃表示で召喚したな。
普段は守備表示で出してた事が多かったのにな。
多少思考回路が変わっているのか？
まぁいい。
さっさとケリを付けて元の世界に戻ってみせるわ！

「俺のターン、ドロー！
Ｘ（エックス）ヘッド・キャノンを攻撃表示で召喚！
カードを３枚伏せてターンエンドだ！」

「エンドフェイズに速攻魔法、手札断殺を発動。
お互いのプレイヤーは手札を２枚選んで墓地へ送り、デッキからカードを２枚ドローする。
最も、貴方の手札は２枚で選べないけど。」

くっ！
死のデッキ破壊ウイルスが！
だが青眼の白龍（ブルーアイズホワイト・ドラゴン）が手札になかったのは幸いだったな。

「ドロー。

ランサー・ドラゴニュートを攻撃表示で召喚。
バトル。
アックス・ドラゴニュートでX（エックス）ヘッド・キャノンを攻撃。」

「罠カード、ゲットライド！を発動！
自分の墓地に存在するユニオンモンスター1体を選択し、自分フィールド上に表側表示で存在する装備可能なモンスターに装備する！
墓地のY（ワイ）ドラゴン・ヘッドをX（エックス）ヘッド・キャノンに装備！
そしてY（ワイ）ドラゴン・ヘッドを装備したX（エックス）ヘッド・キャノンの攻撃力・守備力は400上がる！」

さっきの手札断殺で墓地に送った事が仇になったな！

「返り討ちにしろ！
X（エックス）・ディストラクション！」

「カードを伏せてターンエンド。」

モンスターが返り討ちにされたというのに何事もなかったかのように夜霧は決闘を進めていく。
予想の範囲内なのか？

「俺のターン、ドロー！
Y（ワイ）ドラゴン・ヘッドのモンスター効果を発動！
1ターンに1度だけ自分のメインフェイズに装備カード扱いとして、自分のX（エックス）ヘッド・キャノンに装備、または装備を解除して表側攻撃表示で特殊召喚する事ができる！
Y（ワイ）ドラゴン・ヘッドを特殊召喚！
更に、X（エックス）ヘッド・キャノン、Y（ワイ）ドラゴン・ヘッドをゲームから除外してXY（エックスワイ）ドラゴン・キャノンを攻撃表示で特殊召喚！」

「モンスターを特殊召喚した瞬間に速攻魔法、終焉の地を発動。
相手がモンスターの特殊召喚に成功した時に発動。
自分のデッキからフィールド魔法カードを1枚選択して発動する。
私はＳｉｎＷｏｒｌｄを選択、発動する。」

ＳｉｎＷｏｒｌｄだと？
なんだそれは？

地鳴りがし、周りの砂漠から大量の高層ビルが突き出てくる。
一応ここは古代エジプトの筈だが、ビルがあっていいのか？

「俺はブラッド・ヴォルスを攻撃表示で召喚！
バトル！
ＸＹ一ドラゴン・キャノンでランサー・ドラゴニュートを攻撃！
ハイパーデストラクション！」

「くっ！」

「これで貴様の場にモンスターは居なくなった！
ブラッド・ヴォルスで直接攻撃！」

此れで夜霧のライフは５６００まで減った。
やけにあっさり攻撃が通った分、逆に何か不気味に感じてしまうな。

「メインフェイズ２でＸＹ一ドラゴン・キャノンの効果を発動する！
１ターンに１度、表側表示の魔法・罠カードを１枚破壊する！
ＳｉｎＷｏｒｌｄを破壊！」

「速攻魔法、禁じられた聖杯を発動。

フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を選択して発動する。
エンドフェイズ時まで、選択したモンスターの攻撃力は４００アップし、効果は無効化される。
ＸＹ（エックスワイ）ドラゴン・キャノンの効果を無効化する。」

「くっ！
ターンエンドだ！」

簡単には破壊されてくれぬか！

「私のターン。
ドローフェイズにＳｉｎ（シン）Ｗｏｒｌｄ（ワールド）の効果を発動。」

ここでフィールド魔法の効果だと！？

「Ｓｉｎ（シン）Ｗｏｒｌｄ（ワールド）の効果。
ドローフェイズをスキップする代わりにＳｉｎ（シン）と名のついたモンスター1体をランダムに手札に加える。」

夜霧の決闘盤（デュエルディスク）からカードが1枚、手札に加わる。
どうやったら的確に手札にカードを投射できるんだ？

「加わったカードはＳｉｎ（シン）真紅眼（レッドアイズ）の黒竜（ブラックドラゴン）。
デッキから真紅眼（レッドアイズ）の黒竜（ブラックドラゴン）を墓地に送り、Ｓｉｎ（シン）真紅眼（レッドアイズ）の黒竜（ブラックドラゴン）を特殊召喚する。
続いて融合デッキからスターダスト・ドラゴンを墓地に送り、Ｓｉｎ（シン）スターダスト・ドラゴンを特殊召喚。
そして魔法カード、強欲な壷を発動。
２枚ドロー。

そして手札からダーク・アームド・ドラゴンを特殊召喚。」

なっ！？

いきなり攻撃力２４００、２５００に２８００のモンスターだと！？

それにどうしてダーク・アームド・ドラゴンが召喚できるのだ！？

「ダーク・アームド・ドラゴンは自分の墓地に闇属性が3体いる場合のみ特殊召喚できる。

私の墓地にはアックス・ドラゴニュート、ランサー・ドラゴニュートに真紅眼（レッドアイズ）の黒竜（ブラックドラゴン）の3体がいるから特殊召喚できるのよ。

そしてダーク・アームド・ドラゴンの効果を発動。

自分の墓地に存在する闇属性モンスター1体をゲームから除外する事で、フィールド上に存在するカード1枚を選択して破壊する。

真紅眼（レッドアイズ）の黒竜（ブラックドラゴン）を除外してＸＹ（エックスワイ）ドラゴン・キャノンを破壊する。

ダーク・ジェノサイド・カッター！」

「くっ！

破壊効果まで持っているのか！？」

攻撃力２８００がいきなり出てきて、更にカードを破壊されたらどうしようもないではないか！！

「バトル。

Ｓｉｎ（シン）真紅眼（レッドアイズ）の黒竜（ブラックドラゴン）でブラッド・ヴォルスを攻撃。

黒炎弾！」

ぐっ！

「Ｓｉｎ（シン）スターダスト・ドラゴンで直接攻撃（ダイレクトアタック）。

ダーク・シューティング・ソニック！」

「ぐわぁ！」

「そしてダーク・アームド・ドラゴンで直接攻撃（ダイレクトアタック）…といきたい所だけど、Ｓｉｎ（シン）Ｗｏｒｌｄ（ワールド）の効果でＳｉｎ（シン）以外のモンスターは攻撃出来ないのよ。
良かったわね。
カードを伏せてターンエンドよ。」

くっ！
だがＳｉｎ（シン）も万能ではないのだな。
ならば勝ち目はある！

「俺のターン、ドロー！
永続魔法、未来融合（みらいゆうごう）－フューチャー・フュージョンを発動！
俺は青眼の究極竜（ブルーアイズアルティメットドラゴン）を選択し、デッキから青眼の白龍（ブルーアイズホワイト・ドラゴン）を３体墓地に送る！
そして２ターン後に青眼の究極竜（ブルーアイズアルティメットドラゴン）を融合召喚する！
そして魔法カード、魂の解放を発動！
互いの墓地のカードを５枚まで除外できる！
俺は自分の墓地の青眼の白龍（ブルーアイズホワイト・ドラゴン）３体、ブラッド・ヴォルス、ＸＹ（エックスワイ）－ドラゴン・キャノンを除外する！

そして魔法カード、次元融合を発動！
ライフを２０００払い、互いに除外されているモンスターを可能な限りフィールドに特殊召喚する！
出でよ、青眼の白龍（ブルーアイズホワイト・ドラゴン）！
ブラッド・ヴォルス！
ＸＹ（エックスワイ）－ドラゴン・キャノン！」

「私は真紅眼(レッドアイズ)の黒竜(ブラックドラゴン)を守備表示で特殊召喚するわ。」

「バトルだ！
青眼(ブルーアイズ)の白龍(ホワイト・ドラゴン)でダーク・アームド・ドラゴンを攻撃ぃ！
滅びのバーストストリィーム！」

「カウンター罠、攻撃の無力化を発動。
相手の攻撃を無力にし、バトルフェイズを終了させるわ。」

青眼(ブルーアイズ)の白龍(ホワイト・ドラゴン)の攻撃は謎の渦巻きに呑み込まれてしまう。
攻撃は防がれてしまったが、これで夜霧の場に伏せカードはない。
今の内にＳｉｎ(シン)Ｗｏｒｌｄ(ワールド)を破壊するか。

「俺はＸＹ(エックスワイ)ドラゴン・キャノンの効果でＳｉｎ(シン)Ｗｏｒｌｄ(ワールド)を破壊する！」

「Ｓｉｎ(シン)スターダスト・ドラゴンの効果。
このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、表側表示で存在するフィールド魔法カードは効果では破壊されない。」

「何っ！？」

不味いな。
俺の残りライフは３０００。
恐らく次のターンでダーク・アームド・ドラゴンの効果で青眼(ブルーアイズ)の白龍(ホワイト・ドラゴン)が少なくとも2体は破壊されてしまう。
更に墓地にモンスターを送られたら負けかねんぞ！？

「くっ！
ターンエンドだ！」

「私のターン。
Ｓｉｎ(シン)Ｗｏｒｌｄ(ワールド)の効果は使わずドロー。
はぁ。

ダーク・アームド・ドラゴンの効果を発動。
アックス・ドラゴニュート、ランサー・ドラゴニュートの２枚を除外し、青眼(ブルーアイズ)の白龍(ホワイト・ドラゴン)２体を破壊する。
ダブル・ダーク・ジェノサイド・カッター！」

俺の青眼(ブルーアイズ)の白龍(ホワイト・ドラゴン)が！

「バトル。
Ｓｉｎ(シン)真紅眼(レッドアイズ)の黒竜(ブラックドラゴン)でブラッド・ヴォルスを攻撃。
黒炎弾！」

ブラッド・ヴォルスが炎に焼かれ、消滅する。
だが、ＸＹ(エックスワイ)ドラゴン・キャノンは破壊させん！

「Ｓｉｎ(シン)スターダスト・ドラゴンでＸＹ(エックスワイ)ドラゴン・キャノンを攻撃。
ダーク・シューティング・ソニック！」

「罠カード、炸裂装甲(リアクティブアーマー)を発動！
相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。
その攻撃モンスター１体を破壊する！
Ｓｉｎ(シン)スターダスト・ドラゴンを破壊！」

「Ｓｉｎ(シン)スターダスト・ドラゴンの効果を発動。」

何！？
まだ効果があるのか！？

「フィールド上のカードを破壊する効果を持つ魔法・罠・効果モンスターの効果が発動した時、このカードを生け贄に捧げる事でその発動を無効にし破壊する。
この効果を適用したターンのエンドフェイズ時、墓地に存在するこのカードを、自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。
ダーク・ヴィクテム・サンクチュアリ！」

炸裂装甲（リアクティブアーマー）は不発に終わった。
が、結果的には攻撃を防げたからよいか。

「Ｓｉｎ（シン）スターダスト・ドラゴンがいなくなった事でこのバトルフェイズは終わりね。
カードを伏せてターンエンド。
そしてエンドフェイズにＳｉｎ（シン）スターダスト・ドラゴンを特殊召喚。」

「危なぇな。
頑張れよ、海馬！」

「貴様は黙ってろ、凡骨！」

俺と夜霧の手札は互いに０枚。
そしてライフは俺が２５００で夜霧は５６００。
次の俺のドロー次第では十分に逆転可能だな。

「俺のターン！
ドロー！」

引いたカードは…命削りの宝札！

「俺は魔法カード、命削りの宝札を発動！
自分の手札が５枚になるよう、自分のデッキからカードをドローする！
そして５ターン後のスタンバイフェイズ時、自分の手札を全て捨てる。
５枚ドロー！」

此れで逆転の手が揃った！

「罠カード、逆転の名札を発動。
相手がカード効果でドローした時に発動可能。
相手の手札と同じ枚数になるようにドローする。
５枚ドロー。」

「まじかよ！？」

くっ！
だが、これで夜霧の伏せカードはなくなった。
なるべくここで攻めておかねばなるまい！

「俺はＺ（ゼット）－メタル・キャタピラーを攻撃表示で召喚！
そしてＺ（ゼット）－メタル・キャタピラーとＸＹ（エックスワイ）－ドラゴン・キャノンを合体！
現れよ、ＸＹＺ（エックスワイゼット）－ドラゴン・キャノン！

バトル！
ＸＹＺ（エックスワイゼット）－ドラゴン・キャノンでＳｉｎ（シン）スターダスト・ドラゴンを攻

撃！
Ｘ・Ｙ・Ｚ　ハイパー・キャノン！
そして青眼の白龍（ブルーアイズホワイト・ドラゴン）でダーク・アームド・ドラゴンを攻撃！
滅びのバーストストリィーム！！」

「くっ…」

「Ｓｉｎ（シン）スターダスト・ドラゴンがいなくなった事で貴様にフィールド魔法を守る術は無くなった！
ＸＹＺ（エックスワイゼット）ドラゴン・キャノンの効果を発動！
手札を１枚捨てる事で貴様のフィールド上のカード１枚を破壊する！
破壊するのは勿論　Ｓｉｎ（シン）Ｗｏｒｌｄ（ワールド）！
ハイパー・デストラクション！」

ドラゴン・キャノンの砲撃が空中で弾け、ビルを破壊していく。
それにときたま流れ弾が夜霧に当たりそうになったりしてるな。
Ｓｉｎ（シン）真紅眼（レッドアイズ）の黒竜（ブラックドラゴン）が防いでいるが。
地味に危険だったか？

攻撃が終わると、ビルは消え元の砂漠に戻った。
そして夜霧の場には守備表示の真紅眼（レッドアイズ）の黒竜（ブラックドラゴン）だけが残っていた。
ん？
何故　Ｓｉｎ（シン）真紅眼（レッドアイズ）の黒竜（ブラックドラゴン）も消えているのだ？

「はぁ…
Ｓｉｎ（シン）モンスターの効果。
フィールド魔法が無くなった時に破壊される。」

成る程な。
単にサーチされるのが厄介だったから破壊したのだが、思わぬ利益

があったな。

「カードを2枚伏せてターンエンドだ！」

「ドロー。

魔法カード、テラフォーミングを発動。

デッキからフィールド魔法を1枚手札に加わる。

当然加わるのはＳｉｎ（シン）Ｗｏｒｌｄ（ワールド）。」

2枚目…だと！？

「そしてフィールド魔法、Ｓｉｎ（シン）Ｗｏｒｌｄ（ワールド）を発動。

融合デッキのサイバー・エンド・ドラゴンを墓地に送り、手札からＳｉｎ（シン）サイバー・エンド・ドラゴンを特殊召喚。」

再び高層ビルが現れ、上空の黒い穴から三つ首の機械竜が現れた。

そして攻撃力は…４０００だと！？

「バトル。

Ｓｉｎ（シン）サイバー・エンド・ドラゴンでＸＹＺ（エックスワイゼット）ドラゴン・キャノンを攻撃。

エターナル・エヴォリューション・バースト！」

くっ！

これで俺のライフは１３００か。

「カードを3枚伏せてターンエンド。」

「俺のターン、ドロー！

発動から2ターンたった未来融合（みらいゆうごう）ーフューチャー・フュージョンの

効果を発動！
青眼の究極竜（ブルーアイズアルティメットドラゴン）を融合召喚！」

「青眼の究極竜（ブルーアイズアルティメットドラゴン）ねぇ…」

「青眼の白龍（ブルーアイズホワイト・ドラゴン）を守備表示に変更する。
そして手札から魔法カード、滅びの爆裂疾風弾（バーストストリーム）を発動！」

「なっ！」

俺がこのカードを持っていたのが意外だと言わんばかりに驚く夜霧。
ふん！
なぜかオークションにこのカードがあったから落としておいたのだ！

「このカードは自分フィールド上に青眼の白龍（ブルーアイズホワイト・ドラゴン）が表側表示で存在する場合のみ発動する事ができる！
相手フィールド上のモンスターを全て破壊する！

ブルーアイズ、滅びのバーストストリーム！
このカードを発動するターン、青眼の白龍（ブルーアイズホワイト・ドラゴン）は攻撃する事ができないがな。
青眼の究極竜（ブルーアイズアルティメットドラゴン）は攻撃できる！
バトルだ！
青眼の究極竜（ブルーアイズアルティメットドラゴン）で直接攻撃（ダイレクトアタック）！
アルティメット・バースト！」

「…っ！」

「ふはははは！
この俺に倒せぬ者など無いわ！

カードを伏せてターンエンドだ！」

これで夜霧のライフ６００に対して俺のライフは１３００。
場も夜霧にはモンスターがいない。
だいぶ俺の方に流れが来たな。
…
なんだ、この重圧感は？
正面を向くと、更に重圧が強くなる。
どうやら夜霧が原因のようだな。
なにやらイラついているようだが…
まさか、地雷を踏んでしまったか？

「…
ふふ、調子に乗るのは早いわよ？
Ｓｉｎ（シン）Ｗｏｒｌｄ（ワールド）の効果。
ドローフェイズをスキップする代わりにＳｉｎ（シン）と名のついたモンスター１体をランダムに手札に加える。
手札に加わったカードはＳｉｎ（シン）パラレルギア。
そしてＳｉｎ（シン）パラレルギアを召喚。」

いままでのＳｉｎ（シン）に比べると圧倒的に小さい歯車みたいなモンスターが召喚された。
どんな効果をもっているんだ？

「罠カード、Ｓｉｎ（シン）Ｃｌａｗ（クロウ）Ｓｔｒｅａｍ（ストリーム）を発動。
自分フィールド上にＳｉｎ（シン）と名のついたモンスターが表側表示で存在する場合に発動する事ができる。
相手フィールド上に存在するモンスター１体を選択して破壊する。
破壊するのは青眼の究極竜（ブルーアイズアルティメットドラゴン）！」

上空の黒い穴から大量の仮面を被った蝙蝠みたいなものが降ってきて青眼の究極竜（ブルーアイズアルティメットドラゴン）が破壊されてしまった。
俺の青眼の究極竜（ブルーアイズアルティメットドラゴン）が！

「そしてＳｉｎ（シン）パラレルギアのモンスター効果。
このカードは手札のＳｉｎ（シン）と名のつくモンスター１体としか融合できない。」

なんでそんなデメリットモンスターを…
はっ！
夜霧には融合を使わずに融合召喚できるモンスターがいる！

「フィールドのＳｉｎ（シン）パラレルギアと手札のＳｉｎ（シン）青眼の白龍（ブルーアイズホワイト・ドラゴン）を融合！

次元の狭間より現れし闇よ、古の舞台に破滅の幕を引け！
融合召喚！
現れよ！
Ｓｉｎ（シン）パラドクス・ドラゴン！」

Ｓｉｎ（シン）パラドクス・ドラゴンだと！？
それに攻撃力は４０００！？
青眼の白龍（ブルーアイズホワイト・ドラゴン）が破壊されてしまう！

「Ｓｉｎ（シン）パラドクス・ドラゴンの効果発動！
このカードが融合召喚に成功した時、自分または相手の墓地に存在する融合モンスター１体を選択して特殊召喚する事ができる。」

なに、まさか！？

「私が選択するのは…当然　青眼の究極竜（ブルーアイズ　アルティメットドラゴン）！」
青眼の究極竜（ブルーアイズアルティメットドラゴン）が夜霧の場に召喚される。
くそっ！

「そしてこのカードの効果によって特殊召喚されたモンスターが自分フィールド上に存在する限り、相手モンスターの攻撃力をその融合モンスターの攻撃力分ダウンさせる。
青眼の究極竜（ブルーアイズアルティメットドラゴン）の攻撃力４５００分貴方の場のモンスターの攻撃力を下げる。
尤も、今は青眼の白龍（ブルーアイズホワイト・ドラゴン）が守備表示だから影響は無いけど。

バトル！
Ｓｉｎ（シン）パラドクス・ドラゴンで青眼の白龍（ブルーアイズホワイト・ドラゴン）を攻撃！
パラドックス・ブレス！」
青眼の白龍（ブルーアイズホワイト・ドラゴン）が！

「さて、自分のモンスターに止めを刺されるのはどういう気分かしらね？
青眼の究極竜（ブルーアイズアルティメットドラゴン）で海馬に直接攻撃（ダイレクトアタック）！
アルティメット・バースト！」

「海馬君！」
青眼の究極竜（ブルーアイズアルティメットドラゴン）の攻撃が俺を襲う。
俺にはこれを防ぐすべはない。

だが！
タダでは倒れん！

「俺は罠カード、破壊輪を発動！
フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を破壊し、お互いにその攻撃力分のダメージを受ける。
俺が破壊するのは…青眼の究極竜（ブルーアイズアルティメットドラゴン）！」

「なっ！？」

…許せ、青眼の究極竜（ブルーアイズアルティメットドラゴン）。
青眼の究極竜（ブルーアイズアルティメットドラゴン）が爆発し、爆風が俺と夜霧を襲う。
2人共ライフは４５００を切っている。
これで引き分けに終わる…

煙が晴れると、相変わらず高層ビル群とＳｉｎ（シン）パラドクス・ドラゴンが佇んでいた。
そんな馬鹿な！？
夜霧のライフは…５１００まで回復しているだと！？

「まったく、危なかったわ。
罠カード、レインボー・ライフを発動させてもらったわ。
手札を1枚捨てて、このターンのエンドフェイズ時まで自分が受けるダメージは無効になり、その数値分ライフポイントを回復する。
これで青眼の究極竜（ブルーアイズアルティメットドラゴン）の攻撃力分の４５００ライフを回復したわ。」

なん…だと？
負けたのか、俺は…
青眼の究極竜（ブルーアイズアルティメットドラゴン）を夜霧の場に残さなかったのが唯一の救いか。
次は…遊戯か。

「お疲れ様、海馬君。
次は僕が相手だよ、茜ちゃん！」

「くす。
誰が相手だろうと関係ないわ。
始めましょうか。」

「「決闘（デュエル）！」」

第２６話（後書き）

ＸＹを残すためにＳｉｎスタは原作とＯＣＧ効果を混ぜました。
そしてパラドクスの原作効果の意味がなかった…

次は表遊戯のデュエルですが、遊戯の使うデッキがいまいちよくわかりません…

デュエルシーンが見にくいと意見があったので意識して書きましたが、どうでしょうか？

第２７話（前書き）

春休みになったのになかなか更新できずすみません。
始業式までにはＤＭ編を終わらせれるようにしたいです。

第27話

Ｓｃｅｎｅ遊戯

茜ちゃんと海馬君の決闘（デュエル）が終わって、次は僕の番だね。
茜ちゃんのフィールドには攻撃力４０００のＳｉｎ（シン）パラドクス・ドラゴンにフィールド魔法のＳｉｎ（シン）Ｗｏｒｌｄ（ワールド）、そして伏せカードが１枚。
僕のデッキに攻撃力４０００を倒せるカードは少ないけど、なんとかなるよね？

「プレーヤーが変わったから私もデッキを変えるわ
手札はさっきのを戻して新しく5枚ドローするわ
そしてさっきは私のバトルフェイズで終わったから、メインフェイズ2から始めるわよ？
私はキラー・トマトを守備表示で召喚
カードを2枚伏せてターンエンドよ」

「僕のターン、ドロー！」

う～ん、この手札じゃパラドクス・ドラゴンは倒せないか。
もう一人の僕や海馬君のように攻撃力が高いモンスターを出していく戦法じゃないからしょうがないっか。

「僕はモンスターを裏側守備表示で召喚！
カードを2枚伏せてターンエンド！」

「ドロー
キラー・トマトを攻撃表示に変更

バトル
Ｓｉｎ（シン）パラドクス・ドラゴンでモンスターを攻撃！」

よし！

「僕のモンスターはマシュマロン！
マシュマロンは戦闘では破壊されないよ！
そして、裏側守備表示のマシュマロンを攻撃した相手に１０００ポイントのダメージを与える！」

パラドクス・ドラゴンの攻撃がマシュマロンに当たるけど、マシュマロンがそれを弾いて茜ちゃんに攻撃した。
これだと相手モンスターの攻撃力分のダメージを与えれそうなんだけどなぁ。

「面倒なモンスターね
モンスターをセットしてターンエンドよ」

「僕のターン、ドロー！
僕は沈黙の剣士（サイレント ソードマン）ＬＶ０を攻撃表示で召喚！
そして永続魔法、マシュマロンのメガネを発動！
このカードとマシュマロンが自分フィールド上に表側表示で存在する限り、マシュマロン以外のモンスターを攻撃対象に選択する事はできないよ！」
これで沈黙の剣士（サイレント ソードマン）がレベルアップするまでの時間を稼げる筈。
茜ちゃんもそんなに魔法カードを破壊するカードなんてデッキに入れてない…よね？

「攻撃力では勝てないから此方の攻撃を封じるつもり？

戦略としては間違えてはいないけど、いつまでもつかしらね？
ドロー
…特にする事がないわね
キラー・トマトを守備表示に変更してターンエンドよ」

「僕のターン、ドロー！
スタンバイフェイズに沈黙の剣士（サイレント ソードマン）ＬＶ０の効果が発動するよ！
自分ターンのスタンバイフェイズ時にＬＶが１つあがる！
そしてＬＶが１上がるごとに攻撃力が５００上昇するよ！
バトル！
沈黙の剣士（サイレント ソードマン）ＬＶ１で裏側守備表示のモンスターを攻撃！
沈黙の剣ＬＶ１！」

キラー・トマトなら確実に倒せるけど、リクルートモンスターだから後が怖いんだよね。
沈黙の剣士（サイレント ソードマン）が敵に斬りかかる。
けど、沈黙の剣士（サイレント ソードマン）の剣は振り下ろされる直前に止められる。
相手は人型のモンスターだったから白刃取りされたのかな？

「私のモンスターは墓守の偵察者で守備力は２０００
沈黙の剣士（サイレント ソードマン）ＬＶ１の攻撃力１５００では届かないわ
そして墓守の偵察者のリバース効果を発動
自分のデッキから攻撃力１５００以下の墓守のと名のついたモンスター１体を特殊召喚する
２体目の墓守の偵察者を特殊召喚」

あちゃー、失敗したね。
これだったらキラー・トマトを攻撃した方が良かったかな？

「カードを伏せてターンエンドだよ」

「ドロー
２体の墓守の偵察者を融合
光と闇の狭間から生まれし闇の竜よ
漆黒の力で世界を終焉へ導け
融合召喚
誘え、ダークエンド・ドラゴン！」

真ん中に顔っぽい模様がついた黒いドラゴンが現れる。
嫌な予感がするのは僕だけじゃないよね？

「ダークエンド・ドラゴンの効果を発動
１ターンに１度、このカードの攻撃力・守備力を５００下げる事で、
相手フィールド上に存在するモンスター１体を墓地へ送る事ができる
私が対象にするのは、もちろんマシュマロンよ！
ダーク・イヴァポレイション！」

え！？
破壊じゃなくて墓地に送っちゃうの！？

「マシュマロンが存在しなくなった事でマシュマロンのメガネの効果もなくなるわ
バトル！
Ｓｉｎ（シン）パラドクス・ドラゴンで沈黙（サイレント）の剣士（ソードマン）ＬＶ１を攻撃
パラドックス・ブレス！」

パラドクス・ドラゴンがこちらに衝撃波を放つ。
思ってたよりマシュマロンが除去されるのが早かったけど、迎撃の準備はできてるよ！

「僕は速攻魔法、時の飛躍ーターン・ジャンプーを発動するよ！
このカードは発動した瞬間から相手ターンで数えて３ターン後まで全てのフェイズをスキップする！
そして、僕のスタンバイフェイズが３回過ぎた事で、沈黙の剣士（サイレント ソードマン）ＬＶ１はＬＶ４になり、攻撃力も３０００になる！
沈黙の剣士（サイレント ソードマン）はＬＶ３以上の時、このモンスターを対象とする相手の魔法カードの効果を無効にする！」

「けど、Ｓｉｎ（シン）パラドクス・ドラゴンの４０００には届いてないわよ？
まぁまだ何かあるとは思うけど」

「そのとおりだよ！
永続罠、罅割れゆく斧を発動！
フィールド上に表側表示で存在するモンスター１体を選択して、選択したモンスターの攻撃力を相手ターンで数えてこのカードを伏せたターン数×５００ポイントダウンさせる！
当然Ｓｉｎ（シン）パラドクス・ドラゴンを選択するね
最初のターンから伏せているから３ターンに時の飛躍でとんだ３ターン、計６ターン経過してるからＳｉｎ（シン）パラドクス・ドラゴンの攻撃力を３０００下げる！
攻撃！
沈黙の剣ＬＶ４！」
沈黙の剣士（サイレント ソードマン）がＳｉｎ（シン）パラドクス・ドラゴンを一刀両断にする。
茜ちゃんのライフは５１００で今２０００減ったから残りは３１００。
このままいけば勝てるね！

ん？
茜ちゃんの場に祭壇見たいな物が出てて、４つある灯の内３つに火が灯っている。
いつの間に！？

「時の飛躍ーターン・ジャンプー発動時に永続罠、縛られし神の祭壇を発動したわ
このカードは自分のスタンバイフェイズ時に１度、フィールド上に存在する表側守備表示のモンスター１体につき地縛神カウンターを１つ乗せる効果を持っている
互いの場に表側守備表示のモンスターはキラー・トマトの１体
そして時の飛躍で３ターン経過したから３つ地縛神カウンターが祭壇に乗っているわ」

地縛神ってさっきホルアクティの時に出てきたものすごく大きいモンスターだったよね？
それのサポートカードかな。
けど、沈黙（サイレント）の剣士（ソードマン）はＬＶ４で攻撃力は３０００。
よっぽど戦闘では破壊されないはずだよね。

「私のターンは終了よ」

「僕のターン、ドロー！
沈黙（サイレント）の剣士（ソードマン）はＬＶ５になるよ！
攻撃力は３５００になって、相手の魔法カードの効果を受けない効果を得る！
僕はグリーン・ガジェットを攻撃表示で召喚！
グリーン・ガジェットの召喚・特殊召喚に成功した時、デッキからレッド・ガジェット１体を手札に加える事ができるよ！
そして魔法カード、同胞の絆を発動！

ライフを１０００払って、自分のデッキから場に存在するモンスターと同じ種族のモンスター２体をデッキから特殊召喚する！
レッド・ガジェットとイエロー・ガジェットを守備表示で特殊召喚！
まだあるよ！
永続罠、機動砦ストロング・ホールドを発動！
このカードは発動後攻０守２０００のモンスターとなり、自分の場に攻撃表示で特殊召喚する！
自分フィールド上にグリーン・ガジェット、レッド・ガジェット、イエロー・ガジェットが全て表側表示で存在する限り、このカードの攻撃力は３０００になる！
バトルだよ！
機動砦ストロング・ホールドでダークエンド・ドラゴンを攻撃！
スチール・ギア・クラッシュ！」

ストロング・ホールドがダークエンドを捕まえて…羽を？いだ！？
両方の羽を？いでその後に顔面を殴りつけると、ダークエンドはもうたまらないと言わんばかりに消え去った。
…うん、いろいろごめん。
だから茜ちゃん怒らないで？
殺気が怖いんだけど。

「バ、バトルを続行するよ！
グリーン・ガジェットでキラー・トマトを攻撃！」

グリーン・ガジェットは歯車みたいで、それを生かして高速回転でキラー・トマトに突っ込んで…
うわぁ…
キラー・トマトが熟れたトマトを潰す時の様に弾けとんだ。
２体とも機械だから相手を気にしないの？

「なかなか酷い倒し方ね
私にあの時の事を思い出させたいのかしらね？
キラー・トマトの効果で攻撃力１５００以下の闇属性モンスターを
攻撃表示で特殊召喚するわ
２体目のキラー・トマトを特殊召喚」

「…あはは
わざとじゃないからね？
沈黙の剣士（サイレント ソードマン）ＬＶ５でキラー・トマトを攻撃！
沈黙の剣ＬＶ５！」

お願い、沈黙の剣士（サイレント ソードマン）、普通に倒して！
僕の願いが届いたのか、沈黙の剣士（サイレント ソードマン）は普通にキラー・トマトを切った。
うんうん、これが普通だよね？
しかもさりげなく茜ちゃんから見えないように攻撃してるし。
おかげで傍から見ると茜ちゃんの場にいるように見えたけどね。

「キラー・トマトの効果で地縛大神官を特殊召喚」

茜ちゃんの場のモンスターを全滅はできなかったけど、上級モンスターは破壊できたしライフも２３００まで減らせたし。
ただ、次のターンで縛られし神の祭壇に地縛神カウンターが４つ乗るんだよね。
何が起こるか分からないから怖いよ。

「カードを伏せてターンエンドだよ！」

「ドロー
貴方の場に２体守備表示のモンスターがいる事で縛られし神の祭壇

に地縛神カウンターが乗るわ
そして縛られし神の祭壇の効果を発動。
地縛神カウンターが４つ乗った縛られし神の祭壇を生け贄に捧げる事で、デッキ、手札、墓地のいずれから地縛神と名の付いたモンスターを特殊召喚できる！
縛られし神の祭壇を生け贄に捧げ、現れよ！
地縛神　Ｃｕｓｉｌｌｕ（クシル）！」

上空に巨大な拳の形をした心臓のようなものが空中に現れ、そこから地縛神　Ｃｕｓｉｌｌｕ（クシル）が降ってきた。
その時の衝撃で周りのビルが崩壊し始めている…って危な！
瓦礫が僕達の方にも落ちてきてるんだけど！？
茜ちゃんの方はクシルが尻尾で瓦礫を吹き飛ばしてるから問題なさそうだけど。

「どうせ地縛神の効果を知らないでしょうから教えてあげるわ
地縛神がフィールド上に表側表示で存在する場合、地縛神と名のつくカードを召喚、反転召喚、特殊召喚する事はできないわ
そしてフィールド上にフィールド魔法が表側表示で存在しない場合、地縛神の効果は無効となり、エンドフェイズ時に破壊される
地縛神は相手プレイヤーに直接攻撃する事ができる
相手モンスターは地縛神を攻撃対象にする事ができず、相手の魔法、罠カードの効果も受けないわ
これが地縛神に共通の効果よ
後は地縛神ごとに異なる効果をもっているわ」

そんな！？
魔法、罠が効かないなんて！
地縛神を倒すにはフィールド魔法を破壊しないと無理じゃん！

「Ｓｉｎ（シン）Ｗｏｒｌｄ（ワールド）はもう不要ね
大破してしまったし
手札からフィールド魔法、失楽園を発動！」

さっき大破したビル群が消えて、何も無い更地に戻った。
更地というよりは死に絶えた大地かな？
もう自然が戻る事の無い土地って感じ。
元々あった砂漠とは似てるけど、全く別物だね。

「バトルよ
地縛神　Ｃｕｓｉｌｌｕ（クシル）で直接攻撃（ダイレクトアタック）！」

くっ！
クシルの尻尾に思い切りはたかれて、ライフが２８００減って４２００になっちゃよ。

「地縛大神官でイエロー・ガジェットを攻撃よ
そしてガジェットが３種存在しなくなった事でストロング・ホールドの攻撃力は０に戻るわ
カードを２枚伏せてターンエンドよ」

「僕のターン、ドロー！
沈黙の剣士（サイレントソードマン）はＬＶ６になるよ！
沈黙の魔術師（サイレントマジシャン）を攻撃表示でするよ！」

茜ちゃんと同じくらいの年頃の幼い魔術師が出てくる。
なんか微妙に沈黙の剣士（サイレントソードマン）と距離をとってるのは気のせいだよね？

「バトル！
沈黙の剣士（サイレントソードマン）ＬＶ６で地縛大神官を攻撃！」

「速攻魔法、終焉の焔を発動
黒焔トークンを2体特殊召喚するわ」

ん？
トークンを出して何をするつもりだろう？

「そして永続罠、鎮守の煌画を発動」

鎮守の煌画？
なんだろう、それ。

「自分フィールド上に地縛神と名のついたモンスターが表側表示で存在する場合のみ発動する事ができるわ
相手モンスターの攻撃宣言時、自分フィールド上に表側表示で存在する地縛神と名のついたモンスターにその攻撃対象を変更する事ができる
沈黙の剣士（サイレントソードマン）ＬＶ６の攻撃は地縛神　Ｃｕｓｉｌｌｕ（クシル）が受けるわ」

え？
そりゃ地縛大神官に攻撃が通れば僕の勝ちだから防ぐのはわかるけど、地縛神　Ｃｕｓｉｌｌｕ（クシル）じゃなくてトークンでもよくない？
沈黙の剣士（サイレントソードマン）がクシルに攻撃してクシルは破壊…されない！？

「地縛神　Ｃｕｓｉｌｌｕ（クシル）の効果を発動
クシルが戦闘によって破壊される場合、代わりに自分フィールド上に存在するモンスター１体を生け贄に捧げ、相手のライフポイントを半分にする事ができる
私は黒焔トークンを生け贄に捧げるわ」

黒焔トークンが燃え上がってクシルを沈黙の剣士（サイレントソードマン）の攻撃から守って弾ける。
で、その炎が…こっちにくる！
あ、あつい！

「ただし、戦闘ダメージは受けるわ
よって私のライフは８００よ
尤も、貴方のライフは残り２４００、次のクシルの攻撃で終わりよ」
…ちょっとというかかなり不味いね。

「カードを伏せてターンエンドだよ！」

とりあえず次のターンを防がないと！

「ドロー」

「茜ちゃんがドローした瞬間、沈黙（サイレント）の魔術師（マジシャン）のＬＶがあがるよ！」
沈黙（サイレント）の魔術師（マジシャン）がすこしだけ成長した姿になる。
だいたい６歳が８歳になった感じかな？

「カードを伏せて、バトルよ
地縛神　Ｃｕｓｉｌｌｕ（クシル）で直接攻撃（ダイレクトアタック）！」

タイミングが大事だね。
少しでも遅かったら僕の負けになってしまう。
僕が決闘盤（デュエルディスク）に集中しているのを茜ちゃんが不思議そうに見てるけど、
気にしないよ！

クシルの尻尾が当たる…今だ！

「罠カード、ガード・ブロックを発動！
戦闘によって発生する自分への戦闘ダメージは０なり、自分のデッキからカードを１ドローする！」

攻撃は不可思議な壁が阻んでくれた。
そして引いたカードは…これならいける！

「なら、魔法カード、アドバンス・ドローを発動するわ
レベル８以上のモンスターを生け贄に捧げ、２枚ドローする
地縛神　Ｃｕｓｉｌｌｕを生け贄に２枚ドローするわ」

「２枚ドローしたから沈黙の魔術師のＬＶが２上がって３になるよ！」

沈黙の魔術師が１２歳位の見た目になった。
沈黙の剣士がなんか落ち込んでいるけど、なんで？

「そして黒焔トークンと地縛大神官を生け贄に捧げる！
積年の恨み積もりし大地に眠る魂達よ！
今こそ穢された大地より出でて、我に力を貸さん！
降臨せよ、地縛神　ＣｈａｃｕＣｈａｌｌｈｕａ！」

２体目の地縛神！？
今度は鯱の地上絵から出てきた。
水が無いけど、大丈夫なのかな？

「地縛神　ＣｈａｃｕＣｈａｌｌｈｕａの効果を発動
１ターンに１度、このカードの守備力の半分のダメージを相手ライ

フに与える事ができる
地縛神　Ｃｈａｃｕ（チャク）Ｃｈａｌｌ（チャルア）ｈｕａの守備力は２４００
半分の１２００分のダメージを受けなさい！
ダーク・ダイブ・アタック！」

ええ！？
効果ダメージをもってるの！？
というか、次のターンも喰らったらライフがなくなっちゃう！

「言い忘れてたけど、地縛神　Ｃｈａｃｕ（チャク）Ｃｈａｌｌ（チャルア）ｈｕａは守備表示よ？
そしてチャクチャルアが守備表示の時、相手はバトルフェイズを行えないわ」

ちょっと！
効果多すぎるし、全部強力な効果じゃない？

「仮にも神よ？
まぁフィールド魔法がないと意味がないけど
カードを伏せてターンエンドよ」

「僕のターン、ドロー！
沈黙（サイレント）の剣士（ソードマン）はＬＶ７になるよ！」

「ＬＶ７の魔法無効効果は厄介だから潰させてもらうわ
カウンター罠、天罰を発動
手札を１枚捨て、効果モンスターの効果の発動を無効にし破壊するわ」

そんな！？

あっ…
でも、よく考えたら沈黙の剣士（サイレントソードマン）がいたら困るんだった。
それを考えると、結果オーライ？

「魔法カード、天よりの宝札を発動！
互いのプレーヤーは手札が６枚になるようにドローするよ！
茜ちゃんの手札は１枚だから５枚ドローするよ
そして５枚ドローしたから沈黙の魔術師（サイレントマジシャン）はＬＶ８になる！
その攻撃力は５０００で、更に相手の魔法効果を受けないよ！
そしてグリーン・ガジェット、レッド・ガジェットの２体を生け贄に捧げ、破壊竜ガンドラを召喚！
ガンドラの効果を発動！
自分のライフポイントを半分払う事で、ガンドラ以外のフィールド上のカードを全て破壊しゲームから除外する！
この効果の発動は攻撃宣言として、この効果は魔法カードの効果として扱うよ！」

ガンドラが光輝き、フィールド全てを巻き込んで爆発しようとする。

「そして速攻魔法、魔封壁を発動！
発動ターンのエンドフェイズまで、自分フィールド上のモンスターは魔法カードの効果では破壊されない！」

僕の場に伏せカードはないから、茜ちゃんのフィールドだけを破壊することになる。
地縛神は魔法効果を受けないから残っちゃうけど、フィールド魔法が無ければ効果が無くなるから問題ないよ。
あ、ストロング・ホールドは罠としても扱うから破壊されちゃうか。

「バトル！

デストロイ・ギガ・レイズ！」

攻撃宣言と共にガンドラが爆発する。

今思うけど、なんでガンドラは破壊されないんだろうね？

爆弾みたいな役目だから一緒に破壊されそうなんだけど。

ん？

なんか爆発の直前に茜ちゃんの場にドラゴンが見えた気がしたけど…

ガンドラの攻撃が終わって、茜ちゃんの場には地縛神と…フィールド魔法の失楽園が残ってる！？

「ガンドラの攻撃宣言時に前の決闘（デュエル）から伏せていた速攻魔法、Ｓｉｎ（シン）Ｃｒｏｓｓ（クロス）を発動したわ

自分の墓地に存在するＳｉｎと名のついたモンスター１体を召喚条件を無視して自分フィールド上に特殊召喚する効果でＳｉｎ（シン）スターダスト・ドラゴンを特殊召喚

墓地は前の決闘（デュエル）から引き継いでいるわ

そしてＳｉｎ（シン）スターダスト・ドラゴンの効果でフィールド魔法を守った

本当ならガンドラの効果を無効にしたかったけど、チェーンの関係でできないのよね

残念だわ」

そ…そんな。

僕の場には攻撃力５０００の沈黙（サイレント）の魔術師（マジシャン）とガンドラがいるけど、

ガンドラはこのターンに破壊しちゃう。

手札にも地縛神の攻撃を防げるカードは無い。

これは詰んじゃったかな？

一応使えそうなカードは残ってるから、次の城之内君に任せよう。

「カードを3枚伏せてターンエンドだよ」

「ドロー
沈黙(サイレント)の魔術師(マジシャン)がＬＶ９になるわね、居ても関係ないからいいけど
カードを3枚伏せるわ
ついでに魔法カード、愚かな埋葬を発動するわ
デッキからモンスター1体を墓地に送るわ
地縛神　ＷｉｒａｑｏｃｈａＲａｓｃａ(ウィラコチャラスカ)を墓地に送る
チャクチャルアを攻撃表示に変更してバトルよ！
地縛神　Ｃｈａｃｕ(チャク)Ｃｈａｌｌｈｕａ(チャルア)で直接攻撃(ダイレクトアタック)！」

チャクチャルアが口を開いて、飲み込みにきた！？
ちょ、ちょっとまってよ！
食べられると覚悟したけど、結局普通に衝撃波を喰らっただけで飲み込まれる事は無かった。
あ、危なかったよ…

「手札から速攻魔法、セベクの祝福を発動
相手プレイヤーへの直接攻撃に成功した時、相手に与えた戦闘ダメージの数値分だけ自分のライフポイントが回復する
チャクチャルアの攻撃力分の２９００ライフを回復するわ」

あー
茜ちゃんのライフが３７００まで回復しちゃったよ。
せっかく８００まで削ったのに…

「武藤のライフが０になったから次のプレーヤーと交代ね
次は誰かしら？」

「俺だぜ！

遊戯、後は任せろ！」

「うん、城之内君！
がんばってね！」

「あったりまえよぉ！」

意気揚々と茜ちゃんと対峙する城之内君。
次の相手が城之内君だと知ると、一瞬茜ちゃんの顔が引き攣る。
もしかして、城之内君が苦手なのかな？
そういやデッキを変えたって言ってたけど、この前茜ちゃんから貰ってたアルカナフォースを使うのかな？
たしか効果が正位置か逆位置かで変わる…
そっか！
城之内君はギャンブルデッキだから茜ちゃんも予想しにくいんだ！

「しまったわね
この前カードを渡したのは失敗だったかしら？
まぁ過ぎた事はしょうがないわね
始めましょうか？」

「「決闘（デュエル）！」」

第２７話（後書き）

サイレント２種は基本原作で、ＬＶが一定の値を超えるとＯＣＧの効果を得る風にしました。

マジシャン
原作：相手がドローしたカード１枚につき、このカードの攻撃力は５００ポイントアップする。
ＯＣＧ（ＬＶ８）：相手の魔法カードの効果を受けない
ソードマン
原作：自分ターンのスタンバイフェイズ時に攻撃力を５００ポイントアップし、ＬＶを１あげる
ＯＣＧ（ＬＶ５）：相手の魔法カードの効果を受けない。
（ＬＶ３）；このカードを対象とする相手の魔法カードの効果を無効にする。

地縛神

このカードがフィールド上に表側表示で存在する場合、「地縛神」と名のつくカードを召喚・反転召喚・特殊召喚する事ができない。フィールド上にフィールド魔法が表側表示で存在しない場合、このカードの以下の効果は無効となり、このカードはエンドフェイズ時に破壊される。
●このカードは相手プレイヤーに直接攻撃する事ができる。
●相手モンスターはこのカードを攻撃対象にする事ができない。
●このカードは相手の魔法・罠カードの効果を受けない。
●（モンスターごとに異なる効果）

《Ｓｉｎ（シン）Ｃｒｏｓｓ（クロス）》

速攻魔法
自分の墓地に存在する「Ｓｉｎ」と名のついたモンスター１体を選択して発動する。
選択したモンスターを召喚条件を無視して自分フィールド上に特殊召喚する。
この効果で特殊召喚したモンスターはこのターンのエンドフェイズ時にゲームから除外される。

《　鎮守　（ちんじゅ）の　煌画　（こうが）》
永続罠
自分フィールド上に「地縛神」と名のついたモンスターが表側表示で存在する場合のみ発動する事ができる。
相手モンスターの攻撃宣言時、自分フィールド上に表側表示で存在する「地縛神」と名のついたモンスターをその攻撃対象に選択する事ができる。
「地縛神」と名のついたモンスターがフィールド上から離れた時、このカードを破壊する。

《　縛　（しば）られし　神　（かみ）への　祭壇　（さいだん）》
永続罠
自分のターンのスタンバイフェイズ毎に１度、フィールド上に表側守備表示で存在するモンスター１体につき１つ、このカードに地縛神カウンターを置く。
地縛神カウンターが４つ乗ったこのカードを墓地へ送る事で、自分のデッキから「地縛神」と名のついたモンスター１体を特殊召喚する事ができる。

《　時　（とき）の　飛躍　（ひやく）－ターン・ジャンプ》
速攻魔法
発動したターンのターンプレイヤーのターンで数えて３ターン後の

バトルフェイズまで全てのフェイズをスキップする。

《罅割れゆく斧》
永続罠
このカードを伏せたターン数×５００ポイント攻撃力をダウンさせる

《　同胞　（どうほう）の　絆　（きずな）》
通常魔法
自分のライフを１０００ポイント支払い、フィールド上に表側表示で存在するモンスターを1体選択して発動する。
自分のデッキから選択したモンスターの種族を2体まで選択してフィールド上に特殊召喚する。
この効果で特殊召喚したモンスターはこのターン攻撃宣言とリリースを行う事ができない。

《破壊竜ガンドラ》
自分のライフポイントを半分払う事で、このカード以外のフィールド上のカードを全て破壊しゲームから除外する。
この効果の発動は攻撃宣言として扱う。
また、この効果は魔法カードの効果として扱う。
このカードは召喚されたターンのエンドフェイズ時に墓地へ送られる。

《魔封壁》
速攻魔法
発動ターンのエンドフェイズまで、自分フィールド上のモンスターは魔法カードの効果では破壊されない。

第２８話（前書き）

お久しぶりです。
ＰＣが壊れたり受験勉強が忙しくなってなかなか更新できずにすみませんでした。
今後も更新は遅くなりますが頑張って続けていきたいです。
途中で口調が変わっている場合があるかもしれませんがご了承ください。

前に指摘がありましたので少し。
王の記憶編での変則デュエルは本気禁止制限決闘の幻魔編を参考にさせて頂きました。

第２８話

ｓｅｎｃｅ王様

今茜の場には攻撃力２９００の地縛神　Ｃｈａｃｕ（チャク）Ｃｈａｌｌｈｕ（チャル）ａ（ア）に伏せカードが３枚。
それに結局効果が分からないフィールド魔法、失楽園。
そしてライフは３７００か。

城之内君の場には相棒が残した攻撃力５５００の沈黙（サイレント）の魔術師（マジシャン）ＬＶ９に伏せカードが３枚。

茜のバトルフェイズで決闘（デュエル）が終わったから、メインフェイズ２からか。
今まで茜が使ったモンスターはＳｉｎに地縛神。
どちらもホルアクティと対峙した時にいたモンスターだ。
ならば、後のモンスターは邪神と幻魔か？

「デッキを変えて手札も新しくするわ
これはドローではないから沈黙（サイレント）の魔術師（マジシャン）の効果は発動しないわ
私はモンスターとカードをセットしてターンエンドよ」

「いくぜ、夜霧！
俺のターン、ドロー！
俺はアルカナフォースＩＩＩ（スリー）－ＴＨＥＥＭＰＲＥＳＳ（エンプレス）を攻撃表示で召喚！」

タロットにおける大アルカナの３番目のカード、女帝を示すモンスターが現れる。

見た目はどう見ても女帝というよりエイリアンなのだが。
あれで何故光属性、天使族なんだ？
そして確かタロットにおける意味は正位置の時に「繁栄」「豊穣」「母権」「家庭の形成」を表し、逆位置の時は「挫折」「軽率」「虚栄心」「怠惰」を表していたな。

「アルカナフォースＩＩＩ（スリー）－ＴＨＥＭＰＲＥＳＳ（ジ　エンプレス）の効果を発動するぜ！」

「分かってるわよ
アルカナフォース共通の効果
召喚、特殊召喚、反転召喚成功時にカードの位置を決め、その位置の効果を得る
ＴＨＥＭＰＲＥＳＳ（ジ　エンプレス）は正位置なら相手がモンスターの通常召喚に成功する度に、手札からアルカナフォースと名のついたモンスター１体を特殊召喚する事ができる
そして逆位置なら相手がモンスターの通常召喚に成功する度に自分は手札のカードを１枚墓地へ送る
誰が貴方に渡したと思ってるの？」

「そういやそうだったな！
んじゃ、止めるタイミングはそっちが決めてくれ！」

城之内君の頭上にカードが現れ、回転し始める。

「ストップよ」

茜が制止の声をかけて、回転が止まってゆく。
結果は…正位置！

「よっしゃあ！
エンプレスは正位置の効果、よって夜霧がモンスターの通常召喚に成功する度に、手札からアルカナフォースと名のついたモンスター1体を特殊召喚する事ができるぜ！」

これで茜がモンスターを召喚する度に城之内君がアドバンテージを得られる！

「そしてバトルだぜ！
沈黙(サイレント)の魔術師(マジシャン)ＬＶ９でセットされているモンスターを攻撃！」

「罠カード、次元幽閉を発動
攻撃モンスター1体をゲームから除外するわ
いつまでも沈黙(サイレント)の魔術師(マジシャン)を残しておくと厄介なのよね」

茜はさっき伏せたカードを使って沈黙(サイレント)の魔術師(マジシャン)を除外した。

「んだと！？
カードを伏せてターンエンドだ！」

「ドロー
魔法カード、封印の黄金櫃を発動
自分のデッキからカードを1枚選択し、ゲームから除外する
そして発動後2回目の自分のスタンバイフェイズ時にそのカードを手札に加えるわ
私は異次元からの宝札を除外するわ」

異次元からの宝札？
名前からして除外に関係がありそうなドローカードだが…

「バトルよ！
地縛神　Ｃｈａｃｕ（チャク）Ｃｈａｌｌｈｕａ（チャルア）で直接攻撃（ダイレクトアタック）！」
チャクチャルアが城之内君に突撃する。
あのデカさで突っ込まれると色々怖いな。

「ターンエンドよ」

「こえぇな、これ！
俺のターン、ドロー！
魔法カード、大嵐を発動するぜ！
フィールド上の魔法、罠カードを全て破壊する！」
城之内君は自分のカードを破壊してでも茜のカードを破壊しにいったな。
フィールド魔法も破壊されるから間違ってないな。

「カウンター罠、地縛波（グランド・ウェーブ）を発動
自分フィールド上に地縛神が存在する場合のみ発動可能
相手の魔法・罠カードの発動を無効にし破壊する」
風がカードを吹き飛ばそうとするが、チャクチャルアから出た黒い衝撃波によって相殺された。
やはり破壊対策のカードは入れていたか！

「まぁ想定内っちゃ想定内だぜ！
俺は永続罠、ラッキー・チャンス！を発動するぜ！
２択の効果を持つ効果モンスターの効果の発動時にそれがどちらかを当てる
当たった場合、自分のデッキからカードを１枚ドローできる！」

これは2種類の使い方があるな。
1つは、欲しい効果と逆のを選んで、どちらがでてもいいようにする方法。
もう1つ、城之内君は確実に此方を選ぶだろうが、欲しい効果と同じのを選ぶ方法。
当たればアドバンテージは大きいが外れると何も得られない。

「俺はアルカナフォースⅠ－ＴＨＥＭＡＧＩＣＩＡＮを攻撃表示で召喚！
そして位置を決める！
この時にラッキー・チャンス！の効果も発動するぜ！
当然ラッキー・チャンス！で俺が選ぶのは正位置だ！」

ＴＨＥＭＡＧＩＣＩＡＮのカードが現れ、回転を始める。
マジシャンはタロットにおける大アルカナの1番目のカード。
正位置は「物事の始まり・起源」「創造」を表し、逆位置は「混迷」「消極性」を表すんだったな。
にしても、マジシャンなのに何故天使族なんだ？

「ストップよ」

カードが止まった位置は…

「おしっ！
正位置だぜ！
ラッキー・チャンス！の効果でドローして、マジシャンは魔法カードが発動された時、そのターンのエンドフェイズ時まで元々の攻撃力が倍になるぜ！」

だが、それでも攻撃力は２２００。
それに、チャクチャルアは攻撃対象にならない。
どうするんだ？

「今日の俺はついてるぜ！
今引いたカード、ハリケーンを発動！
フィールド上の魔法、罠カードを全て手札に戻す！」

「なっ！？
流石に防げないわ」

城之内君の引きが冴えてるな！
フィールド魔法が無くなった事でチャクチャルアはエンドフェイズで破壊される。
そして茜の場にはセットされているモンスターが１体。
しかも茜がモンスターを召喚すれば、城之内君もモンスターを特殊召喚できる。
いい流れだ！

「魔法カードを発動した事でマジシャンの攻撃力は倍に成るぜ！
そしてバトルだ！
アルカナフォースＩ（ワン）－ＴＨＥＭＡＧＩＣＩＡＮ（ザ　マジシャン）でセットされているモンスターを攻撃！
アルカナ・マジック！」

マジシャンが４つに分裂してモンスターを袋叩きにし始める。
けれど、そのモンスターは破壊されない。
守備力が２２００を上回っているのか？

「私のモンスターは魂を削る死霊よ

このカードは戦闘では破壊されないわ
かわりに、カード効果の対象になったら破壊されるけど」

つまり、戦闘に強いかわりに他に弱くなった訳か。

「カードを3枚伏せてターンエンドだ！
そしてチャクチャルアには消えて貰うぜ！」

フィールド魔法が無くなった事でチャクチャルアが昇天していく。

「ドロー
そしてスタンバイフェイズに除外してある異次元からの宝札の効果を発動」

ここで発動だと？
だが、封印の黄金櫃は2ターン後、次のターンだった筈だが…

「異次元からの宝札がゲームから除外された場合、次の自分のターンのスタンバイフェイズ時に手札に戻る
そしてこの効果で手札に戻った時、お互いのプレイヤーはデッキからカードを2枚ドローする
端的にいえば除外版キラー・スネークに2枚ドローが付いた感じよ」

いや、普通に2枚ドローの方がメインじゃないか？
キラー・スネークはそこまでだと思うんだが…
いや、茜が使えば凶悪なコンボに化けそうだな。

「2枚ドロー
ふふ
永続魔法、トライアングル・フォースを発動

デッキからトライアングル・フォースを2枚発動する」
それだけか？
効果の無いカードを3枚並べても無駄な気がするが…
「そして3枚のトライアングル・フォースを生け贄に捧げる」
魔法カードを生け贄に捧げるだと！？
「ふふ
轟け！
幻魔が1柱、降雷皇ハモン！」
辺りの闇が濃くなり、ラーに似たモンスターが姿を現す。
こいつはあの時の！
「降雷皇ハモンは永続魔法3枚を生け贄に捧げる事で特殊召喚できるモンスターよ
そして通常召喚ではないからエンプレスの効果は発動しないわ」
「んだと！？」
上手い事かわされたな。
そして夜霧の手札は6枚。
そのうち2枚は異次元からの宝札と失楽園。
結構危ないな。
「フィールド魔法、失楽園を発動するわ
そして失楽園の効果を発動！
三幻魔が自分フィールドに存在する時、2枚ドローできる！」

三幻魔用のフィールド魔法だったのか！？
夜霧は２枚ドローして手札が７枚か。

「ちなみにハモンの攻撃力は４０００よ
そして三幻魔は罠の効果を受け付けず、魔法・効果モンスターの効果は発動ターンのみ有効よ」

ん？
微妙に三幻神より耐性がないな。
それでも十分に強いが。

「バトルよ
ハモンでエンプレスを攻撃！
失楽の霹靂！」

エンプレスに雷が落ちる。
当然耐えきれる訳もなく、破壊される。

「まだよ
ハモンがモンスターを破壊した時、相手プレーヤーに１０００のダメージを与える！
地獄の贖罪！」

「ぐわぁぁ！」

エンプレスに落ちた雷が城之内君にも襲いかかる。
城之内君！
そして戦闘ダメージ２７００に効果ダメージ１０００、合わせて３７００のライフが削られる。

「モンスターを伏せてターンエンドよ」

「結構効いたぜ、今のは…
俺のターン、ドロー！
伏せてあった魔法カード、天使の施しを発動！
３枚ドローして２枚捨てるぜ
そしてマジシャンを生け贄に捧げ、アルカナフォースＶＩＩＩ（エイト）－ＴＨＥＳＴＲＥＮＧＴＨ（ザストレングス）を召喚！
ストレングスの効果は正位置なら相手フィールド上のモンスター１体のコントロールを得る
そして逆位置なら自分フィールド上の、このカードを除く全てのモンスターのコントロールを相手に移すぜ！
そして永続罠ラッキー・チャンス！を発動して正位置を選択！」

タロットにおける大アルカナの１１番目のカード、力を意味するモンスターが現れる。
タロットにおける意味は正位置の時に正位置の意味　は力量の大きさ、強固な意志、不撓不屈、理性、自制、実行力、知恵、勇気、冷静、持久戦。
逆位置の意味は甘え、引っ込み思案、無気力、人任せ、優柔不断、権勢を振るう、を表していたな。
再びカードが現れ、回転を始める。

「はぁ、どうせまた正位置でしょ
ストップ」

…なんか茜はもう諦めてる感じだな。
確かにここまで有利に動かれれば諦めたくなるが。
で、カードの位置は…

「当然正位置だぜ！
ラッキー・チャンス！でドロー！
そして正位置のストレングスの効果で相手フィールド上のモンスター1体のコントロールを得る！
俺は…」

城之内君、決して当然ではないぜ？
そんな風に当然といえる決闘者は他に…いるのか？
後、何を悩んでいるんだ？

「待てよ、どうすりゃいいんだ？
ハモンを奪っても1ターンしか効かないし、死霊が倒せない
死霊を奪っても自壊しちまうし、そもそもハモンを倒せねぇし…」

…城之内君。
もう少し考えてモンスターを出そうぜ。
この時ならハモンを除去出来ないから死霊を破壊するのが無難だと思うぜ？

「あぁぁ―！
やめだやめだ！
考えるのは俺の決闘（デュエル）じゃねぇ！
漢（おとこ）なら己の勘で進むのみだ！」

「「「「「いや、お前はもっと考えろ」」」」」

はっ！
いかんいかん。
思わずツッコんでしまったＺＥ！

しかも俺だけでなく、茜以外の全員がツッコんだな。
「俺はストレングスの効果で魂を削る死霊のコントロールを得るぜ！」
「魂を削る死霊は相手のカード効果の対象になった時、破壊されるほんと貴方の勘には恐れ入るわ」
「へへっ！
そりゃどーも」
「「「

幻魔が1柱、神炎皇ウリア！」
今度はオシリスに似たモンスターが現れる。
やはりか！
「まだ終わらないわよ？
幻銃士を召喚
そして幻銃士の効果を発動
幻銃士が召喚、反転召喚に成功した時、自分フィールド上に存在する幻銃士を除いたモンスターの数まで銃士トークンを特殊召喚する事ができる
私の場にはハモンとウリアの2体
よって銃士トークンを2体特殊召喚する
幻銃士のもうひとつの効果を発動
自分のメインフェイズ毎に自分フィールド上に表側表示で存在する銃士と名のついたモンスター1体につき３００ポイントダメージを相手ライフに与える
この効果を発動する場合、このターン自分フィールド上に存在する銃士と名のついたモンスターは攻撃宣言する事ができないけど
銃士と名の付いたモンスターは3体
９００のダメージを受けて貰うわよ！」
「くっ！」
「そして銃士トークン2体と幻銃士を生け贄に捧げる！」
なにっ！？
だが、既に召喚権は使ってる筈だが…
「このモンスターは自分の場の悪魔族を3体生け贄に捧げる事で特

殊召喚できるのよ！
ひれ伏せ！
幻魔が頂点
幻魔王ラビエル！」

３体目はオベリスクに似たモンスター。
一気に幻魔が茜の場に揃ってしまった！？

「ふふ
ウリアとラビエルの攻撃力が気になるでしょう？
ラビエルの攻撃力は４０００
そしてウリアの攻撃力は、自分の墓地の罠カード１枚につき１００００となるわ」

墓地の罠カードの枚数で攻撃力が決まるのか！？
さっき３枚送ったから３０００に…
前の決闘の罠カードも入るのか！

「私の墓地にある罠カードは初戦から数えて、攻撃の無力化、逆転の明札、Ｓｉｎ（シン）Ｃｌａｗ（クロウ）Ｓｔｒｅａｍ（ストリーム）、レインボー・ライフ、縛られし神の祭壇、鎮守の煌画、天罰、次元幽閉にさっき生け贄に捧げた３枚
合わせて１１枚ね
よってウリアの攻撃力は１１０００よ」

攻撃力１１０００だと！？

「おいおいちょっと待てよ！
なんだ攻撃力１１０００ってよぉ！？」

まぁ有り得なくはないが…
って茜はまるで普通といわんばかりの表情だが。

「たかが攻撃力１１０００よ？
それにウリアの真価はこれからよ？
ウリアの効果を発動！
１ターンに１度、相手フィールド上にセットされている魔法、罠カード１枚を破壊する事ができる
そしてこの効果の発動に対して魔法、罠カードを発動する事はできないわ」

「んだとぉ！
なんだよそのチート性能はよ！？」

「リアルチートの貴方にだけは言われたくない台詞ね」

「「「「「確かに」」」」」

「っておいお前等！
くっそぉぉ！
俺に味方は居ねぇのかよ！？」

いや、だってな？

「ラッキー・チャンス！は…厄介だけどほっといてもいいわね
伏せてある３枚の内の真ん中のカードを破壊するわ！
トラップディストラクション！」

ウリアが炎を吐き出して城之内君のカードを燃やす。
そして破壊されたカードは死神の巡遊。

ん？
たしかあれは自分か相手のモンスターの召喚を封じる効果をもってた筈だが…
それを使っていればウリアとラビエルの召喚を封じられたかもしれなかったのにな。
なんで使わなかったんだ？

「やっべ！
発動するの忘れてた！」

…しっかりしてくれよ、城之内君。

「…まぁいいわ
バトルよ
ハモンでストレングスを攻撃！
失楽の霹靂！」

雷がストレングスに直撃し、吊るされた男は叫びながら消えていく。
…やけにリアルだな、これ。

「そしてハモンがモンスターを戦闘で破壊した時、相手に１０００のダメージを与える！
地獄の贖罪！」

城之内君のライフは３２００減って残り１１００。
だが、まだ幻魔の攻撃が２体残っている！

「止めよ！
ウリアで直接攻撃（ダイレクトアタック）！！
ハイパーブレイズ！」

ウリアが先程より大きい、さながら小さな太陽のような炎を上空に打ち上げる。
そして頂点で弾け、縦横無尽に炎の槍となりフィールドに降り注ぐ。

「のわっ！
怖ぇよ、これ！
手札からアルカナフォースＸＩＶ－ＴＥＭＰＥＲＡＮＣＥ（フォーティーン　テンパランス）の効果を発動！
手札からテンパランスを捨てる事で、自分が受ける戦闘ダメージを１度だけ０にするぜ！」

城之内君はタロットにおける大アルカナの１４番目のカード、節制を冠する名前をもつモンスターの効果でウリアの攻撃防いだ。
正位置の時に「調和」「自制」「節度」「献身」を表し、逆位置は「浪費」「消耗」「生活の乱れ」を表すんだったな。
だが、まだラビエルの攻撃が残っている！

「それは予想の範囲内よ！
ラビエル！
城之内に直接攻撃（ダイレクトアタック）！」

ラビエルが拳を振り上げ、城之内君に殴りかかる。
防げないか…！

「まだ俺は諦めないぜ！
永続罠、リビングデッドの呼び声を発動！」

「そして墓地のテンパランスを特殊召喚し、正位置の効果で戦闘ダメージを半分にしてラビエルの攻撃を耐えると」

テンパランスは他にもまだ効果があったんだな。

「ああ、そのとおりだぜ！
俺はアルカナフォースＸＩＶ－ＴＥＭＰＥＲＡＮＣＥ（フォーティーン　テンパランス）を攻撃表示で特殊召喚！
そしてテンパランスの効果を発動！
さぁ、ストップの宣言をしやがれ！
そしてラッキー・チャンス！は正位置を選ぶぜ」

「どうせ正位置でしょうっと
ストップ」

カードの位置は…
逆位置！？

「…逆位置
私が受ける戦闘ダメージが半減するわね」

「馬鹿城之内！
何大事な所で外してるんだよ！」

「わっ、待て待て！
罠カード、逆転する運命を発動！
自分フィールド上に表側表示で存在するアルカナフォースと名のついたモンスター1体の位置を逆にする！
テンパランスを正位置にするぜ！」

ほっ。
危なかったぜ。

「全く、ヒヤヒヤさせられるぜ」

「残念ね
カードを伏せてターンエンドよ」

これで城之内君のライフは３００か。
茜の場には三幻魔が。
対する城之内君の場はガラ空き。
だが、バトルシティを勝ち抜いた城之内君がここで終わる筈がない！

「あ、あぶねぇ…
俺のターン、ドロー！」

引いたカードを見てにやける城之内君。
何か来たのか！？

「いくぜ、夜霧！
魔法カード、ペンタクル・オブ・エースを発動するぜ！
カードが正位置の場合はが自分のデッキからカードを1枚ドローし、
ライフを１０００回復する
逆位置の場合は相手はデッキからカードを1枚ドローし、相手はラ
イフを１０００回復するぜ」

結構扱いが難しいカードだな。
正位置が出てもライフ回復とデッキ圧縮にしかならず、逆位置が出
るとかなりのアドバンテージをもっていかれる。
まぁ城之内君なら使いこなせそうだが。

「ストップよ」

止まった位置は…

「正位置だぜ！
ドローしてライフを１０００回復するぜ！
そして速攻魔法、光神化を発動！
手札から天使族モンスター1体を特殊召喚する！
この効果で特殊召喚したモンスターの攻撃力は半分になり、エンドフェイズ時に破壊されるデメリットがあるがよ！
俺はアルカナフォースＶＩ（シックス）－ＴＨＥ（ザ）ＬＯＶＥＲＳ（ラバーズ）を特殊召喚！」

ラバーズはタロットにおける大アルカナの６番目のカード、恋人だな。
正位置は「合一」「選択」「恋愛・性愛」「趣味への没頭」「試練の克服」を表し、逆位置は「誘惑」「不道徳」「結婚生活の破綻」を表す。

「そしてラバーズの効果を発動！
正位置ならアルカナフォースと名のついたモンスターを生け贄召喚する場合、このモンスター1体で2体分の生け贄とする事ができる
そして裏ならアルカナフォースと名のついたモンスターを生け贄召喚する事はできないぜ！
更にラッキー・チャンス！で正位置を選択するぜ！」

カードが回転する。
今度は外さないでくれ！

そして止まった位置は…

「よっしゃ、正位置だぜ！

ラッキー・チャンス！でドローして、ラバーズはアルカナフォースと名のついたモンスターを生け贄召喚する場合、２体分の生け贄となる
俺はラバーズを２体分の生け贄にして、アルカナフォース？？—ＴＨＥＤＥＶＩＬ（デビル）を攻撃表示で召喚！」

見た目も名前も悪魔な天使が現れる。
流石にこれが天使族は無理があるんじゃないか？
悪魔はタロットにおける大アルカナの１５番目のカードで、正位置は裏切り、拘束、堕落を表し、逆位置は回復、覚醒、新たな出会いを表す。

「俺はラッキー・チャンス！で逆位置を選択するぜ！」

逆位置か。
確かに普通のタロットは正位置がいい意味を持っている事が多いが、悪魔は逆位置の方が意味的にはいいからな。
これもそれを反映しているんだろうな。

「逆位置ね
正位置ならデビルの攻撃宣言時、フィールド上に表側表示で存在するモンスター１体を選択して破壊して、破壊されたモンスターのコントローラーは５００ポイントのダメージを受ける
そして逆位置ならデビルの攻撃宣言時、フィールド上のモンスターを全て破壊する効果
まぁどちらがでても悪い効果ではないけど
その前にラビエルの効果を発動
相手がモンスターを召喚、特殊召喚した時、自分フィールド上に幻魔トークンを同じ数だけ特殊召喚するわ
ラバーズとデビルの２体分トークンを召喚するわ」

トークン生成能力か。
攻撃力は低いがいろいろな事に使えそうだな。
カードが止まって出た位置は…
「逆位置！
デビルが攻撃する時、フィールド上のモンスターを全て破壊するぜ！」
よし！
これでデビルで攻撃すれば幻魔達を破壊できる！
幻魔はモンスター効果も1ターンなら受けるからな。
「ドロ―してバトル！
デビルで幻魔トークンを攻撃！
そしてデビルの効果でフィールド上の全てのモンスターを破壊する！
デビル・デザスター！」
デビルが死神の様なというか死神が持っている巨大な鎌を振り回して三幻魔と幻魔トークンを破壊…
「罠カード、闇霊術―「欲」を発動
幻魔トークンを生け贄に捧げるわ
自分はデッキからカードを2枚ドローする
この時相手は手札から魔法カード1枚を見せる事でこの効果を無効にする事ができるわ
無効にするのかしら？」
「…俺の手札に魔法カードはないぜ」

「なら2枚ドローするわ」
「だが、幻魔には退場してもらうぜ！」
デビルの攻撃によって敵味方関係なく破壊された。
ドローはされたが、これで幻魔は居なくなった！
「俺はカードを伏せてターンエンドだぜ！」
「私のターン、ドロー
ふふ、幻魔を倒して浮かれてるようだけど、まだ早いわよ？」
「なに！？」
「私は神炎皇ウリアの効果を発動！
ウリアが墓地に存在する時、手札の罠カードを墓地に送ることで墓地からウリアを特殊召喚することができるわ！
ただし、自分フィールド上に他のモンスターが存在する場合、特殊召喚したターンに攻撃をすることができないけどね
尤も、私の場にモンスターは居ないから関係ないけど
手札の罠カードを墓地に送り蘇れ、ウリア！」
なに！？
この状況で攻撃力１１０００、いや１２０００か、のモンスターが出てくるのか！？
「ちょっと待ったぁ！
罠カード、絶対運命決定力を発動！
モンスターカード名を１つ宣言するぜ

相手のデッキにそのモンスターカードがある場合、そのモンスター１体を相手の場に攻撃表示で特殊召喚する！
モンスターがいればウリアは攻撃できねぇんだよな！？」

自分から相手のモンスターを増やすカードか！
これならウリアは攻撃出来ない。
だが、茜のデッキは幻魔と闇属性から出来ている事しか分からない上、城之内君のライフ、１３００を下回るモンスターを選ばないといけない。
いけるか！？

「そのとおりよ
けど、貴方に当てれるかしらね？」

「当ててやるさ！
…闇で攻撃力１３００以下のモンスターだろ？
そして夜霧が使いそうなのは…
…きたぜ！
俺はクリッターを宣言する！」

クリッターか。
墓地に送られた時に攻撃力１５００以下のモンスターを手札に加える効果をもっていたな。
かなり優秀なモンスターだから、茜も入れているか？

「…
見事ね
私のデッキにクリッターはあるわ
私はクリッターを攻撃表示で特殊召喚するわ
そしてウリアは蘇る！」

よしっ！
これでウリアはこのターン攻撃出来ない。
クリッターだけなら耐えれるぜ！

「バトルの前に失楽園の効果で2枚ドローするわ
そしてウリアの効果でラッキー・チャンス！を破壊するわ
そしてバトルよ
クリッターで直接攻撃（ダイレクトアタック）」

「くっ！
だが、このターンは凌いだぜ！」

「凌いだところでどうにもならないわよ？
手札から速攻魔法、神秘の中華鍋を発動！
ウリアを生け贄に捧げ攻撃力分、１２０００ライフを回復するわ！」

ここで大幅にライフを回復されてしまった！

「カードを伏せてターンエンドよ」

「いや、1ターンあれば何でも出来るぜ！
俺のターン、ドロー！
魔法カード、名推理を発動するぜ！
相手プレイヤーはモンスターのレベルを宣言して、通常召喚が可能なモンスターが出るまで自分のデッキからカードをめくるぜ
そして出たモンスターが宣言されたレベルと同じ場合、めくったカードを全て墓地に送り、違う場合は出たモンスターを特殊召喚し、残りのカードを墓地へ送る！
さぁ夜霧、当ててみろ！」

普通ならレベル8を選ぶ事が多いが…

「また面倒なものを…

アルカナフォースはレベルがバラバラで当てづらいのよね

そうね…真紅眼(レッドアイズ)の黒竜(ブラックドラゴン)が居そうだからレベル7を宣言するわ」

流石にアルカナフォースに真紅眼(レッドアイズ)の黒竜(ブラックドラゴン)は…城之内君ならやりかねんな。

「レベル7だな！

1枚目、罠カード和睦の使者、2枚目、魔法カード愚者の種蒔き、3枚目…

しゃあ！

モンスターカード、アルカナフォースXXI(トゥエンティーワンザ)－THEWORLD(ワールド)だぜ！

こいつのレベルは8！

よって特殊召喚するぜ！」

城之内君のデッキにはギャンブル性の無いカードは入っているのだろうか。

果てしなく不安になってしまうな。

3つ首の竜みたいな姿をしたモンスターが現れ、カードも回転を始める。

世界はタロットにおける大アルカナの21番目のカードで、正位置は「完全」「成就」、逆位置は「未完成」「終わり」、いわゆる「死」を表してたな。

「ここでワールドねぇ…

正位置なら貴方のエンドフェイズ時に自分フィールド上に存在する

モンスター2体を墓地へ送る事で次の私のターンをスキップする
そして逆位置なら私のドローフェイズ時に私の墓地の一番上のカード1枚を手札に加える効果
まさしく世界、タロットのラストナンバーでありアルカナフォースの頂点といったところかしらね？
ストップよ」

相手のターンを丸々スキップする効果だと！？
使われる側としては堪ったものじゃないな。

「位置は、正位置！
モンスター2体を墓地へ送る事で次の夜霧のターンをスキップする効果を得るぜ！
バトルだ！
ワールドでクリッターを攻撃！
オーバー・カタストロフ！！」

3つ首から一斉にレーザーが発射される。
なんとなく青眼の究極竜（ブルーアイズアルティメットドラゴン）に似てるな、3つ首繋がりで。

「っ！
やってくれるわね…
クリッターの効果で終末の騎士を手札に加えるわ」

茜のライフは3100減って12600になる。
そういや城之内君との決闘（デュエル）で初めてダメージを与えれたな。

「へへん、どうだ！
カードを2枚伏せてターンエンドだ！」

「ドロー
ふふ、城之内
正直な所、貴方がここまでそのデッキを使いこなすとは思ってなかったわ
貴方は本当に強運、いや悪運の持ち主ね
けど、その悪運もここまでよ」

城之内君の場にはターンスキップ効果を持つワールド。
一方の夜霧はモンスターは０。
城之内君の方が圧倒的有利なこの状況で暗に勝利宣言できる自信はなんだ？

「本来なら三幻魔だけで終わる予定だったけれど、予想外に手こずってしまったからね
早く王様をこの手で止めをささないと、ね？
余興は長すぎてはいけないものよ
私は終末の騎士を召喚するわ」

鎧を被った影が現れる。

「終末の騎士の効果を発動
召喚に成功した時、デッキから闇属性モンスター１体を選択して墓地に送る事ができるわ
私はファントム・オブ・カオスを墓地に送るわ
そして永続罠、リビングデッドの呼び声を発動
今墓地に送ったファントム・オブ・カオスを特殊召喚するわ
そして速攻魔法、地獄の暴走召喚を発動
相手フィールド上に表側表示でモンスターが存在し、自分フィールド上に　攻撃力１５００以下のモンスター１体が特殊召喚に成功した時に発動する事ができる

貴方の場にはワールドがいて攻撃力0のファントム・オブ・カオスを特殊召喚した事で条件を満たすわ
その特殊召喚したモンスターと同名モンスターを自分の手札・デッキ・墓地から全て攻撃表示で特殊召喚する
相手は相手自身のフィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を選択し、そのモンスターと同名モンスターを相手自身の手札・デッキ・墓地から全て特殊召喚する
尤も、貴方のデッキにワールドが1枚しか無ければ私だけ召喚するわ」

「俺のデッキにワールドは1枚しか無いぜ」

「なら、私はファントム・オブ・カオス2体をデッキから特殊召喚する」

黒い球体のモンスターが3体。
攻撃力0を態々出したが、どうするんだ？

「そしてファントム・オブ・カオスの効果を発動
自分の墓地に存在する効果モンスター1体を選択し、ゲームから除外する事ができる
このカードが自分フィールド上に表側表示で存在する限り、このカードはエンドフェイズ時まで選択したモンスターと同名カードとして扱い、選択したモンスターと同じ攻撃力とモンスター効果を得るわ
私は神炎皇ウリア、降雷皇ハモン、幻魔皇ラビエルをゲームから除外するわ！」

先程まで球体だった姿が、幻魔達へと変わってゆく。
墓地のモンスターと同名カードとして扱うカードだと！？
だが、それだけでは…

「失楽園の効果を発動！
自分フィールド上に幻魔が存在する時2枚ドローできる
幻魔となったファントム・オブ・カオスがいるからドローできるわ
そして魔法カード、次元融合殺を発動！」

融合…まさか！？

「自分の場に存在する神炎皇ウリア、降雷皇ハモン、幻魔皇ラビエルをゲームから除外し、融合デッキから混沌幻魔アーミタイル1体を特殊召喚する！」

幻魔の姿をとっていたファントム・オブ・カオス3体が異次元に消え、そこから幻魔が混じり合った姿をしたモンスターが現れる。

「現れよ、最強の幻魔！
混沌幻魔アーミタイル！！」

…っ！
なんだ、あの禍々しい気は！

「…まじかよ
ん？
そいつの攻撃力は0かよ！？
なんだよ、驚かせるなよ！」

攻撃力0だと！？
だが、間違いなく強力な効果を持っていそうだが…

「侮るのには些か早くないかしら？

バトルフェイズの前にカードを2枚伏せるわ
いくわよ！
アーミタイルでワールドを攻撃！
全土滅殺転生波！！」
攻撃力0で攻撃だと！？
となると戦闘時に攻撃力が上がるのか？
「おいおい、まじかよ？
念のために永続罠、モンスターBOXを発動させるぜ！
相手モンスターの攻撃宣言時、コイントスを1回行い裏表を当てるぜ
そして当たった場合、その攻撃モンスターの攻撃力はバトルフェイズ終了時まで0になる！」
「モンスターBOXなんて関係ないわ！
アーミタイルの効果！
1ターンに1度、相手モンスター1体に10000ポイントの戦闘ダメージを与えるわ！」
「戦闘ダメージだけを与えるだと！？
なんだよ、その効果！」
…流石に戦闘ダメージだけを与えるのは予想出来なかったぜ。
アーミタイルの攻撃でワールドは破壊され、城之内君のライフは削りとられてしまっ…
「くそっ！
だが、遊戯に繋ぐぜ！
罠カード、アルカナシフトを発動！
自分フィールドに存在するアルカナフォースと名のついたモンスタ

ーが破壊された時に発動する事ができる
デッキから攻撃力２３００以下のアルカナフォースと名のついたモンスター１体を特殊召喚する！
俺はデッキからアルカナフォース？？ーＴＨＥＤＥＡＴＨ（デス）を攻撃表示で特殊召喚！
そしてデスの効果を発動！
コイントスをして、正位置ならこのカードの攻撃力は自分の墓地に存在するアルカナフォースと名のついたモンスター１体につき２００ポイントアップし、逆位置ならお互いのプレイヤーはデッキからカードを１枚ドローする！」

死神の名を持つアルカナ、正位置の意味は終末、破滅、離散、終局、清算、決着、死の予兆。
そして逆位置の意味　は再スタート、新展開、上昇、挫折から立ち直る。
城之内君の最後の効果は…正位置！
なんとなく不吉な感じがするのは気のせいか？

「へっ…
正位置の効果でデスの攻撃力は墓地のアルカナフォース７体分、１４００上がるぜ！
後は任せたぜ、遊戯！」

次は俺か…
なんとしてもこの決闘で勝って茜を救い出さないとな。
そしてきちんと謝罪をしないとな…

「遊戯、貴様にこれを預けておく！」

俺が決闘に行こうとした時、海馬からカードが１枚投げられた。

これは…！

「彼奴に己の決めたルールを後悔させてやれ！」

「海馬…任せろ！」

俺は城之内君と入れ替わり、茜と対峙する。

「ふふ

やっと始まるわね

貴方を倒して復讐を完結させるわ！」

「お前を倒してこちらに引きずり戻してやるぜ！」

「「決闘（デュエル）！！」」

第２８話（後書き）

《アルカナフォース？？－ＴＨＥ　ＤＥＡＴＨ》
効果モンスター
星６／光属性／天使族／攻　２３００／守　２３００
このカードが召喚・反転召喚・特殊召喚に成功した時、コイントスを１回行い以下の効果を得る。
●表：このカードの攻撃力は自分の墓地に存在する「アルカナフォース」と名のついたモンスター１体につき２００ポイントアップする。
●裏：お互いのプレイヤーはデッキからカードを１枚ドローする。

《アルカナシフト》
通常罠
自分フィールドに存在する「アルカナフォース」と名のついたモンスターが破壊された時に発動する事ができる。
デッキから攻撃力２３００以下の「アルカナフォース」と名のついたモンスター１体を特殊召喚する。

《アルカナフォース？？－ＴＨＥ　ＤＥＶＩＬ》
効果モンスター
星７／光属性／天使族／攻２５００　／守２５００
このカードは特殊召喚できない。このカードが召喚・反転召喚・特殊召喚に成功した時、コイントスを１回行い以下の効果を得る。
●表：このカードの攻撃宣言時、フィールド上に表側表示で存在するモンスター１体を選択して破壊する。
　この効果で破壊されたモンスターのコントローラーは５００ポイントのダメージを受ける。
●裏：このカードの攻撃宣言時、フィールド上のモンスターを全て

破壊する。

《アルカナフォース？？？―ＴＨＥ　ＨＵＮＧＥＤ　ＭＡＮ》
効果モンスター
星６／光属性／天使族／攻　２２００／守　２２００
このカードは墓地から特殊召喚できない。このカードが召喚・反転召喚・特殊召喚に成功した時、コイントスを１回行い以下の効果を得る。
●表：自分のエンドフェイズ時、自分フィールド上の表側表示モンスター１体を破壊し、自分はその攻撃力分のダメージを受ける。
●裏：自分のエンドフェイズ時、相手フィールド上の表側表示モンスター１体を破壊し、その攻撃力分のダメージを相手ライフに与える。

《混沌幻魔（こんとんげんま）アーミタイル》
融合・効果モンスター
星１２／闇属性／悪魔族／攻　０／守　０
「神炎皇ウリア」＋「降雷皇ハモン」＋「幻魔皇ラビエル」
「次元融合殺」によって融合召喚される。
このカードは戦闘によっては破壊されない。
戦闘時、１ターンに１度相手モンスター１体に１００００ポイントの戦闘ダメージを与える。

《次元融合殺》
魔法
自分フィールド上に存在する「幻魔皇ラビエル」「降雷皇ハモン」「神炎皇ウリア」１体ずつを選択しゲームから除外する。
融合デッキから「混沌幻魔アーミタイル」１体を特殊召喚する。
この特殊召喚は融合召喚扱いとする）

《ペンタクル・オブ・エース》
通常魔法
コイントスを1回行い、表が出た場合は自分のデッキからカードを1枚ドローし、ライフを１０００回復する。
裏が出た場合は相手はデッキからカードを1枚ドローし、相手はライフを１０００回復する

《異次元からの宝札》
通常魔法
このカードが除外された場合、次の自分のスタンバイフェイズに自分の手札に加え、互いにカードを2枚ドローする。
《失楽園》
フィールド魔法
自分フィールド上に「降雷皇ハモン」「神炎皇ウリア」「幻魔皇ラビエル」のいずれかが表側表示で存在する時、1ターンに1度、カード2枚をドローする。
《絶対運命決定力》
通常罠
モンスターカード名を1つ宣言して発動する。
相手のデッキにそのモンスターカードがある場合、そのモンスター1体を相手の場に攻撃表示で特殊召喚する。

《トライアングル・フォース　》
永続魔法
デッキからトライアングル・フォースを2枚発動する。

第２９話（前書き）

…お久しぶりです。
何ヶ月ぶりでしょうか？

受験の合間にちょこちょこ書いていたので誤字脱字計算ミスがあると思うのでご指摘お願いします。

第２９話

ｓｅｎｃｅ城之内

茜の場には混沌幻魔アーミタイルに伏せカードが２枚でライフは１２６００。
一方遊戯の場には攻撃力３７００のアルカナフォース？？－ＴＨＥ（ザ）ＤＥＡＴＨ（デス）、そしてライフは８０００。
つうかどうやったらアーミタイルを倒せるんだ？

「さぁ、地獄の始まりよ？
デッキを変えたから新たに５枚ドロー
召喚僧サモンプリーストを守備表示で召喚、効果を発動
１ターンに１度、自分のデッキからレベル４のモンスター１体を特殊召喚するわ
ネクロソルジャーを守備表示で特殊召喚
カードを伏せてターンエンドよ」

「地獄だろうが何であっても、俺は越えてみせる！
俺のターン、ドロー！」

「スタンバイフェイズにネクロソルジャーの効果を発動
相手のスタンバイフェイズ時にこのカードがフィールド上に存在する場合、自分のデッキまたは手札からネクロソルジャーをフィールド上に特殊召喚する事ができる
２体目のネクロソルジャーを守備表示で特殊召喚」

うげっ。
夜霧のモンスターが４体にまで増えちまったな。

あのデッキに邪神が入っているのは確実だから、いつ召喚されるかわかんねぇな。
「俺はマジシャンズ・ヴァルキリアを攻撃表示で召喚！
バトル！
マジシャンズ・ヴァルキリアでサモンプリーストを攻撃！
マジック・イリュージョン！」
罠カードかなんかを発動するかと思ったが、何もされずにサモンプリーストを破壊できたな。
「そしてデスでアーミタイルを攻撃！
アルカナ・シザーズ！」
「罠カード、ディメンション・ウォールを発動
自分が受ける戦闘ダメージは相手が代わりに受けるわ！」
「何っ！
だが、アーミタイルは破壊するぜ！」
デスがアーミタイルに鎌を振り下ろしたが、謎の裂け目が現れ鎌が吸い込まれ、遊戯の後ろから鎌が出て直撃する。
そしてアーミタイルは…何事も無いだと！？
「くすくす
アーミタイルは戦闘では破壊されないわよ？
残念だったわね」
おいおい！？
んじゃ遊戯は無駄にダメージを喰らっただけじゃねぇかよ。

「くっ！
カードを2枚伏せてターンエンドだ」

「私のターン、ドロー
魔法カード、命の水を発動
墓地からサモンプリーストを特殊召喚し、効果を発動
デッキからレベル４のダブルコストンを特殊召喚！」

２つの球体が分離しかけているモンスターが出てくる。
名前と見た目からして2体分の生け贄になるのか？

「ダブルコストンは闇属性のモンスターの生け贄召喚に使用する時、
2体分の生け贄となる
そしてダブルコストンとネクロソルジャーを生け贄に捧げる！
現れよ、邪神イレイザー！！」

夜霧の前の地面に黒い穴が空き、そこから銀色の羽と黒い翼を持った龍が現れる。
そしてイレイザーが咆哮をあげると、曇天だった空が真っ黒に染まった。
おいおい！！
これってまさか…

「くふふ！
さぁ、闇のゲームの始まりよ！」

夜霧の目に妖しげな光が見えたのは気のせい…じゃないよな。
遊戯…もといアテムは大丈夫か？

ｓｅｎｃｅアテム

邪神イレイザーが現れ、周りは闇に包まれた。
何か、千年アイテムとは違う闇を感じるな。

「くすくす
言っておくけど、これは貴方達が今までに経験してきた闇のゲームとは一味違うわよ？
この闇のゲームは邪神の力によるもの
簡単にいえば、王様がダメージを受ける度にこの世界は壊れていくわ
そしてライフが０になれば、貴方達はここで世界と共に消え去る」

「何っ！？
そんな事はさせてたまるか！！」

「なら、私を決闘（デュエル）で倒す事ね！！
バトル！
アーミタイルでマジシャンズ・ヴァルキリアを攻撃！
全土滅殺　転生波！」

アーミタイルの両手に力が蓄えられていく。
此を喰らったら一瞬でライフが無くなるが、

「させないぜ！
罠カード、マジシャンズ・セレクトを発動！
自分フィールド上に魔法使い族モンスターが表側表示で存在する場合、
相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる！
相手フィールド上に表側表示で存在する最も攻撃力が低いモンスター１体を破壊して、相手のバトルフェイズを終了させる！

アーミタイルの攻撃力は０！
よってアーミタイルを破壊するぜ！」

ヴァルキリアがアーミタイルの攻撃をかわし、反撃の魔法を放ってアーミタイルを倒す。
アーミタイルは戦闘では破壊されないのに、こういう反撃で倒せるのはなんか不思議だな。

「ちっ…
ターンエンドよ
ちなみにイレイザーの攻撃力は相手の場のカード１枚につき１０００上がるわ
今の攻撃力は５０００になる」

相手の場のカードで攻撃力が変わるのか。
特定の場所のカードの枚数で攻撃力が変わるのはオシリスを意識して創られたのか？

「俺のターン、ドロー！」

「スタンバイフェイズにネクロソルジャーを特殊召喚するわ」

「俺は無の煉獄を発動！
自分の手札が３枚以上の場合に発動する事ができる！
自分のデッキからカードを１枚ドローし、このターンのエンドフェイズ時に自分の手札を全て捨てる
更に強欲な壺を発動！
２枚ドロー！
カードを伏せて、手札の磁石の戦士α、磁石の戦士β、磁石の戦士γを生け贄に捧げる！

磁石の戦士マグネット・バルキリオンを特殊召喚するぜ！
バトルだ！
マジシャンズ・ヴァルキリアでネクロソルジャーを攻撃！
そしてマジシャンズ・ヴァルキリアの攻撃時に罠カード、マジシャンズ・サークルを発動！
互いにデッキから攻撃力２０００以下の魔法使い族を攻撃表示で特殊召喚する！
俺は２体目のマジシャンズ・ヴァルキリアを特殊召喚するぜ！」

「ヴァルキリアロック…
面倒ね
私はＣ・バソキャンを特殊召喚するわ」

「バトルを続行するぜ！
マジシャンズ・ヴァルキリアで２体目のネクロソルジャーを攻撃！
デスでＣ・バソキャンを攻撃！」

「Ｃ・バソキャンの効果を発動
フィールド上から墓地に送られた時、相手は手札を全て墓地に捨てる」

なに！？
俺の手札はなかったからよかったが、かなり凶悪な効果だな。

「そして戦闘ダメージを受けた事により手札からトラゴエディアを守備表示で特殊召喚するわ」

くっ！
モンスターの数がなかなか減らないな。

「俺のターンは終了だぜ
無の煉獄の効果が発動するが、俺の手札は既に０だから不発だ」

「私のターン、ドロー！
手札から魔法カード、天使の施しを発動
３枚ドローして２枚捨てるわ
永続魔法、生還の宝札と冥界の宝札を発動
生還の宝札は墓地からモンスターが特殊召喚される度に１枚ドローでき、冥界の宝札は２体以上を生け贄にした召喚に成功した時に２枚ドローする
そして今捨てた２体のレベル・スティーラーの効果を発動！
自分フィールド上に表側表示で存在する　レベル５以上のモンスターを選択して、選択したモンスターのレベルを１つ下げる事で墓地から特殊召喚する
レベル１０のトラゴエディアのレベルを２下げ、レベル・スティーラー２体を特殊召喚！
さらに生還の宝札の効果で２枚ドロー！
レベル・スティーラー２体とトラゴエディアを生け贄に捧げるわ」

不味い！
２体目の邪神か！？

「恐怖でフィールドを支配せよ！
邪神ドレッド・ルート！」

骸骨っぽい見た目の鎧を全身に纏った緑色の悪魔が出てくる。

「ドレッド・ルートの効果
ドレッド・ルート以外のフィールド上のモンスターの攻撃力、守備力を半分にする！

恐怖にひれ伏すがいい！！」

元々４０００の攻撃力に加え、攻撃力、守備力を半減だと！？
俺の場の２体のマジシャンズ・ヴァルキリアは９００、デスは１８５０、バルキリオンは１７５０になってしまった。
茜の場は攻撃力４０００のドレッド・ルートに攻撃力２５００のイレイザー。
ライフも４３００対１２５００と圧倒的に不利な状況。
だが、俺は諦める訳にはいかない！

「冥界の宝札で２枚ドローしてバトル！
ドレッド・ルートでデスを攻撃！
フィアーズノックダウン！」

「速攻魔法、攻撃の無力化を発動！
ドレッド・ルートの攻撃を無効にするぜ！」

最初はカウンター罠の方を入れていたが、邪神に罠は効かなさそうだったから入れ替えといて正解だったな。

「魔法の方の攻撃の無力化…
小賢しい事をしてくれるわね！
ターンエンドよ！」

「俺のターン、ドロー！
魔法カード、天よりの宝札を発動！
互いに手札が６枚になるようにドローする！
デスと２体のマジシャンズ・ヴァルキリアを生け贄に捧げる！
現れよ、オベリスクの巨神兵！！」
闇を青い光が貫き、オベリスクが降臨する。

まずはモンスターを減らす！

「いくぜ！
オベリスクの巨神兵でサモンプリーストを攻撃！
ゴッドハンドクラッシャー！！」

オベリスクの拳がサモンプリーストに当たり、消し飛ぶサモンプリースト。

「カードを3枚伏せて魔法カード、光の護封剣を発動！
3ターンの間、相手は攻撃出来ない！」

光輝く剣が邪神を封じ込める。
1ターンしか効かないが、十分な時間稼ぎにはなるぜ。

「ターンエンドだ」

「私のターン、ドロー！
ふふ、最後の邪神を拝ませてあげるわ！
装備魔法、早すぎた埋葬を発動
ライフを８００払い、墓地からトラゴエディアを特殊召喚！
生還の宝札の効果でドロー！」

これは、さっきと同じコンボ！
となると、

「墓地の2体のレベル・スティーラーの効果を発動！
トラゴエディアのレベルを下げて特殊召喚し、生還の宝札で2枚ドロー
そしてこの3体を生け贄に捧げる！」

空を覆っている闇が一層濃くなっていく。
そして、判りにくいが漆黒の球体が現れる。

「降臨せよ、邪神アバター！」

茜の呼び声に答えて球体がドレッド・ルートに変形する。

「冥界の宝札で２枚ドローするわ！
邪神アバターの攻撃力、守備力はフィールド上に存在する攻撃力が最も高いモンスターの攻撃力の数値＋１になるわ
今最も強いモンスターはドレッド・ルートの４０００
よってアバターの攻守は４００１になるわ！」

バトルシティではこいつにやられたんだよな。
確かラーと同格で他の神の効果も受け付けない筈だ。
…どうやって倒せばいいんだ？

「カードを２枚伏せてターンエンドよ！
そして邪神は光の護封剣から解放される！」

護封剣は相変わらず茜の場に残っているが、邪神達は意に介していない。
最早攻撃を封じるのは不可能だろう。

「俺のターン、ドロー！
魔法カード、二重召喚を発動！
このターン２回通常召喚を行える！
俺はマグネット・バルキリオンを生け贄に捧げ、墓地から磁石の戦士α、β、γを特殊召喚！！

この3体を生け贄に捧げる！」

先程の青い光にも劣らない深紅の光が降り注ぐ。

「現れよ、天空の神！
オシリスの天空竜！」

光に導かれ巨大な竜が姿を現す。
だが、まだ終わらないぜ！

「俺は永続罠、リビングデッドの呼び声を発動！
墓地からマグネット・バルキリオンを特殊召喚！
そしてバルキリオンを生け贄に捧げ、磁石の戦士α、β、γを墓地から特殊召喚！
魔法カード、命削りの宝札を発動！
5枚ドロー！
そして磁石の戦士α、β、γを生け贄に捧げる！」

青と赤の光に挟まれるように、光そのものが振り差す。

「降臨せよ、太陽の神！
ラーの翼神竜！」

周りの闇が薄らいで、スフィアモードのラーが現れる。

「Θλω　ναι　τηνι　αιτιδη　συνφειι　α．　Δι
πουν　λα　τα　πνεματα！」

古代神官文字を唱えると、ラーはスフィアモードからバトルモードに覚醒する。

「…三幻神を揃えたわね
けれど、それだけでは私には勝てないわよ！」

「いや、勝つのは俺達だ茜！
ラーの効果を発動！
ライフを１０００払う事でフィールド上のモンスター1体を破壊する！
邪神アバターを破壊する！

Αθανασια　Πουλι　λα　τα　πργματα　Κατστρψτε

ゴッド・フェニックス！」

フェニックスモードに移行し、アバターを包み込む。

アバターが唯一効果を受ける存在、それがラー。
ラーは戦闘ではアバターを超える事は出来ず、アバターはラーの効果を防ぐ手立てはない。
どちらかが圧倒するわけでなく、互いに軍配が挙がる関係。
まさしく『抑制力』だな。
そしてアバターを破壊した余波で俺と茜を包んでいた闇のドームが崩れ外と繋がった。

「おおっ！？
流石だぜ、遊戯！
邪神なんてボッコボコにしてやれ！」

「ああ！
もう一度ラーの効果を発動！
邪神イレイザーを破壊する！
ゴッドフェニックス！」

再びラーが不死鳥に変化し、イレイザーの体を貫く。
そして貫かれたイレイザーからは夥しい黒い血が流れ、フィールドに降り注ぐ。
全てのモンスター、そして俺と夜霧にも血が当たる。
ん？
なんでソリッドヴィジョンで血が流れるんだ？

「あはは！！
助かったわ、態々イレイザーを破壊してくれて！
邪神イレイザーの効果！
このカードが墓地に送られた時、フィールド上のカード全てを破壊するわ！」

な！？
全体除去だと！？
フィールド上の全てのカードが全てイレイザーの血に呑み込まれていく。オシリスやオベリスク、ドレッドルートも呑み込まれる。
ラーだけは攻撃直後に上昇して唯一イレイザーの破壊から免れられたようだ。
そして茜は狂った様に笑いながら眺めていた。

「くっ！
だが、まだバトルフェイズがある！
ラーで茜に直接攻撃（ダイレクトアタック）！
ゴッド・ブレイズ・キャノン！」

ラーから光弾が放たれて茜に直撃し、ライフを４６００削りとる。
そして爆風が晴れると、何もない筈のフィールドにモンスターが２体姿を現していた。

「くすっ…
ダメージを受けた瞬間、手札から冥府の使者ゴーズの効果を発動したわ
自分フィールド上にカードが存在しない時に相手からダメージを受けた時、手札から特殊召喚できる
そして受けたダメージが戦闘ダメージの場合、受けたダメージと同じ攻撃力、守備力を持った冥府の使者カイエンを特殊召喚できるわ！
ゴーズを守備表示で、カイエンを攻撃表示で特殊召喚！」

戦闘ダメージを受けた時に特殊召喚できるモンスター！？
そしてカイエンの攻撃力はラーと同じ４６００か…
なら！

「メインフェイズ２でラーの効果を発動！
自分のライフを１残し、残りをラーの攻撃力に変換する！」

これで攻撃力が６８９９になり、カイエンに戦闘で負ける事はないな。

「カードを伏せてターンエンドだ！」

「あはは、ドロー！！
魔法カード、成金ゴブリンを発動！
１枚ドローして相手のライフを１０００回復させるわ！
そしてゴーズとカイエンのレベルを１下げてレベル・スティーラー

を2体特殊召喚！
ゴーズとカイエンを融合！」
ここで融合か！？
「冥王星の守護星たる蠍座の救世主（メシア）よ！
汝に仇なす者に裁きの光を！！
融合召喚！
降臨せよ、セイクリッド・トレミスＭ７（メシエセブン）！！」
茜の場に光の龍が現れる。
見た目はどう考えてもドラゴンだが、なぜか機械族だ。
「トレミスＭ７（メシエセブン）の効果を発動！
１ターンに１度、自分または相手のフィールド上・墓地に存在するモンスター１体を選択して、選択したモンスター１体を持ち主の手札に戻す！
私は墓地から召喚僧サモンプリーストを手札に加え、そのまま召喚するわ！
そしてサモンプリーストの効果を発動！
デッキから２体目のサモンプリーストを特殊召喚！
そして効果を使ったサモンプリーストとレベル・スティーラーを融合！」
…これ以上上級モンスターを並べられるのは不味い！
「その身に束ねし無限の知識よ！
今その知を紐解き仇なす敵に断罪を与えん！
融合召喚！
現れよ、ＴＧハイパー・ライブラリアン！」

あれはＫＣグランプリでラフェールが使っていたモンスター…！
たしか融合召喚に成功する度にドローする効果を持っていた筈だ。
「サモンプリーストの効果でデッキから終末の騎士を特殊召喚！
終末の騎士の効果でデッキからネクロ・ガードナーを墓地に送る！」
茜の場にモンスターが５体か…
俺の場にはラーがいるが残りライフはわずかに１。
少しでも気を抜いたら負けてしまう！
「そしてサモンプリーストと終末の騎士を融合！
純粋にして邪悪なる魂を持ちしインヴェルズよ！
その崇高なる邪念を抱きて終焉を求めよ！
融合召喚！
駆逐せよ、インヴェルズ・ローチ！！」
…部屋で１匹見かけたら３０匹は居ると言われるＧが巨大化したモンスターが出てくる。
見ていて気持ちのいいモンスターでないのは確かだ。
「そしてライブラリアンの効果でドローする！
カードを２枚伏せてターンエンドよ！」
俺の手札は０。
このドローに懸かっているな。
「俺のターン、ドロー！」

来たか！

「手札から魔法カード、運命の宝札を発動！
サイコロを振り、出た目だけドローし同じ枚数デッキの上から除外する！」

頼む、2以上の数字が出てくれ！

「出た目は…5ね
城之内といい貴方といい…何なのよ？」

城之内君には勝てないと思うな、運の強さでは。

「5枚ドローし、5枚除外する！」

このドローで逆転の手は揃った！

「俺は魔法カード、愚かな埋葬を発動！
カオス・ソルジャーを墓地に送るぜ！」

「カオス・ソルジャー？
…っ！
まさか！？」
これが海馬から預かったカードだ！

「そのまさかだぜ！！
魔法カード、龍の鏡（ドラゴンズミラー）を発動！
墓地のカオス・ソルジャーと青眼の究極竜（ブルーアイズアルティメットドラゴン）を融合！」

墓地から2体が融合し、新たな姿に変わる。

「融合召喚！
現れろ、究極竜騎士（マスター・オブ・ドラゴンナイト）！」

青眼の究極竜（ブルーアイズアルティメットドラゴン）に乗ったカオス・ソルジャーが現れる。

「究極竜騎士（マスター・オブ・ドラゴンナイト）の攻撃力は、自分フィールド上、墓地のドラゴン族１体につき攻撃力を１０００上昇させる！
俺の、いや俺達の墓地にはドラゴン族が３体いる！
よって攻撃力は８０００になる！
バトルだ！
究極竜騎士（マスター・オブ・ドラゴンナイト）でセイクリッド・トレミスＭ７（メシエセブン）を攻撃！
ギャラクシー・クラッシャー！」

「速攻魔法、攻撃の無力化を発動！
究極竜騎士（マスター・オブ・ドラゴンナイト）の攻撃を無効にし、バトルフェイズを終了するわ！」

くっ…！
防がれてしまったか！

「カードを伏せてターンエンドだ！」

「ドロー！
トレミスＭ７（メシエセブン）の効果を発動！
墓地のクリッターを手札に加わるわ
そしてライブラリアンとレベル・スティーラーを融合！」

一体何回融合する気だ！？

「闇と闇重なりしとき、冥府の扉は開かれる

光無き世界へ！
融合召喚！
出でよ、地底のアラクネー！
そしてクリッターを召喚！
クリッターとレベル・スティーラーを融合！」
あのレベル・スティーラーが茜の融合の要になっているな…
今更気付いても遅いが。
「闇と闇重なりし時、冥府の扉は開かれる
光無き世界へ！
融合召喚！
出でよ、漆黒のズムウォルト！
そしてクリッターの効果でデッキからクリボーを手札に加わるわ」
クリボーだと！？
「アラクネーの効果を発動！
1ターンに1度、相手フィールド上に存在するモンスターを装備カード扱いとしてこのカードに装備する事ができる！
究極竜騎士（マスター・オブ・ドラゴンナイト）を奪い取りなさい！
トワイナー・スレッド！」
そんな…！
アラクネーの吐く糸に究極竜騎士（マスター・オブ・ドラゴンナイト）は捕まってしまった。
「永続罠、ＤＮＡ移植手術を発動！
このカードがフィールド上に存在する限り、フィールド上の全ての

表側表示モンスターは自分が宣言した属性になる！
私は神属性を宣言するわ！」
神属性にして何をする気だ？

「教えてあげるわ、神の攻略法を！
速攻魔法、神の進化を発動！
フィールド上に存在する神属性モンスター１体の攻撃力・守備力を１０００ポイントアップする
そしてこの効果を受けたモンスターを最上位の神のカードとして扱うわ！
私は漆黒のズムウォルトを最上位の神に進化させる！」

最上位の神に進化させるカードだと！？

「バトルよ！
ズムウォルトの攻撃宣言時、攻撃対象モンスターの攻撃力がこのカードの攻撃力よりも高い場合、攻撃対象モンスターの攻撃力をバトルフェイズ終了時までこのカードと同じ数値にする！
ズムウォルトの攻撃力は３０００！
よってラーの攻撃力も３０００に下がるわ！
ダーク・ドラッグ・ダウン！！」

「迎え撃てラー！
ゴッド・ブレイズ・キャノン！」

両者の攻撃がぶつかり合い、その衝撃が俺達にも伝わってくる。

「おいおい、どうなってるんだよ！？
茜のモンスターとラーの攻撃力は同じだろう！！
なのになんで茜のモンスターだけ無事なんだよ！？」

…どういう事だ？
城之内君の叫びを聞いて場を見ると、何処にもラーの姿は無くズムウォルトだけ茜の場に残っていた。

「ふふっ！
残念ながら、ズムウォルトは戦闘では破壊されないのよ！
そしてズムウォルトが戦闘によって相手モンスターを破壊し墓地へ送った時、相手のデッキの上からカードを3枚墓地へ送る！」

戦闘で破壊されない効果か！！

「これで貴方を守るモンスターはいなくなった！
アラクネーで止めの直接攻撃（ダイレクトアタック）！
ダーク・ネット！」

「っ！
罠カ…」

罠カードが発動出来ない！？

「アラクネーの攻撃時、相手は魔法、罠カードを発動出来ないわ
消えなさい、愚かな王よ」

「アテムーー！！」

『クリクリ～』

クリボー？
……そうか！

「俺は手札からクリボーの効果を発動！
相手ターンの戦闘ダメージ計算時、このカードを手札から捨てて、
その戦闘によって発生するコントローラーへの戦闘ダメージは０に
なる！
アラクネーの効果ではモンスター効果までは封じる事が出来ない！
！」

助かったぜ、クリボー。

「…っ
まだ私のバトルフェイズは終了してないわ！
インヴェルズ・ローチで直接攻撃（ダイレクトアタック）！」

「罠カード、ドレイン・シールドを発動！
相手モンスター１体の攻撃を無効にし、そのモンスターの攻撃力分
の数値だけ自分のライフポイントを回復する！
インヴェルズ・ローチの攻撃力１９００だけライフを回復！」

これで俺のライフは２９０１になりトレミスＭ７（メシエセブン）
の直接攻撃（ダイレクトアタック）を受けても耐えきれる！

「しつこいわ！
トレミスＭ７（メシエセブン）で直接攻撃（ダイレクトアタック）！」

ぐっ…！

「カードを２枚伏せてターンエンドよ！」

「俺のターン！」

茜に次のターンを渡してしまったら確実に俺は負けてしまう。
だが、俺のデッキにこの状況を打開出来るカードはもう…

「遊戯ぃ！！
負けんじゃねぇぞぉぉ！！」

「頑張って、遊戯！」

「負けないで、もう一人の僕！」

「俺の宿敵（ライバル）たる決闘者（デュエリスト）が同じ相手に敗北を重ねる愚行は断じて許さん！！」

相棒、皆…！

「俺は負けられない！
一人の決闘者（デュエリスト）として！
ファラオとして！
そして皆の為に！！」

「我がアテムの名に誓って、この決闘（デュエル）に勝利する！
ドロー！！」

！！

「魔法カード、魂の解放を発動！
俺は墓地から三幻神を除外する！
そして罠カード、異次元からの帰還を発動！
ライフの半分の２００を払い、除外されているモンスターを可能な

限り特殊召喚できる！
その代わり特殊召喚したモンスターはエンドフェイズに除外されるラーの翼神竜、オシリスの天空竜、オベリスクの巨人兵を特殊召喚！」

「…っ！
三幻神を再び揃えた！？
罠カード、威嚇する咆哮を発動！
相手はこのターン攻撃宣言出来ない！」

「そんな！
異次元からの帰還は発動ターンの終了時に特殊召喚したモンスターを除外してしまう！
そうなったらもう一人の僕のフィールドにモンスターがいなくなってしまう！？」

…危なかった。
俺だけの力であれば確実に負けていたな。

「残念だが茜！
俺にバトルフェイズは必要ない！」

「バトルフェイズを行わずに勝つ気？
一体何のカードを…」

流石の茜もこれを知っている筈がない。

「いくぜ茜！
俺は三幻神を生け贄に捧げ、このモンスターを特殊召喚する！」

「三幻神を生け贄……
まさか！？」

「そのまさかだ！！
現れよ！！」

三幻神がひとつになり巨大な形をつくりあげる。

「光の創造神ホルアクティ！！！」

「そんな…！
何故ホルアクティのカードが存在している！？
今の今まで存在すら知られていなかった神が！？」

「俺達の願いが集ってカードになったんだ、茜！」

「…まるで意味がわからないけど、まぁいいわ！！
インヴェルズ・ローチの効果を発動！
レベル５以上のモンスターの特殊召喚を無効にし破壊するわ！！」

インヴェルズ・ローチにそんな効果があったのか。
だが！

「そいつはどうかな！
ホルアクティの特殊召喚は無効にされないぜ！！」

「召喚無効に対する耐性効果持ち…
けど、このターンの攻撃は封じてある！」

「そしてホルアクティの特殊召喚に成功した時、相手のライフを０

にする！！」

「…っつ！？

まさか…特殊勝利カード！？

速攻魔法、禁じられた聖杯…」

ホルアクティの効果を聞いた茜がカードを発動させようとするが、

もう遅い！

「いくぜ、茜！

ホルアクティ、この闘いに終止符を！！

光創世（ジェセル）！！！」

「……っっぅう！！？」

ホルアクティの攻撃が茜に襲いかかり、俺達は勝利した。

『名も無きファラオ、いえアテム

よく最後に私を引き当てました』

俺一人の力では無い。

相棒、城之内君、杏子、海馬、本田君、神官達。

皆の力があったからこそ俺はここまでこれた。
『これで貴方達が成すべき事は全て達成しました
元の世界に帰還しますか？』
「待ってくれ！
茜はどうなる！？」
『…彼女の闇は深い
いや、三幻魔、三邪神、地縛神等と闇の勢力との相性が有り得ない
程良いのです
此方では封印するしか手だてが無かった三邪神をいとも簡単に操っ
ていたのがその最たる例
ですから彼女の闇を祓うのは不可能です』
…は？
『おや？
どうやら違うようですね
彼女も問題なく元の世界に戻る事ができます』
「そうか」
よかったぜ。
ここで出来ないと言われたらどうしようかと思った。
茜を城之内君が抱えてホルアクティが用意した陣に乗る。
「皆、戻ろう
俺達の世界に」

「「「「「あぁ！（うん！）（えぇ！）（ふんっ！）」」」」」

ｓｅｎｃｅ？？？

ファラオの名前が見つかり、用がなくなった世界は役目を果たしたといわんばかりに崩れていく。
そんな中、一つの声が世界に響いた。

『疑似世界ではあるが、過去への扉が繋がった
流石は■と■■を司るだけの事はあるか』
『これで■■■の計画がまた進んだ』

『後２回
■■と■■で■■■■■■■が観測されれば我等の悲願は達成される』

『世界に■■■■■の加護を』

男なのか女なのか。
大人なのか子供なのか老人なのか。
どれともとれないがどれともとれる声が独り言のように呟いていた。
最後の祈りととれる言葉を最後に、世界は完全に崩れ去った。

第２９話（後書き）

次の更新は早くてもセンター後になります。
また、感想を頂いても返信出来ないと思いますのでご了承下さい。
少し早いですが、良いお年を。

エクシーズの融合召喚は
少なくとも片方は融合先と同じ種族か属性でレベルは両方同じ
の条件にしたいと思います。
素材縛りが微妙に面倒ですが、今回のゴーズのようにトークンも使
えるから縛った方がいいかなと判断しました。
後効果ですが、エクシーズ素材を取り除く効果は、アニメ効果のＴ
Ｇハルバード・キャノンと同じく『この効果はこのカードの融合召
喚の素材としたモンスターの数だけ行うことができる。』とします。

ＯＣＧと効果が違うカード

《召喚僧サモンプリースト》
魔法カードを捨てる効果がＲでは不要でした

《攻撃の無力化》
カウンター罠→速攻魔法

《究極竜騎士（マスター・オブ・ドラゴンナイト）》
このカードを除く自分のフィールド上のドラゴン族モンスター１体
につき、このカードの攻撃力は５００ポイントアップする。
←
自分の墓地・フィールド上のドラゴン族モンスター１体につき攻撃

力が１０００ポイントアップする。

未発売カード（遊戯王ｗｉｋｉより）

《セイクリッド・トレミスＭ７（メシエセブン）》
エクシーズ・効果モンスター
ランク６／光属性／機械族／攻２７００／守２０００
レベル６モンスター×２
このカードは自分フィールド上の「セイクリッド・トレミスＭ７」以外の「セイクリッド」と名のついたエクシーズモンスターの上にこのカードを重ねてエクシーズ召喚する事もできる。この方法で特殊召喚したターン、このカードの効果を発動できない。
１ターンに１度、このカードのエクシーズ素材を１つ取り除き、自分または相手のフィールド上・墓地に存在するモンスター１体を選択して発動できる。選択したモンスター１体を持ち主の手札に戻す。

《光の創造神（ひかりそうぞうしん）　ホルアクティ》
効果モンスター
星１２／神属性／創造神族／攻　　？／守　　？
このカードは通常召喚できない。自分フィールド上の、元々のカード名が「オシリスの天空竜」「オベリスクの巨神兵」「ラーの翼神竜」となるモンスターをそれぞれ１体ずつリリースした場合のみ特殊召喚できる。このカードの特殊召喚は無効化されない。このカードを特殊召喚したプレイヤーはデュエルに勝利する。

未ＯＣＧカード

それぞれ効果は書いてあるので今回は省略…

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7404p/

遊戯王～時代を渡る者～

2011年12月24日06時50分発行